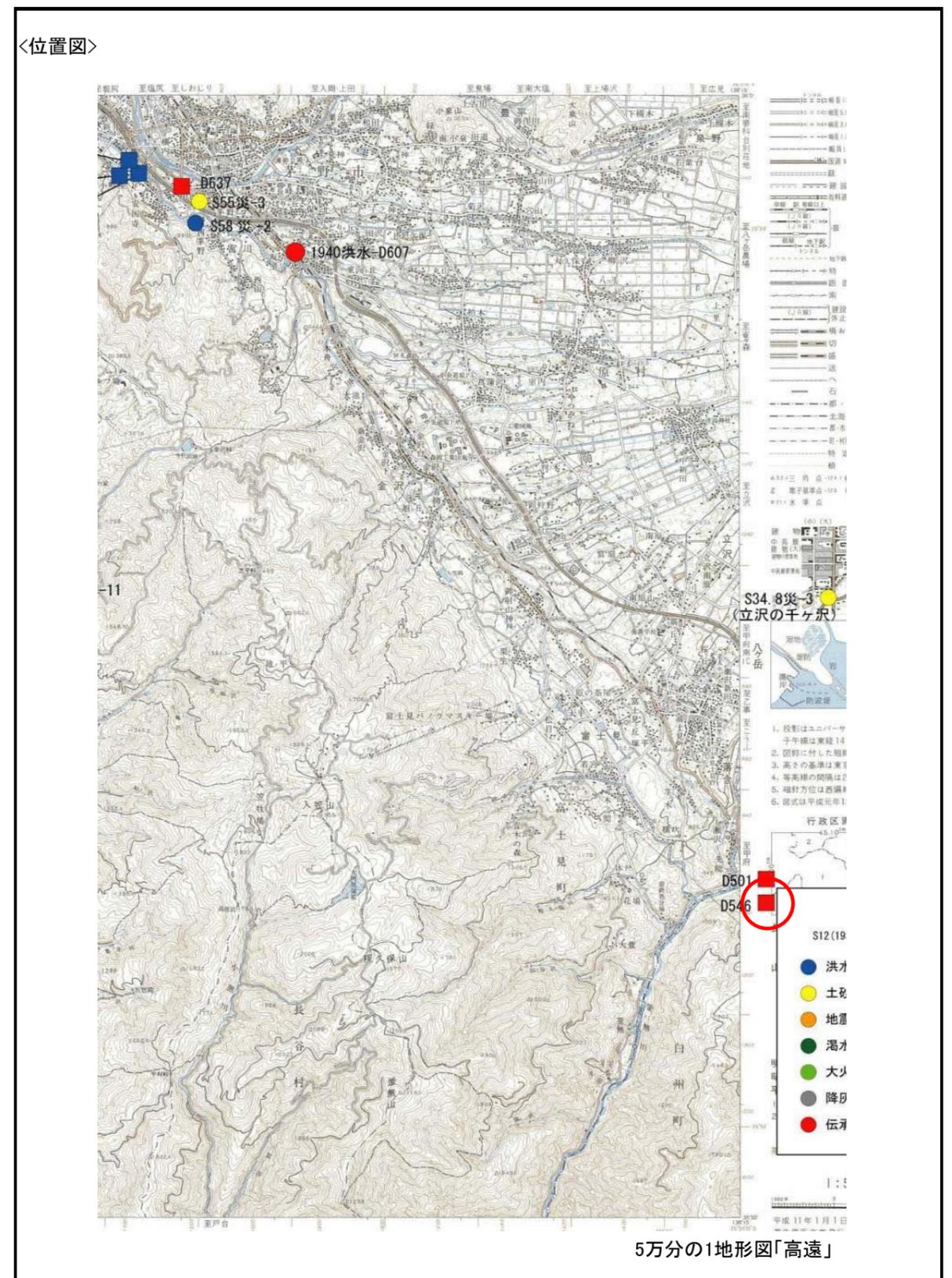
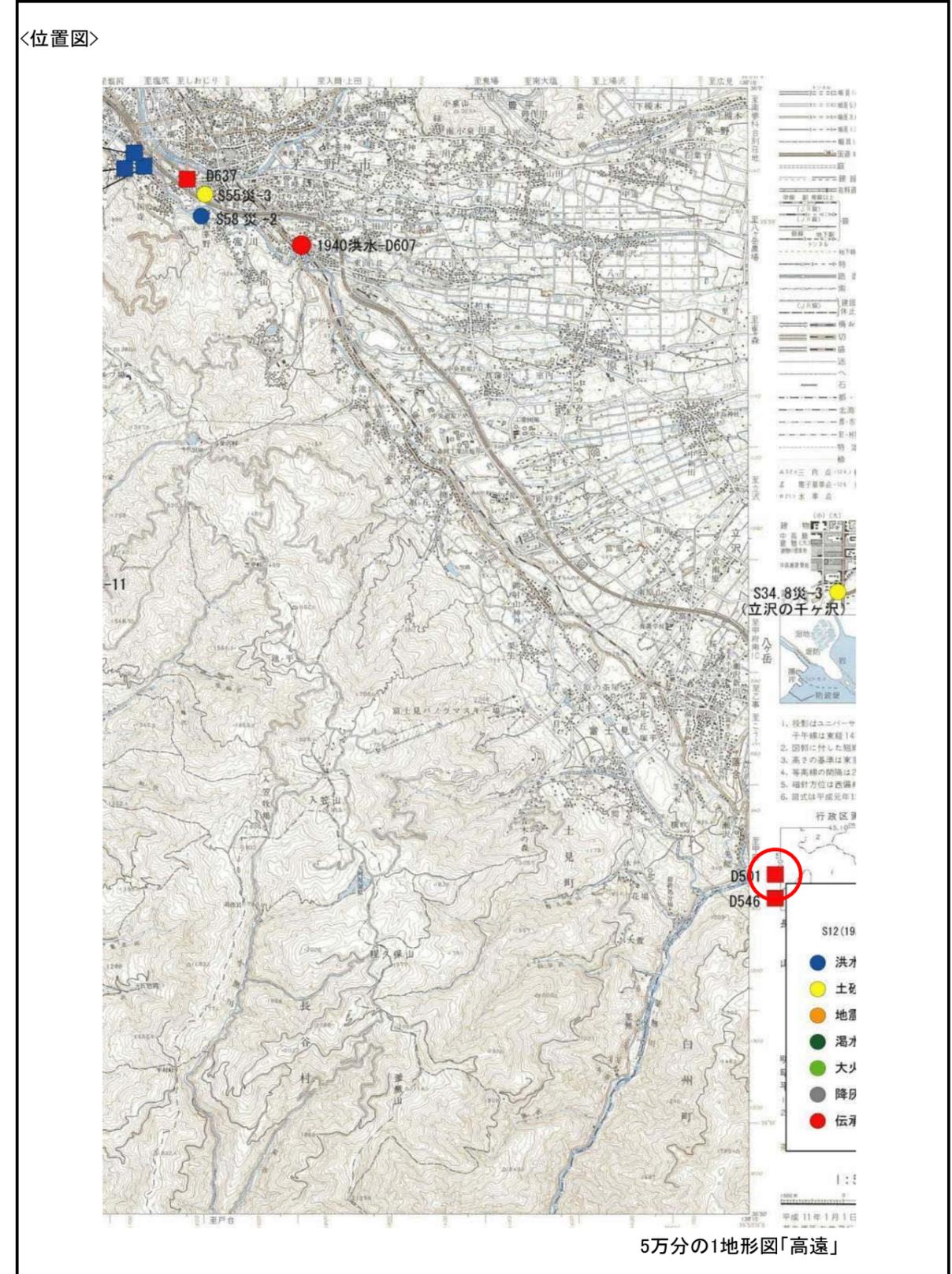


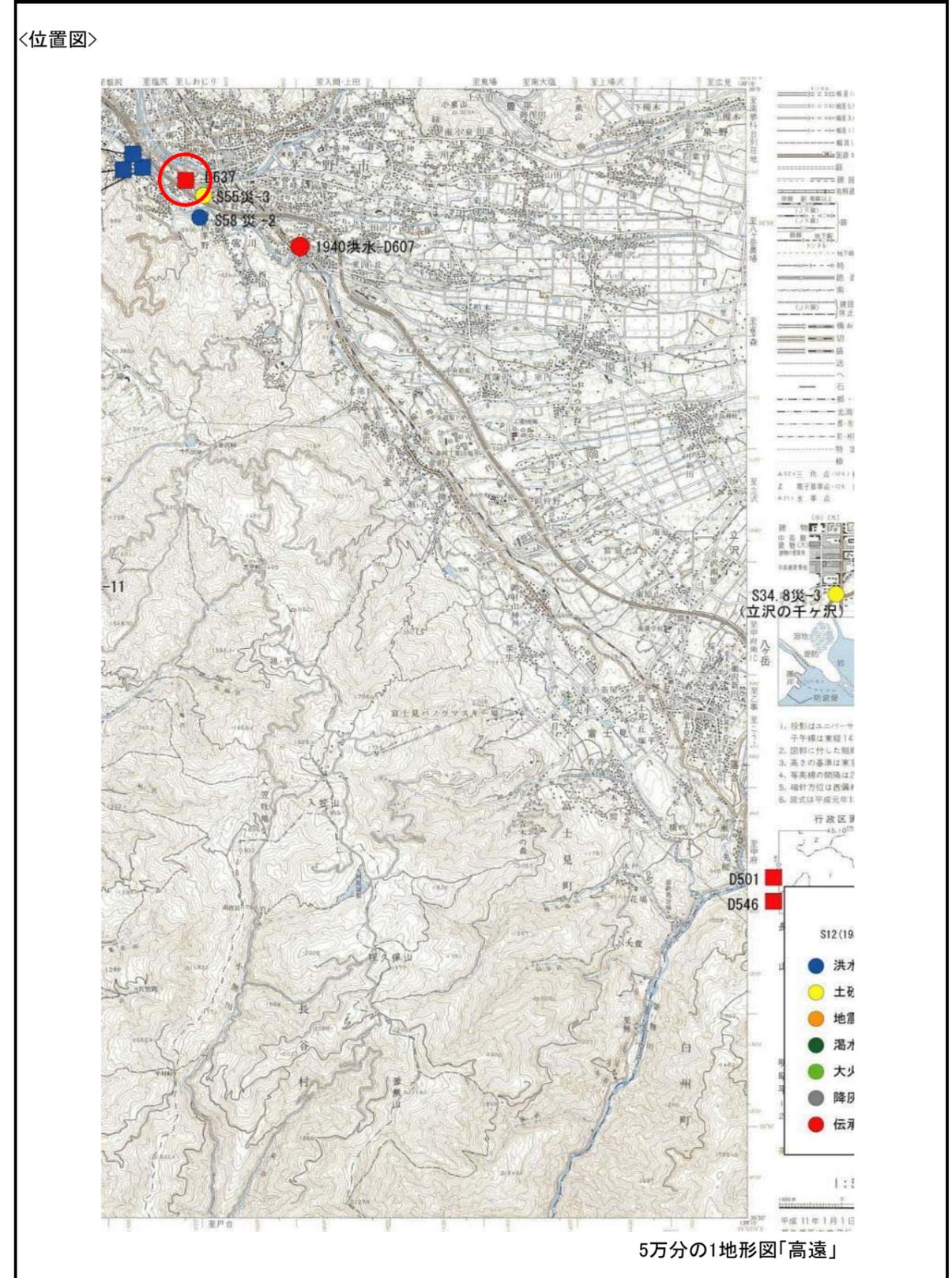
伝承名	藤川除	1/5万図幅名	高遠
市町村・大字名	富士見町落合(蔦木)	地点番号	D546
発祥年代	近世	関連する災害名称	洪水
キーワード	○水防技術の継承 ○武田氏支配の歴史と甲州流治水工法の取入れ		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○藤川除 「釜無川の洪水から護るため、蔦木宿の宿中近く、甲州街道に沿って造られた。」	
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○藤川除	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「水利開発にみる中世諏訪の信仰と治水」pp.41-42.		



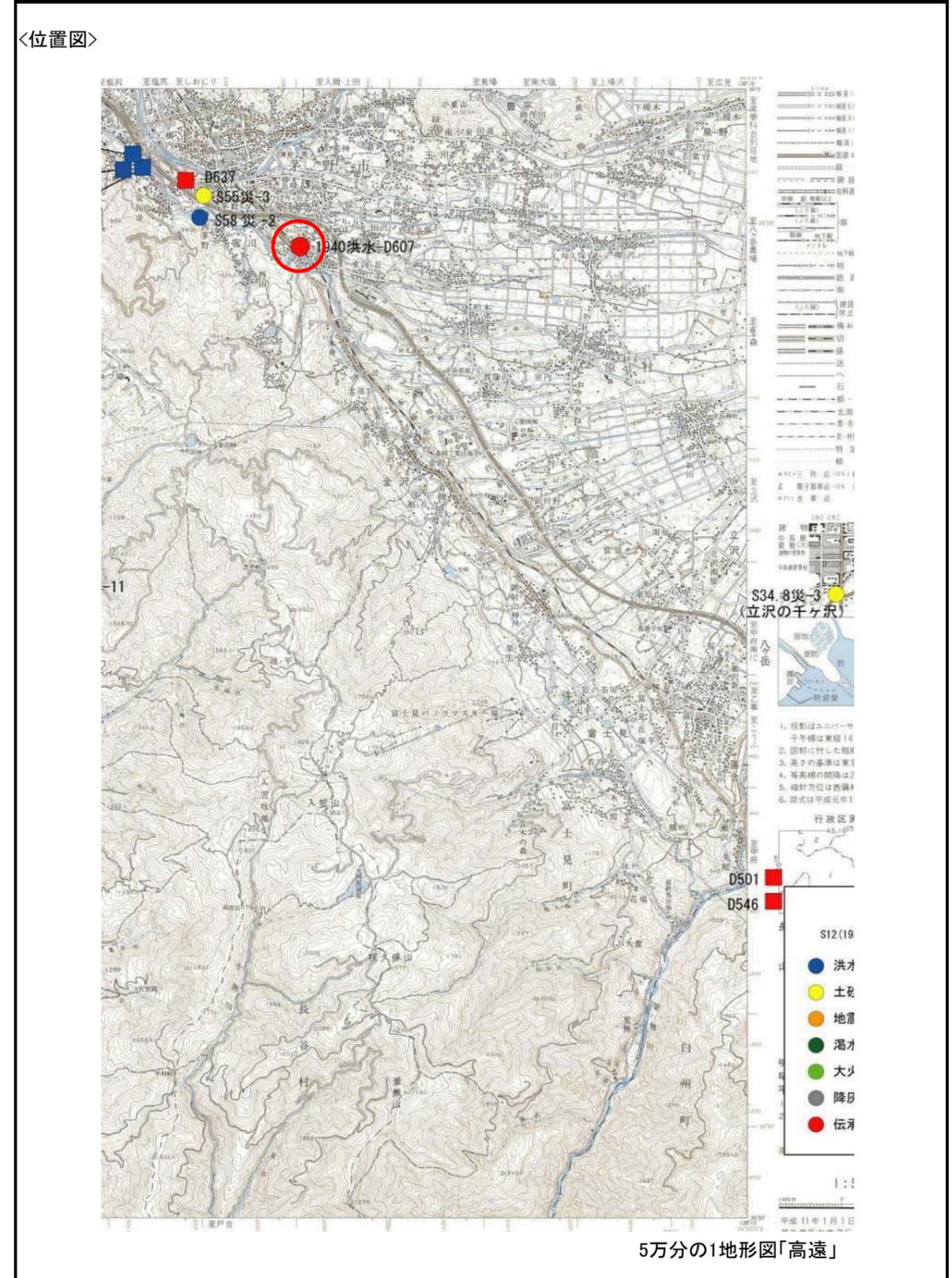
伝承名	信玄堤(風切・風除)	1/5万図幅名	高遠
市町村・大字名	富士見町落合(蔦木)	地点番号	D501
発祥年代	近世	関連する災害名称	洪水
キーワード	○水防技術の継承 ○武田氏支配の歴史と甲州流治水工法の取入れ		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○信玄堤(風切・風除) 「蔦木宿を二重に護るため大樹を植栽した築堤。」	
	伝承内容		
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	○信玄堤(水利開発にみる中世諏訪の信仰と治水pp.42.)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○信玄堤(風切・風除)	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「水利開発にみる中世諏訪の信仰と治水」pp.41-42.		



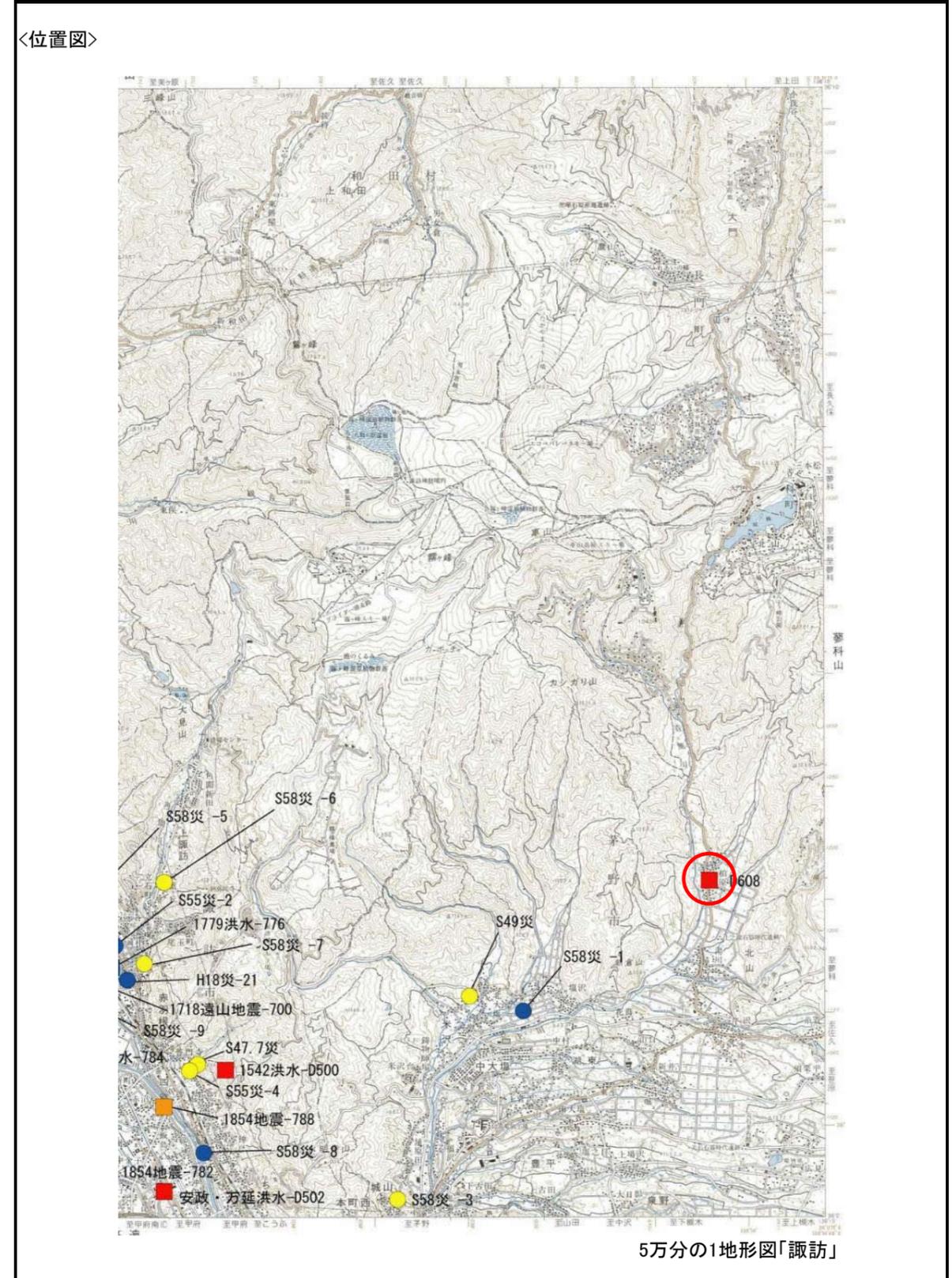
伝承名	常官寺のはなし	1/5万図幅名	高遠
市町村・大字名	茅野市宮川中河原	地点番号	D637
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○恨み・怒りによってもたらされた災害		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○常官寺のはなし 「昔、横内村に常官寺という寺があった。ある時、高野山の御師が寺に泊まった。常官寺の住職はおかねを隠して御師に一文も与えなかった。御師は深く恨み、高野山に帰って参籠し祈願すると、常官寺一帯に一夜大雨が降り、大口(宮川茅野)で堤防が決壊して寺も住職も流されたという。それ以来、上川は今のよう流れ、銭場(宮川中河原)付近で井戸濠いをする古銭が出るそうである。この時流された横内村の一部を開拓して中河原ができたという。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	○常官寺	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「茅野市史下巻近現代・民俗」pp.1072.		



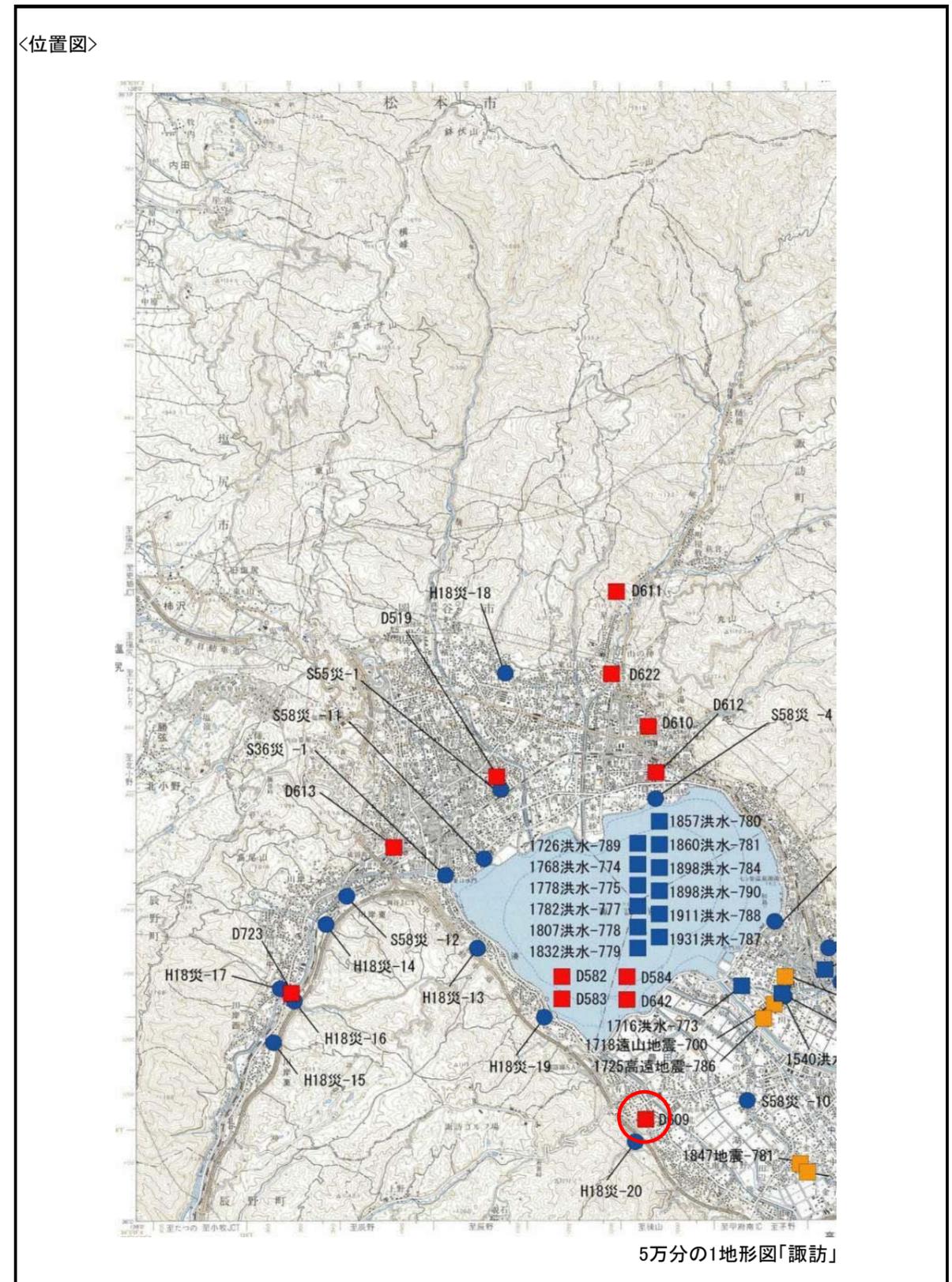
伝承名	坂室の赤石とおこり石	1/5万図幅名	高遠
市町村・大字名	茅野市坂室	地点番号	1940洪水-D607
発祥年代	1940年頃(昭和15年頃)・1982年11月(昭和57年11月)	関連する災害名称	ー
キーワード	○災害によって移設された地物		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○坂室の赤石とおこり石 「むかし、現在の坂室公園の下あたりの宮川は急な崖になっていて、馬や人が川に落ちたことから、赤石の難所と呼ばれ恐れられていた。そのすぐ近くの左岸の土手には高熱が出た時に触ると熱がさがったという、おこり石があった。赤石は昭和15年ごろの大水の後、引き上げられて坂室神社の境内に運ばれた。おこり石は、昭和57年の台風10号の大水で流されそうになったので、その年の11月に同じく坂室神社の境内に運ばれ今に至っている。	
	伝承内容	ー	
伝承媒体	伝承の詳細	ー	
	写真・映像	○おこり石(信州の民話伝説集成南信編pp.77.)	
	石碑・記念碑	ー	
	水神碑・石仏	ー	
	神社仏閣・塚	ー	
	地名	ー	
	土木遺構等	○赤石とおこり石	
	語り伝え等	ー	
	伝統芸能等	ー	
	祭り	ー	
儀式	ー		
慣習・風習	ー		
参考文献	「信州の民話伝説集成南信編」pp.76-77.		



伝承名	福次荒れ	1/5万図幅名	諏訪
市町村・大字名	茅野市柏原	地点番号	D608
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○山の神=天狗(生存) ○人間への戒めとしての災害(大水)		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○福次荒れ 「むかし、福次という人が車山で炭焼きをしていると、煙たいから炭焼きをやめろ、とテンゴン様(天狗)の声がした。福次がやめないで炭焼きを続けていると、大きい雷が鳴り、大雨になった。車沢も音無川も大水が出て通れなくなり、大門回りでやっと家に帰ったという。今でもこの辺りで急に山が荒れたすと、こりゃあ福次荒れたなあ、と言われるそうである。」	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
	慣習・風習	—	
参考文献	「信州の民話伝説集成南信編」pp.81.		

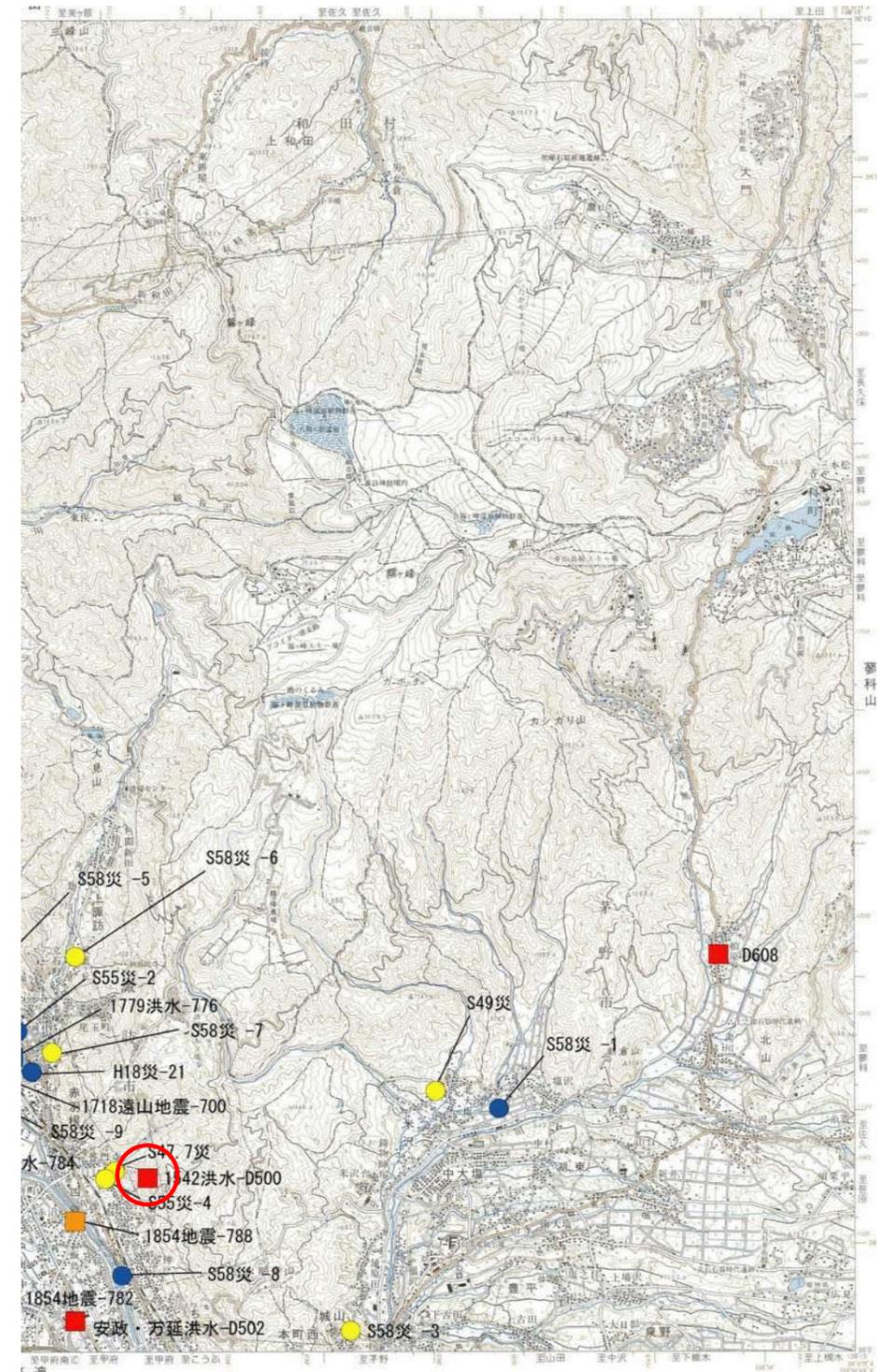


伝承名	聞かずの神様	1/5万図幅名	諏訪	
市町村・大字名	諏訪市有賀	地点番号	D609	
発祥年代	—	関連する災害名称	—	
キーワード	〇ご加護がなかった災害			
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)		
	伝承の詳細	〇聞かずの神様 「むかし、有賀にへそ曲がりの神様がいた。雨乞いをすればよけいにかんかん照りにするし、洪水を止めてくれと頼めばよけいに雨を降らせる。少しも願い事を聞いてくれないので村人は、聞かずの神様、と呼んでいた。」		
	伝承内容			
伝承媒体	写真・映像	—		
	石碑・記念碑	—		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	—		
	土木遺構等	—		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
	祭り	—		
	儀式	—		
	慣習・風習	—		
	参考文献	「信州の民話伝説集成南信編」pp.64-65.		



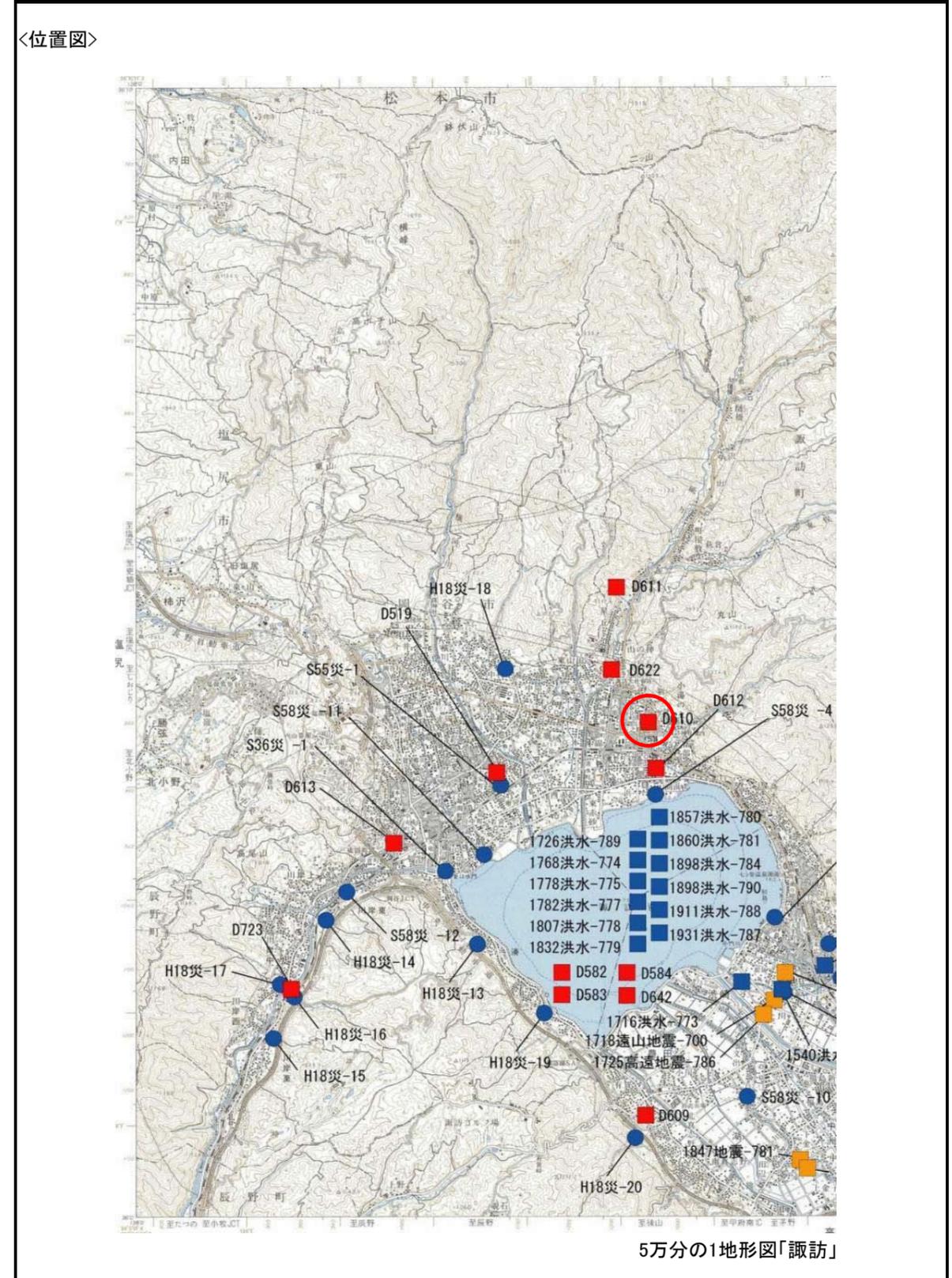
伝承名	桑原城の攻防	1/5万図幅名	諏訪
市町村・大字名	諏訪市四賀桑原	地点番号	1542洪水-D500
発祥年代	1542年8月14日(天文十一年七月四日)	関連する災害名称	大洪水
キーワード	○人の歴史に影響を与えた災害		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○桑原城の攻防 「酉の刻に大洪水ふり、翌日諏訪頼重、武田信玄に振る。(守矢頼真書留)前日に発生した大洪水が、諏訪方総大将諏訪頼重の桑原城攻防の命運をわけたという。戦線から先ず譜代の家臣が離脱するような異常事態を招き、戦意を喪失してあえない結末であったことが暗示されている。」	
	伝承内容		
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	○桑原城(城跡)	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「水利開発にみる中世諏訪の信仰と治水」pp.11-12.		

<位置図>

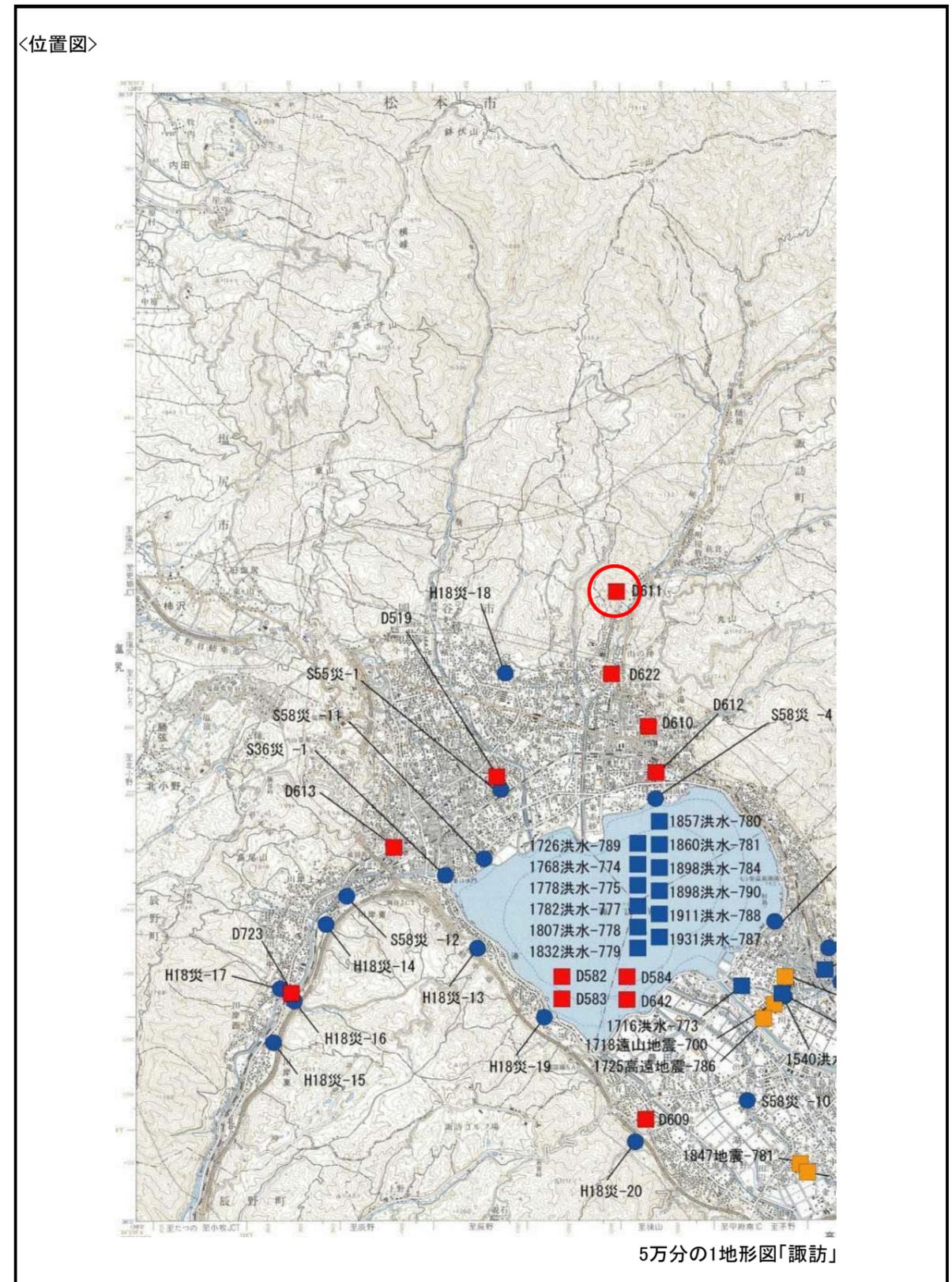


5万分の1地形図「諏訪」

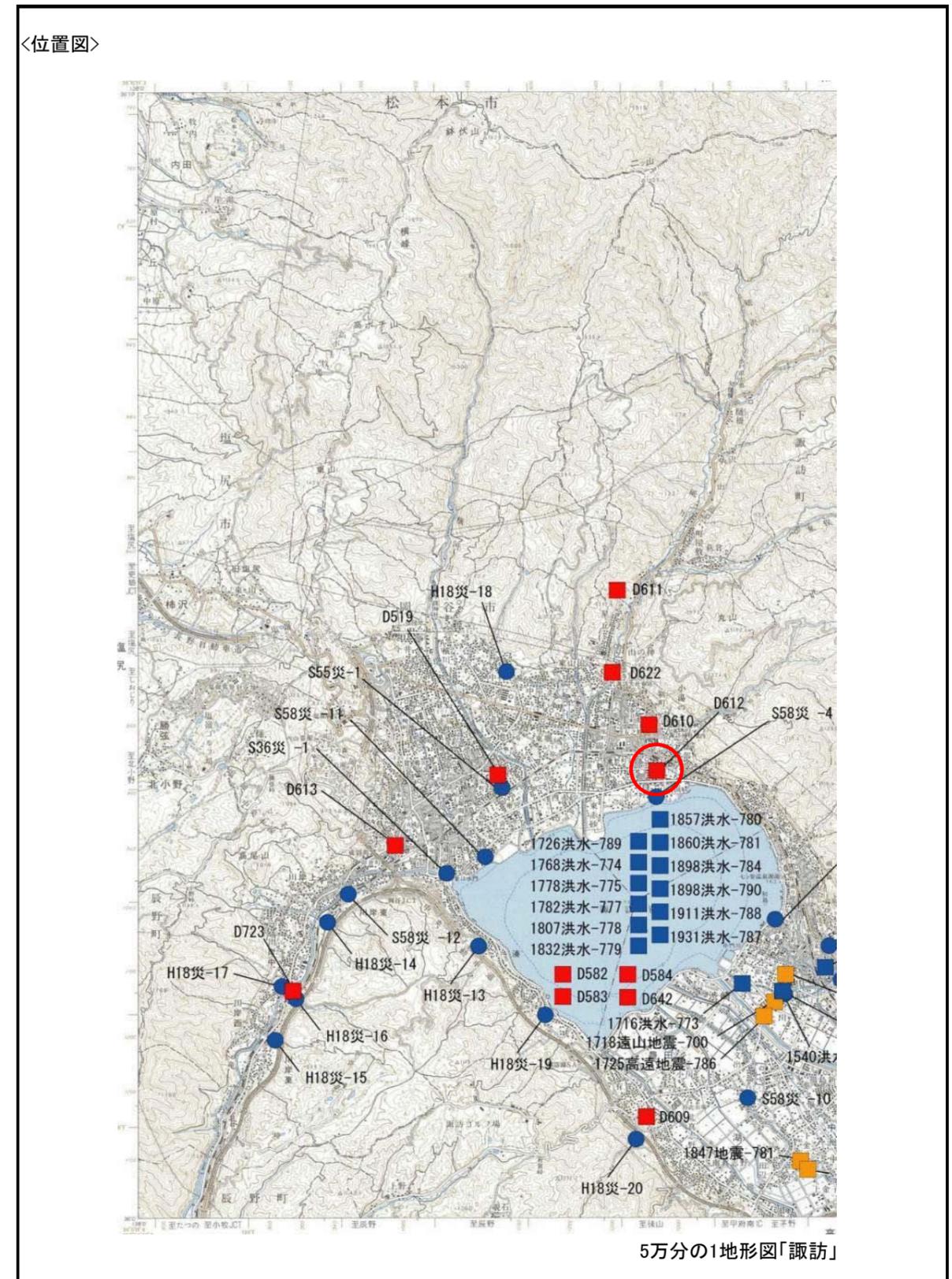
伝承名	じじ穴とばば穴	1/5万図幅名	諏訪
市町村・大字名	下諏訪町	地点番号	D610
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○災害教訓の伝承		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○じじ穴とばば穴 「下諏訪町の上水道水池付近にじじ穴とばば穴と呼ばれる古墳がある。むかし、火の雨が降ったとき、この二つの穴に逃げ込んだ人だけが助かったという。今の下諏訪の人々は、この二つの穴に逃げ込んだ人たちの子孫だといわれている。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○じじ穴、ばば穴	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
	慣習・風習	—	
	参考文献	「信州の民話伝説集成南信編」pp.44.	



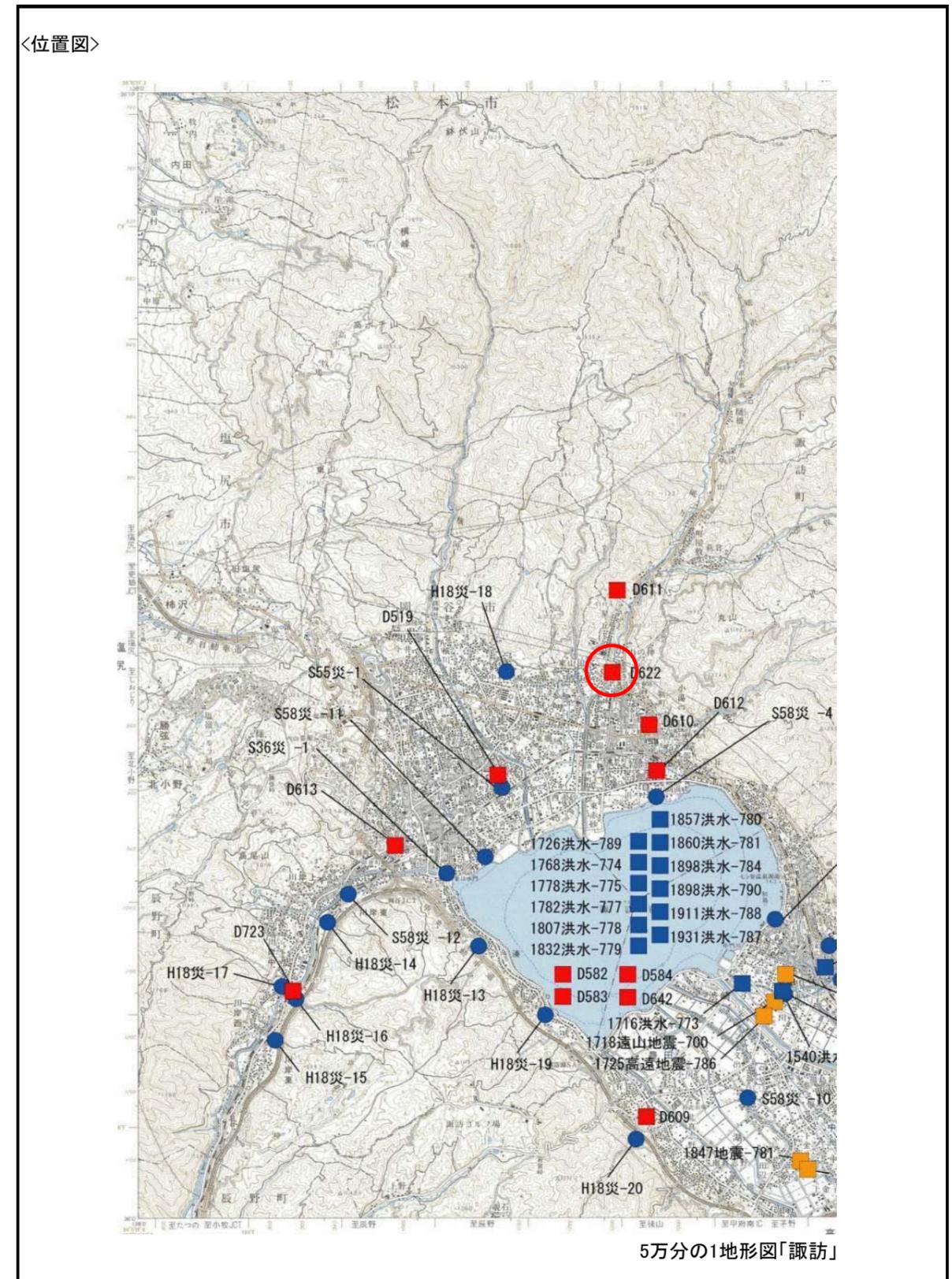
伝承名	毒沢の由来	1/5万図幅名	諏訪	
市町村・大字名	下諏訪町(星が丘付近)	地点番号	D611	
発祥年代	—	関連する災害名称	—	
キーワード	○地名に託された災害伝承			
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)		
	伝承の詳細	○毒沢の由来 「むかし豪雨に毒沢一帯が押し流されたとき、鉱泉が田畑に冠水し、養殖の鯉などが死んでしまったことや、毒沢一帯の河川には水生生物が生息しないといわれることから名がつけられたという。」		
	伝承内容			
伝承媒体	写真・映像	—		
	石碑・記念碑	—		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	○毒沢		
	土木遺構等	—		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
	祭り	—		
	儀式	—		
	慣習・風習	—		
	参考文献	「信州の民話伝説集成南信編」pp.45.		



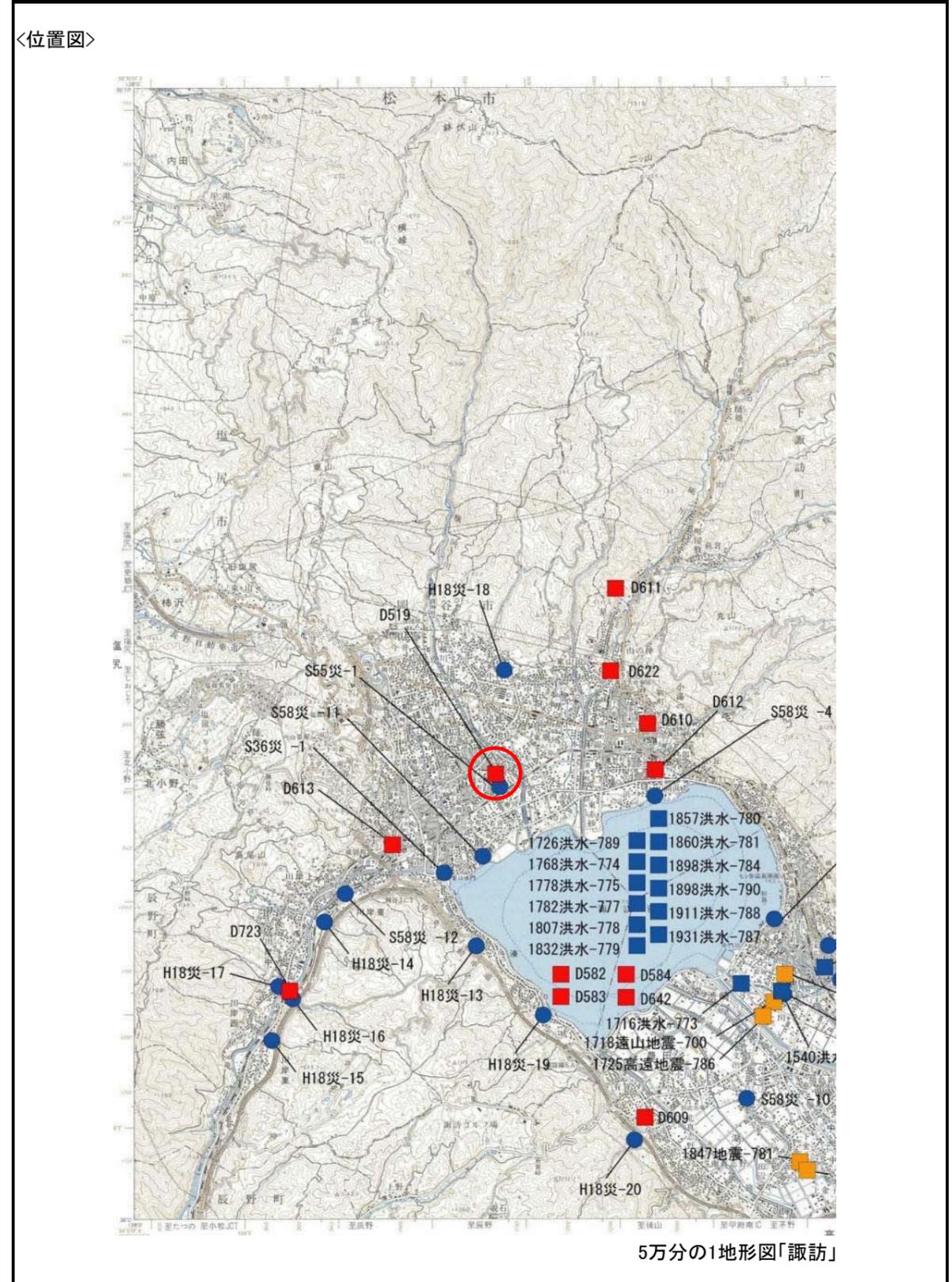
伝承名	四王の由来	1/5万図幅名	諏訪
市町村・大字名	下諏訪町四王	地点番号	D612
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○地名に託された災害伝承		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○四王の由来 「茅野の宮川にある安国寺の門にたっていた仁王たちが、ある夏に四・五日も大変な大雨が降り、どろ水に押し流されてとうとう諏訪湖の岸まで流されてきた。それを見つけた漁師が代官所へ届けようと和尚に拾った場所の地名を尋ねた時、仁王が二つ流れ着いたことから四王だ、と和尚が名づけたという。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○四王	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
	慣習・風習	—	
	参考文献	「信州の民話伝説集成南信編」pp.49-51.	



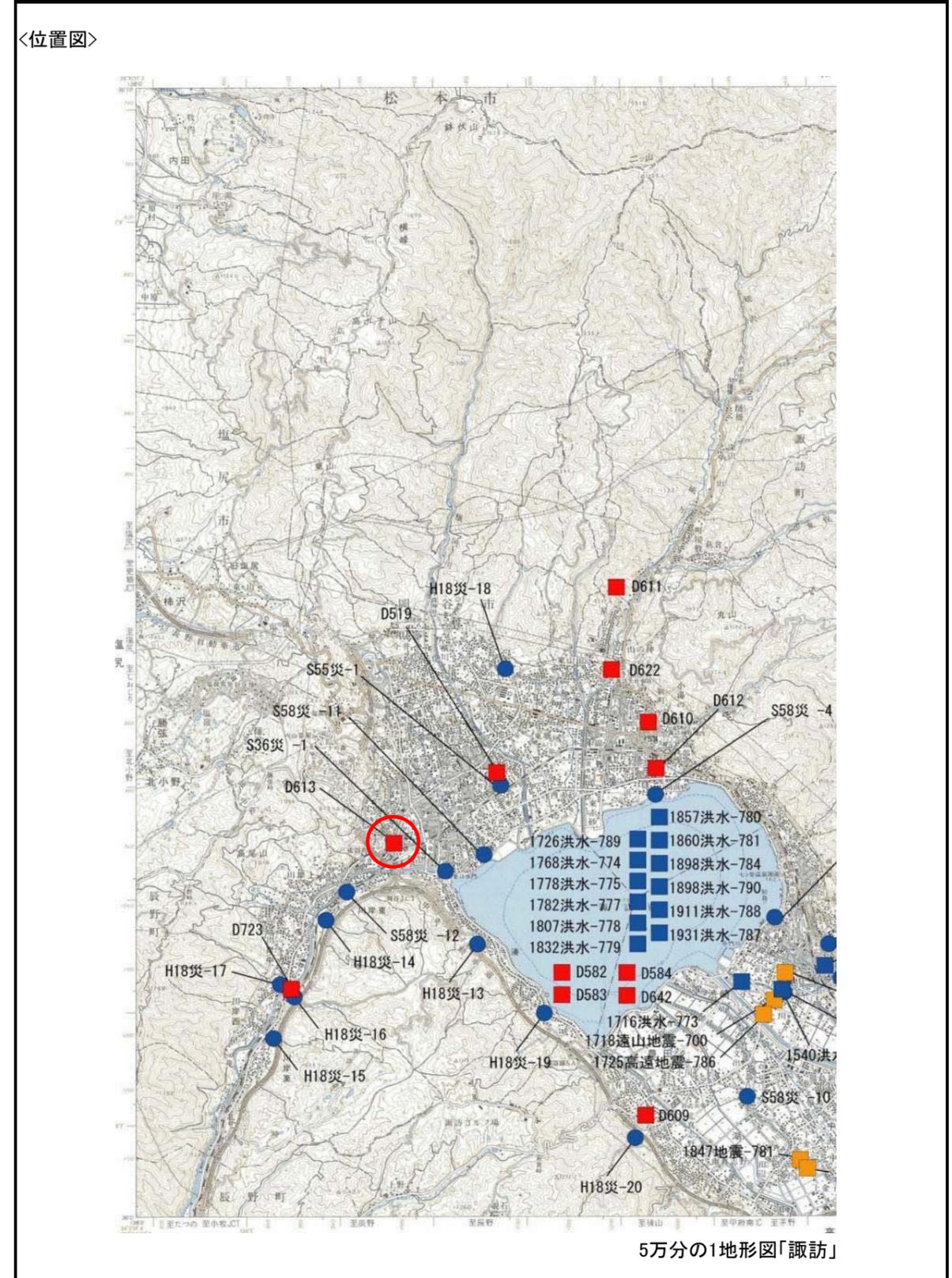
伝承名	諏訪大社下社の七不思議(浮島)	1/5万図幅名	諏訪
市町村・大字名	下諏訪町大門	地点番号	D622
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○浮島伝説 (類似伝説) ・浮島伝説(駒ヶ根市赤穂小鍛冶と中沢穴山の間)		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○諏訪大社下社の七不思議(浮島) 「春宮裏にある砥川の島。砥川は昔から暴れ川といわれているが、この島はどんな大水が出ても沈まないという。浮島には浮島社が祭られている。」	
	伝承の内容		
伝承媒体	写真・映像	○浮島にある浮島社 (http://wiki.fdiary.net/psylab/?%C9%E2%C5%E7%BC%D2 より)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	○浮島社	
	地名	○浮島	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
	慣習・風習	—	
	参考文献	下諏訪町ホームページ (http://www.town.shimosuwa.nagano.jp/kanko/densetu/densetu-index.html)	



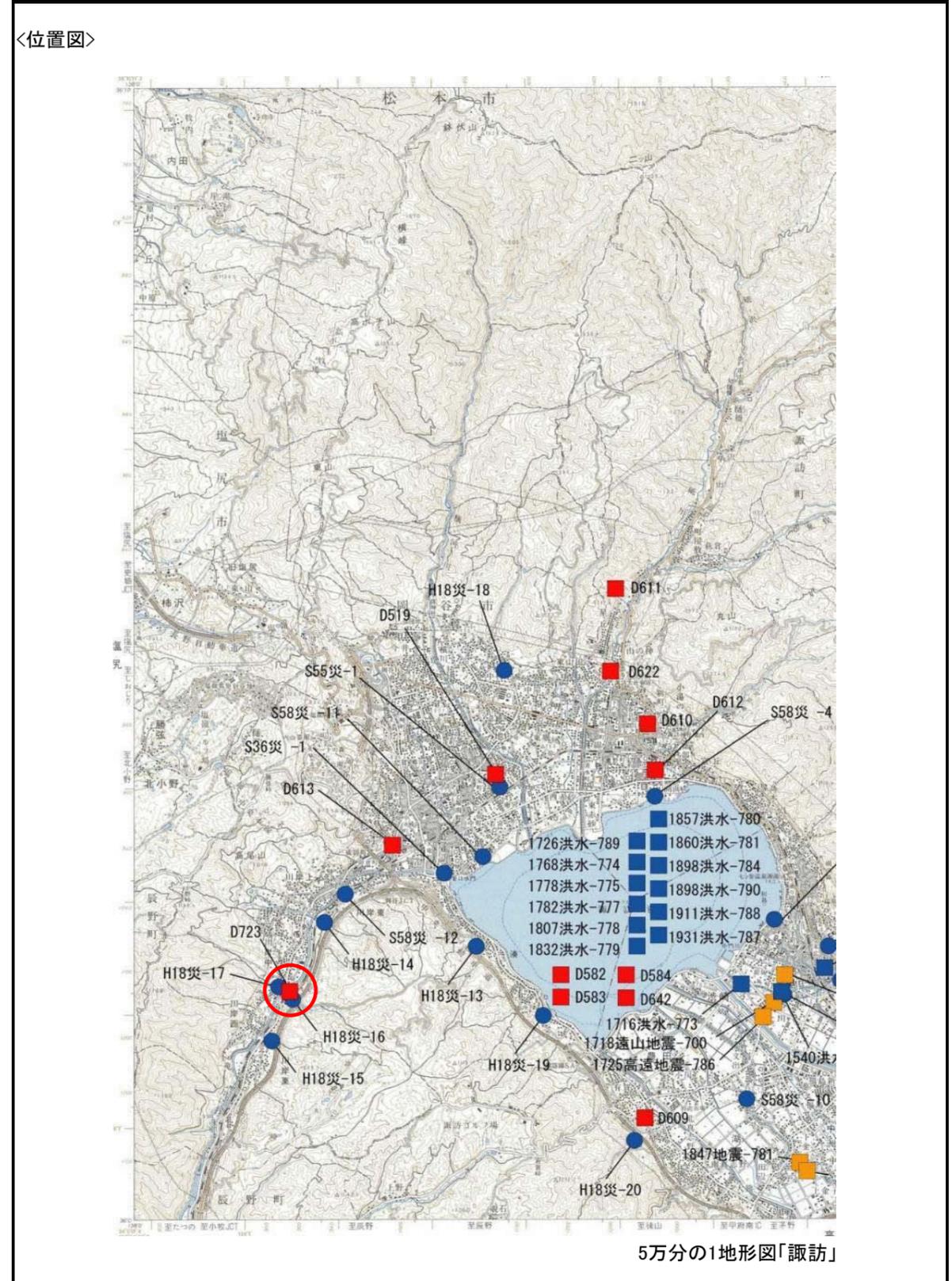
伝承名	しっぽのない赤いへび	1/5万図幅名	諏訪
市町村・大字名	岡谷市堀ノ内	地点番号	D519
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○人間への戒めとしての災害(土砂) ※伝説の地(西堀・小井川地籍)は、岡谷市横河川の下流域に位置し、平成18年7月豪雨災害の時には土石流が発生している。 ※へびを呼んだつばめが諏訪湖方面からやってきたこと(諏訪湖には水神がいる)、地響きとともに家を押し流したことから、土石流災害のことと思われる。		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂)	
	伝承の詳細	○しっぽのない赤いへび 「岡谷の西堀に住んでいたケチでふくよかなオフクというおばあさんが、二羽のつばめが軒下につくった巣を疎ましく思い落としてしまったので、二羽のつばめは悲しい声を残して諏訪湖のほうへ消えていった。数日後、二羽のつばめがオフクばあさんの家に夕顔の種を運んできた。それを植えると見事な夕顔が突った。輪切りにした夕顔の中から数え切れない程の真っ赤な小さいへびが這い出してきた。あきれたオフクばあさんは、夕顔とへびを小井川の一里塚のやぶの中に投げ捨てた。やぶの中で大きくなったへびたちのしっぽは、オフクばあさんが夕顔を輪切りにした時に切られてしまっていた。しっぽのない赤いへびの大群がまるで真っ赤に燃えた火のおびのように大行進をして、地響きとともにオフクばあさんと家をひとおしにし、塩尻峠へと消えていった。」	
教訓・伝承事例	伝承内容		
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	○しっぽのない赤いへび(諏訪の伝説pp.98.)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
	慣習・風習	—	
	参考文献	「諏訪の伝説」pp.94-99.	



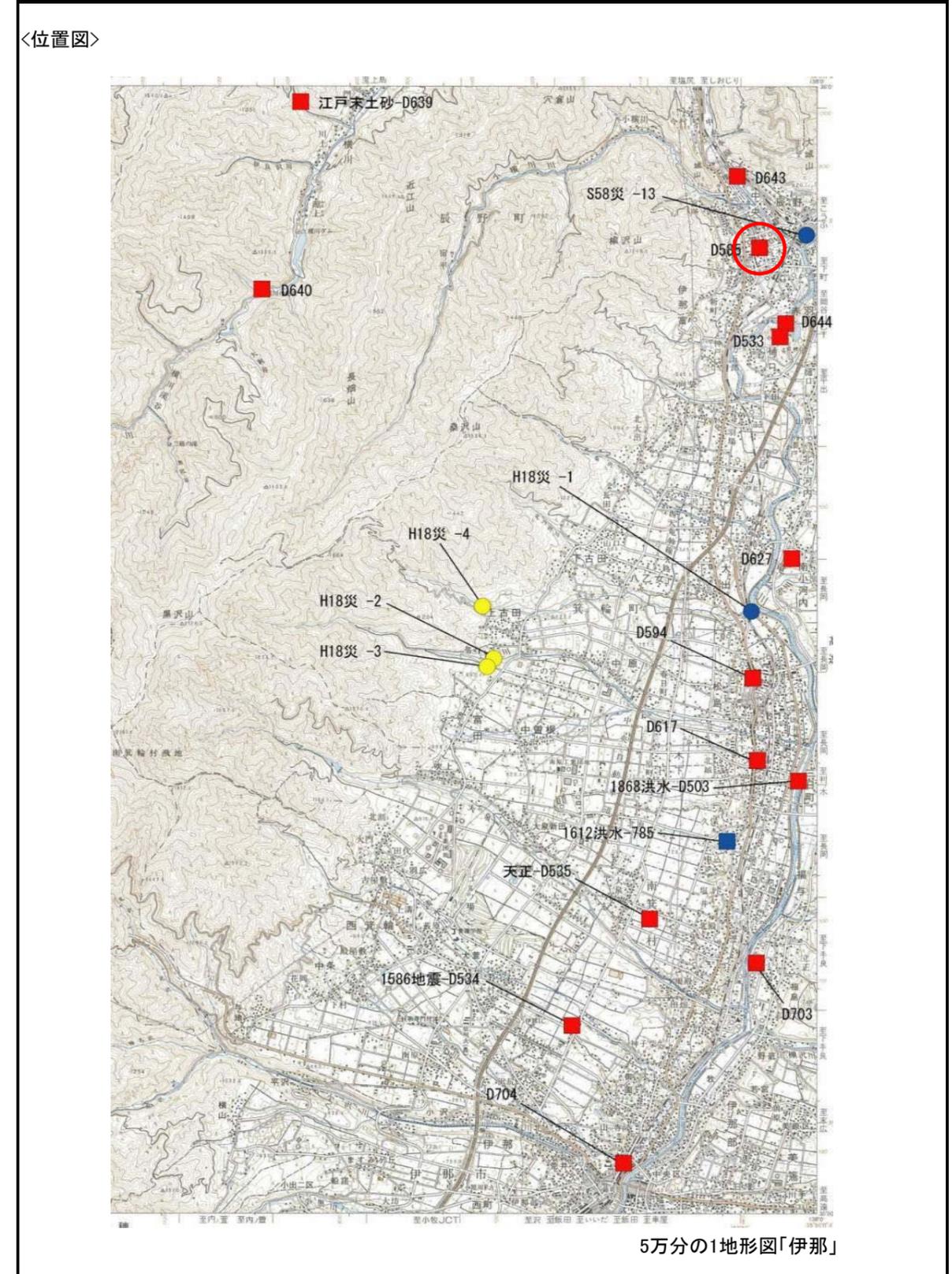
伝承名	流された四王	1/5万図幅名	諏訪
市町村・大字名	岡谷市本町	地点番号	D613
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○災害がもたらした地物(仁王像) ※安国寺は宮川沿いの山の中にあるため、文章中の泥水に流されたというのは土石流の可能性が高いと思われる。		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂)	
	伝承の詳細	○流された四王 「茅野の宮川にある安国寺の門にたっていた仁王たちは、たいくつであくびばかりしていたので、いかめしかった顔がだらしくなっていた。ある夏、四・五日も大変な大雨が降り、どろ水に押し流されてとうとう諏訪湖の岸まで流されてきた。その地を四王と名づけた和尚に、だらしない顔の仁王は寺におけないと言われた。仁王たちはやがて諏訪湖の出口に流れ着き、照光寺に祀られることになったが、二度と捨てられぬよう顔を引き締めて立っているという。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	○仁王像(信州の民話伝説集成南信編pp.51)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
	慣習・風習	—	
	参考文献	「信州の民話伝説集成南信編」pp.49-51.	



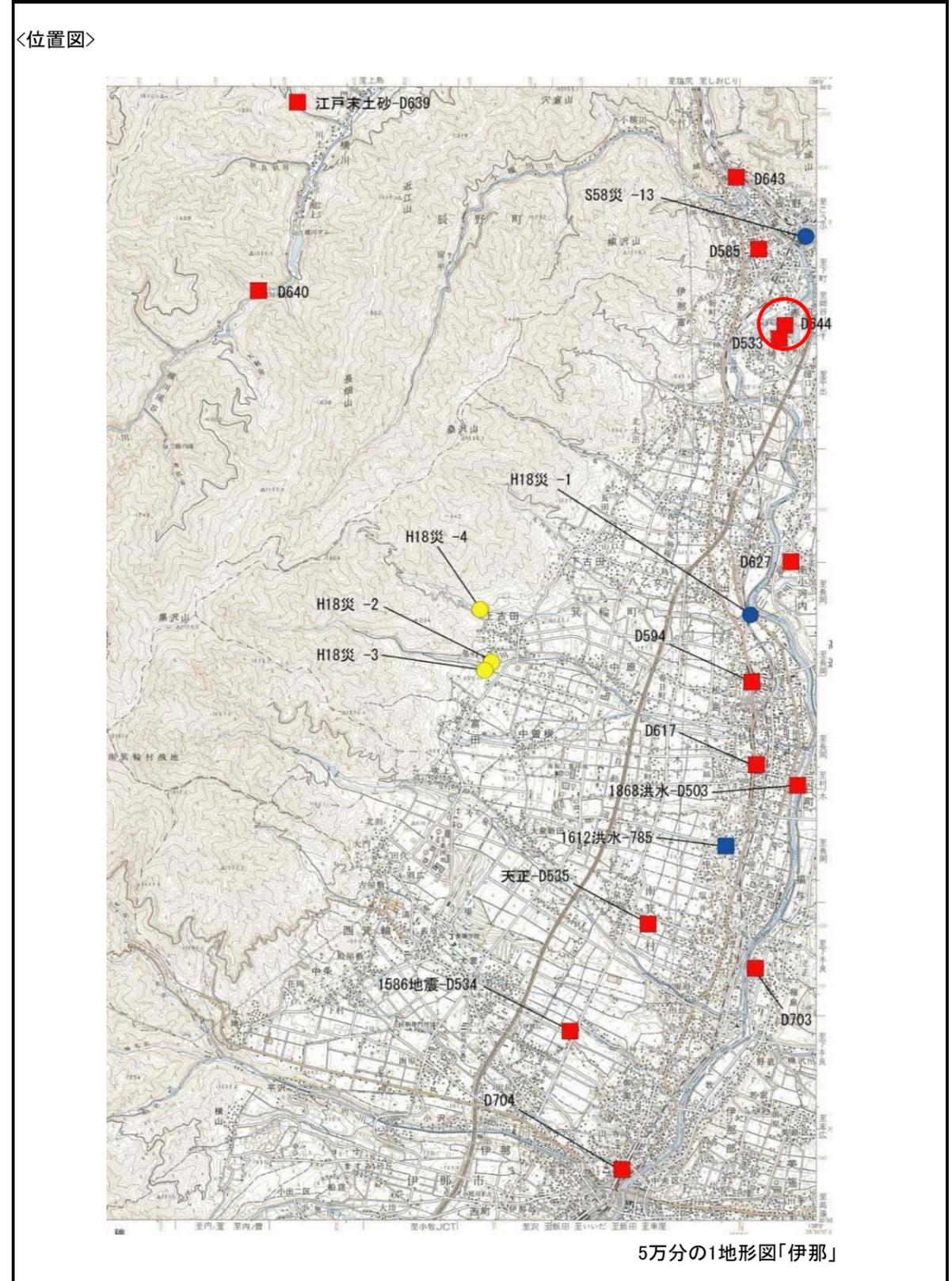
伝承名	諏訪市四賀桑原の鮎沢系図	1/5万図幅名	諏訪
市町村・大字名	岡谷市川岸	地点番号	D723
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	※伝説の地では、平成18年7月豪雨災害の時に土石流が発生している。		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂)	
	伝承の詳細	<p>○諏訪市四賀桑原の鮎沢系図 「鮎沢肥前守六代之孫鮎沢源吾・孫右衛門・姉共二鮎沢村二而誕生、姉者橋原村へ嫁ス、此時正保二丙戌五月廿三日、蛇崩レニ而家屋鋪不残押流され、右兩人漸く命をたずかり闇夜橋原村姉之方江引越、正保三丙戌八月横川村江引移る、正保二兄十才、弟八才」</p> <p>「鮎沢肥前守の六代の孫に当たる鮎沢源吾、孫右衛門は姉と共に鮎沢村(岡谷市川岸)において誕生した。姉は橋原村(同)へ嫁いだ。この時、正保二年五月二十三日(ユリウス暦=西暦1645年6月7日、グレゴリオ暦=西暦1645年6月17日)、蛇崩れによって家屋敷が残らず押し流された。源吾と孫右衛門の両人はようやく命が助かり、橋原村の姉の所へ引越した。その後正保三年八月に横川村へ引き移った。蛇崩れにあった正保二年に兄は十才、弟は八才であった。」</p>	
	伝承内容	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
	慣習・風習	—	
	参考文献	土石流災害と伝承—身近な防災のために—笹本正治氏講演要旨pp.3	



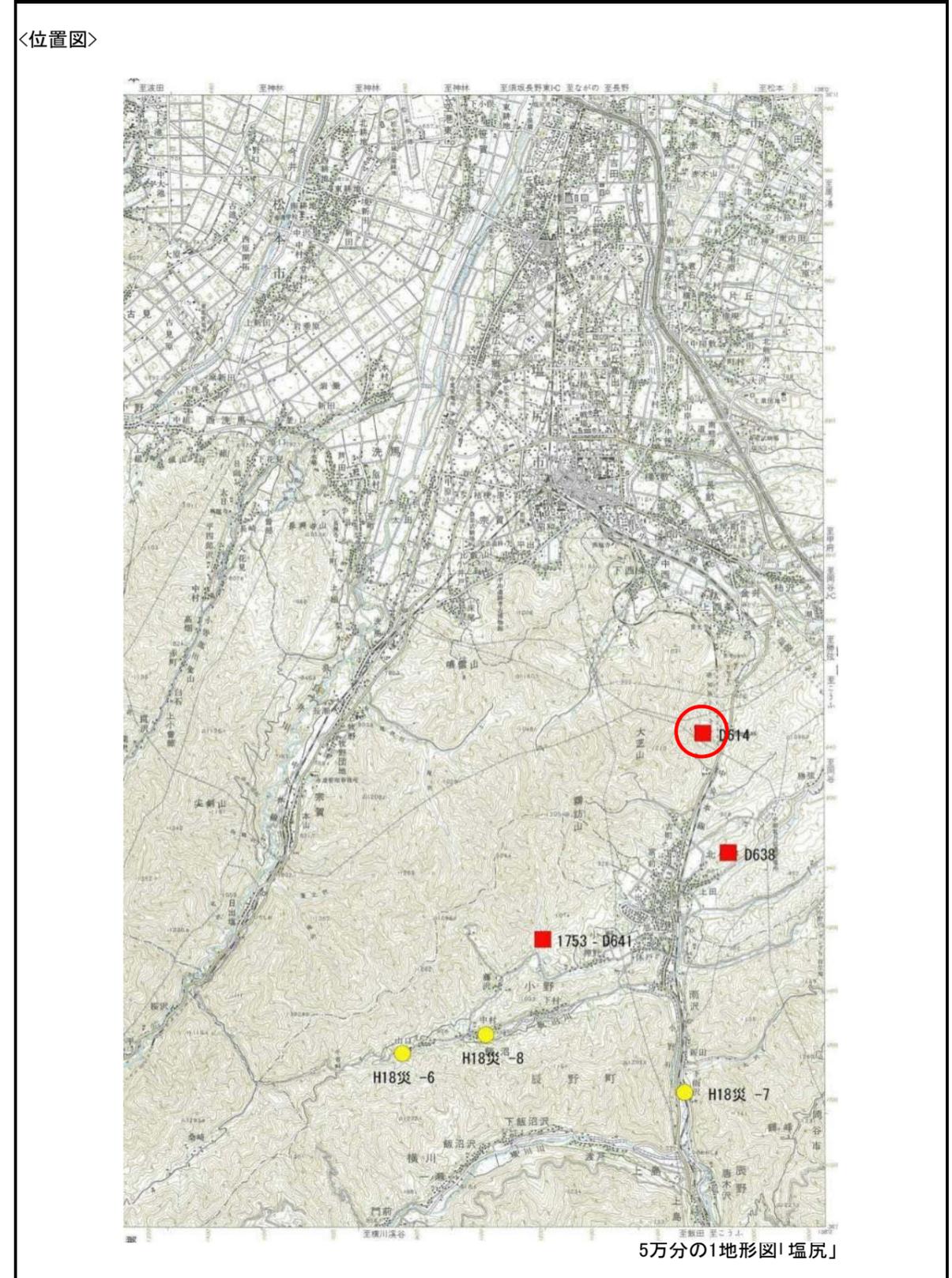
伝承名	辰野町に伝わることわざ		1/5万図幅名	伊那
市町村・大字名	辰野町		地点番号	D585
発祥年代	—		関連する災害名称	—
キーワード	—			
教訓・伝承事例	伝承内容	ことわざ (辰野町に伝わることわざ) ○とびが空に輪かくと雨が降る ○鳥が10羽揃って鳴くと大風が出る ○蛇を川へ流せば雨が降る ○川魚がよく釣れると雨 ○煙突の煙が立てば雨、北へなびいても雨 ○守屋山の方へすっとした雲が出ると雨になる ○釜へ水が廻れば雨がふる ○荒神山が近く見ると雨が降る ○天竜川の瀬音が高くなれば雨がふる ○夕方山鳴りがすると大嵐になる ○みみずがよい声で鳴けば雨が降る ○草履と下駄をちんばにはけば雨が降る		
	伝承の詳細			
伝承媒体	写真・映像	—		
	石碑・記念碑	—		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	—		
	土木遺構等	—		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
	祭り	—		
	儀式	—		
	慣習・風習	○辰野町に伝わることわざ		
参考文献	「辰野町誌近代編」pp.1114-1115.			



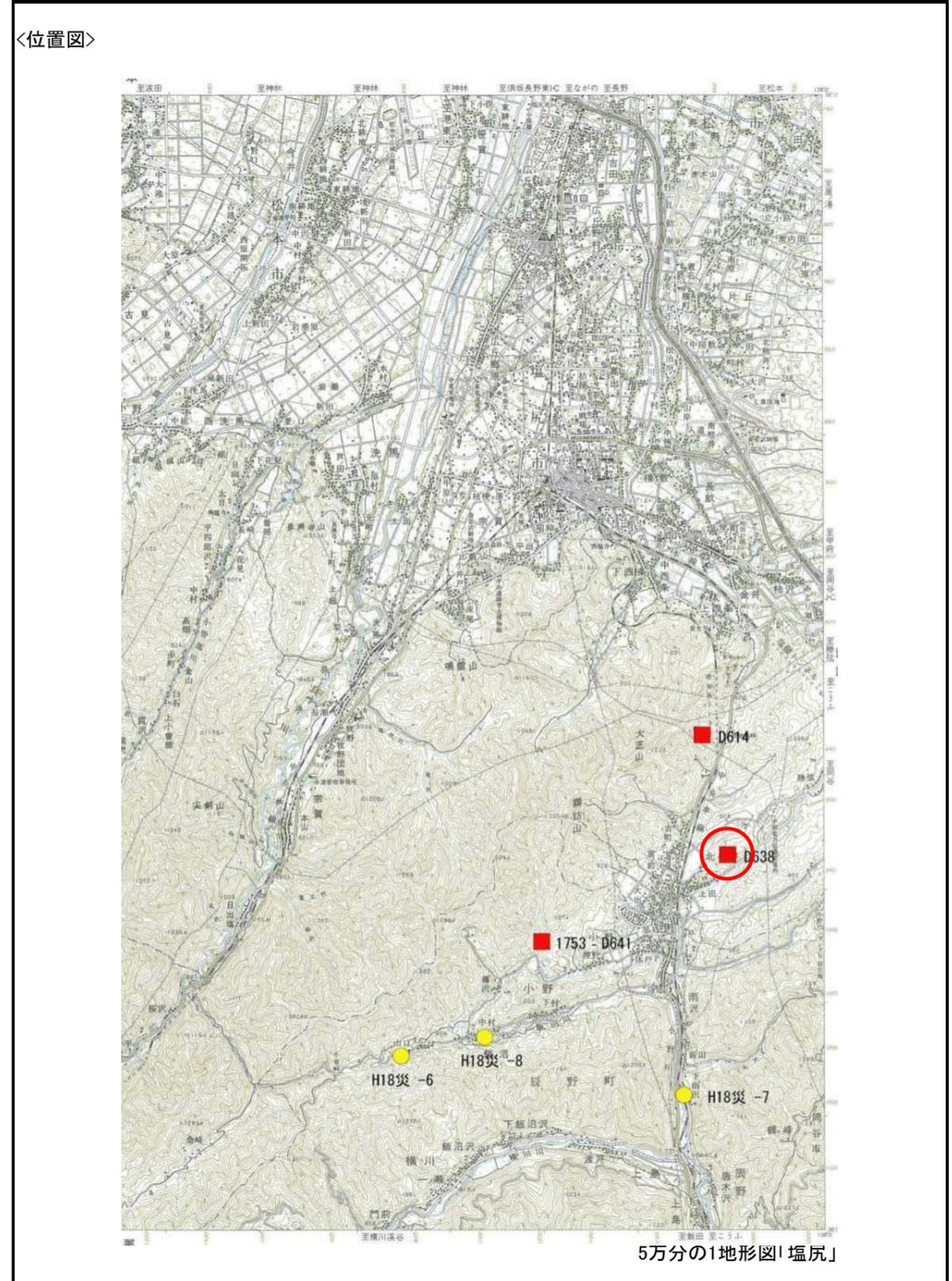
伝承名	辰野縁起	1/5万図幅名	伊那
市町村・大字名	辰野町	地点番号	D644
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○湖の主=竜(移動) ○自然現象=竜の昇天(七月七日) (類似伝説) ・明神山の大蛇(清内路村)大蛇の最後が七月七日に起こり、その後人間を災害から守ようになる。 ○地名に託された災害		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○辰野縁起 「信濃の山の重なる間に信濃神二湖(しなのかむいのにこ)と呼ばれる青く澄んだ二つの湖が、一筋に入り江に結ばれて並んでいた。上の湖を諏訪の湖、下の湖は伊奈の湖ともいった。古くから湖の底には魔の神が住み、時には魔人の怒りが嵐を呼び、洪水をきたした。そこで村人は、魔の季節に入る六月六日になると湖の南にある小高い荒神の岡に集まり、音木を打ち祝詞をあげ、二歳になる雌鹿を湖底に沈めて生贄をする習慣を持つようになった。ある年、この祭りが終わった直後、一天俄にかき曇り七日七晩嵐が続き、いっこうに衰える様子がなかった。東の村に住むおさの娘・梨恵は、自ら生贄に代わって湖に飛びこもった時、嵐の中から「待て、しばし、七月七日竜天へ昇る」という声が聞こえてきた。七月七日の雲ひとつなく日が天頂にさしかかった時、たちまちに凄まじい暴風雨となり、大轟音とともに青白い鱗を閃かせた大竜が荘厳な舞を見せて北の山頂へと消えていった。そして湖の水は荒神の岡の東と西両端を破って一気に南へ流れていった。七月七日竜は天に去り、今まで湖の底だったところに野はひらけ、神の怒りに触れることなく嵐に襲われることもなくなった。村には平和と喜びの日が続いた。この時からだれ言うともなくこの土地を、竜の住んだ野「竜野」といい、流れる川を「天竜」というようになった。今も荒神山の北の岡の松とすすきの茂る中に、梨恵が竜の昇天を見た跡が秘められているという。」	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○竜野 ○天竜川	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「辰野町の誕生と伝説」pp.293-295.		



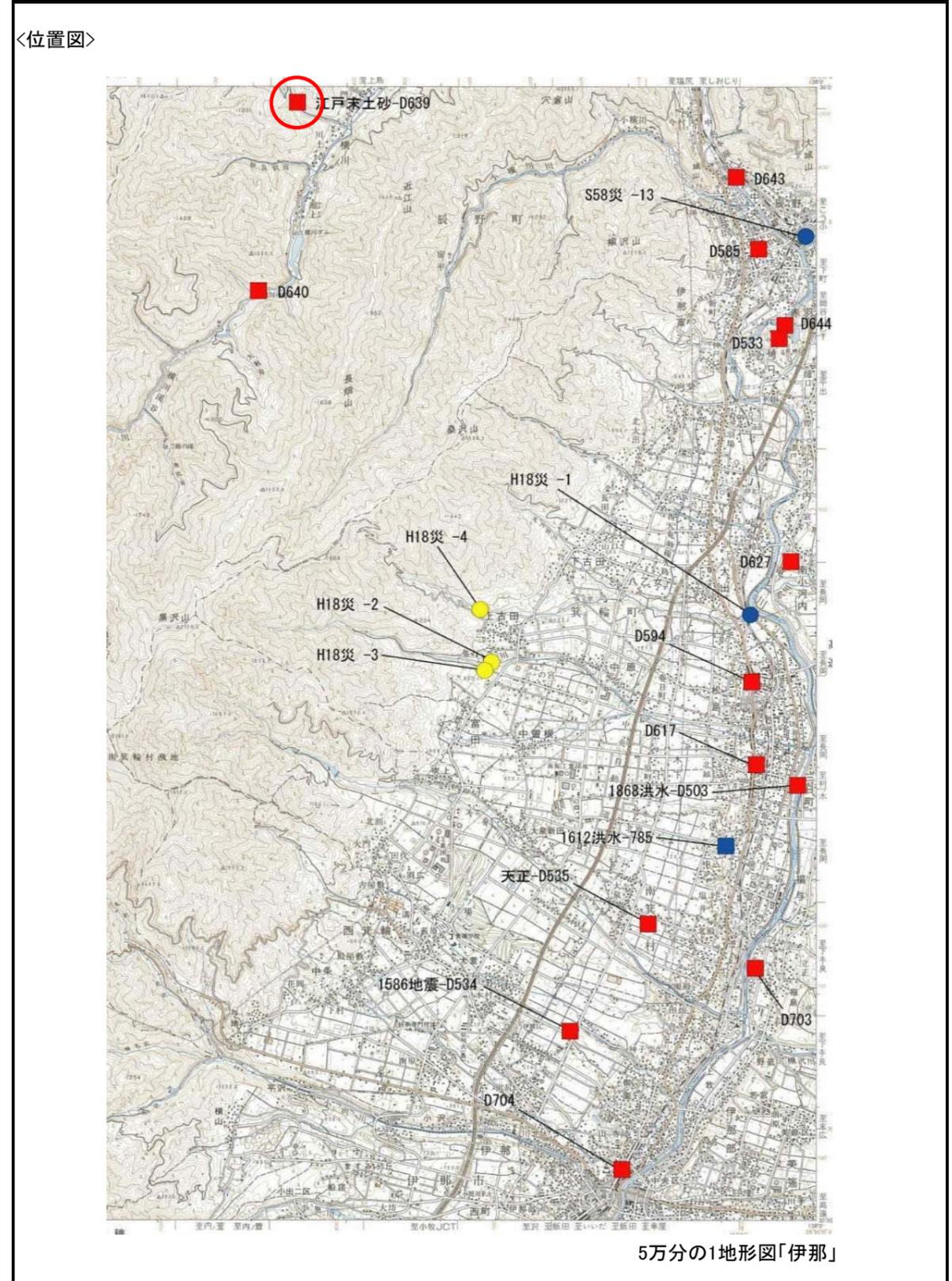
伝承名	沓掛石	1/5万図幅名	塩尻
市町村・大字名	辰野町小野	地点番号	D614
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○雨乞い伝説(石、日本武尊)		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○沓掛石 「楡沢街道沿いにある。日本武尊が東征の帰途に休まれたて、わらじの紐をしめなおしたといわれる一坪大の石。窪みには常に水が溜まり、水が絶えると雨が降るといふ。(郷土資料)」	
	伝承内容	-----	
	伝承の詳細	-----	
伝承媒体	写真・映像	○沓掛石(長野県上伊那郡誌第五巻民俗篇上pp.1416)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○沓掛石	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「長野県上伊那郡誌第五巻民俗篇上」pp.1416.		



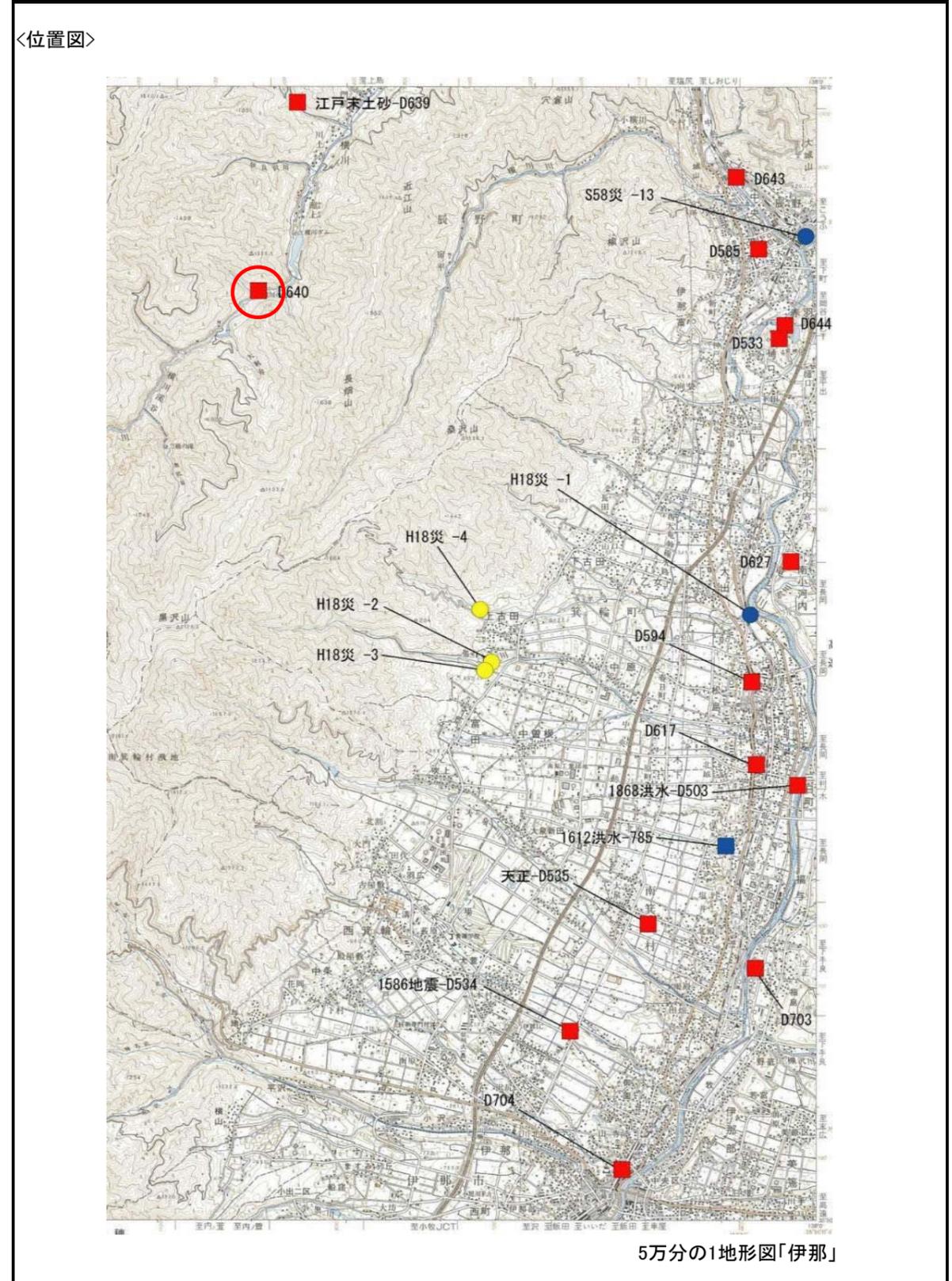
伝承名	一本松の伝説	1/5万図幅名	塩尻
市町村・大字名	辰野町小野新田	地点番号	D638
発祥年代	1500年頃(室町時代明応の頃)	関連する災害名称	—
キーワード	○ご加護があった災害 ※平成18年豪雨災害の時、近くの飲み川・小野中村で土石流が発生している。		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○一本松の伝説 「小野村の南方新田という所に一本の独立している松があった。田甫中の三州街道脇にあったが、現在では枯れて伐られてしまった。今を500年ばかり遡った当時、小野川は今の流れと場所を変えているが、小雨でさえ川は氾濫し、田畑を流すことが度々であり農民は困っていた。時の庄屋が何かの祟りだといひ、これを鎮めるために一本の松を植えた。それからは川も氾濫することはなく、豊年が続いたという。昭和十年に伐った時、木の中に五斗も水が入っていて、その後大水がでたので村人は後を絶えないよう松を植えるという話があるが、今だに植えていないという。(小野一夫、第五三号、S37.7.2)」	
	伝承の内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○一本松	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
	慣習・風習	—	
参考文献	「辰野町の誕生と伝説」pp.232.		



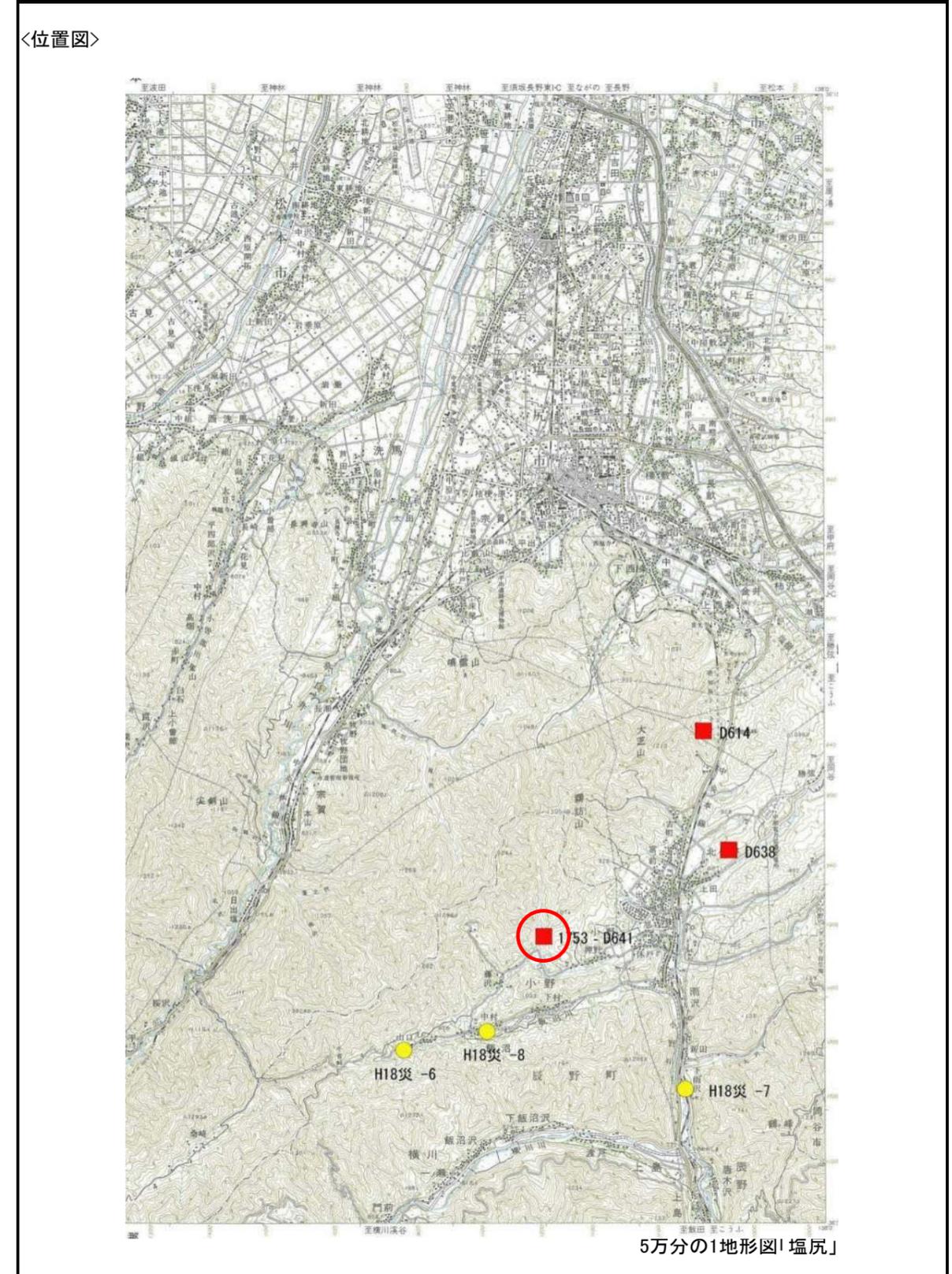
伝承名	蛇ぬけの穴	1/5万図幅名	伊那
市町村・大字名	辰野町(赤坂沢)	地点番号	江戸末土砂-D639
発祥年代	江戸時代末期頃	関連する災害名称	ー
キーワード	○淵の主=大蛇(身代わり死亡、人間の味方) ○身代わりになった入悪沢の淵の大蛇		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂)	
	伝承の詳細	○蛇ぬけの穴 「赤坂沢の入悪沢にある淵に三百年も生えている杉の木のように太くて長い一匹の大蛇が棲んでいた。大蛇は穏やかなたちで人の前にはめったに姿を現さなかった。村人は、横川川の上の沢に棲んでいるから川を守ってくれていると信じ、淵にはめったに立ち入らなかった。ある年長雨が降り、二十日間も振り続いた。川の水が何十倍にもふくれあがり、大蛇の棲む淵も地面がドドッと崩れた。その時さすがの大蛇も川の中に投げ出され、のたうちまわったが、踊りくった横川川へ飲み込まれ、真っ黒い水や大岩と一緒にすごい勢いで押し流されていった。次の日大雨がうのようにピタリと止み、空はカラリと晴れあがった。村の衆が入悪沢の淵まで来た時、地面の滑った後にポツカリとあいた大蛇の巣穴を見つけた。村の田畑はひどいめにあったが、村人は誰も流されなかったので、大蛇が身代わりになってくれたと思った。それからこの辺りでは大雨が降ると、蛇ぬけするほどの大雨にならんといいがな、と言うようになったという。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	ー	
	石碑・記念碑	ー	
	水神碑・石仏	ー	
	神社仏閣・塚	ー	
	地名	ー	
	土木遺構等	ー	
	語り伝え等	ー	
	伝統芸能等	ー	
	祭り	ー	
	儀式	ー	
慣習・風習	ー		
参考文献	「辰野町の誕生と伝説」pp.256.		



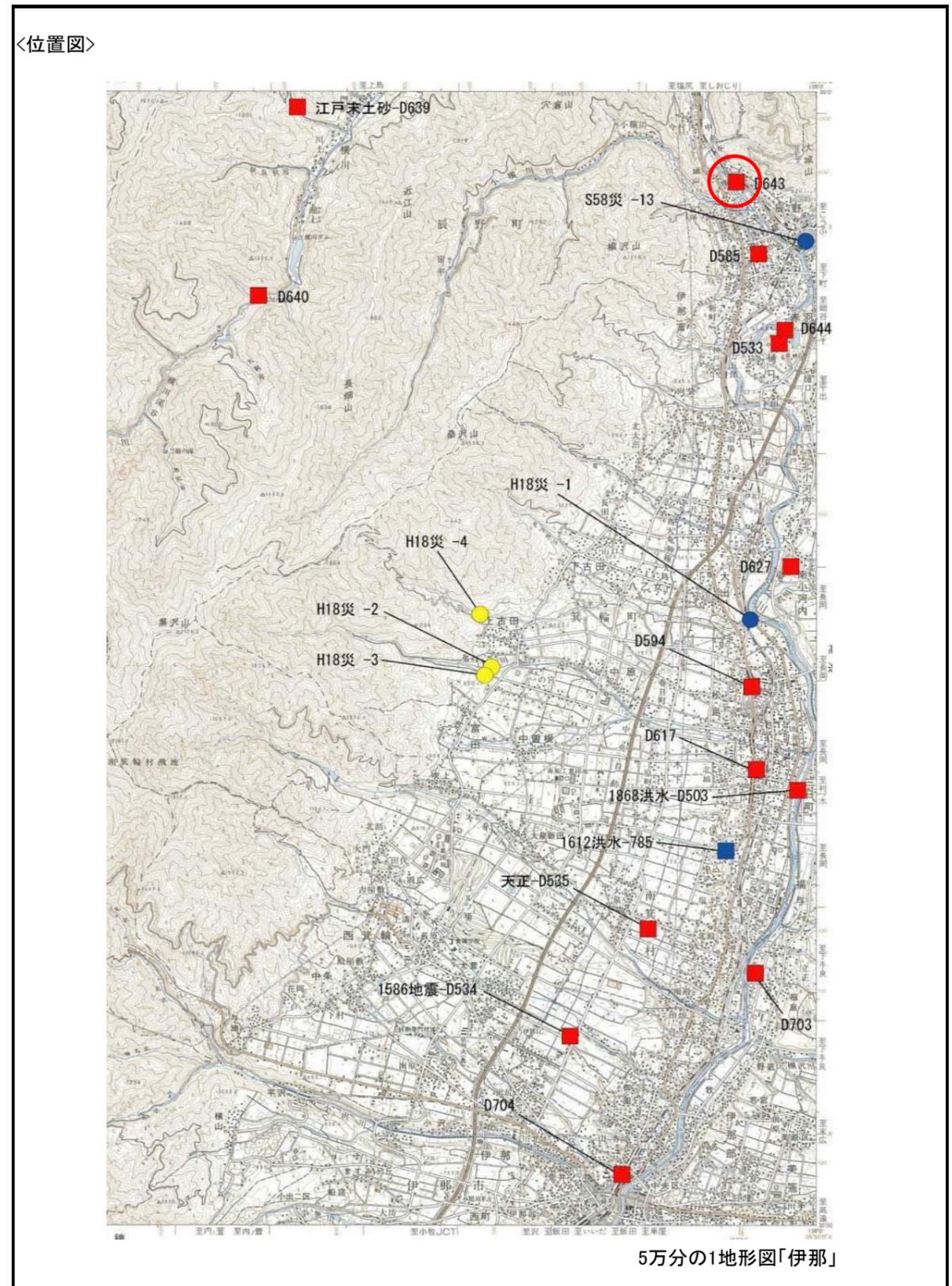
伝承名	蛇石	1/5万図幅名	伊那
市町村・大字名	辰野町横川	地点番号	D640
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○淵の主=親子大蛇(身代わり死亡、人間の味方) ○自然現象=鬮竜 ○地物に託された災害伝承 ○滝の主=兄弟竜(生存、人間を苦しめる)		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂) ○蛇石 「昔干淵には、五十間を越えるほどのたいへん気のやさしい主の大蛇が子供と一緒に棲んでいた。その頃、大滝沢に棲んでいた二匹の兄弟竜が、ときどき暴れては大嵐を呼びおこして大水を出し、村人を苦しめていた。兄弟竜は獲物のイノシシをめぐって大ゲンカをはじめたので、大嵐となった。木が倒れ、山が崩れ、大水が出て土や石や倒れた木々がゴロゴロと横川川を流れていった。干淵に棲む大蛇は川下の人間たちを思い、子供の竜に淵の底にいるよう声をかけてから上流へと向かった。ひととき川幅の狭まった辺りまで来ると、倒れた木々に堰き止められて小さいダムが出来ていた。大蛇は頭をもたげて出来たばかりの木や石の土手を崩しはじめたが、次々に木や石が流れてくるので苦しい水との闘いとなった。大蛇の子は帰って来ない母を心配し、傷をおいながら頭をもたげ続けている母蛇を見つけた。大蛇とその子供は長い間水と闘っていたが、嵐が静まる頃、とうとうかつきて川底に半分埋まり、寄り添うように息をひきとってしまった。熊野権現様は兄弟竜のいたずらを大変怒り、竜たちを大滝沢にある大滝に閉じ込めてしまった。村人たちは命をすててまで助けてくれた大蛇たちを大層あわれがり、いつまでもその美しい心が残るようにと、石の姿に変えたという。こうして、大小二筋の蛇石が横川川の川底にでき、いつまでも村人を守ってくれることになったという。」	
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	○蛇石 (http://www.geocities.jp/horiuchihiroetishitu/tishitu/jaishi.html より)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○蛇石(国の天然記念物)	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「辰野町の誕生と伝説」pp.256-260.		



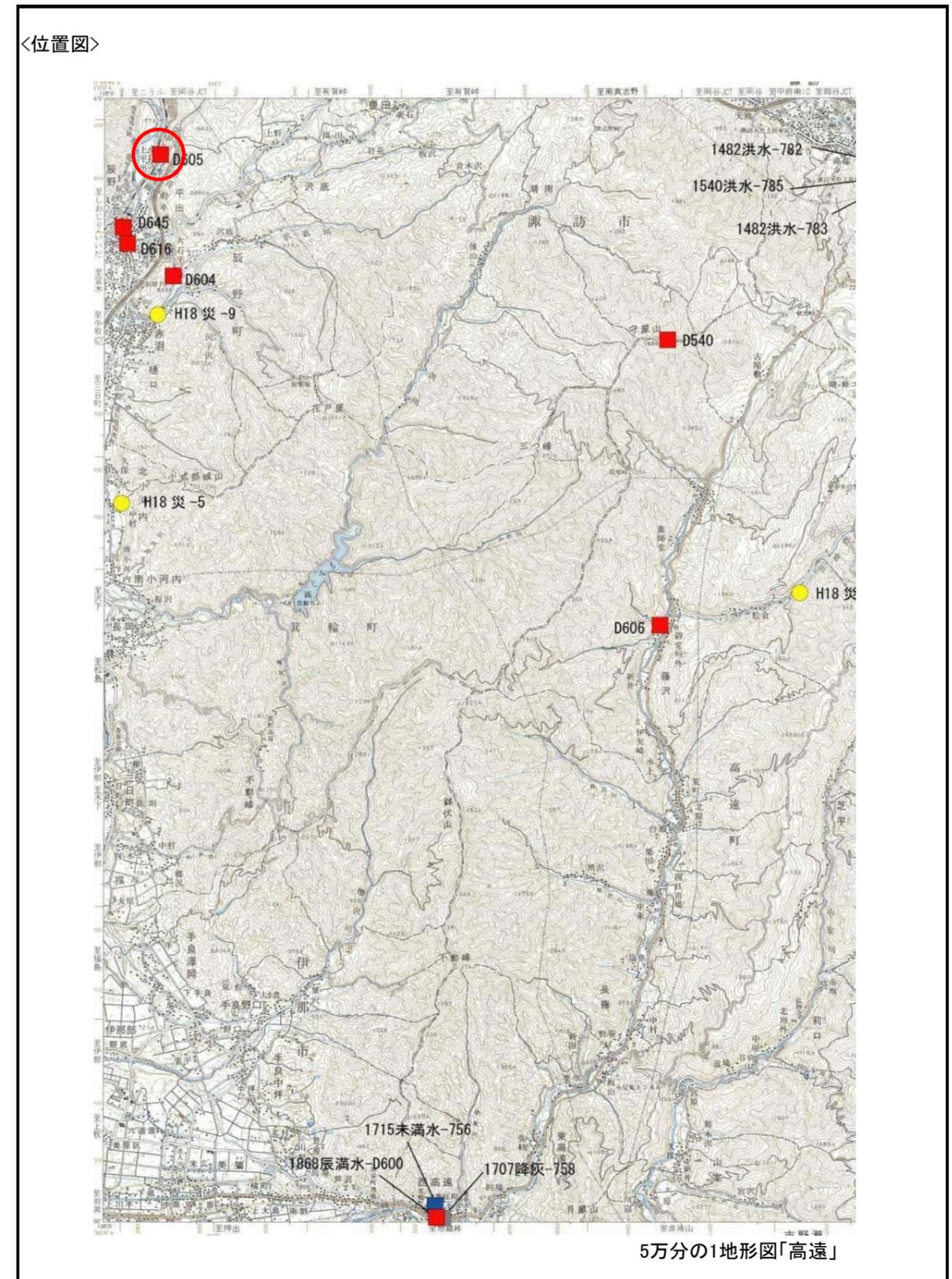
伝承名	上横川神社の神楽の由来	1/5万図幅名	塩尻
市町村・大字名	辰野町横川門前地区	地点番号	1753-D641
発祥年代	1753年(宝暦三年)	関連する災害名称	—
キーワード	○ご加護のあった災害(旱魃) ○祭りに継承された災害		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○上横川神社の神楽の由来 「宝暦三年(1753)、川島の谷では田植えが無事に終わった。ところが、春から一滴の雨も降らなかった。夏になっても雨は降らず、横川川も一筋の細い糸のような流れになった。水がすっかりなくなり、田はひび割れ、食べ物も底をつき始めた。そのうちにはやり病が村人に襲いかかった。この凶事を神様の祟りと思った村人は、お伊勢様をお願いしようと二人の若者を伊勢への旅にだした。伊勢神宮にたどり着いた二人は一心に祈り、神官に村の事情を伝えた。神官の紹介してくれた又右エ門と七之丞という神楽師ともども村に戻り、一軒一軒お払いをしてもらった。村人達は神楽師の後をぞろぞろとついて歩き、一緒になって天をお願いをしたり、自分のことのように喜んだりしたところ、願いが通じたのか、その日の夕方から大粒の雨が降り出した。平和で静かな村がよみがえり、村にとどまるよう神楽師達をお願いした。しかしその願いは聞き入れてもらえなかったが、神楽師達は川島にし獅子頭を残し、獅子舞のやり方を伝えていった。こうして獅子舞は二百年以上も毎年毎年行われ、代々伝えられてきた。今では上横川神社神楽保存会の人々が、後代に伝えるよう努力している。」	
	伝承の内容		
伝承媒体	写真・映像	○上横川神社の神楽(http://www.town.tatsuno.nagano.jp/bunkazai/top.html より)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	○上横川神社の神楽「辰野町指定無形民俗文化財(上横川神社神楽保存会)」	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「辰野町の誕生と伝説」pp.278-284.		



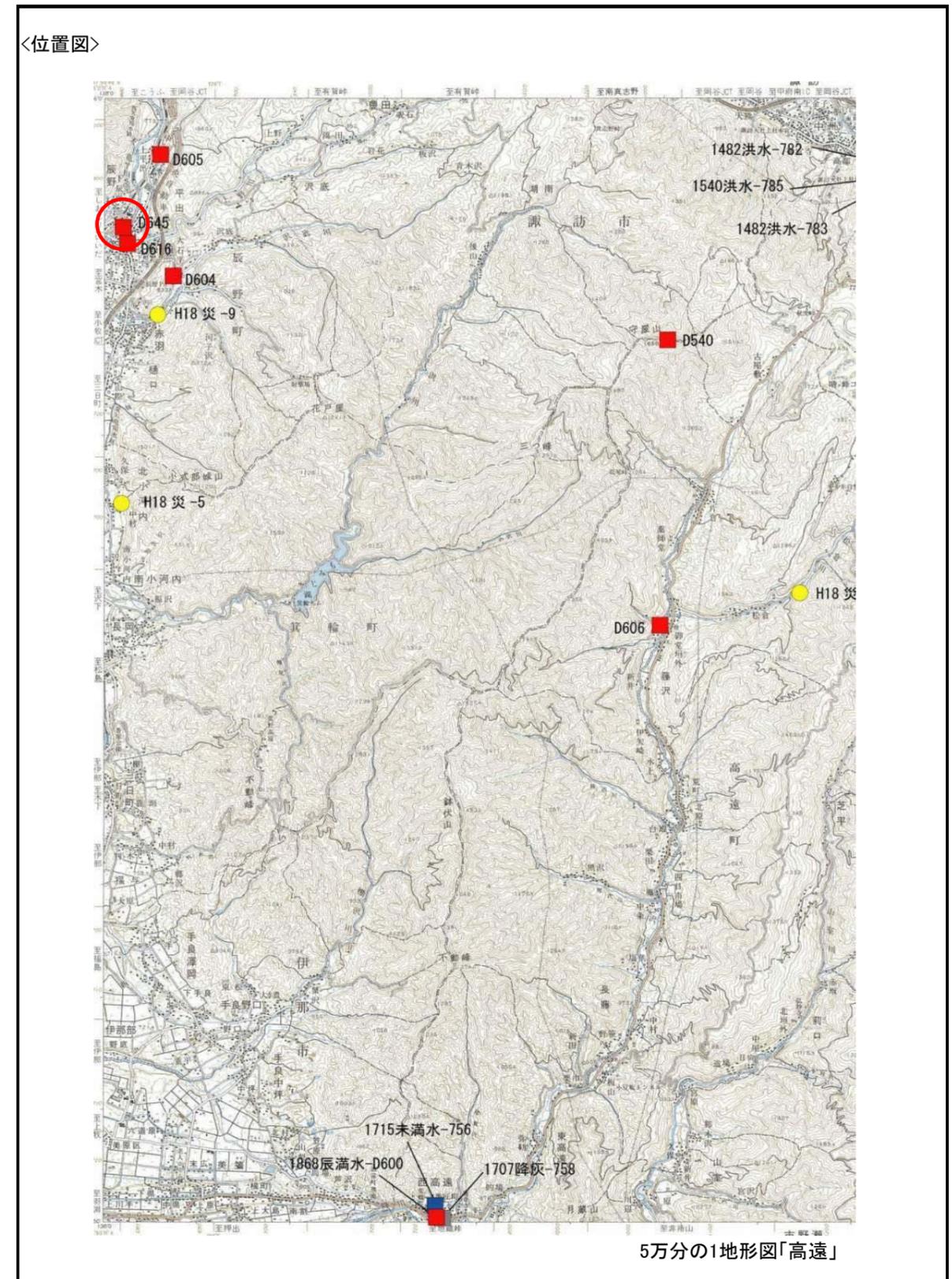
伝承名	百々湊の沈鐘	1/5万図幅名	伊那
市町村・大字名	辰野町宮所	地点番号	D643
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○湊の主=鐘→大蛇(生存) (類似伝説) ・洞ヶ入鐘楼堂(辰野町平出)		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○百々湊の沈鐘 「上辰野と宮所の間の横川河の百々橋下に大きな湊があり、そこを昔から百々湊といってきた。昔この湊の上にはお堂があり、長い年月の間に荒れて、ついにお堂は湊に崩れ込んでしまった。このため、お堂の釣鐘と一緒に湊に沈んでしまった。沈んだ鐘は大蛇になり、湊の主になって人がそばに来ると巻き込んでしまうという。」	
	伝承内容	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○百々湊	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「辰野町の誕生と伝説」pp.292-293.		



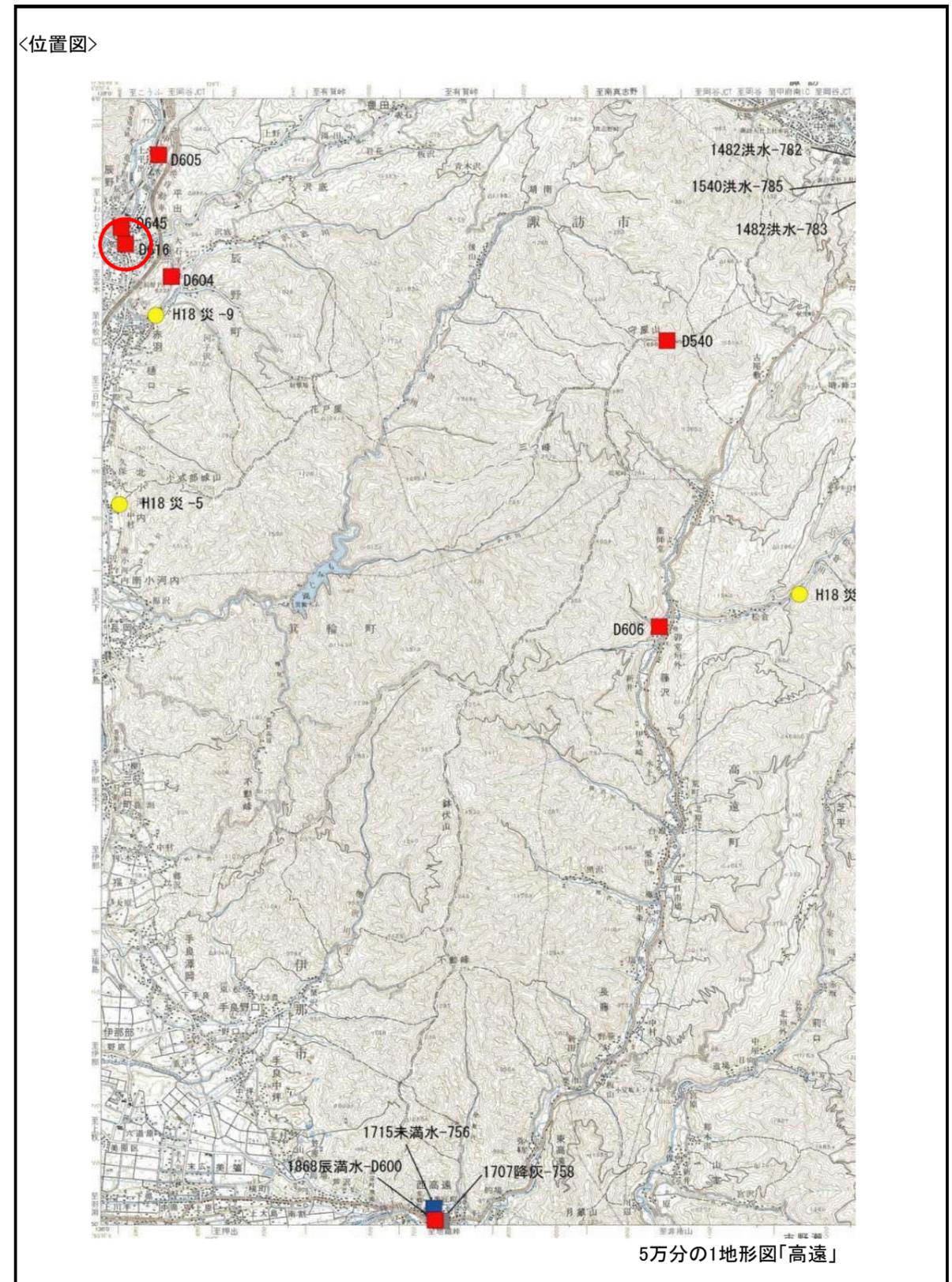
伝承名	洞ヶ入鐘楼堂	1/5万図幅名	高遠
市町村・大字名	辰野町平出	地点番号	D605
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○淵の主＝鐘→大蛇(生存) (類似伝説) ・百々淵の沈鐘(辰野町宮所)		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂)	
	伝承の詳細	○洞ヶ入鐘楼堂 「上平出部落の南端、地名大門を東の山の谷間に入ること約二町、山の中腹に鐘楼堂があった。昔、そこから山抜けをして鐘楼堂は泥砂と共に押し流され、鐘楼は天竜川の百々の淵にころびこんで大蛇となり、淵の主になったという。(長野県上伊那誌 民俗編上より)」	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川の災害伝説」pp.17-18.		



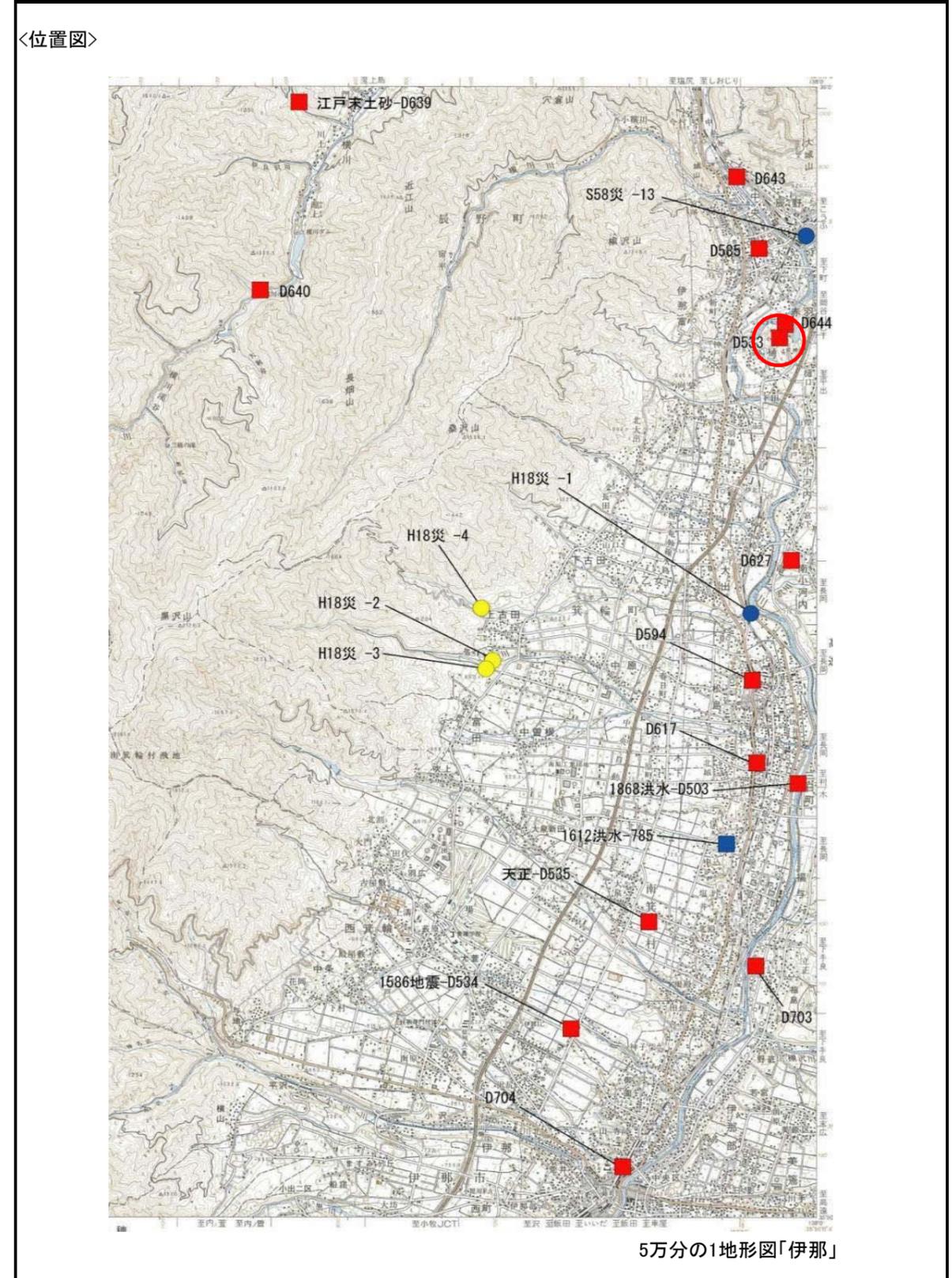
伝承名	洞ヶ入鐘樓堂	1/5万図幅名	高遠
市町村・大字名	辰野町平出	地点番号	D645
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	湖の主=大蛇 ○地名に託された災害		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○八王子神社の伝説 「昔々、八王子神社は素盞鳴尊という神様が便りにしていた八人の御子がおなくなりになられ、神として祀られたという。大古に平出・下辰野地区はすべて湖水になっていて大蛇が棲み、辰の湖といった。東側の樋口地区は水門の役割を果たしていたが、大水のために破されて湖も次第に涸れ果て平野になった。その後、この地方には毎年伝染病ではげしい熱病が流行し、人々は八王子の祟りと恐れ、八人の御子の霊を祀って無病をお祈りしたところ、病気は忽ち治ったという。」	
	伝承内容		
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	○八王寺神社(辰野町の誕生と伝説pp.304.)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	○八王子神社	
	地名	○平出 ○辰の湖 ○樋口	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「辰野町の誕生と伝説」pp.304.		



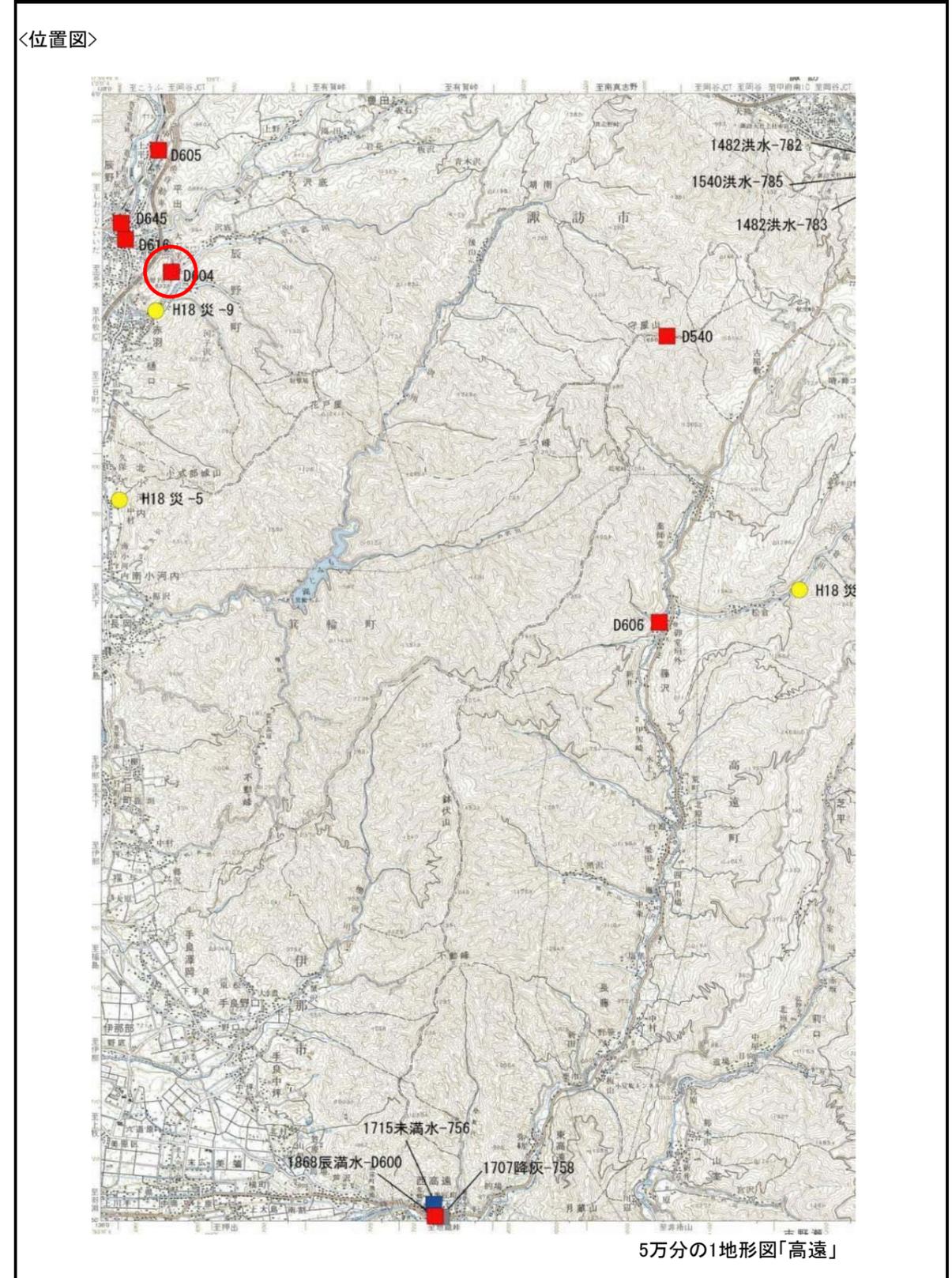
伝承名	腰掛石		1/5万図幅名	高遠
市町村・大字名	辰野町平出		地点番号	D616
発祥年代	—		関連する災害名称	—
キーワード	○地物に託された災害			
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)		
	伝承の詳細	○腰掛石 「有賀峠へ登る道の平出のはずれの傍に、むかし明神様を勧請するとき御輿をここまでかついできて動かなくなり、石の上に置いて休んだという石がある。曾てその傍を流れる上野川が氾濫した時、この石に堰がれて水の方向が変わったため、平出の村はほとんど害を被らなかったという。(郷土 石号)」		
	伝承内容	—		
伝承媒体	伝承の詳細	—		
	写真・映像	—		
	石碑・記念碑	—		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	—		
	土木遺構等	○腰掛石		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
	祭り	—		
儀式	—			
慣習・風習	—			
参考文献	「長野県上伊那郡誌第五巻民俗篇上」pp.1417.			



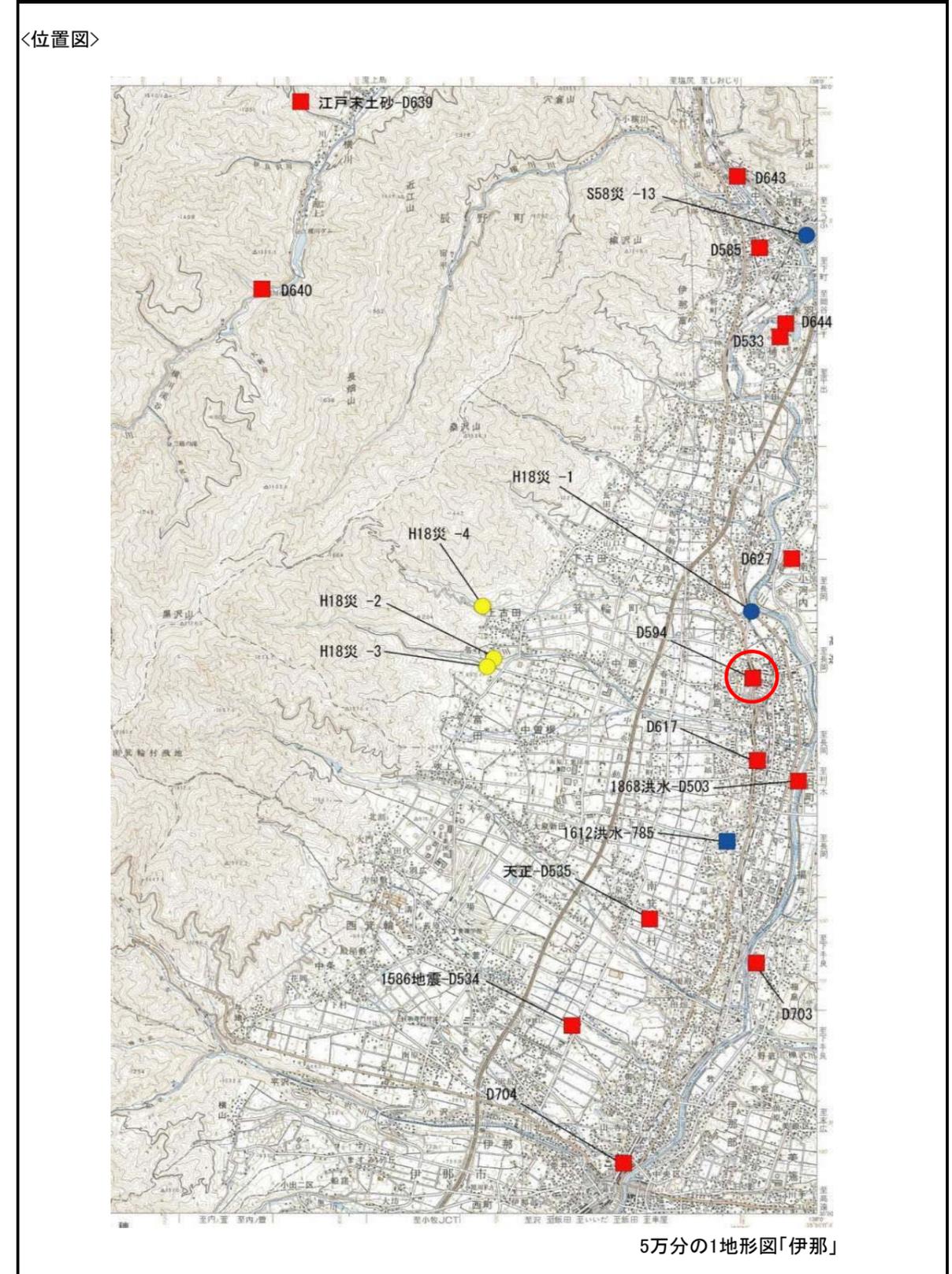
伝承名	辰野のいわれ	1/5万図幅名	伊那
市町村・大字名	辰野町(荒神山)	地点番号	D533
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○湖の主=竜(移動) ○地名に託された災害伝承		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○辰野のいわれ 「むかしの荒神山は今より大きく、東と西の山脈までつながっていて、天竜川をせきとめ、そこに湖ができていた。その湖には竜神が住んでいて、天に昇ったり降りたりしていた。ある時の大雨で湖の水が氾濫し、荒神山の東と西を切り崩して水が流れ出し、干上がってしまった。水がなくなったので竜は天に昇ってしまい、今は野になってしまった。ここを竜神がいたということから龍野(辰野)というようになった。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○辰野(龍野)	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「上伊那文化大辞典」pp.632,		



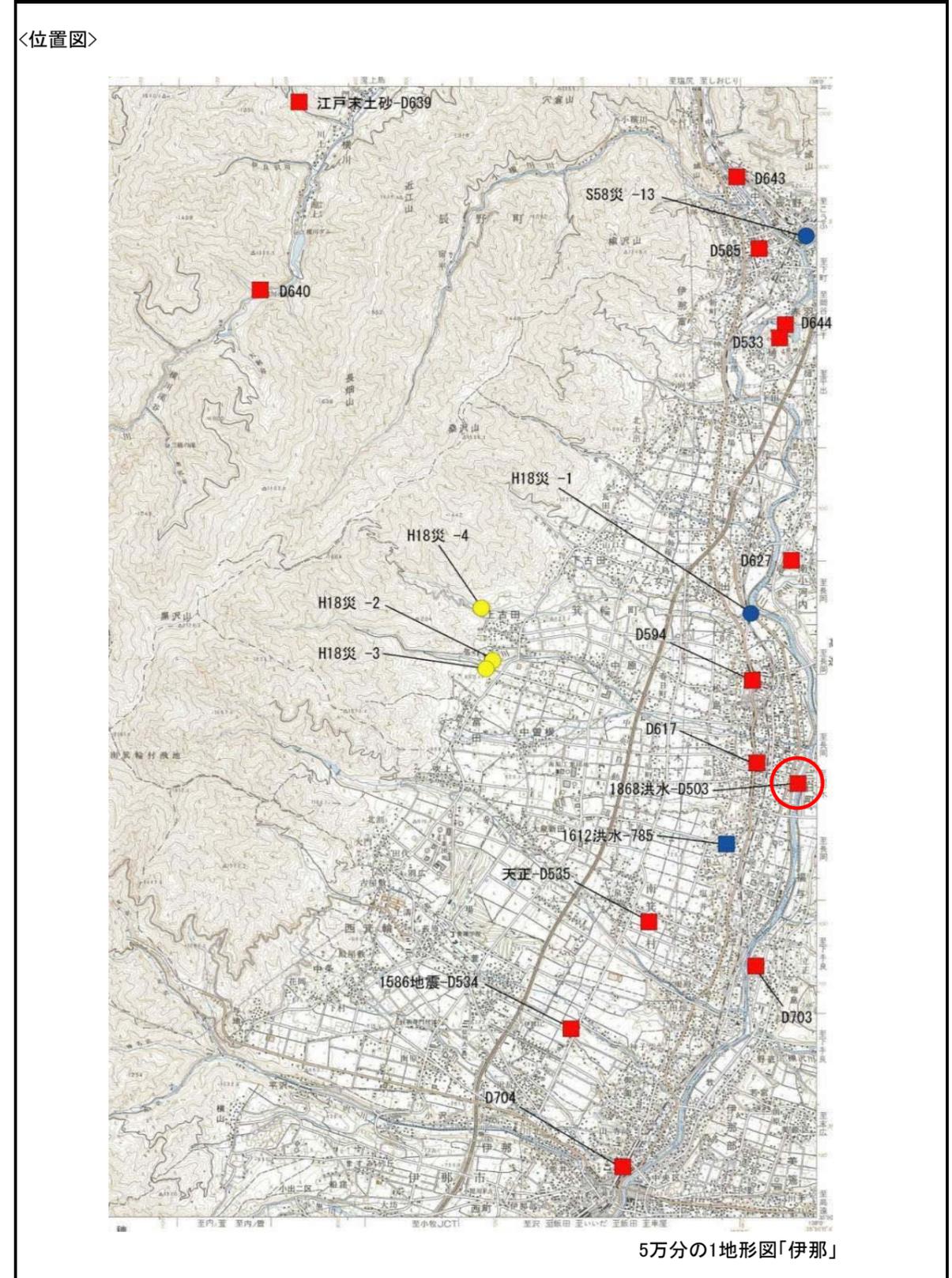
伝承名	沢底の蛇の池	1/5万図幅名	高遠
市町村・大字名	辰野町澤底(堂平)	地点番号	D604
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○池の主=大蛇(移動) ○平成18年7月豪雨災害の時、沢底川の岸边にある赤羽(山寺より下流)というところで土石流が発生した。		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂)	
	伝承の詳細	○沢底の蛇の池 「沢底の山寺の堂平という所に蛇の池とよぶ小さい底なしの池があった。昔に大蛇がすんでいたが大雷雨で山抜けした時、一緒に流れて行方が分からなくなった。池から七、八間はなれたところに蛇抜けといって蛇の抜け出したあとがあるという。この池を掻き回すと雨が降るといって、誰も昔から手を出したものがいないという。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○蛇の池(辰野堂平付近)	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川の災害伝説」pp.16-17.		



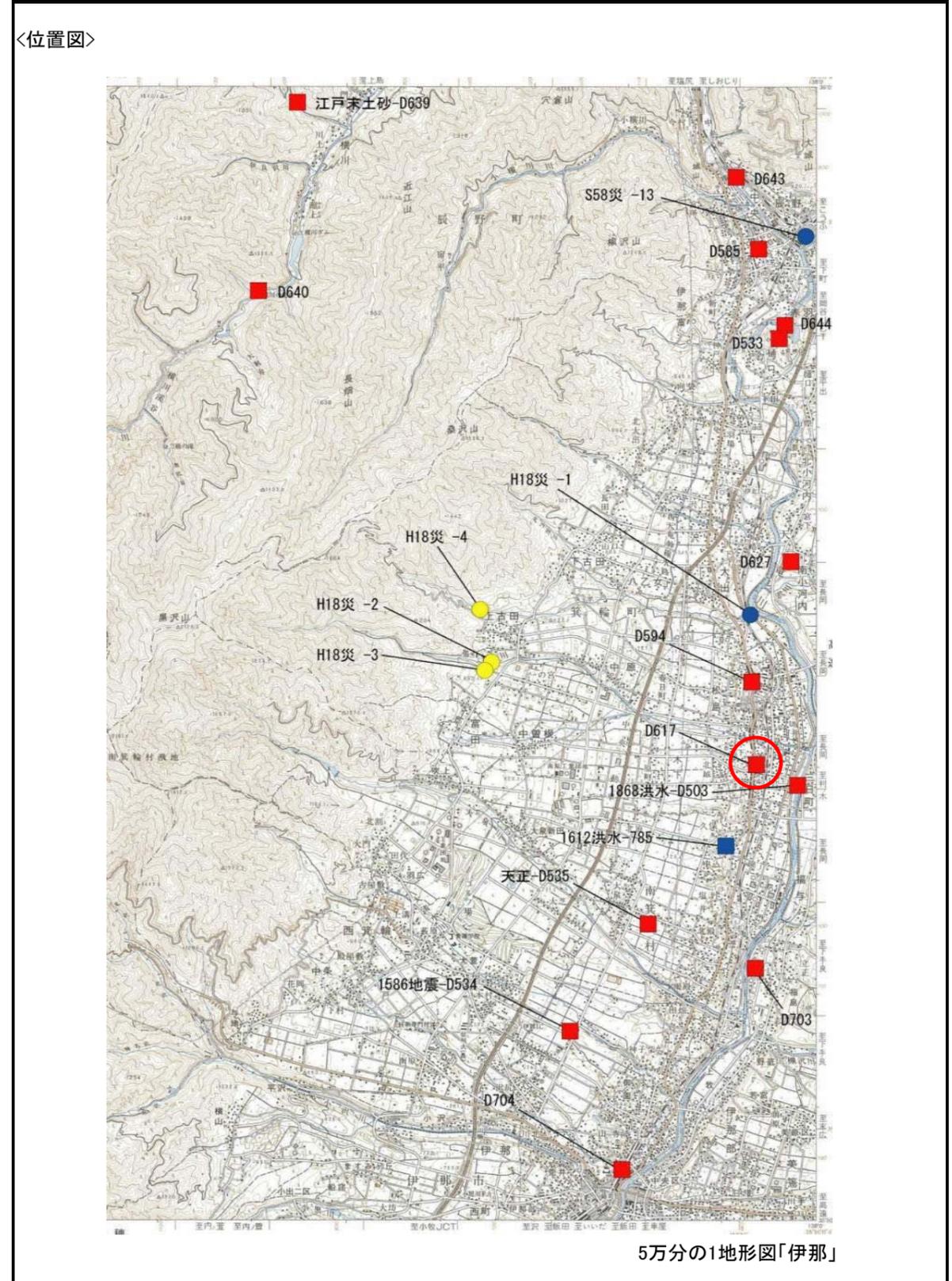
伝承名	箕輪町に伝わることわざ	1/5万図幅名	伊那
市町村・大字名	箕輪町	地点番号	D594
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	ことわざ	
	伝承の詳細	(箕輪町に伝わることわざ) ○辰野の汽車の気笛が聞えると雨 ○天竜川を虹がまたぐと雨 ○雨っぷり(ほたるぶくろ)をとると雨 ○かぼちゃのつるが太いと風が吹く ○山かがしがすると晴、育だいしょうが出ると雨 ○蚊がもちをつくと雨 ○ひじろの煙が家の中にこもると雨 ○腰がいたむと、あかぎれがいたいと、しもやけがかいと、神経痛がおこると、どれも雨 ○子どもがお茶をのむと風がふく ○めだかが群になって泳げば雨	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
伝承媒体	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
	慣習・風習	○箕輪町に伝わることわざ	
	参考文献	「箕輪町誌自然・現代編」pp.70-72.	



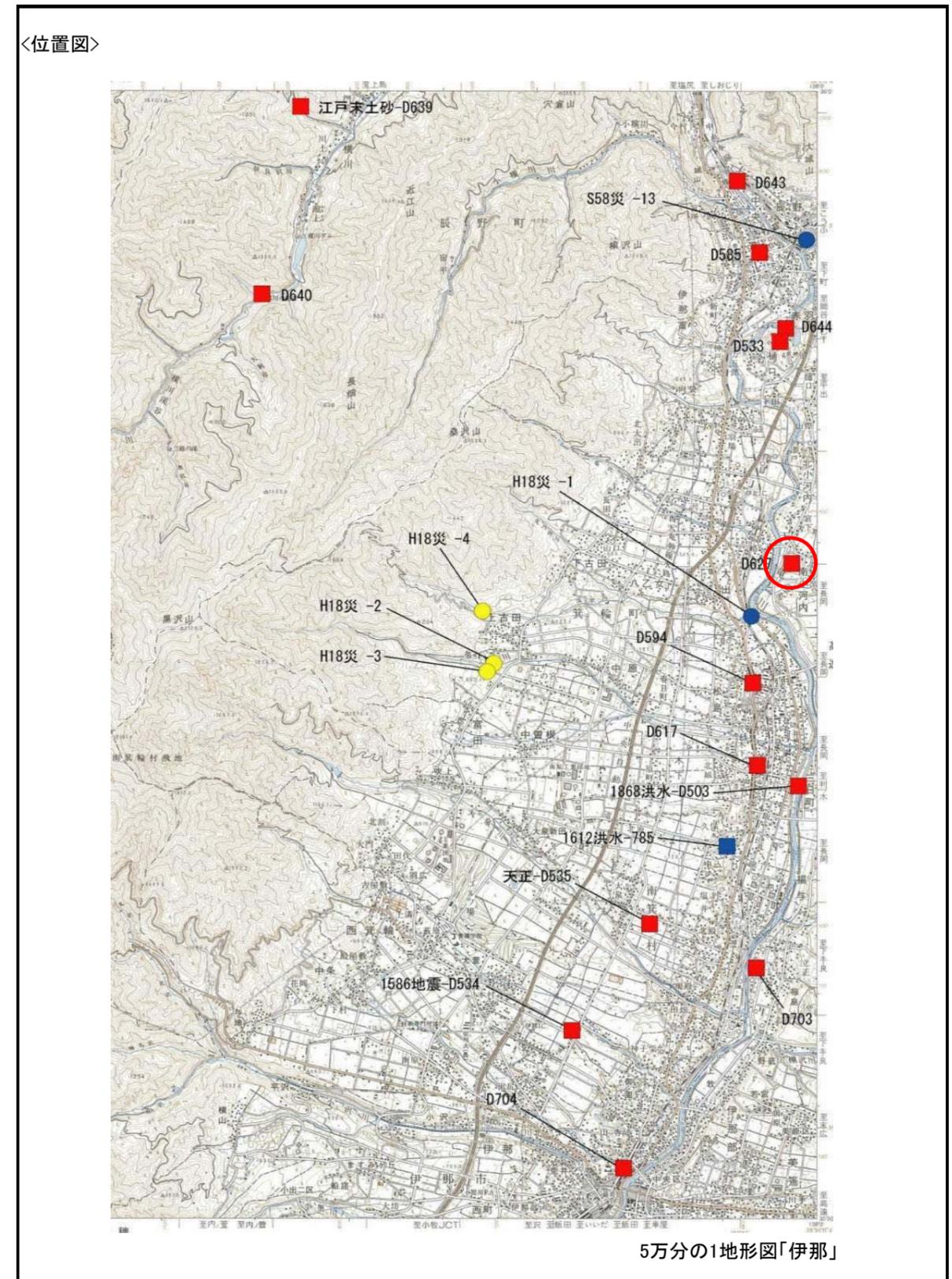
伝承名	夢枕に立つくらがり沢の大蛇	1/5万図幅名	伊那
市町村・大字名	箕輪町三日町	地点番号	1868洪水-D503
発祥年代	1868年(明治元年)	関連する災害名称	ー
キーワード	○沢の主=大蛇(移動、妙齢の美女に化身) ○恨み・怒りによってもたらされた災害 ○曹洞宗 澄心寺 (〒399-4603 上伊那郡箕輪町大字三日町289/TEL:0265-79-3057)		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂)	
	伝承の詳細	○夢枕に立つくらがり沢の大蛇 「澄心寺の黙仙和尚の夢枕に妙齢の美女に化身したくらがり沢の大蛇が立ち、天に昇るために山から天竜川へ移動し千年住まなければならないと言った。大蛇は、澄心寺や下の田畑村人には決して被害を与えないと誓い、沢をくだって通させてくれと一生の願いをして帰った。夢からさめた和尚は、くらがり沢の入り口に石を伏せ読経を唱えて大蛇を封じ込めた。その1週間後、大蛇は荒れ狂って南沢へ抜け出したので、澄心寺は壁をぶち抜かれ、三百六十畳の畳の上に五尺から九尺の甘酒のような泥がなだれ込み、下に続く田畑も大きな被害を受けた。」	
	伝承内容	ー	
伝承媒体	写真・映像	ー	
	石碑・記念碑	ー	
	水神碑・石仏	ー	
	神社仏閣・塚	○曹洞宗 澄心寺 (〒399-4603 上伊那郡箕輪町大字三日町289/TEL:0265-79-3057)	
	地名	ー	
	土木遺構等	ー	
	語り伝え等	ー	
	伝統芸能等	ー	
	祭り	ー	
	儀式	ー	
慣習・風習	ー		
参考文献	「伊那路 第14巻 第12号」pp24-25.		



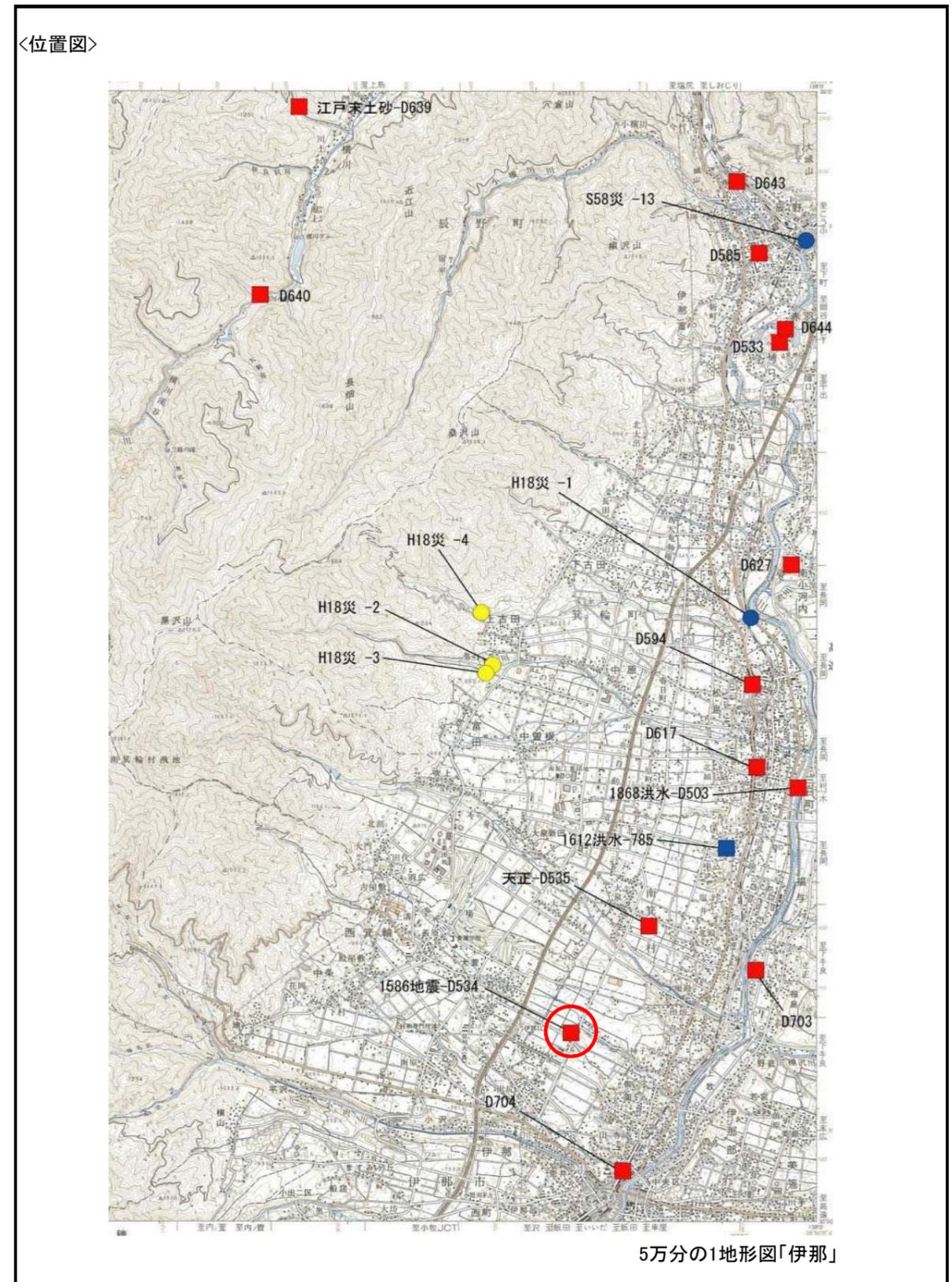
伝承名	帯無川	1/5万図幅名	伊那
市町村・大字名	箕輪町木下	地点番号	D617
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○水を司る(弘法大師) ※H18年7月豪雨災害時(19日)6:40 帯無川線路付近決壊の恐れ9:15 帯無川国道西教員住宅付近決壊の恐れ(箕輪町ホームページ)		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○帯無川 「弘法大師が帯を流して水を封じたので、水が下の方へ流れなくなったという。この西の山を雲が常に帯を巻いたようにかかっているところから帯巻山と呼んだ。その山から流れ出る川というので帯巻川と言ったのが、いつの間にか誤って帯無川というようになった。(笠原政市氏)」	
	伝承内容	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○帯無川 ○帯巻山	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「長野県上伊那郡誌第五巻民俗篇上」pp.1429-1430.		



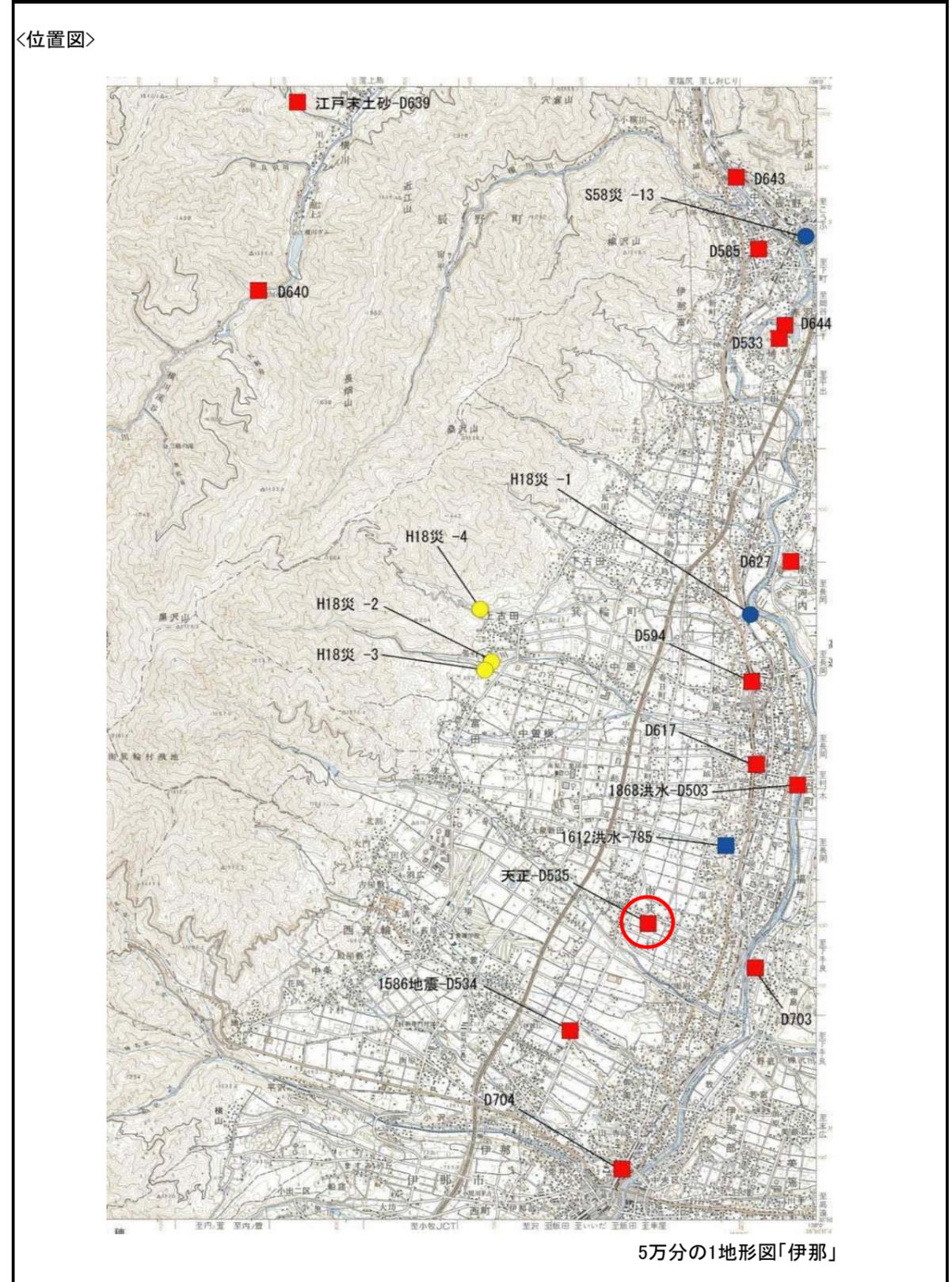
伝承名	おさんやり(災遣り)の伝説		1/5万図幅名	伊那
市町村・大字名	箕輪町南小河内		地点番号	D627
発祥年代	—		関連する災害名称	—
キーワード	○災難よけの行事			
教訓・伝承事例	伝承内容	信仰		
	伝承の詳細	○おさんやり(災遣り)の伝説 「昔から毎年お盆におこなわれる行事。村の南を通る田無川から上げて灌漑用水にしている大堰が村の中を南から北へと流れ、北から南へ流れる天竜川の流れと反対の所謂逆さ川であるため、そこから起こる災厄から逃れるために始まったと伝えられている。昔、凶年に三年ばかり止めていたら疫病が大流行したので、怖れられてまた復活したという。」		
	伝承内容			
伝承媒体	写真・映像	—		
	石碑・記念碑	—		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	—		
	土木遺構等	—		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
	祭り	—		
	儀式	—		
	慣習・風習	—		
参考文献	「上伊那郡誌5民俗篇上」pp.1430.			



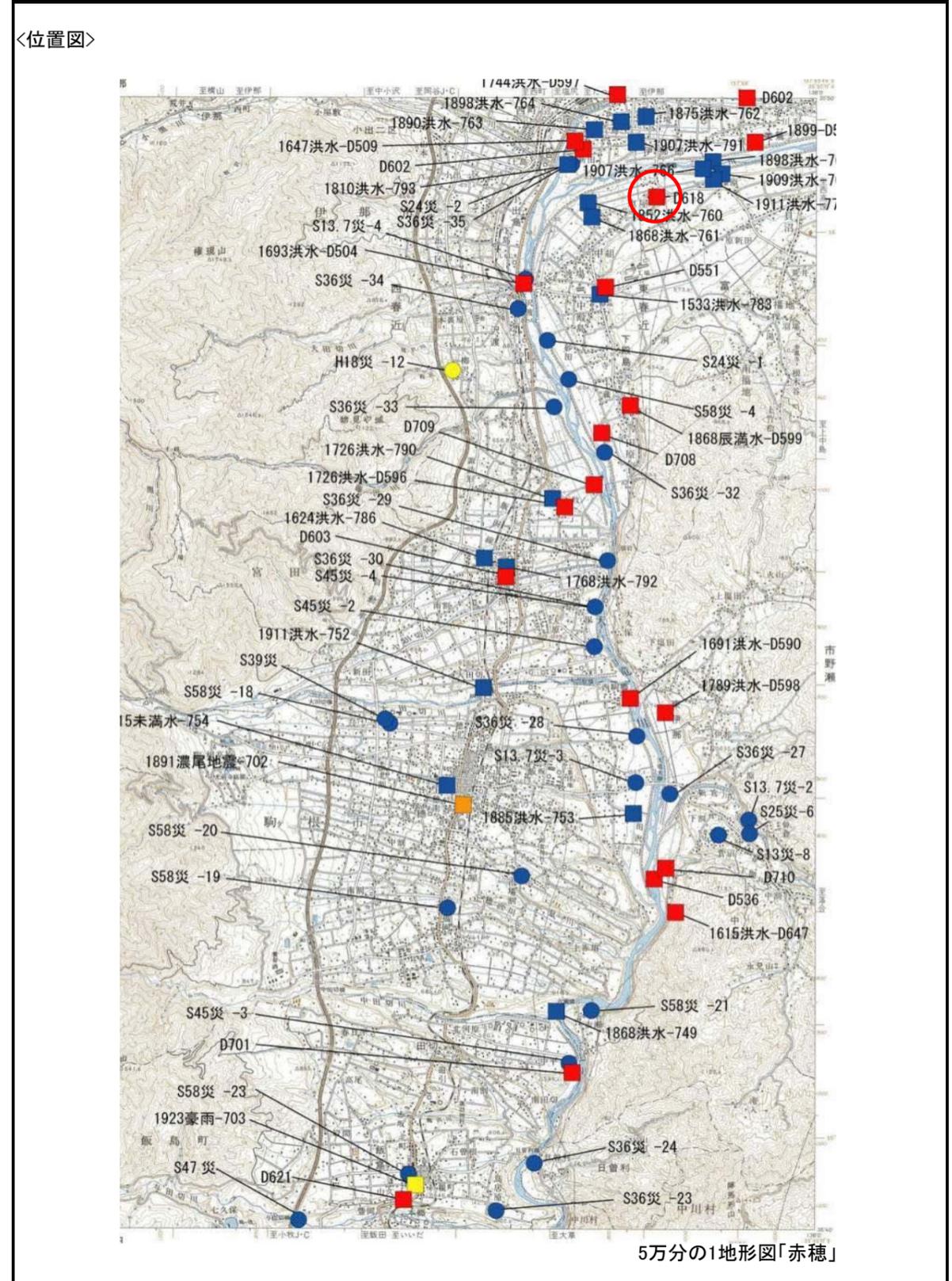
伝承名	御射山社の破壊	1/5万図幅名	伊那
市町村・大字名	南箕輪村神子柴	地点番号	1586地震-D534
発祥年代	1586年1月18日(天正十三年十一月二十九日)	関連する災害名称	天正地震
キーワード	○災害によって消滅した地物		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(地震)	
	伝承の詳細	○御射山社の破壊 「春日街道沿いの西側に、大きな落葉松が2本寄り添うように生えている下に「御射山社」と刻まれた石碑が建てられている。この場所には、大同四年(809)に坂上田村丸が天皇の勅命により建立した御射山社本社があった。451年後に再建されたが、天正地震(1586.1.18)の時に破壊され、その後243年間造営することができずにいた。そこで文政十年(1827)七月に由来を記した碑が建てられた。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	○御射山様(上伊那文化大辞典pp.633.)	
	石碑・記念碑	○御射山社の由来を記した碑	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「上伊那文化大辞典」pp.633-634.		



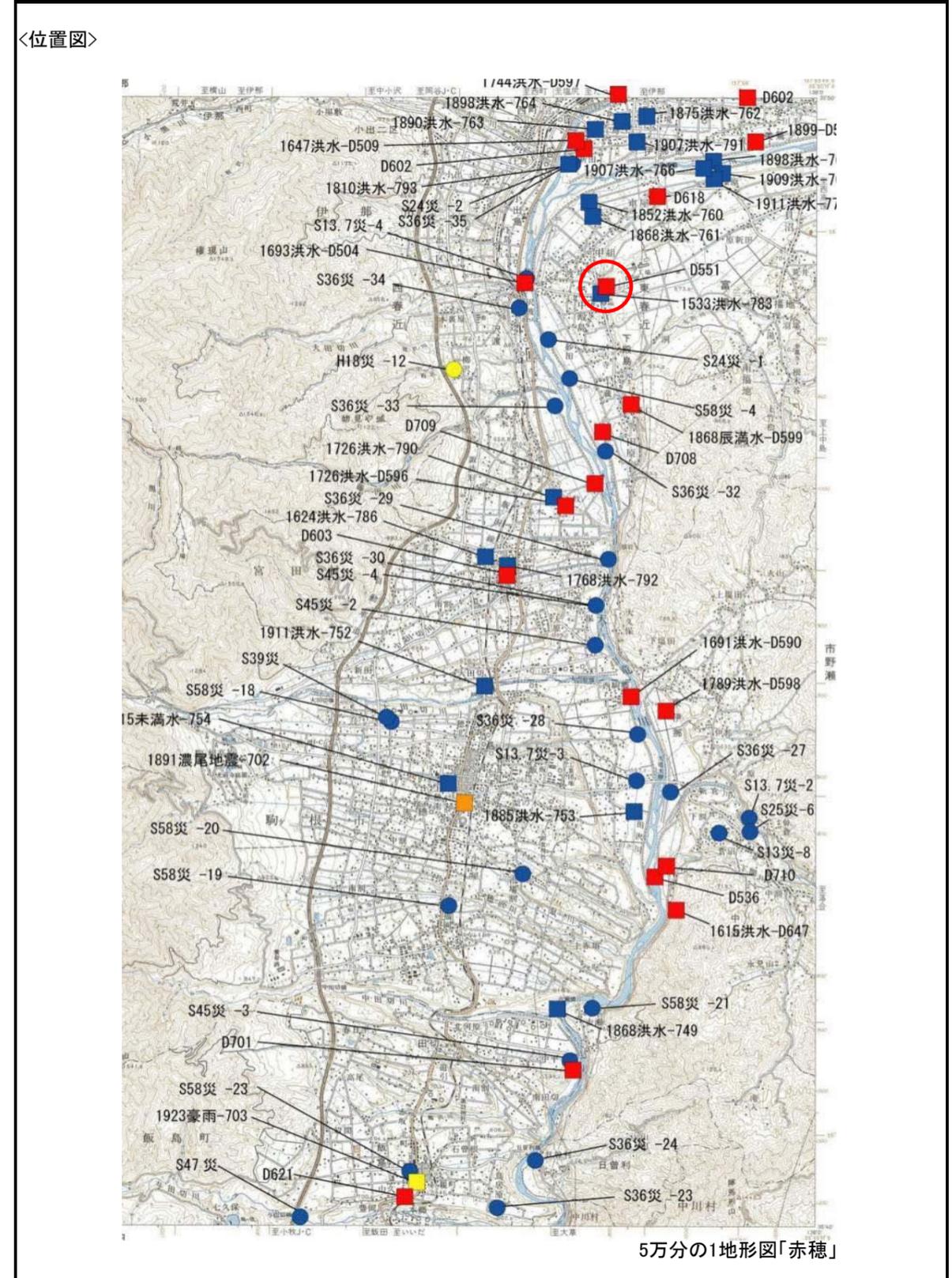
伝承名	蛇塚	1/5万図幅名	伊那
市町村・大字名	南箕輪村大泉	地点番号	天正-D535
発祥年代	1573年～1593年(天正年間)	関連する災害名称	ー
キーワード	○耕地の主=大蛇(死亡) ○大蛇退治伝説		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○蛇塚 「むかし西箕輪の大萱の耕地に住んで作物を荒らし、人々を恐がらせていた大蛇が、大泉あたりにも出沒したため、時の領主保科弾正が家臣に命じて退治させ死骸を埋めたという。昭和の初期の頃までは高く石が積まれ、蛇がたくさんいたといわれるが、西天竜耕地整理のために取り除かれ、水田となってしまったが、蛇塚という地名が残されている。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	ー	
	石碑・記念碑	ー	
	水神碑・石仏	ー	
	神社仏閣・塚	ー	
	地名	○蛇塚(大和泉神社の南側の道を春日街道を横切って東へ300mほど下ったところ。)	
	土木遺構等	ー	
	語り伝え等	ー	
	伝統芸能等	ー	
	祭り	ー	
	儀式	ー	
慣習・風習	ー		
参考文献	「上伊那文化大辞典」pp.633-634.		



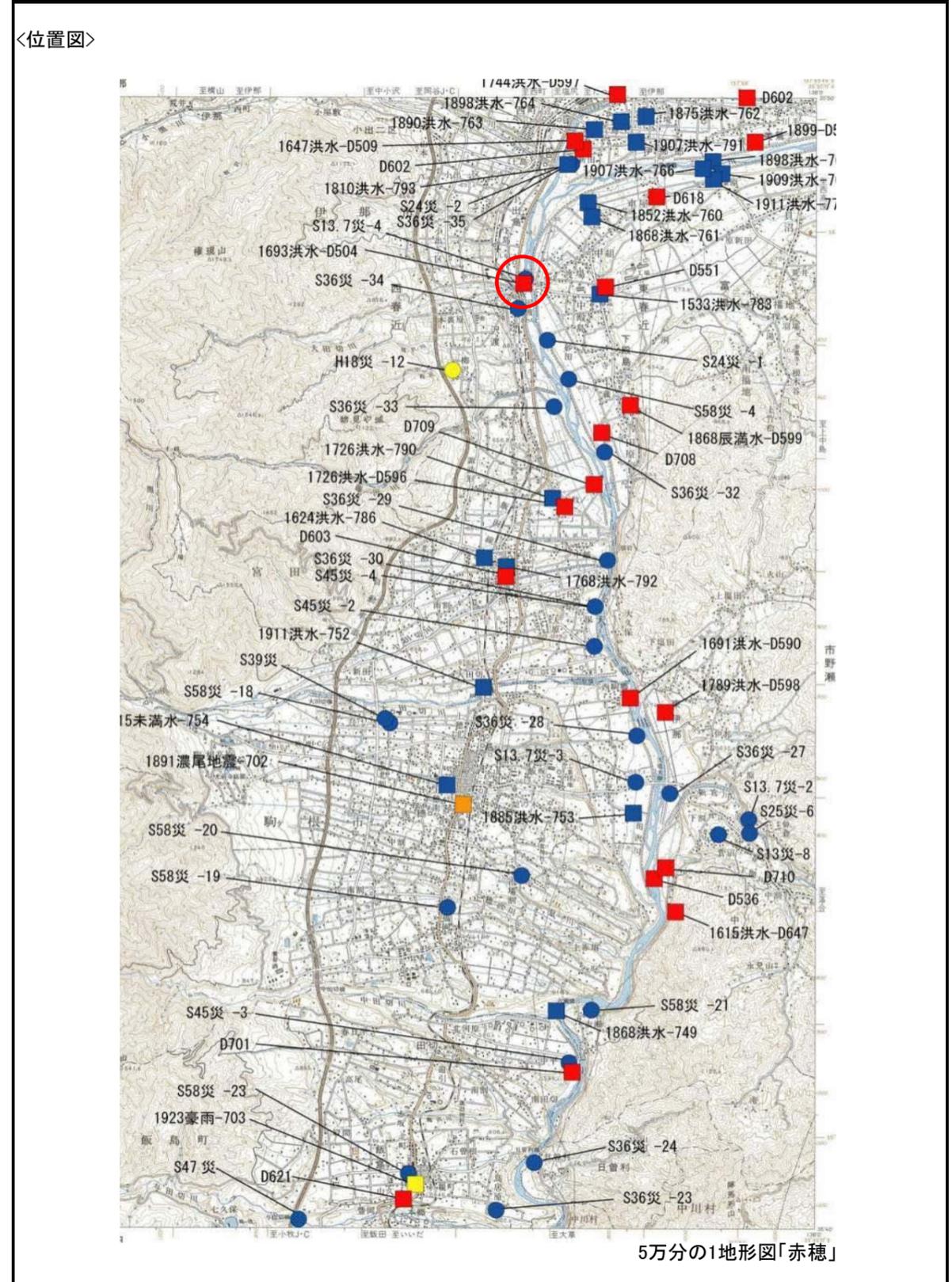
伝承名	経塚	1/5万図幅名	赤穂
市町村・大字名	伊那市東春近六軒屋	地点番号	D618
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○災害履歴の風化		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○経塚 「六軒屋の崖ぎわに、小さな塚が点在していて経塚と言っていた。昔、洪水を防ぐために読経して水難除けを祈願し、経を埋めたところという。以前四十八ヶ所あったというが、今は開墾の際崩されてその数が少ない。」	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	○経塚	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「長野県上伊那郡誌第五巻民俗篇上」pp.1425.		



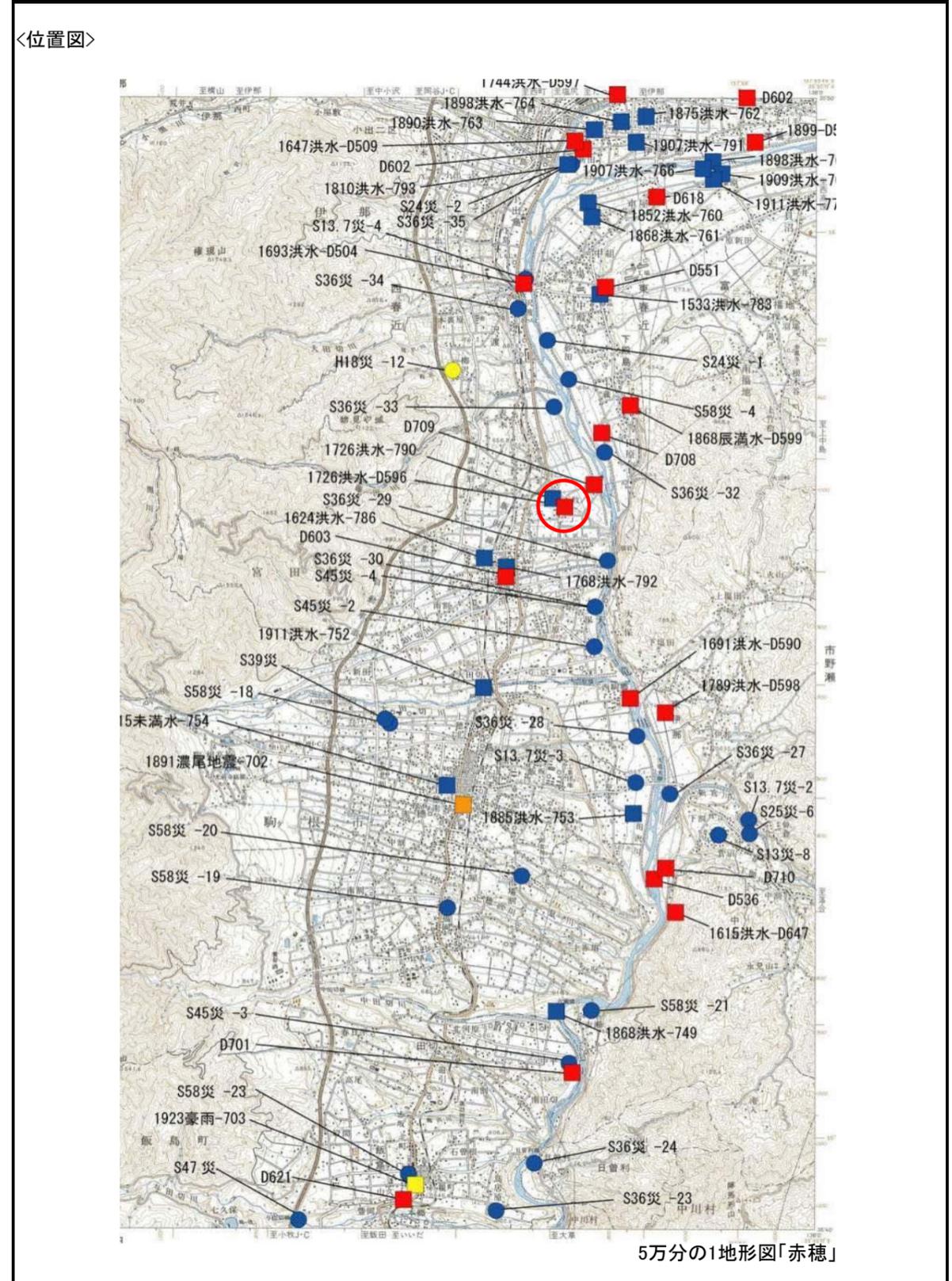
伝承名	東春近に伝わることわざ		1/5万図幅名	赤穂
市町村・大字名	伊那市東春近		地点番号	D551
発祥年代	—		関連する災害名称	—
キーワード	—			
教訓・伝承事例	伝承内容	ことわざ		
	伝承の詳細	(東春近に伝わることわざ) ○北風が吹くと大水がでる		
	伝承内容	—		
伝承の詳細	伝承内容	—		
	伝承の詳細	—		
伝承媒体	写真・映像	—		
	石碑・記念碑	—		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	—		
	土木遺構等	—		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
	祭り	—		
	儀式	—		
慣習・風習	○東春近に伝わることわざ			
参考文献	「伊那谷 長谷村の民俗」pp.30-32.			



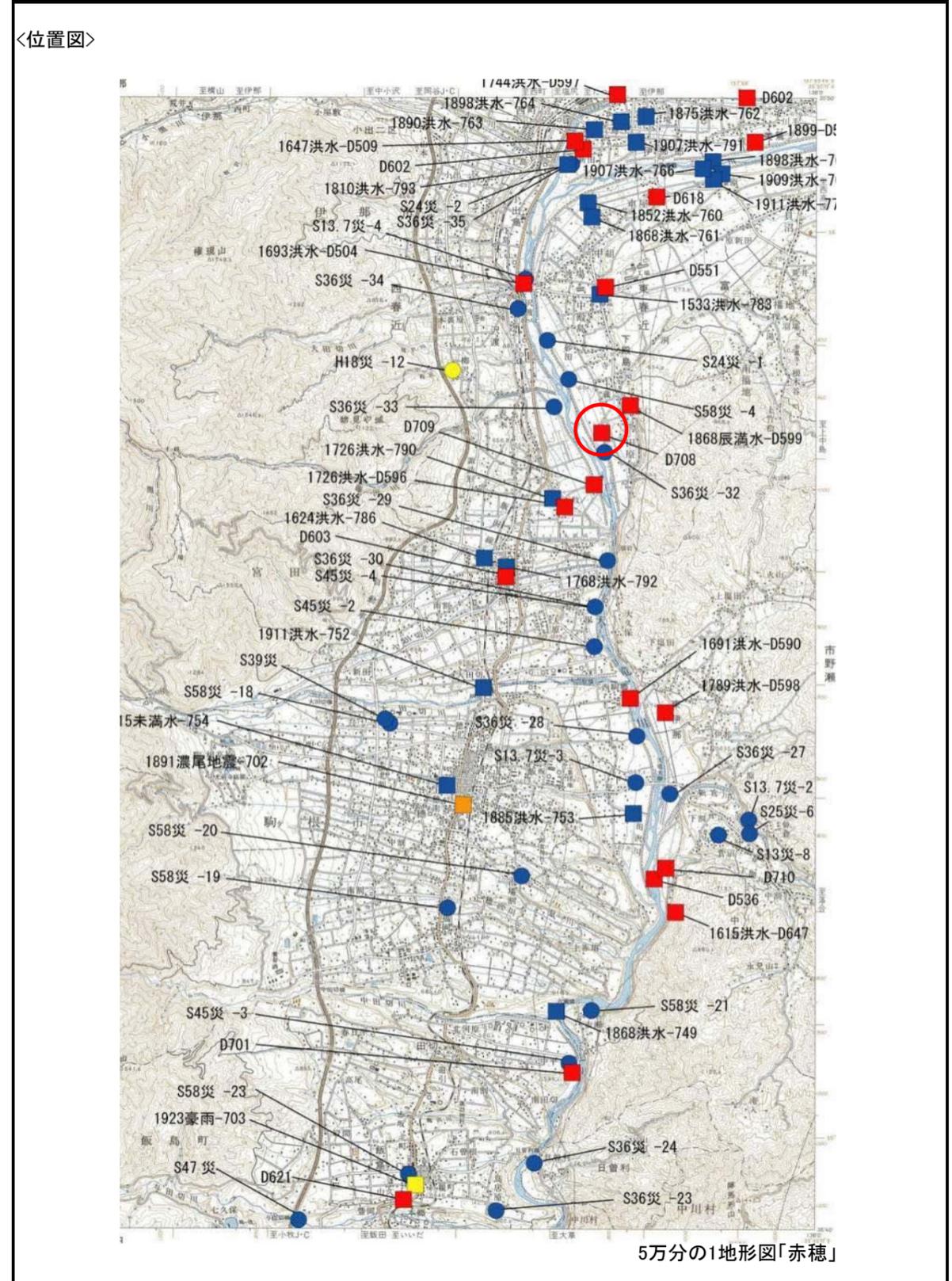
伝承名	殿島橋の変遷		1/5万図幅名	赤穂
市町村・大字名	伊那市東春近(殿島橋)		地点番号	1693洪水-D504
発祥年代	1693年～1936年(元禄六年～昭和11年)		関連する災害名称	洪水
キーワード	○災害がもたらす町の変遷			
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木		
	伝承の詳細	○殿島橋の変遷 「三峰川奥地の森林濫伐により洪水を招来し、氾濫原が拡大したことにより、元禄六年から昭和十一年までの240年間に殿島橋の長さが5倍になった。」		
	伝承の詳細			
伝承媒体	写真・映像	—		
	石碑・記念碑	—		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	—		
	土木遺構等	○殿島橋		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
	祭り	—		
	儀式	—		
慣習・風習	—			
参考文献	「伊那谷 長谷村の民俗」pp.30-32.			



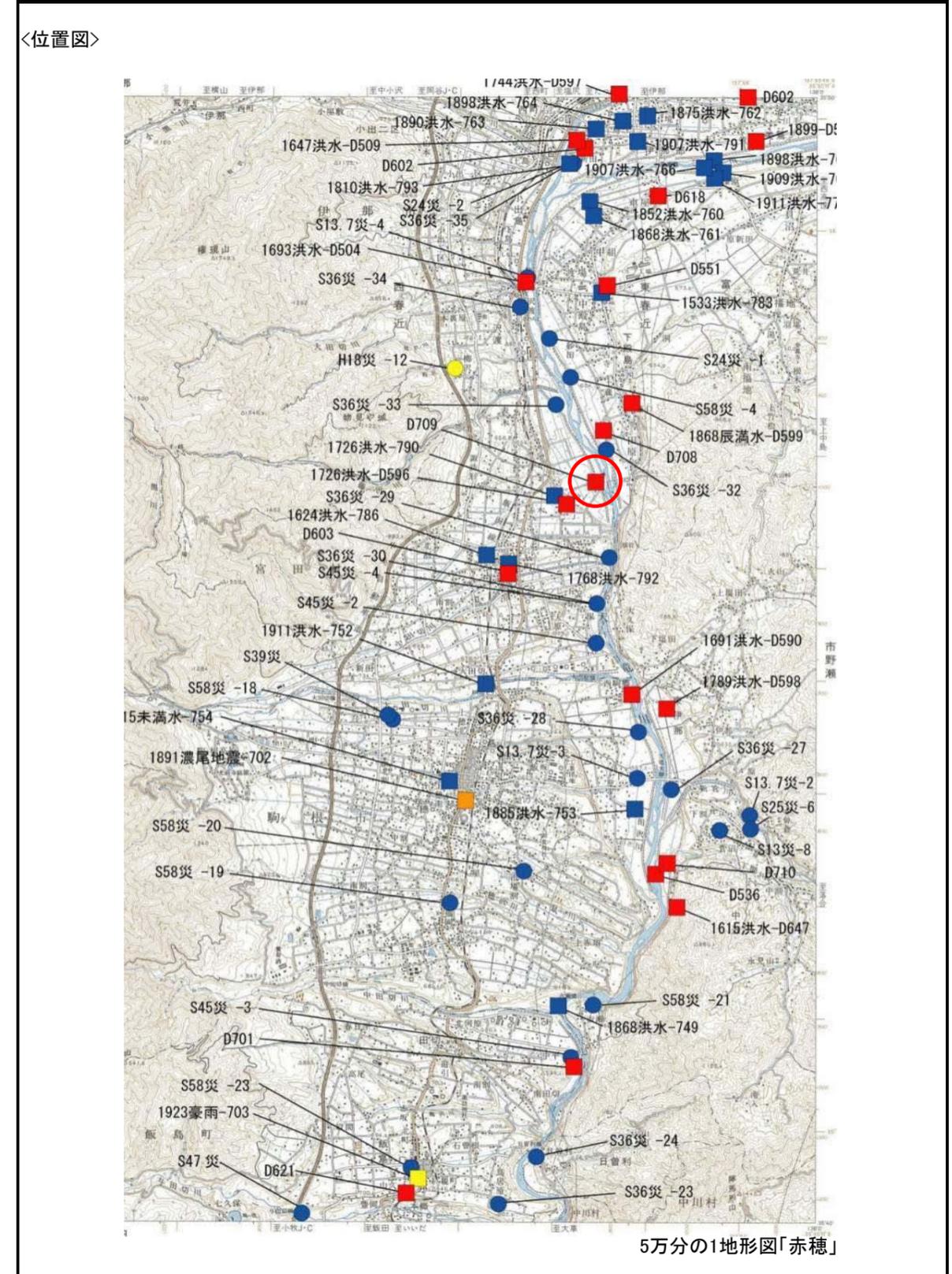
伝承名	鍛冶ヶ島流出と集団移住	1/5万図幅名	赤穂
市町村・大字名	伊那市西春近下牧	地点番号	1726洪水-D596
発祥年代	1726年(享保十一年)	関連する災害名称	洪水
キーワード	○災害による集団移住		
教訓・伝承事例	伝承内容	災害の事実・災害体験・得られた教訓	
	伝承の詳細	○鍛冶ヶ島流出と集団移住 「昔、現在の伊那市下牧の護災堤防から国道153号線との間に鍛冶ヶ島とよばれる島があった。鍛冶職人が多く住んでいたが、享保十一年(1726)の大洪水で高一四四二石の田と十四戸の家全部が流出し、住人は表木村(現伊那市西春近)へ移住した。鍛冶ヶ島新田家居迄のこらず流れつくし、立つ所もこれなき体、本村へ上り所どころの野つれ、または諏訪形原の街道筋へ小屋がけいたし、田地これ無き者ども少々の売り家等を致し一日を送り候仕合いに候て、本村ともの困窮。(殿島の大西家文書)」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川の災害伝説」pp.9-10.		



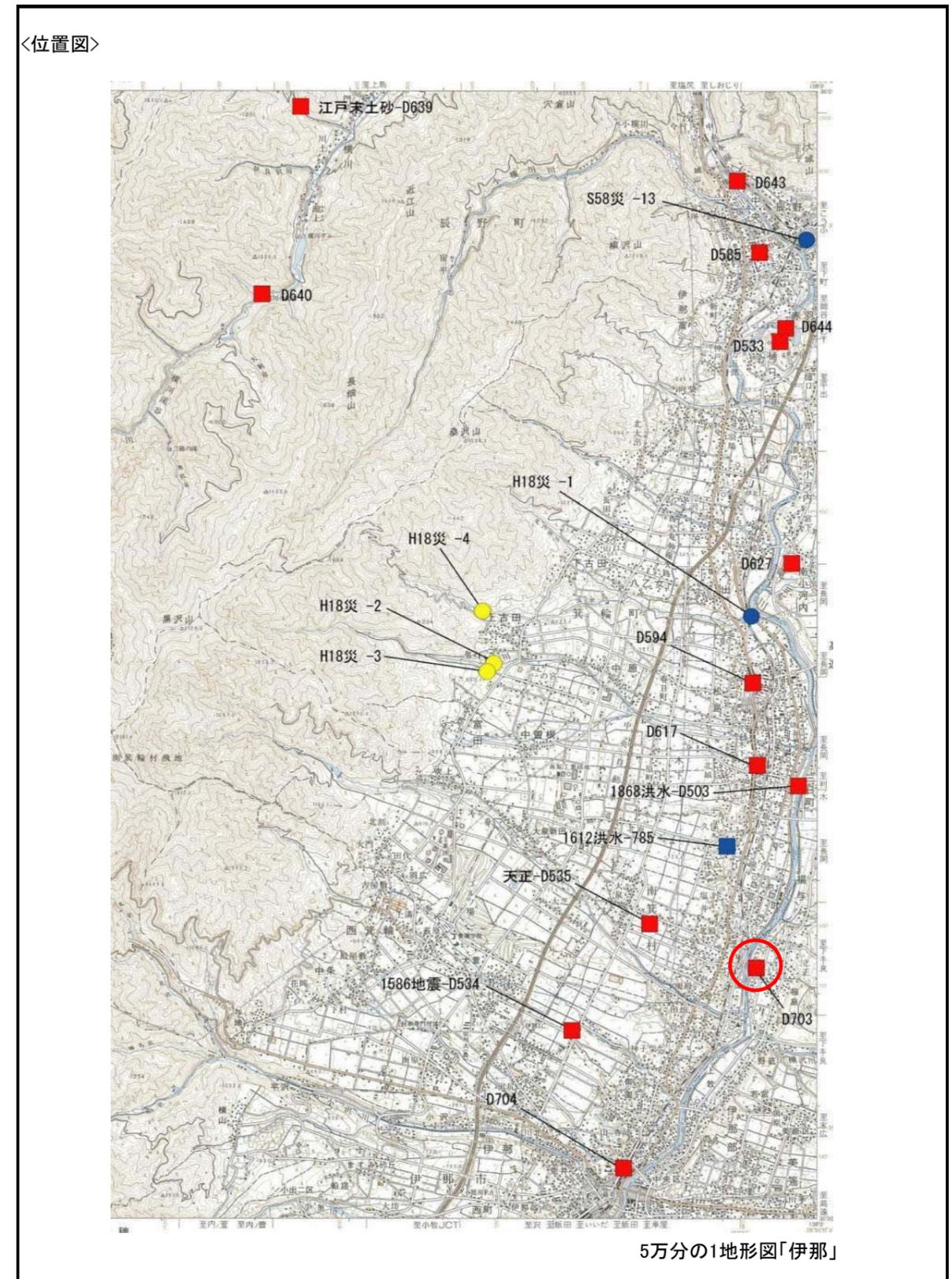
伝承名	天龍川改修記念碑	1/5万図幅名	赤穂
市町村・大字名	伊那市東春近田原	地点番号	D708
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○天龍川改修記念碑 「昭和22年6月天龍川が直轄編入され、最初に着手されたところに建てられた記念碑である。」	
	伝承の内容	—	
伝承媒体	写真・映像	○天龍川改修記念碑(天龍川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.614)	
	石碑・記念碑	○築堤記念碑 187K	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天龍川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.614		



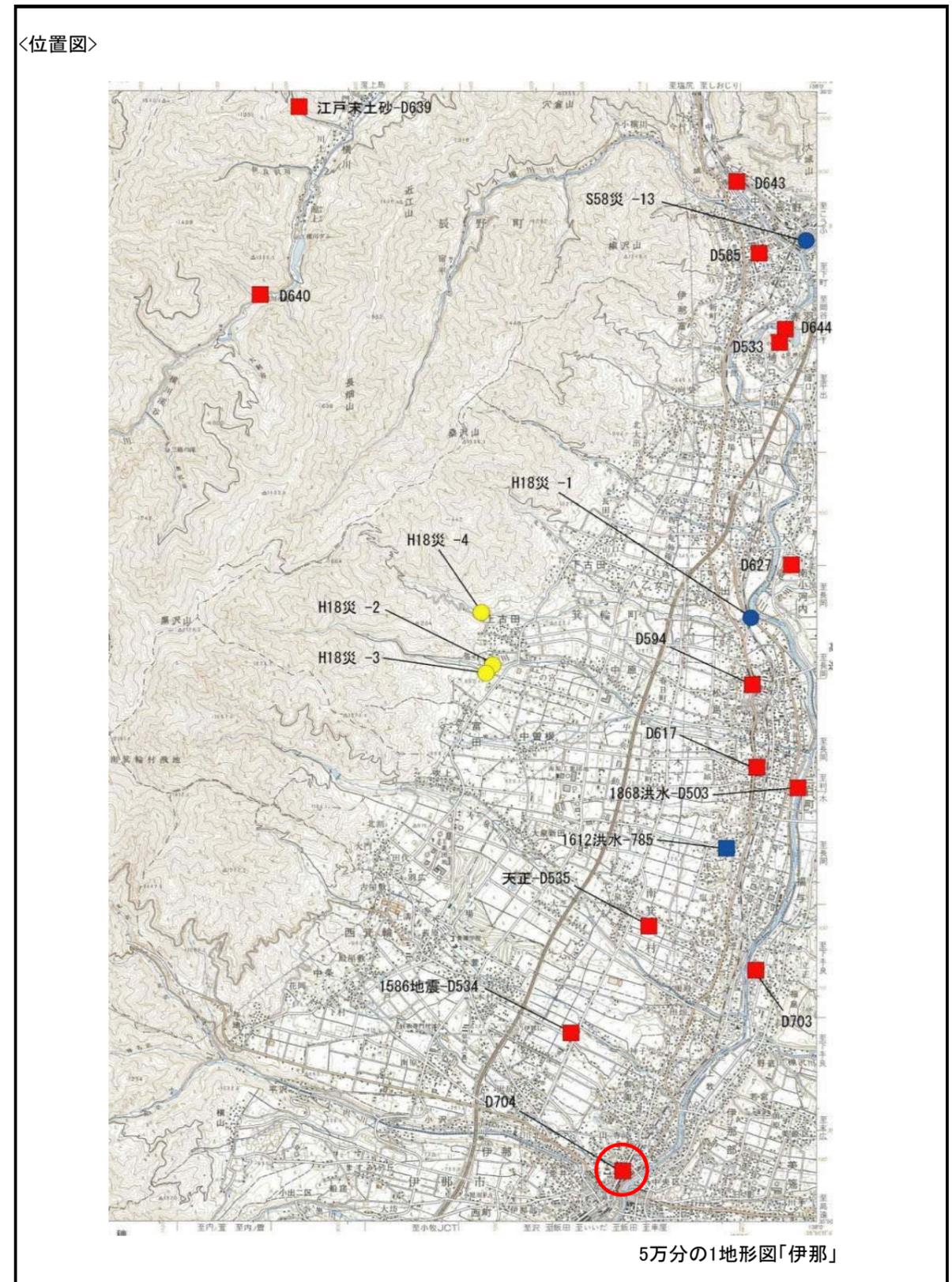
伝承名	修堤碑	1/5万図幅名	赤穂
市町村・大字名	伊那市西春近表木	地点番号	D709
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○修堤碑	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	○修堤碑(天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.614)	
	石碑・記念碑	○築堤記念碑 186K	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.614		



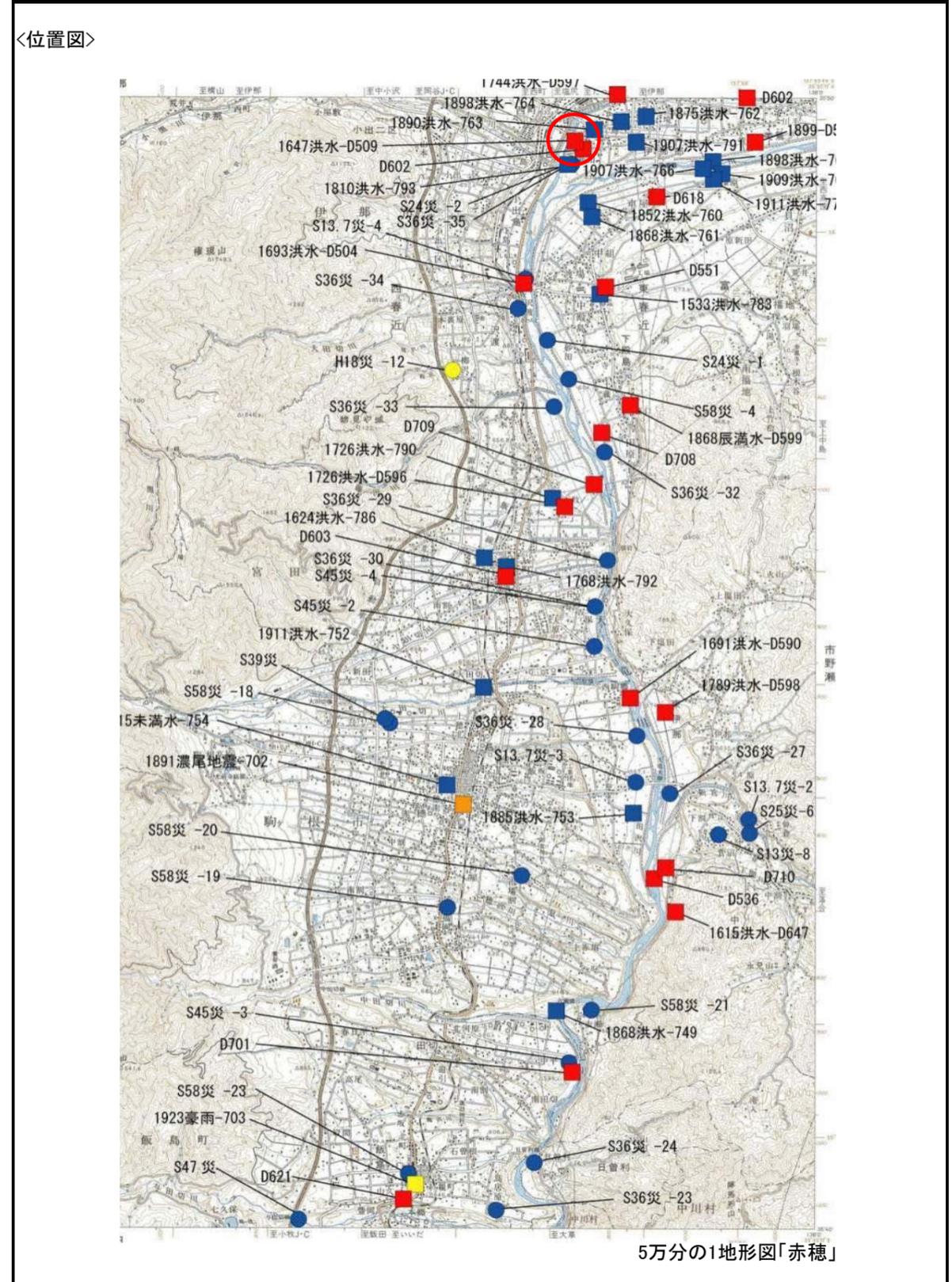
伝承名	福島九頭竜碑	1/5万図幅名	伊那
市町村・大字名	伊那市福島	地点番号	D703
発祥年代	安政二年	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○福島九頭竜碑 「堤防裏面に設置されている九頭龍神。」	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	○福島九頭竜碑(天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.612)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	○九頭竜碑 198.4K+100	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.612		



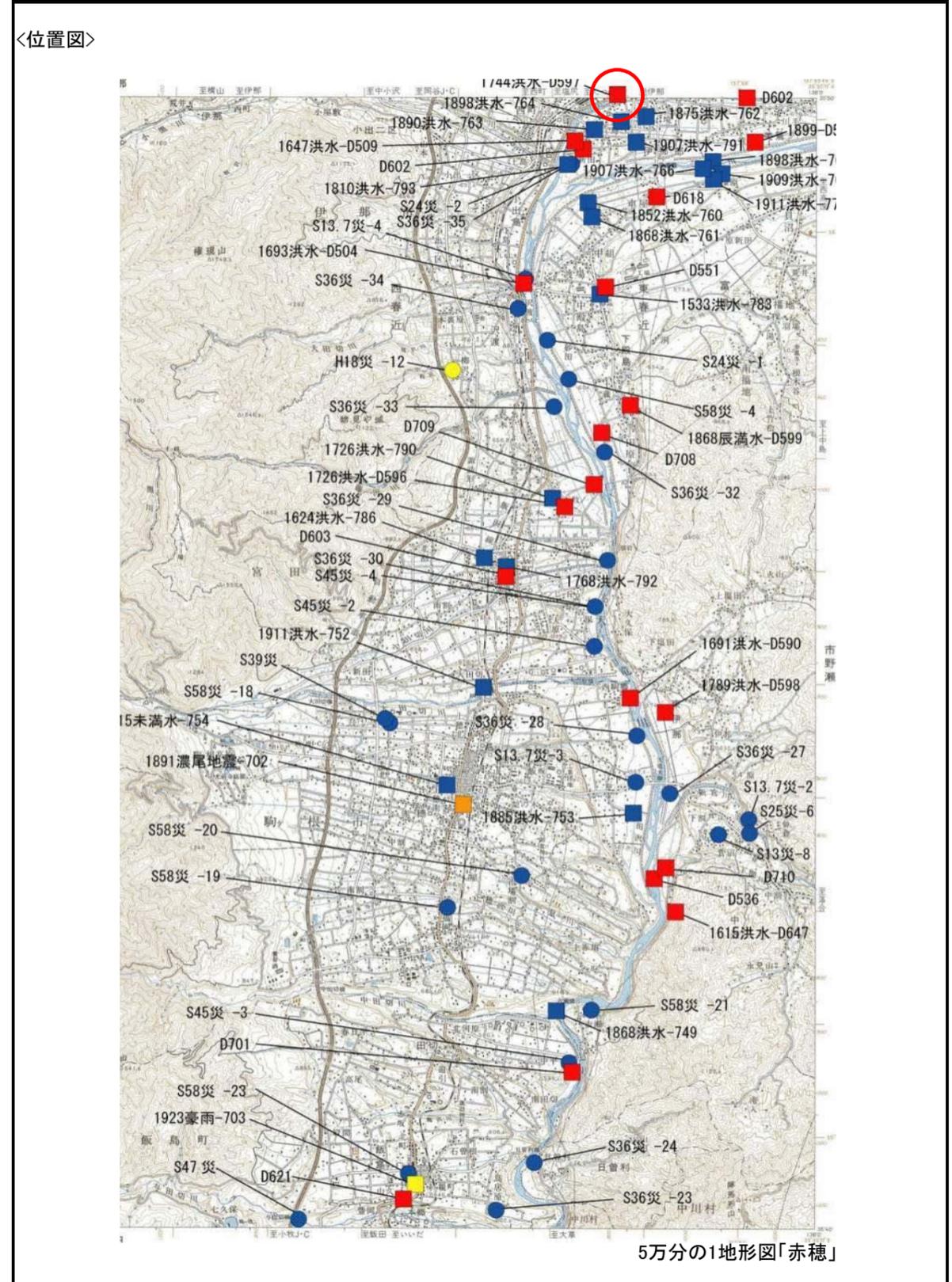
伝承名	伊那天財天宮	1/5万図幅名	伊那
市町村・大字名	伊那市(船着場)	地点番号	D704
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○伊那天財天宮 「天竜川の船の交通の盛んなりし頃の船着場、川の流れの平穏と舟交通の安全を祈願して祀られたものか。」	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	○伊那天財天宮(天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.612)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	○弁天・弁財天	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.612		



伝承名	般若島	1/5万図幅名	赤穂
市町村・大字名	伊那市伊那部下新田	地点番号	1647洪水-D509
発祥年代	1647年6月～7月(正保四年五月)	関連する災害名称	洪水
キーワード	○地名に託された災害 ○ご加護のあった災害		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○般若島 「寛永元年(1624)に大峯山行者の慶芳院不源という者が、この地に堂宇を構えた。正保四年(1647)五月の洪水のおり堂宇が流されそうになった時、般若經をとびとびに読んで流失を免れたという。ここから般若島と名づけられた。」	
	伝承内容		
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○般若島(下新田の南方、三峰川の下流で石のごつごつした河原。)	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「上伊那文化大辞典」pp.636-637. 「天竜川の災害伝説」pp.6.		



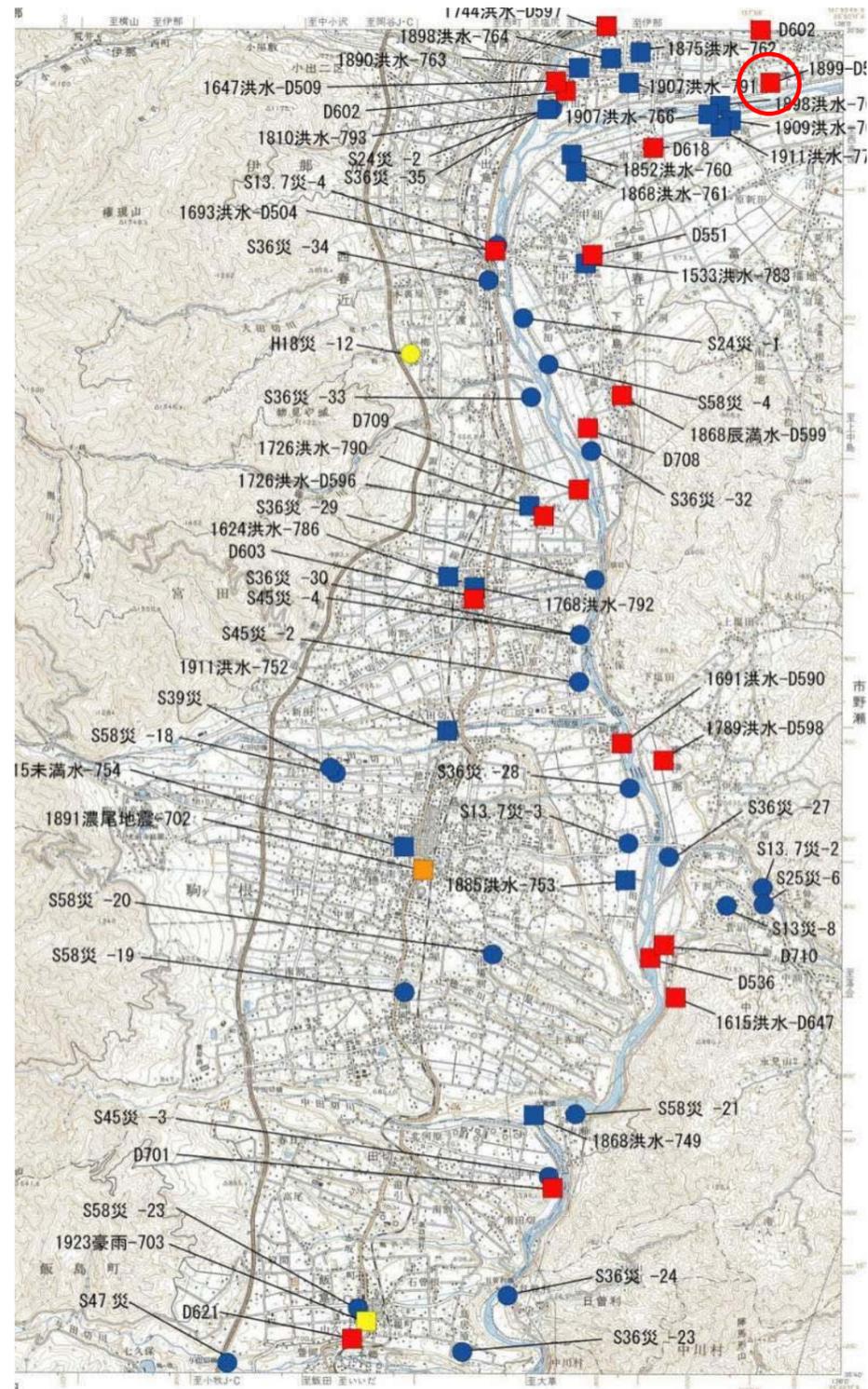
伝承名	境界紛争と見通し桜	1/5万図幅名	赤穂
市町村・大字名	伊那市伊那部狐島	地点番号	1744洪水-D597
発祥年代	1744年(延享元年)	関連する災害名称	洪水
キーワード	災害がもたらした紛争		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○境界紛争と見通し桜 「天竜川と三峰川の合流する付近一帯は、洪水の度に川筋を変え、川筋を挟んだ地区の境界紛争が絶えなかった。江戸時代の270年間で90回も洪水や満水を引き起こし、狐島村と対岸の荒井村・西町村では、延享元年(1744)の出水時に決めた約定書と絵図面がある。その絵図面には、境界を復元するための八箇所の測量基準の一つに“長右衛門社木桜”が記録されており、現存する唯一の基点となっている。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	○見通し桜 (http://www.geocities.jp/viewpoint2006/viewpoints/ina041.html より)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川の災害伝説」pp.10.		



伝承名	青島堤防(他3編)	1/5万図幅名	赤穂
市町村・大字名	伊那市美篁(青島)	地点番号	1899-D518
発祥年代	1899年～(明治32年～)	関連する災害名称	—
キーワード	○災害に挑む人々の姿 ○水防技術の継承		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○青島堤防 「天明年間(1781～1788)に藩によって築かれた御見通し川除が青島耕地を守っていたが、明治元年(1868)、明治15年(1882)、明治18年(1885)の大洪水により、青島耕地地区は大打撃を受けたため、関係地元民が集まり築堤計画や施工計画を立案した。さらにその費用も調達して県より許可を受け、地元の責任により施工する方法をとった。橋爪定太郎を中心とし、明治32年(1899)に堤防が完成した。」 「大正12年(1923)、橋爪与四郎、北原繁雄両氏が率先し、青島堤防保存会を結成し保存に努めた。美篁村でも昭和26年(1951)に美篁村堤防保存会を組織し、水防資材保存庫を整備したり、常時堤防を見回り危険箇所の改善に努めた。」	
	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○北原式伸縮式鉄線じゃかごの発明 「美篁の中の原の用水路を私財をなげうって完成させた北原平八郎の孫である北原繁雄氏が、三峰川の洪水復旧作業の仕事の中で、伸縮式鉄線じゃかごを発明した。」	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○青島堤防 ○三峰川の霞堤	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	○「第7回三峰川フォーラム配布資料」		

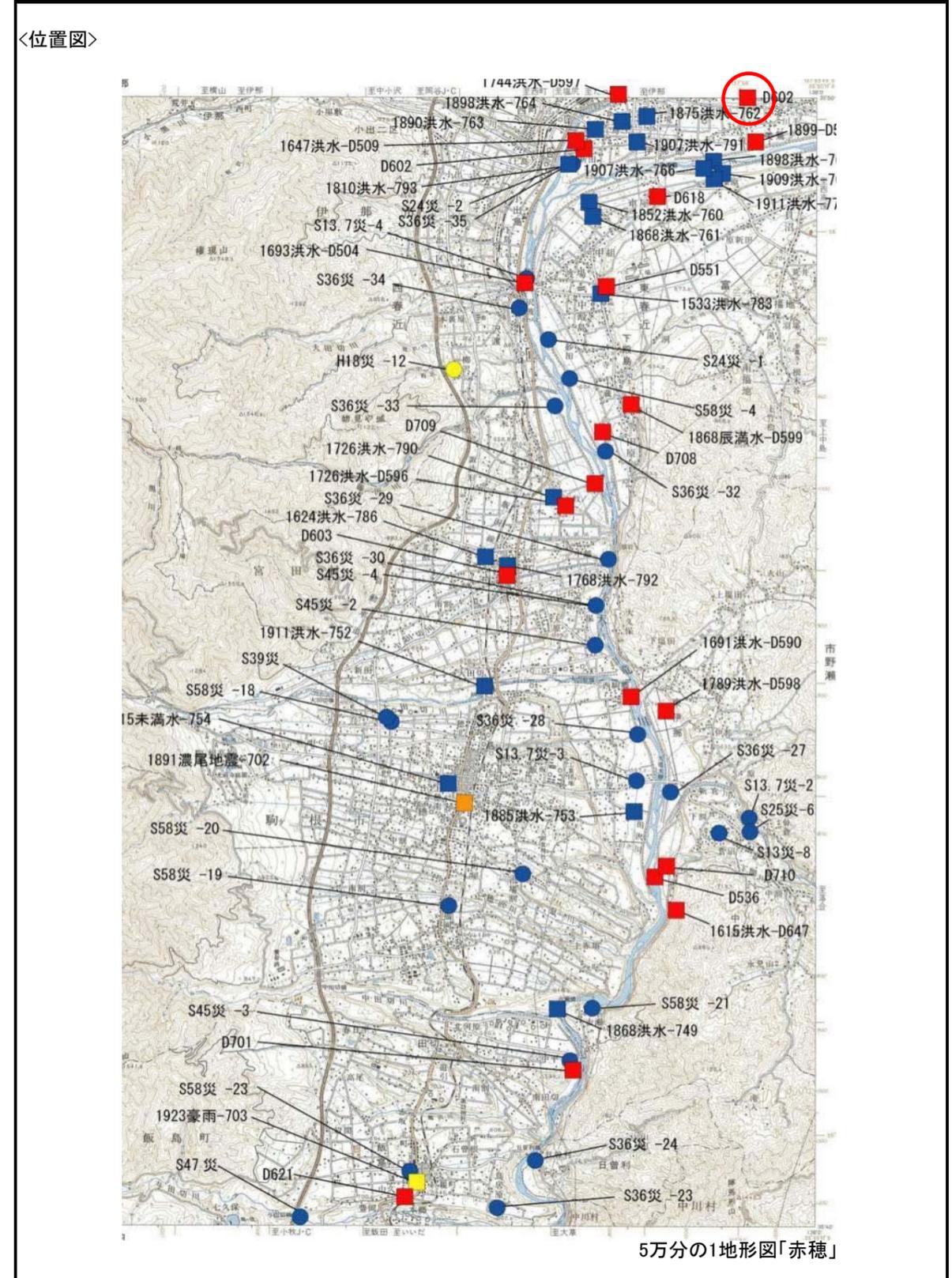
伝承名	青島堤防(他3編)	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	伊那市美篁(青島)	地点番号	1899-D518
発祥年代	1899年～(明治32年～)	関連する災害名称	—
キーワード	○災害に挑む人々の姿 ○水防技術の継承		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○青島住民の水防技術の継承 「36災害の時、聖牛(うし)入れに関して、青島住民が自衛隊を指導した。」	
	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○耕土の深さ 「川向こうの畑作地の河南村から来たお嫁さんがおじいさんと田の草を取って、お茶の用意に田んぼから畦にあがったところ、足の泥を落としてから上がるよう注意された。それほど耕土が浅く、土が貴重であった。」 「耕土が極めて浅いため、トラクターの爪が三年で磨耗した。」 「堤防の切れ目(霞堤)から大水の時は水がゆっくりと逆流してくる。そのとき土が堆積して耕土が深くなった。」	
伝承媒体	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	

<位置図>

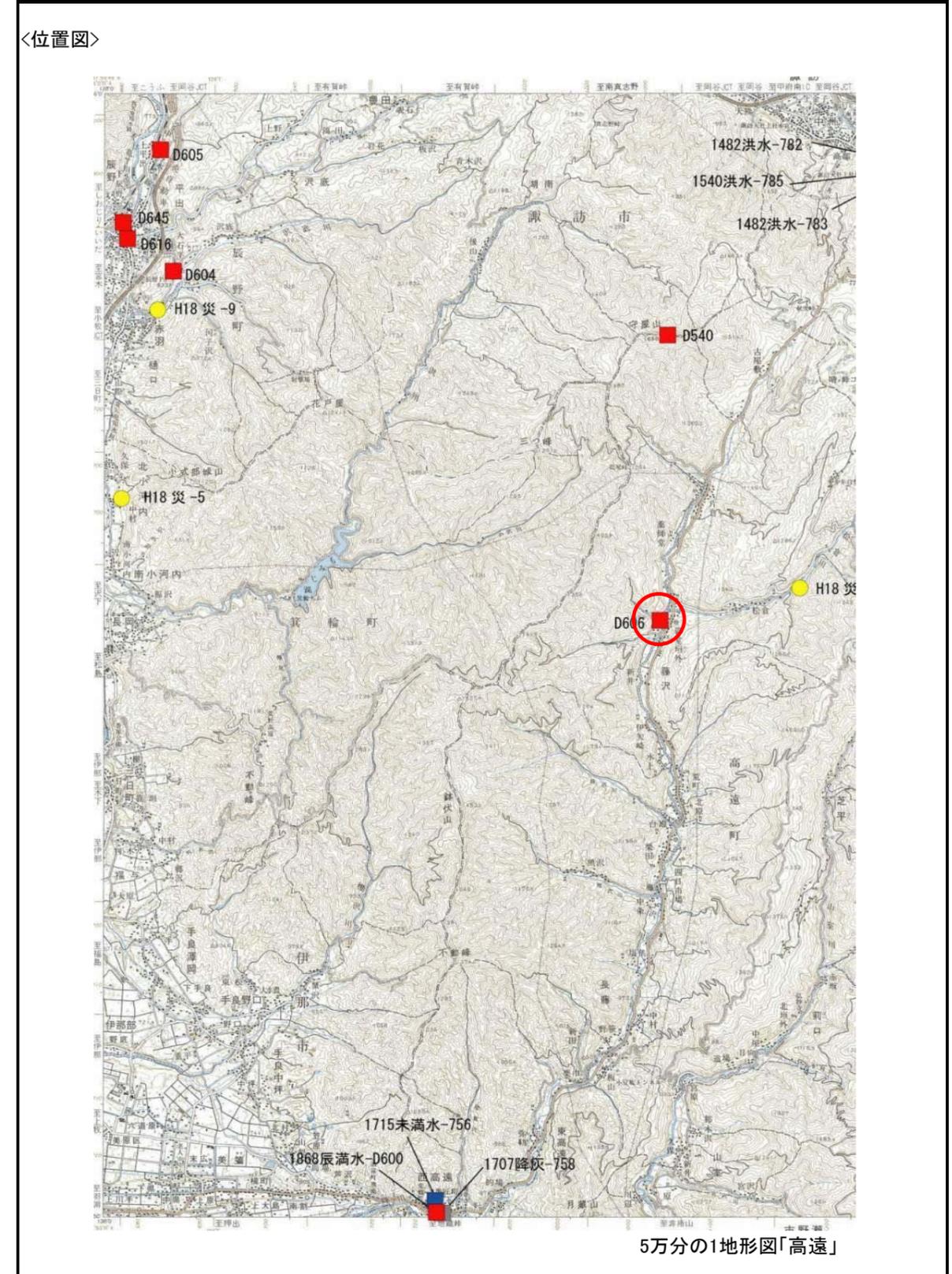


5万分の1地形図「赤穂」

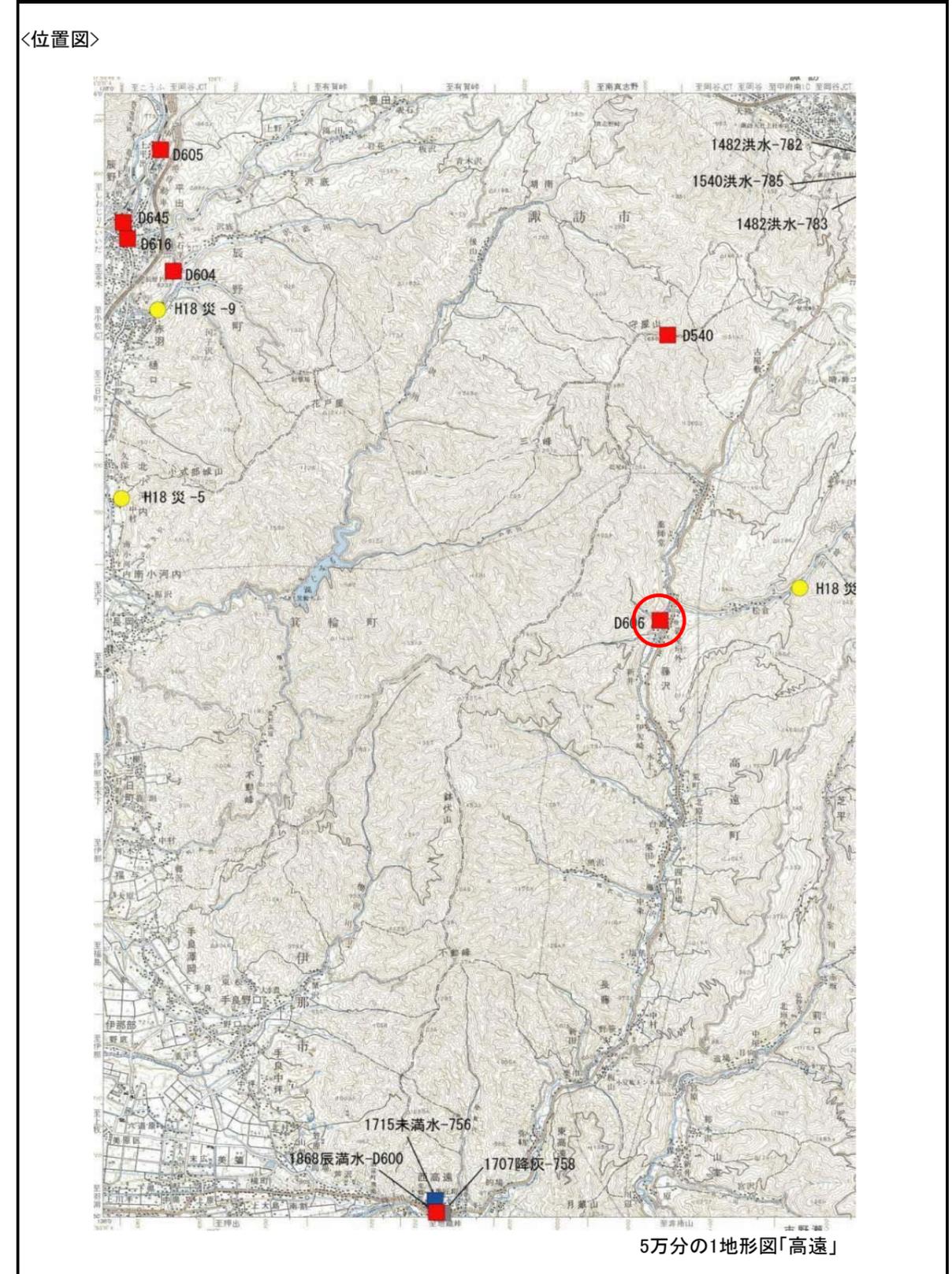
伝承名	草餅地蔵	1/5万図幅名	赤穂
市町村・大字名	伊那市	地点番号	D602
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○災害がもたらした地物		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○草餅地蔵 「伊那市にいつの頃からか三峰川の大満水の時、奥の方の村から石地蔵が流れてきた。水がひけてから村人が見つけ、この地に祀ったという。願い事が叶うと年の数だけ団子をあげる。四月二十四日の縁日では、村の人たちは草餅をあげる。」	
	伝承内容	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	○草餅地蔵	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川の災害伝説」pp.13-14.		



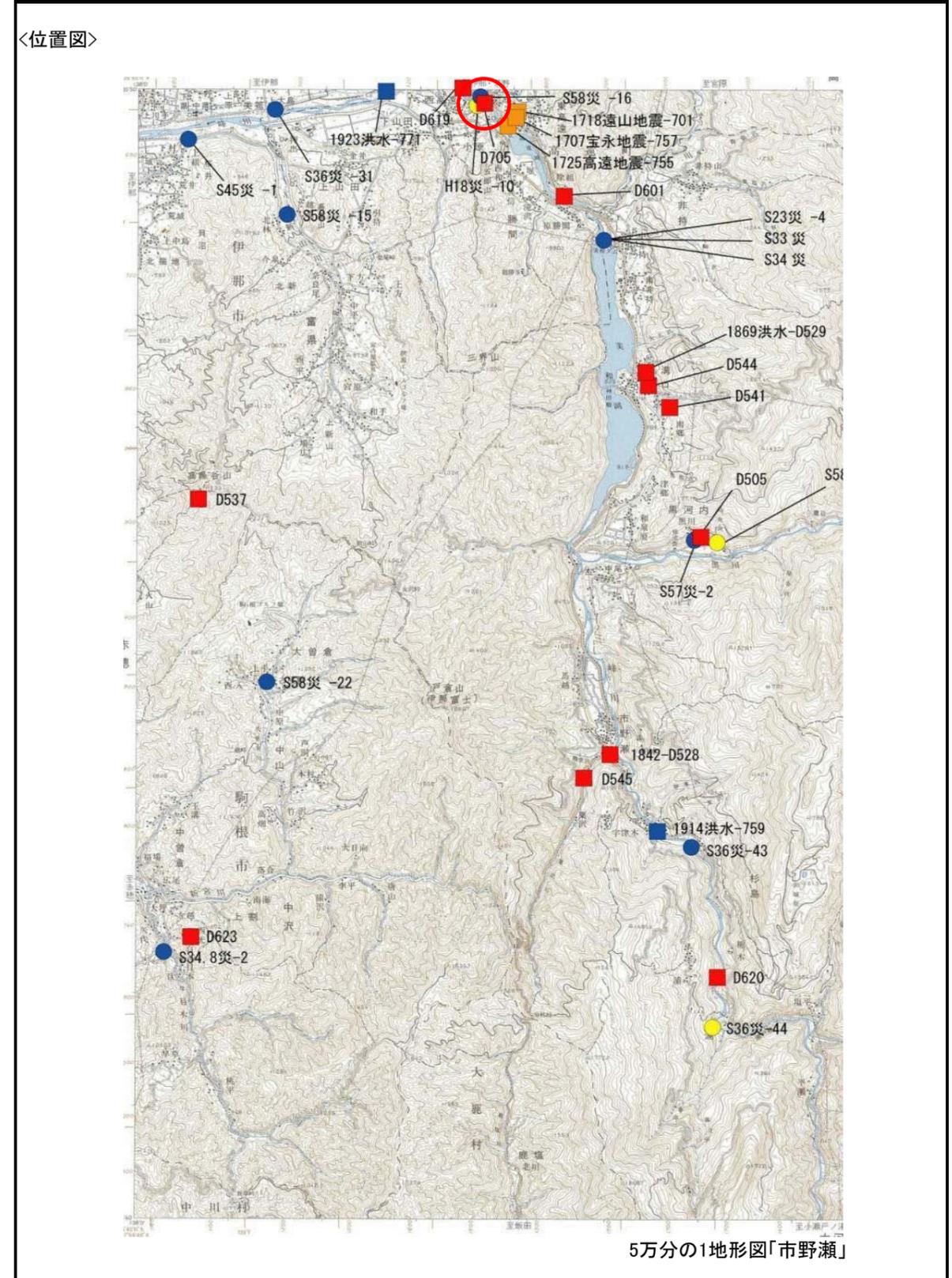
伝承名	おや子石(他1編)		1/5万図幅名	高遠
市町村・大字名	伊那市高遠町藤澤(御堂垣外)		地点番号	D606
発祥年代	—		関連する災害名称	—
キーワード	○災害によってもたらされた地物 ○地物に託された災害伝承			
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂)		
	伝承の詳細	○おや子石 「ずうっとむかしのこと、大地震で地山が崩れて土砂がどどと押し出した。地山に住んでいたおや子の山犬がおったまげて逃げ出した。御堂垣外まで来た時、父犬は藤澤の蛇抜けに押し流されて石になった。母犬と子犬は中条まで来てぴったりと座り込んだまま二つの石になったという。それらの石は今はない。」		
	伝承内容	民話・伝説・昔話		
	伝承の詳細	○犬石 「昔、地山が押し出したとき、大石・犬石・小犬石の三個の犬石が鳴いて逃げた。大石(親石)は強いので地山のすぐ下に止まり、女親石は500メートルほど離れたところに止まり、子供石は8キロメートル離れた長藤村の中条という所に止まったという。」		
伝承媒体	写真・映像	—		
	石碑・記念碑	—		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	—		
	土木遺構等	○おや子石 ○犬石		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
	祭り	—		
	儀式	—		
慣習・風習	—			
参考文献	「天竜川の災害伝説」pp.18-19.			



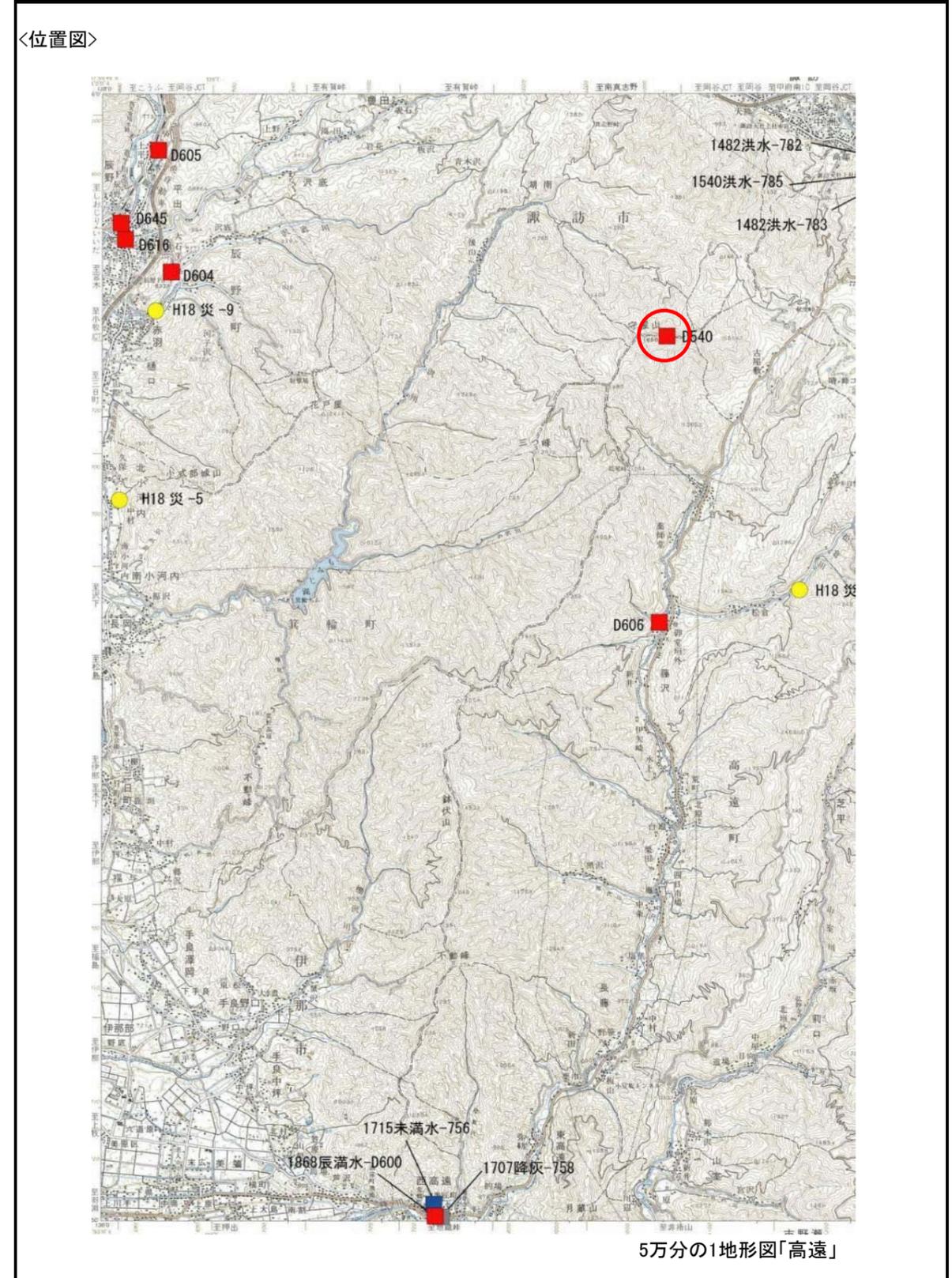
伝承名	伊那市高遠町藤澤(御堂垣外)に伝わる歌	1/5万図幅名	高遠
市町村・大字名	伊那市高遠町藤澤(御堂垣外)	地点番号	D606
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○歌に託された災害伝承		
教訓・伝承事例	伝承内容	文芸・民謡・詩	
	伝承の詳細	○「地山おしだす 犬石ほえる。ないてにげるは、子つれ石。」	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川の災害伝説」pp.18-19.		



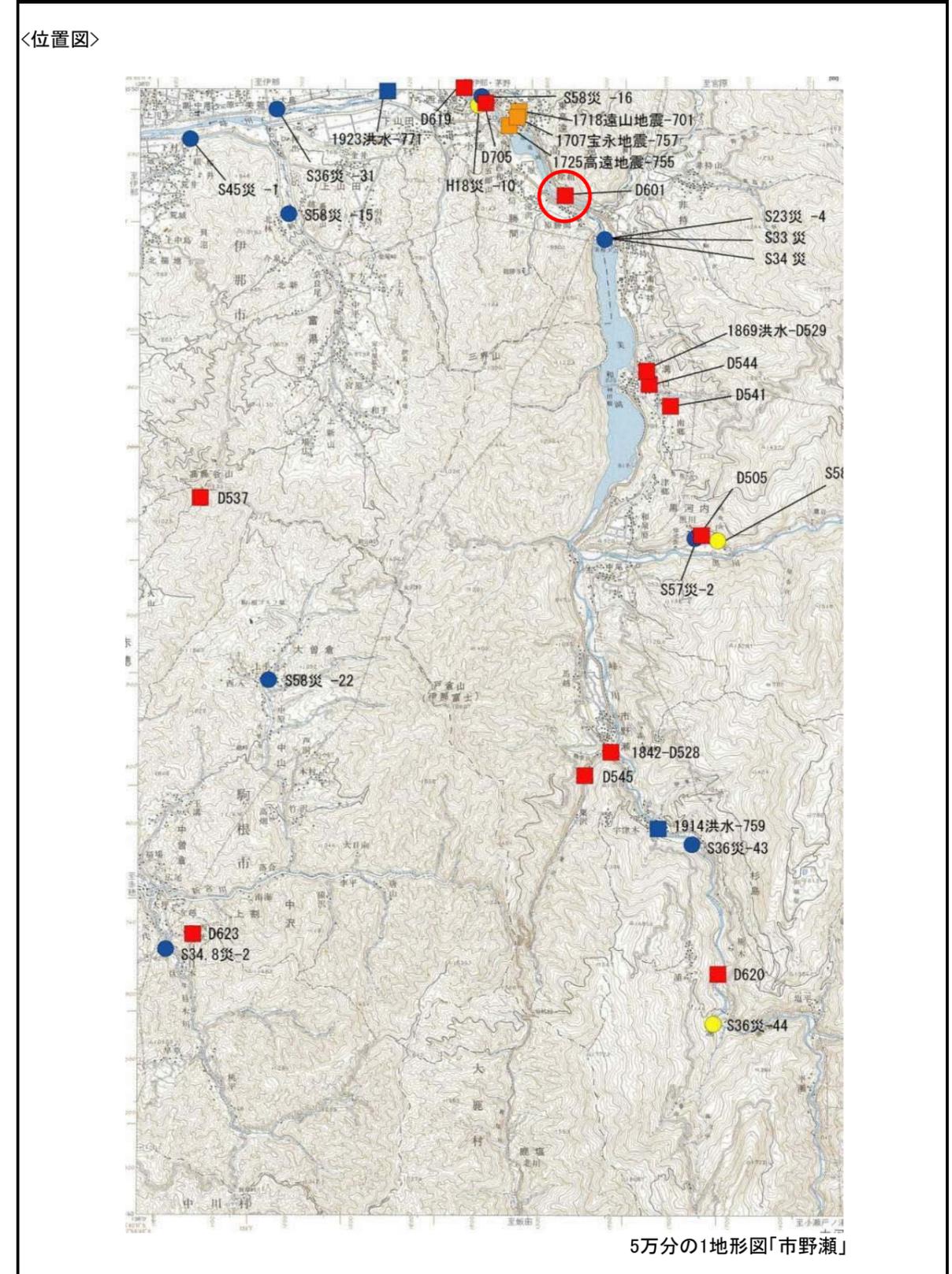
伝承名	高遠弁財天	1/5万図幅名	市野瀬
市町村・大字名	伊那市高遠	地点番号	D705
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○高遠弁財天 「河中の天然石の上に祀られている弁天様。過去の幾多の洪水にも流されたことがないという。岩は自然の量水漂の役目もしてきた。」	
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	○高遠弁財天(天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.612)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	○弁天・弁財天	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.612		



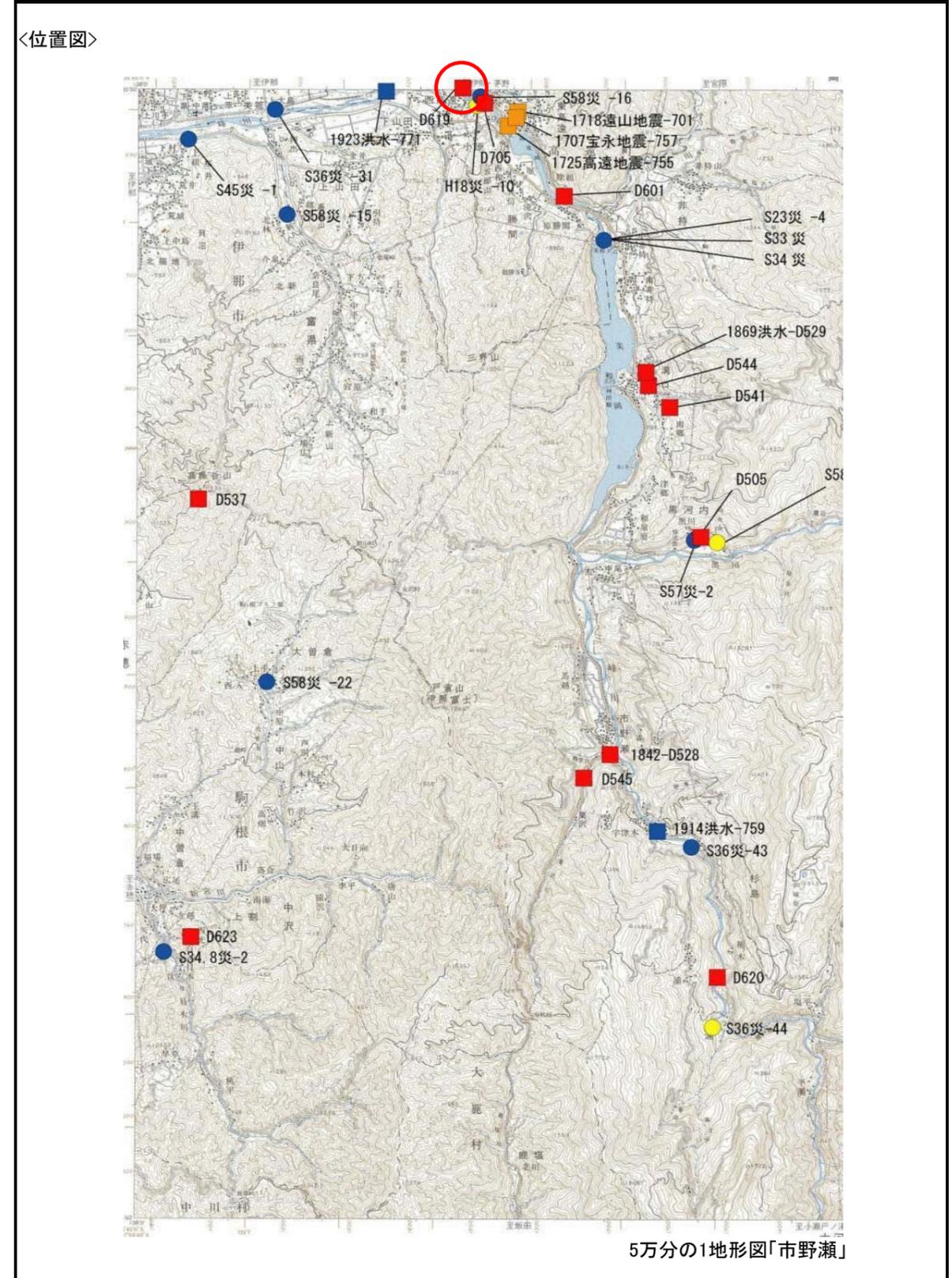
伝承名	守屋山(モリヤマサマ)	1/5万図幅名	高遠
市町村・大字名	伊那市高遠町藤澤片倉	地点番号	D540
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○モリヤマサマ信仰		
教訓・伝承事例	伝承内容	信仰	
	伝承の詳細	○守屋山(モリヤマサマ) 「伊那と諏訪の境にそびえる守屋山には、守屋大神の石の祠が祀られている。山中で乱暴すれば山が荒れるといわれ、守屋山の頭に雲のある時は必ず麓の村々に雨が降るといわれている。」	
	伝承内容		
伝承媒体	伝承の詳細		
	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	○守屋大神の石の祠	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
儀式	—		
慣習・風習	—		
参考文献	「上伊那文化大辞典」pp.642.		



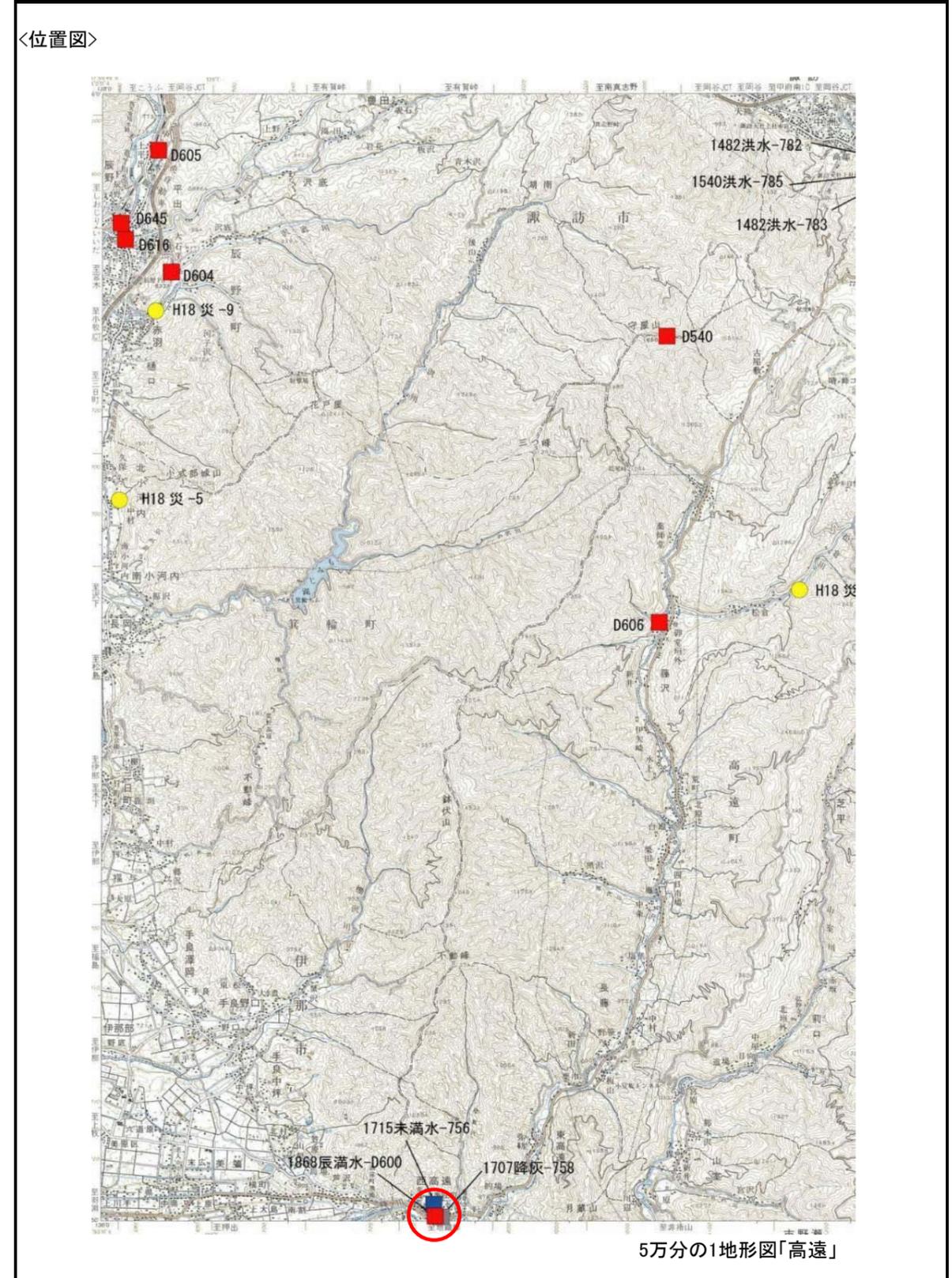
伝承名	守屋貞治の大聖不動明王	1/5万図幅名	市野瀬
市町村・大字名	伊那市高遠町勝間	地点番号	D601
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○水難除けの石仏		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○守屋貞治の大聖不動明王 「高遠を流れる三峰川は、たびたび洪水をおこした。その氾濫を鎮めるために、水切り不動として造立したのか、高遠町勝間の常盤橋西袂に全長1.5mの大聖不動明王がある。作者は高遠石工の守屋貞治で、最高傑作の一つといわれている。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	○大聖不動明王 (http://www1.kcn.ne.jp/~yosikatu/sadaji.htm より)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	○大聖不動明王	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	守屋貞治の石仏 (http://www1.kcn.ne.jp/~yosikatu/sadaji.htm)		



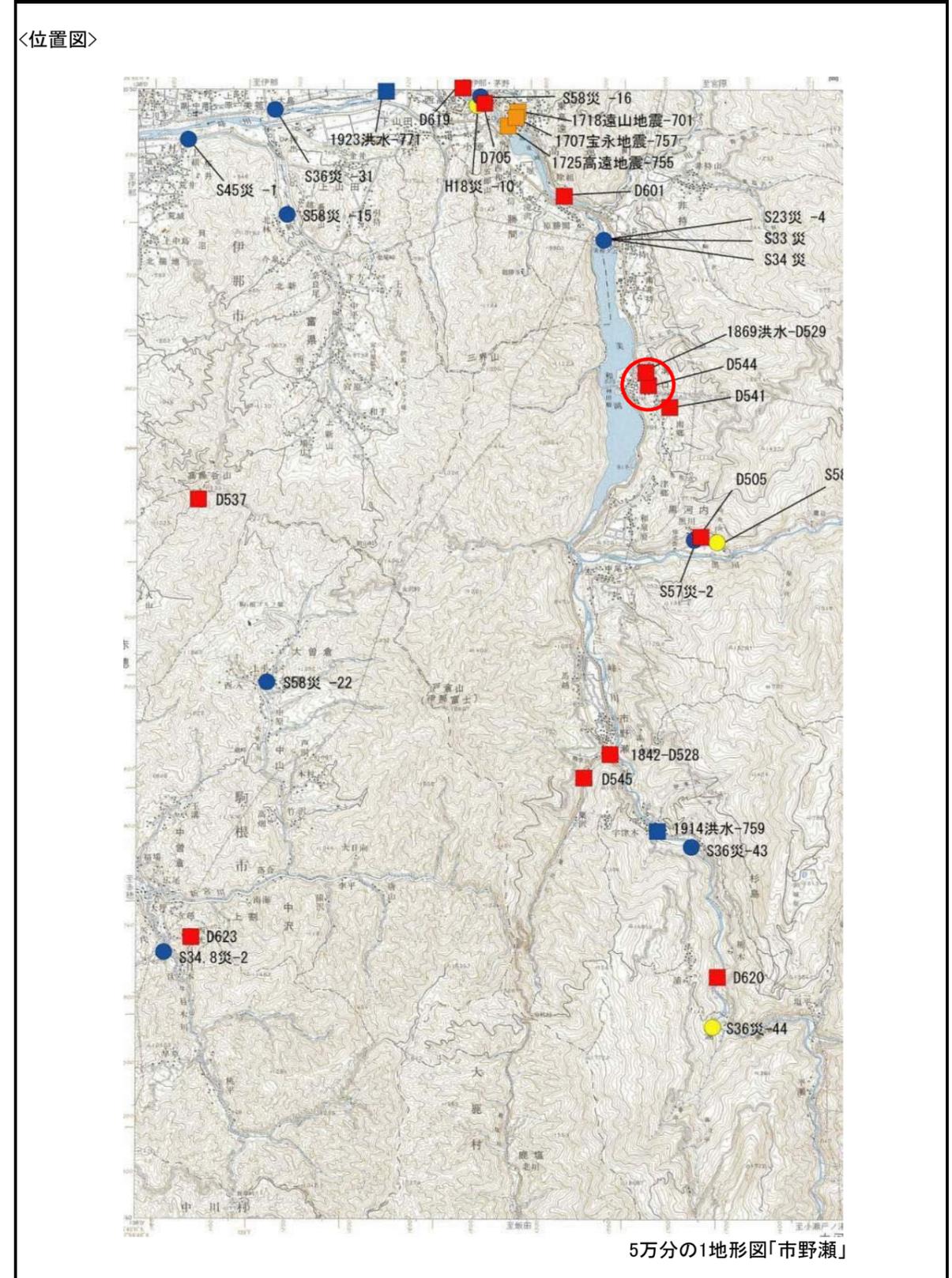
伝承名	米高岩	1/5万図幅名	市野瀬
市町村・大字名	伊那市高遠町西高遠多町(天女橋)	地点番号	D619
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○水位の変化による洪水予知		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○米高岩 「天女橋の下にある。三峰川の水がその岩に当たって流れる年は、お米の値段が高いという。」	
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○米高石	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「長野県上伊那郡誌第五巻民俗篇上」pp.1422,		



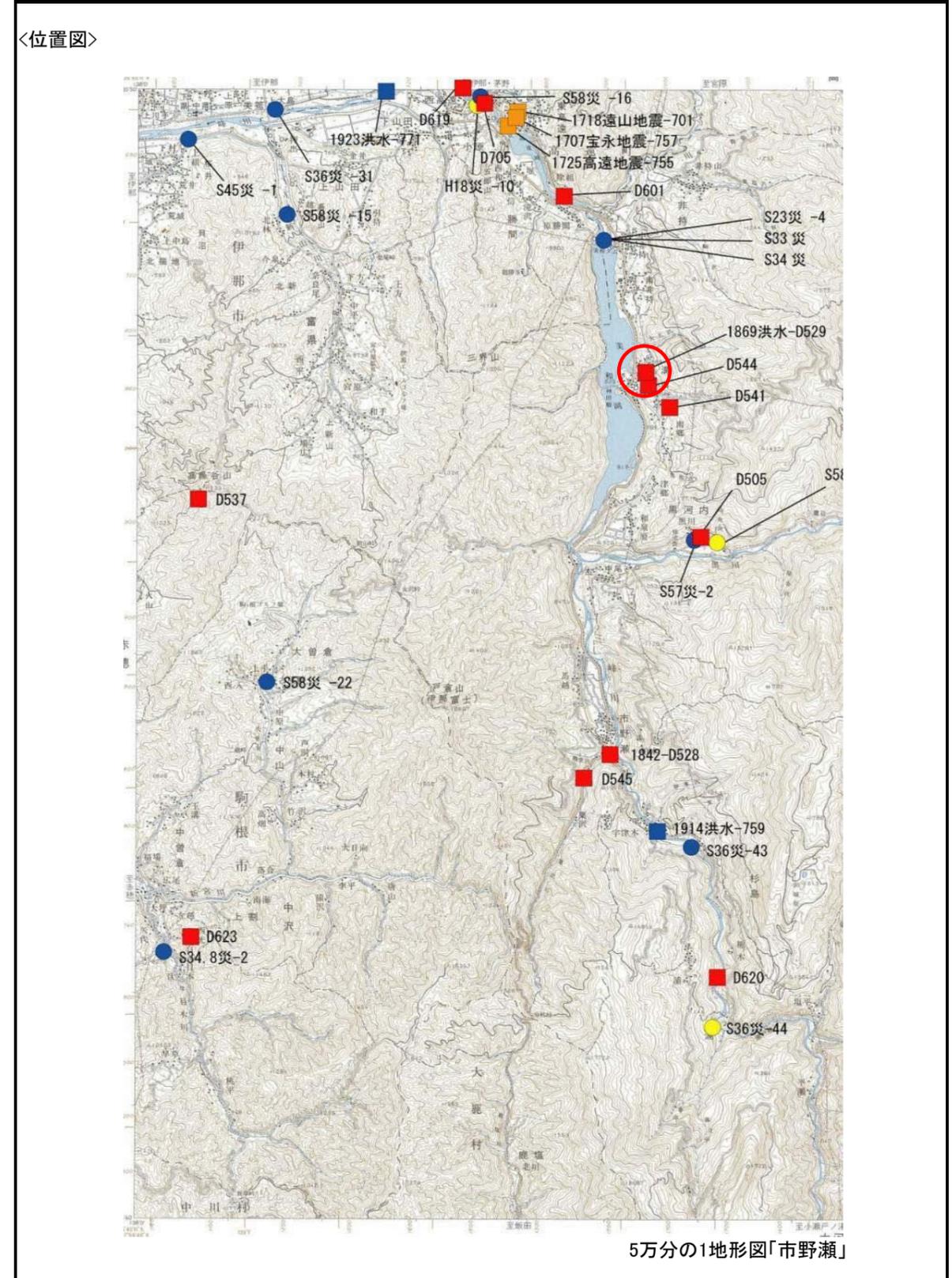
伝承名	西向庵の十一面観音	1/5万図幅名	高遠
市町村・大字名	伊那市高遠町	地点番号	1868辰満水-D600
発祥年代	1868年7月6日(慶応四年五月十七日)	関連する災害名称	辰満水
キーワード	○決死の覚悟で運び出した本尊と釣鐘		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○西向庵の十一面観音 「慶応四年五月十七日(辰満水)の時、西向庵のお堂が激流に吞まれる寸前、村人2、3人が身体の腰縄を大きな柏の木にしばりつけ決死の覚悟でぐらついている堂内に飛び込み、本尊の十一面観音と釣鐘を運びだした。」	
	伝承内容		
伝承媒体	伝承の詳細		
	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
儀式	—		
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川の災害伝説」pp.13.		



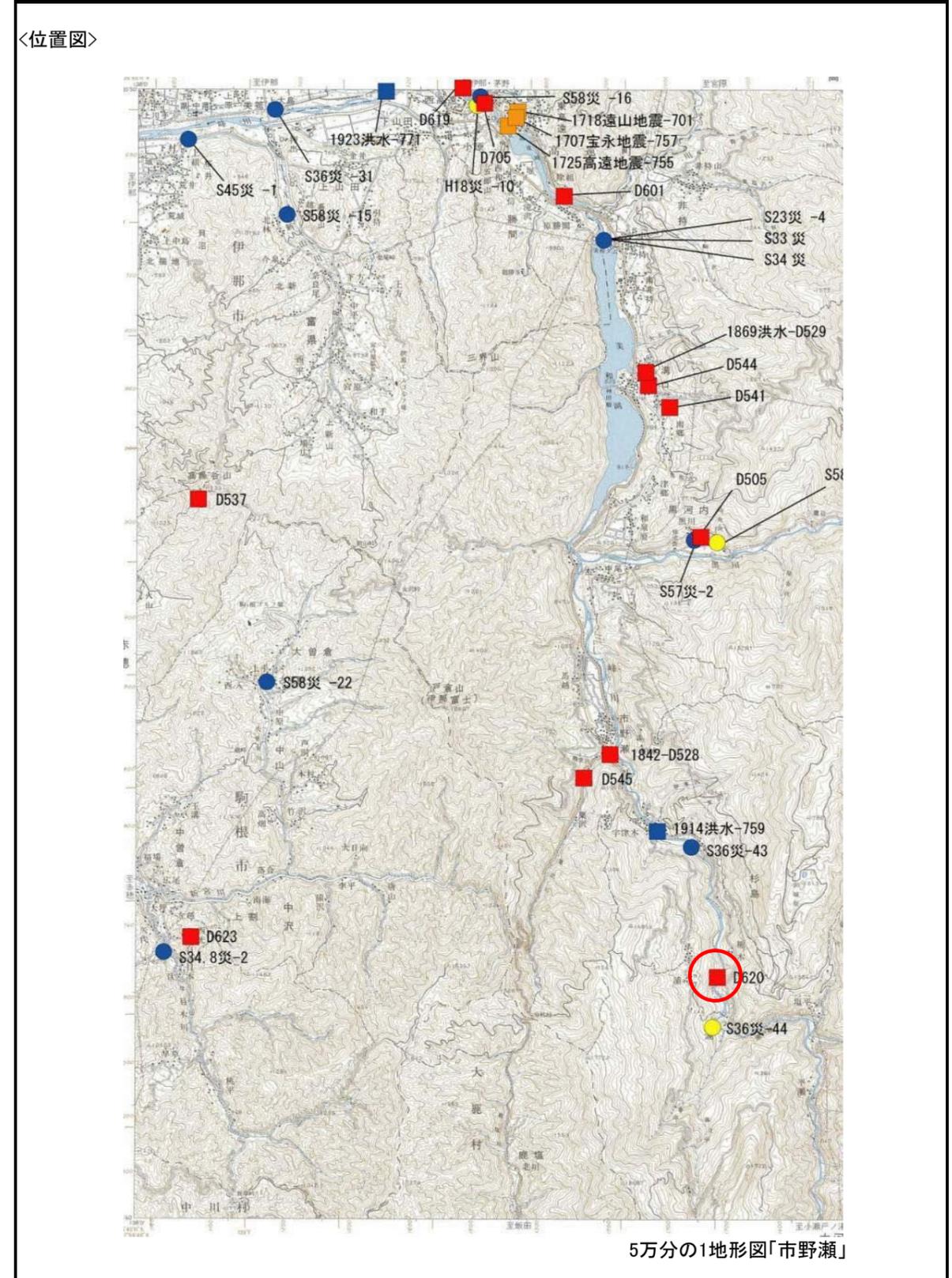
伝承名	長谷に伝わることわざ	1/5万図幅名	市野瀬
市町村・大字名	伊那市長谷	地点番号	D544
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	ことわざ	
	伝承の詳細	(長谷に伝わることわざ) ○夕方地震があると日中が長く ○蜂の巣が低い場所にある年は大風が吹く ○水こい鳥が鳴くと雨が降る ○西駒へ雲が出ると近いうちに雨 ○中尾四沢がなると雨が降る ○煙草の香りが良いときは雨が降る ○蟻が巣を持ち上げると雨が降る ○女沢雨はこわくない ○北の入りには霧が入ると雨 ○雨蛙がなくと雨が降る ○猫が耳を越して顔を洗うと雨 ○戸倉へ霧がかかれば雨 ○和泉原の平へ霧が降りると雨 ○釜無(釜無山)へ霧がはいると雨が降る ○大風の吹くとき、竿の先へ鎌をしばりつけて、屋根棟へ立てれば風除けとなる ○水柱、水内梁、雷の板、雨の垂木に霧の葺き草と唱える ○火の夢は水出、水の夢は火事がある	
	伝承内容	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	○長谷に伝わることわざ		
参考文献	「伊那谷 長谷村の民俗」pp.283-284.		



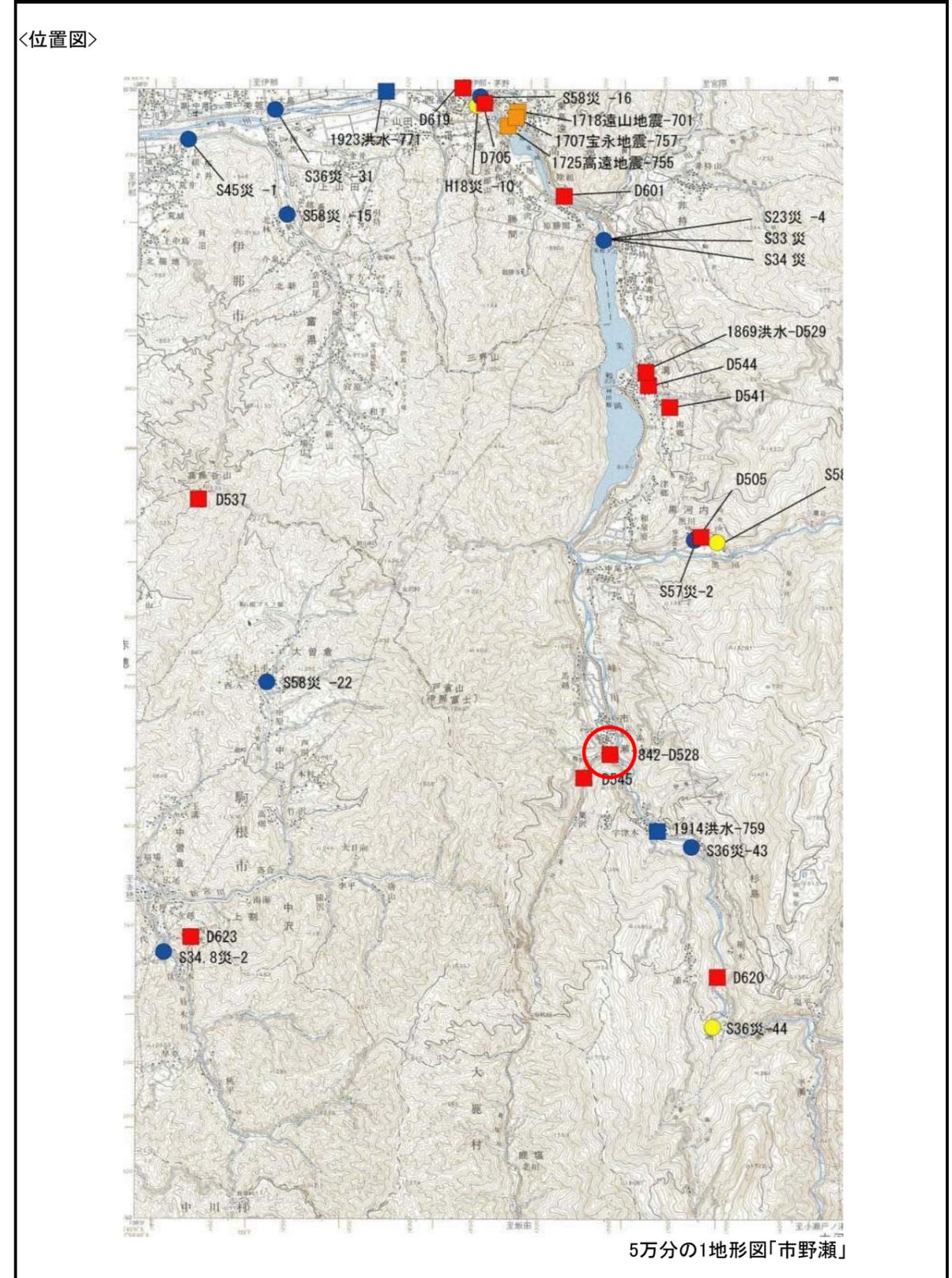
伝承名	入野谷騒動	1/5万図幅名	市野瀬
市町村・大字名	伊那市長谷	地点番号	1869洪水-D529
発祥年代	1870年1月2日(明治二年十二月一日)	関連する災害名称	辰満水
キーワード	○災害をもたらした紛争		
教訓・伝承事例	伝承内容	災害の事実・災害体験・得られた教訓	
	伝承の詳細	○入野谷騒動 「慶応二年(1866)から凶作が続き、明治元年(1868)の五月と八月におこった洪水(辰満水)により、天明・天保に次ぐ大凶作となった。また、明治新政により急激に経済の情勢が変動し、物価が高騰したため生活は困窮を極めた。木師郷の五カ村(市野瀬・中尾・浦・杉島・黒河内)においては、藩に対して用木の上納と年貢の上納をゆるめてほしいと嘆願したところ、聞き入れてもらえなかった。とうとう明治二年(1869)十二月一日の夜、不満が一度に爆発し一揆が勃発した。その結果、藩は入野谷全体に対して上納の延期を認め、騒動は三日の夕方治まった。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「信州伊那 入野谷の伝承」pp.193-195.		



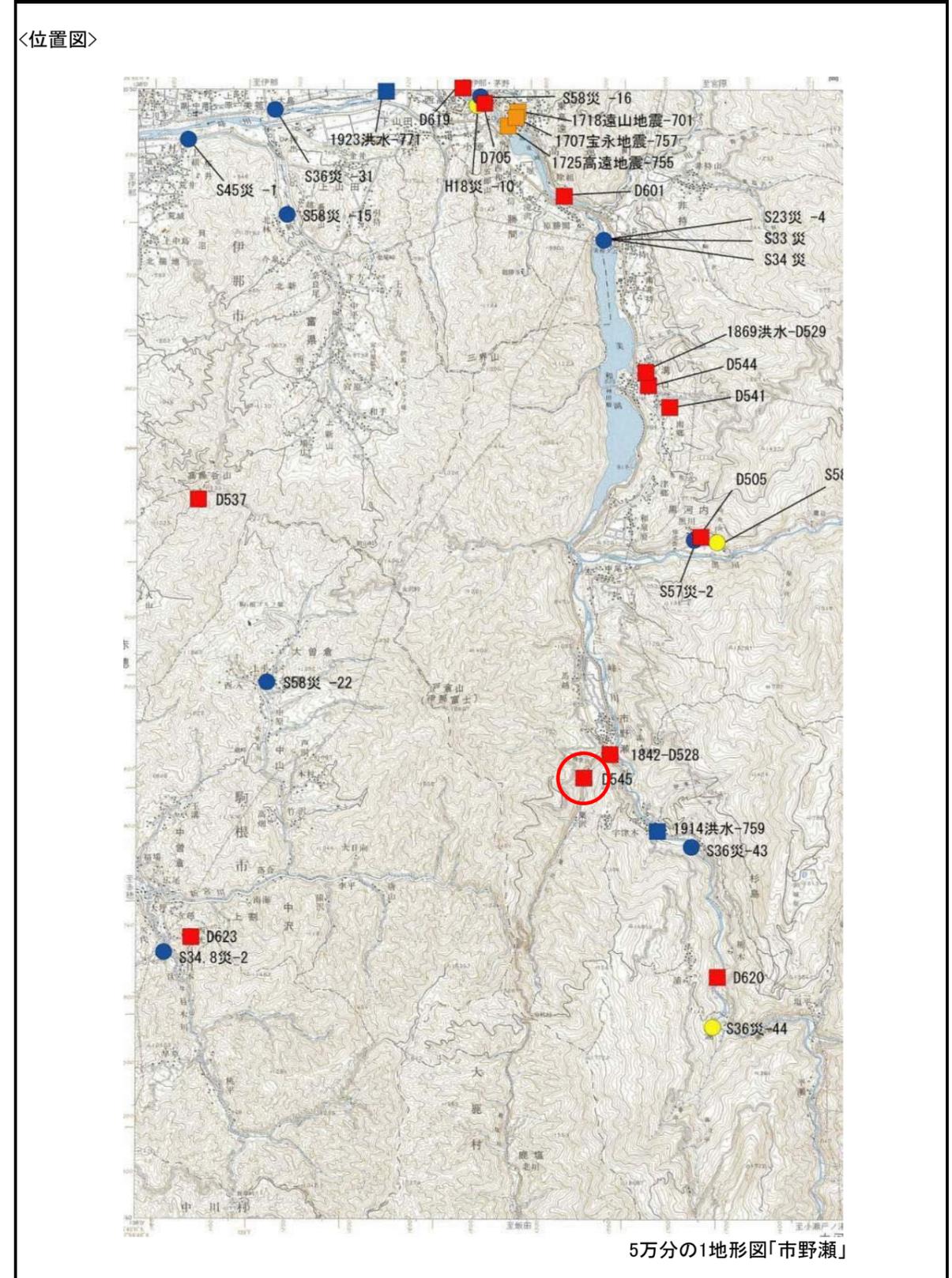
伝承名	風穴	1/5万図幅名	市野瀬
市町村・大字名	伊那市長谷市野瀬浦	地点番号	D620
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○風の神様		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○風穴 「浦村に風穴といひ伝ふる所あり。前浦奥浦の間山の尾先に松柏茂りたる森の内に、屈曲の岩重なりたる中に常に風を生ず。此岩を動かし或いは穴を見んとすれば、必ず大風吹きて荒れる。よって里民制して辺りへ寄ること禁ず。此岩の上に風穴大明神という祠あり。この穴の口へ鼻紙を置けば今も空へ吹き上がるぞ。(木の下蔭 巻之下)」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○風穴	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「長野県上伊那郡誌第五巻民俗篇上」pp.1423.		



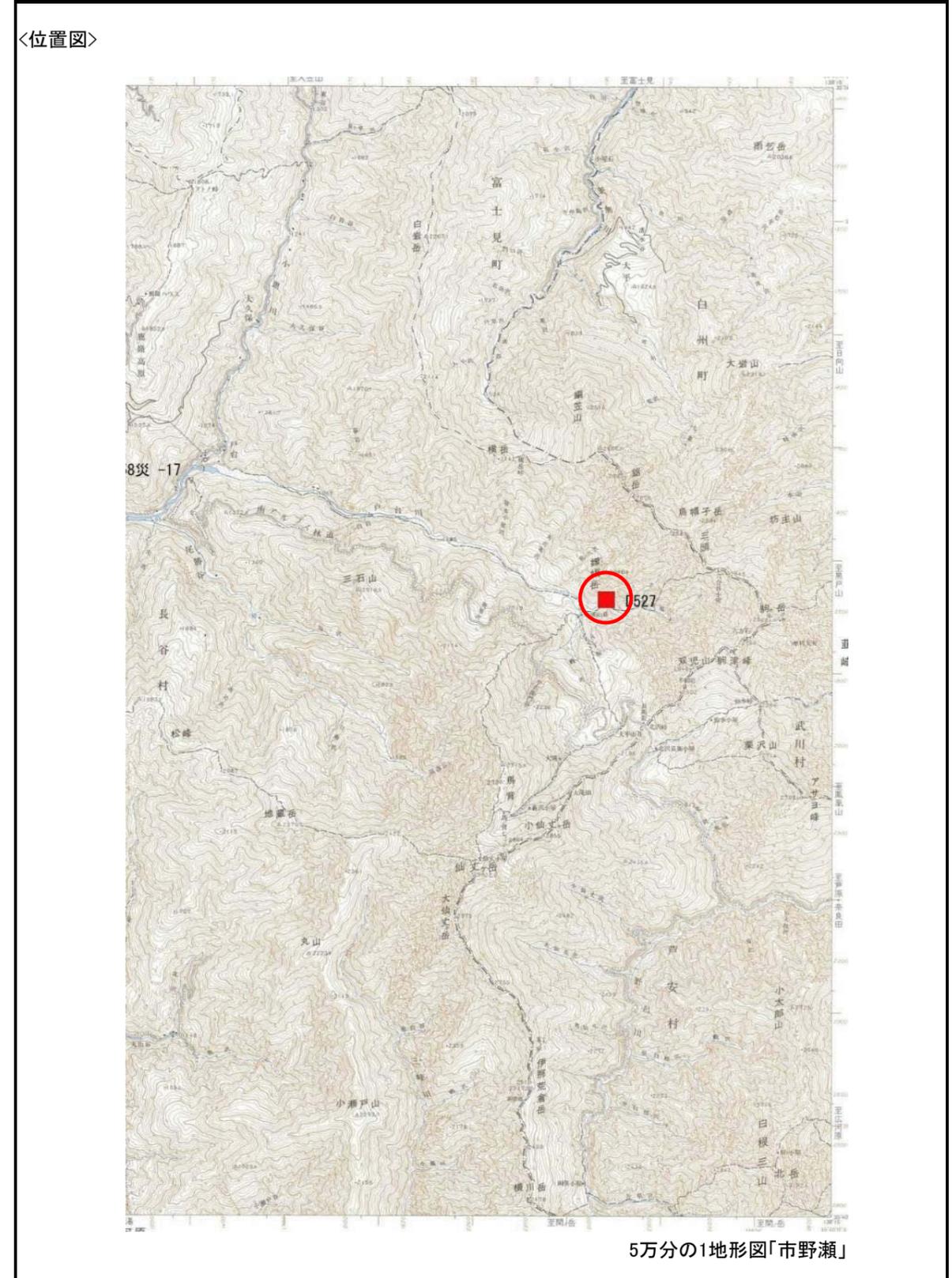
伝承名	栗沢川の河川工事	1/5万図幅名	市野瀬
市町村・大字名	伊那市長谷市野瀬	地点番号	1842-D528
発祥年代	1842年(天保十三年)	関連する災害名称	—
キーワード	○災害に挑む人々の姿		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○栗沢川の河川工事 「むかし栗沢川は市野瀬部落の中を流れていた。この川は洪水になるとしばしば氾濫し、部落は被害を蒙っていた。天保十三年(1842)に城山の南の尾根を掘りぬいて切り通しを造り、栗沢川は市野瀬瀧となって三峰川に流れ落ちるようになった。これにより、部落は災害から免れるようになり、田んぼの数も相当に増えたという。」	
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「信州伊那 入野谷の伝承」pp.183-184.		



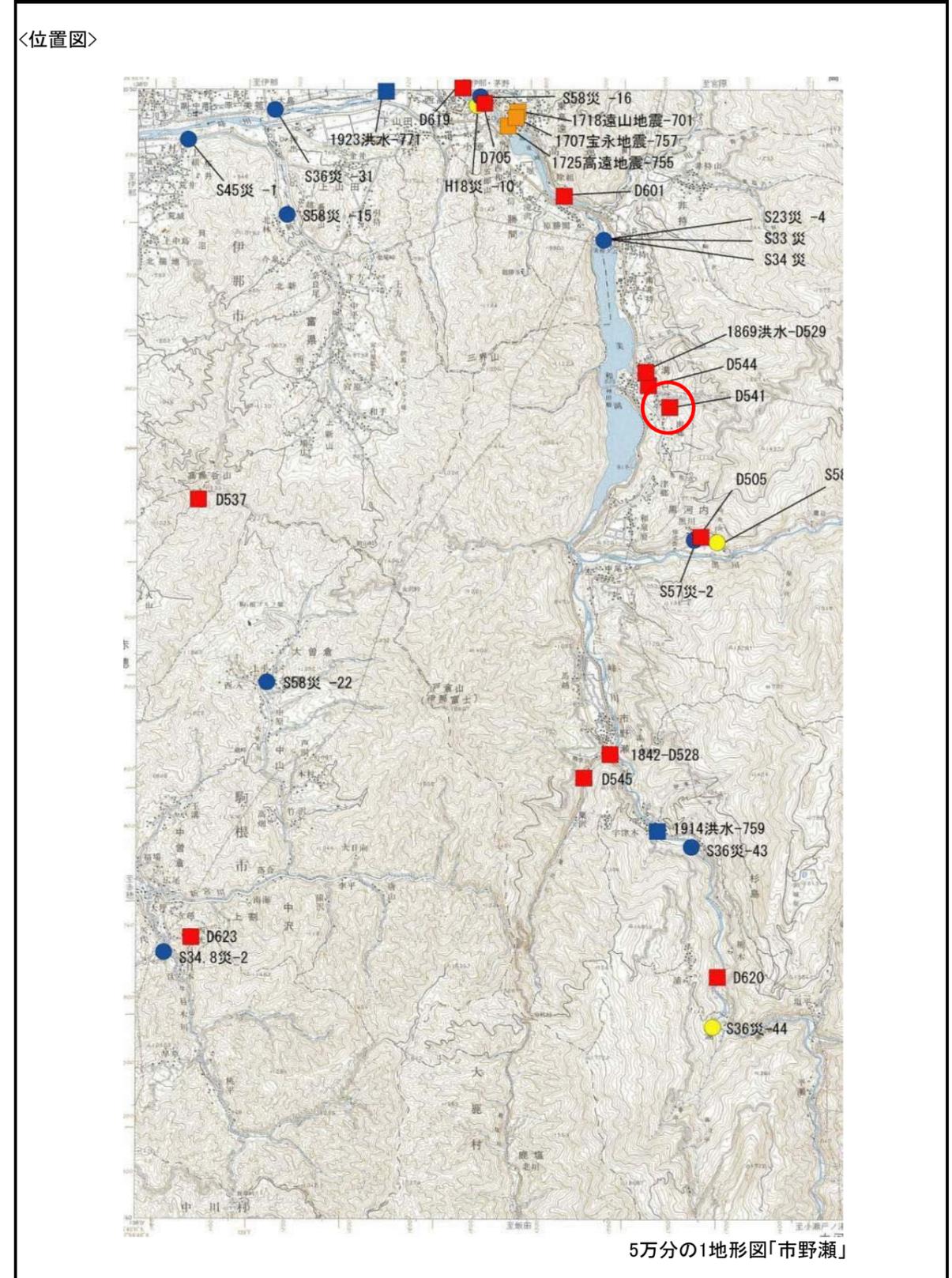
伝承名	戸倉沢垣外の市野瀬城跡	1/5万図幅名	市野瀬
市町村・大字名	伊那市長谷市野瀬	地点番号	D545
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○災害によって消滅した地物		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○戸倉沢垣外の市野瀬城跡 「むかし戸倉沢垣外(市野瀬の西南のはずれ、栗沢川と熊堂川の合流地点)には、市野瀬城があったと伝えられている。今は栗沢川や熊堂川の洪水のために、一帯が荒れ果ててしまい、草に覆われた小高い丘となっている。その丘の一角には、一基の宝篋印塔が埋もれている。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○戸倉沢垣外の市野瀬城跡	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
	慣習・風習	—	
参考文献	「信州伊那 入野谷の伝承」pp.183-184.		



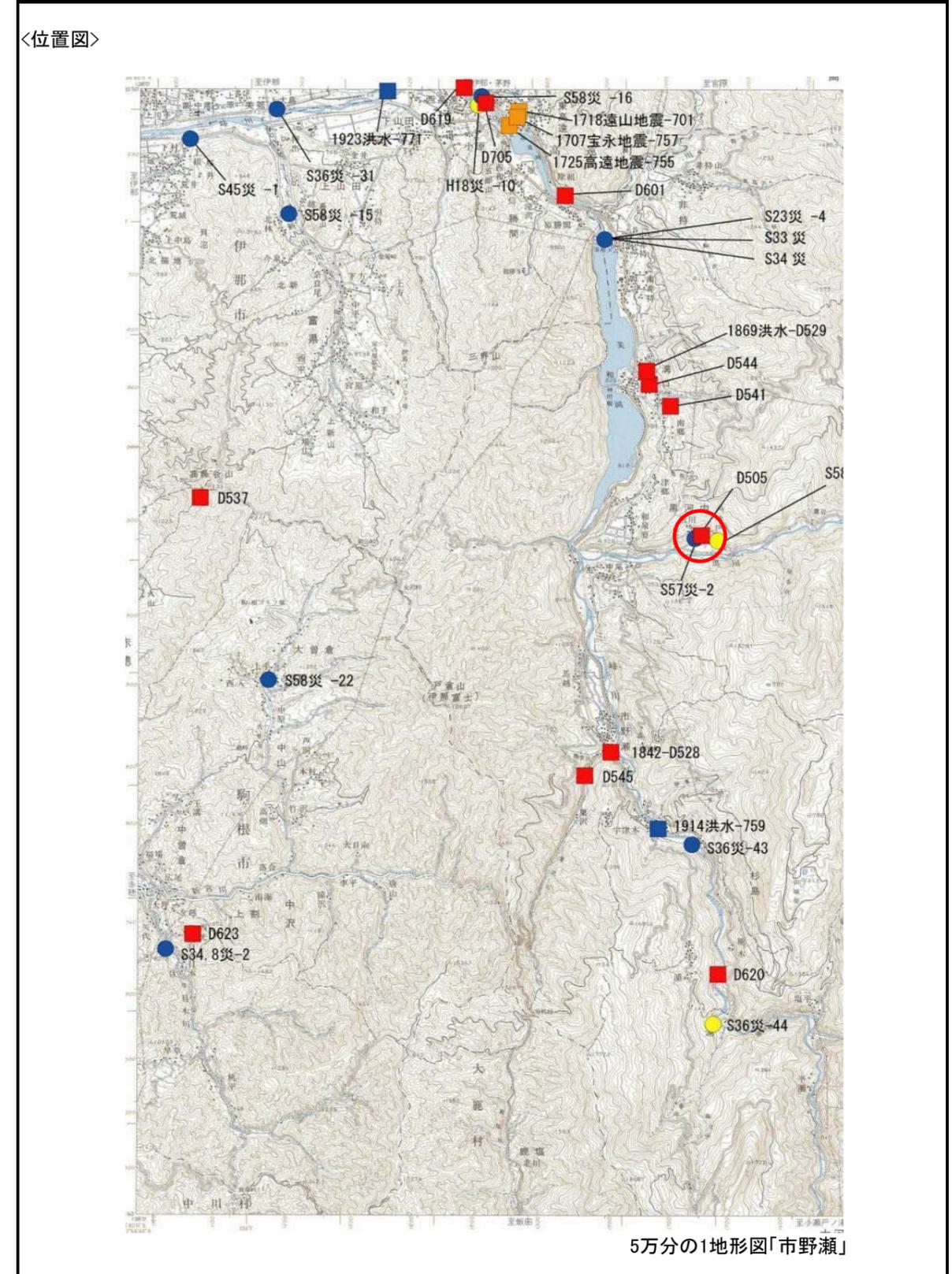
伝承名	赤河原(他一編)	1/5万図幅名	市野瀬
市町村・大字名	伊那市長谷(赤河原)	地点番号	D527
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○川の主=大蛇(死亡) ○地名・地物に託された災害伝承 ○大蛇退治伝説		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○赤河原 「おおむかし、戸台川(伊那市長谷黒河内)の上流に一匹の大蛇が棲んでいた。時々里に出てきては危害を加えていたので、里の人たちは毎日恐れおののいていた。そのころ、日本武尊が、景行天皇のご命令によって東国の悪者征伐にでた帰りの途中に入野谷に立ち寄り、悪い大蛇の話聞いた。尊は戸台川上流の河原で大蛇を見つけ、ご自慢のお太刀をふるって大乱闘の末にこの大蛇を見事切り殺した。このとき、大蛇の切り口から物凄い勢いで血潮がふきだし、そのあたり一帯の河原を真っ赤に染めた。それ以来、河原の石はどれもみな真っ赤になっていて、その河原を赤河原と呼ぶようになったという。」	
	伝承内容	民話・伝説・昔話	
	伝承の詳細	○三峰川の七石 「戸台川上流の大蛇が日本武尊に切りつけられた時、断末魔の苦しみにから広い河原中をのたうちまわった。あたりの大地はとどろきゆるぎ、大蛇の大きな七色の鱗が火花のように空高く散らばって大きな虹をつくった。きれいに大空を彩った七色の鱗の虹は、やがて流れ星のように尾をひいて三峰川の源となっている南アルプスの谷々に吸い込まれるよう落ちていった。現在三峰川にある七色の石は、このとき飛び散った大蛇の七色の鱗であると言われ、人々は三峰川の七石と呼んでいる。」	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○赤河原(南アルプス登山口戸台から戸台川を約8キロさかのぼった東駒山麓の付近。)	
	土木遺構等	○三峰川の七石	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「信州伊那 入野谷の伝承」pp.143-146. 「上伊那文化大辞典」pp.642.		



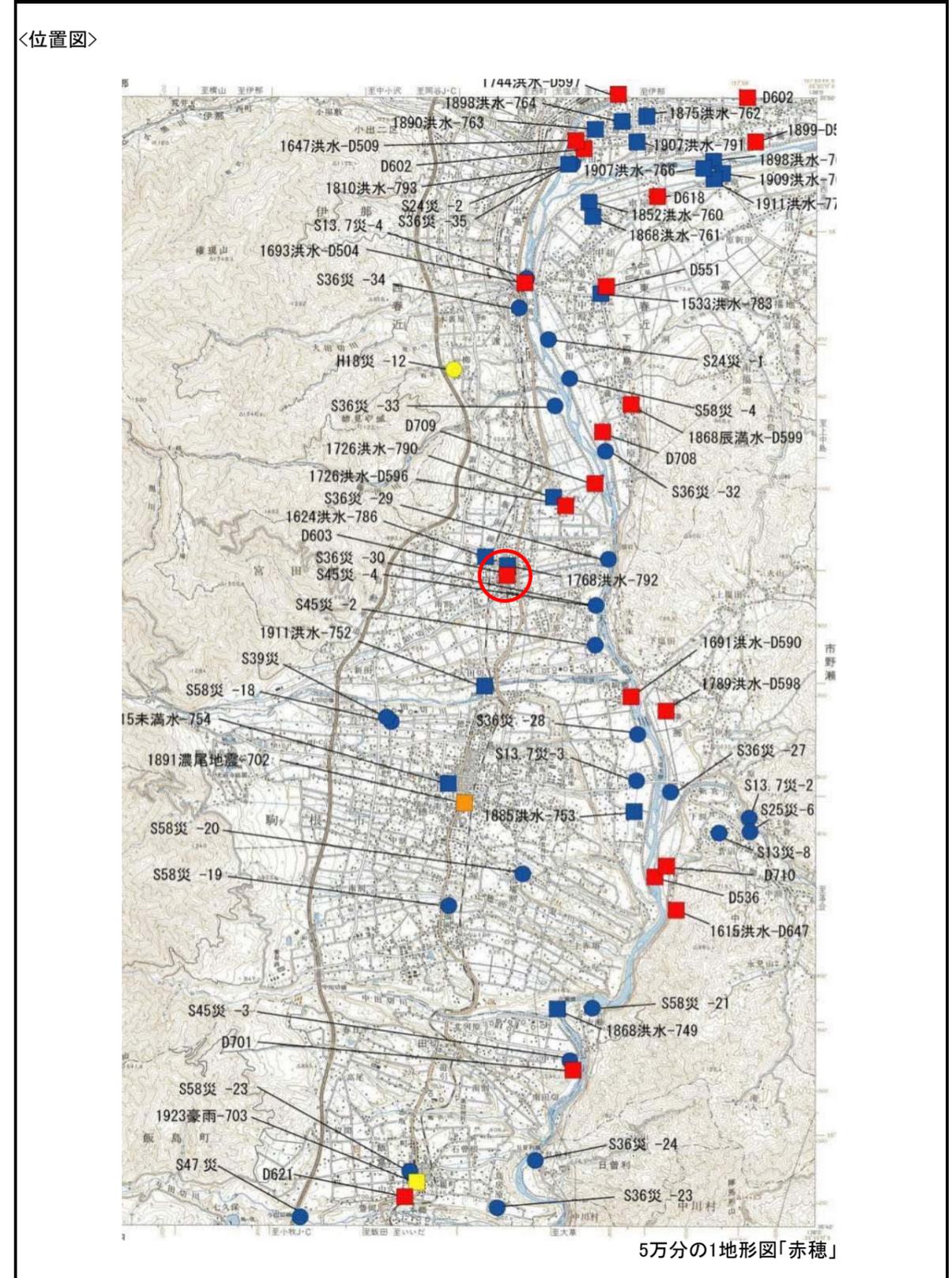
伝承名	熱田神社(長谷溝口)	1/5万図幅名	市野瀬
市町村・大字名	伊那市長谷溝口	地点番号	D541
発祥年代	1394年以前(応永以前)	関連する災害名称	—
キーワード	○主の弔い ○日本武尊を祀った熱田神宮		
教訓・伝承事例	伝承内容	信仰	
	伝承の詳細	○熱田神社(長谷溝口) 「名古屋の熱田神宮から勧請してもらい室町時代以前に建てられていたとされている。日本武尊が、赤河原の地で大蛇を切り殺した後、大蛇の頭を携えて溝口の里に来、桑の大樹の下に行宮を造り、その傍らに大蛇の頭を埋めて里の患いを取り除いたという。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	○熱田神宮(http://www.nhk.or.jp/nagano/eve/isan/2005/060118.html より)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	○熱田神宮	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「上伊那文化大辞典」pp.642.		



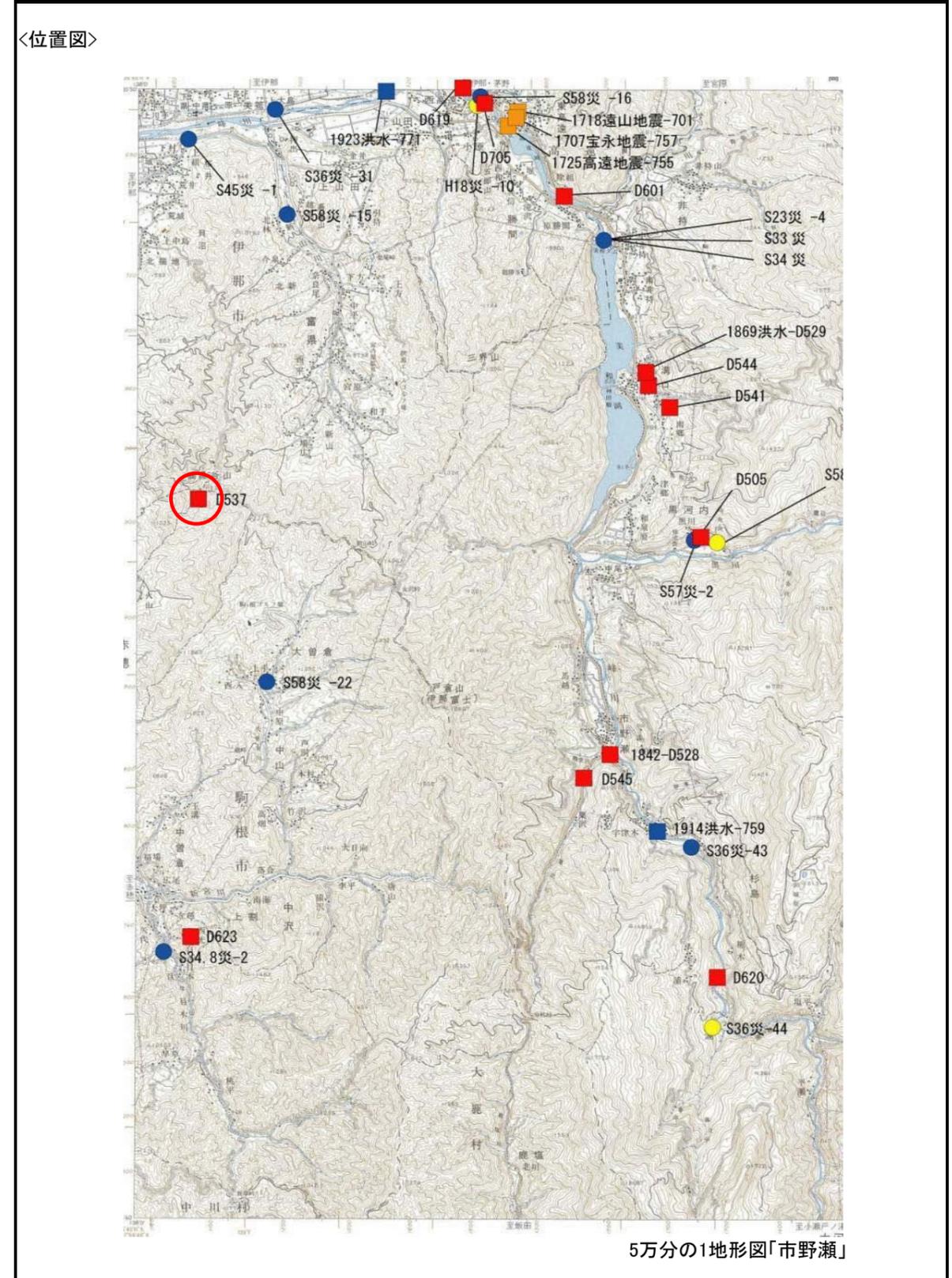
伝承名	黒河内長者屋敷	1/5万図幅名	市野瀬
市町村・大字名	伊那市黒河内	地点番号	D505
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○池の主=大蛇(死亡、美青年に化身) ○自然現象=大蛇の悲しみ・怒り ○曹洞宗 大揚寺 (〒396-0403 上伊那郡長谷村大字黒河内358 / TEL.0265-98-2144)		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○黒河内長者屋敷 「大揚寺へ登る門気坂の上に住んでいた長者の美しい一人娘のところに、毎晩訪れる美青年がいた。その美青年は戸倉山の池に住んでいる大蛇の化身だというわさがたった。娘は確かめようと、男の着物の裾に針を刺して帰らせた。次の夜、男は現れず、天地もどろくほどの雷鳴と大暴風雨に変わり、忽ちのうちに三峰川が大洪水となった。翌朝、大蛇の屍が激流に流されていく姿が見られた。」	
	伝承内容	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「伊那谷 長谷村の民俗」pp.283-284.		



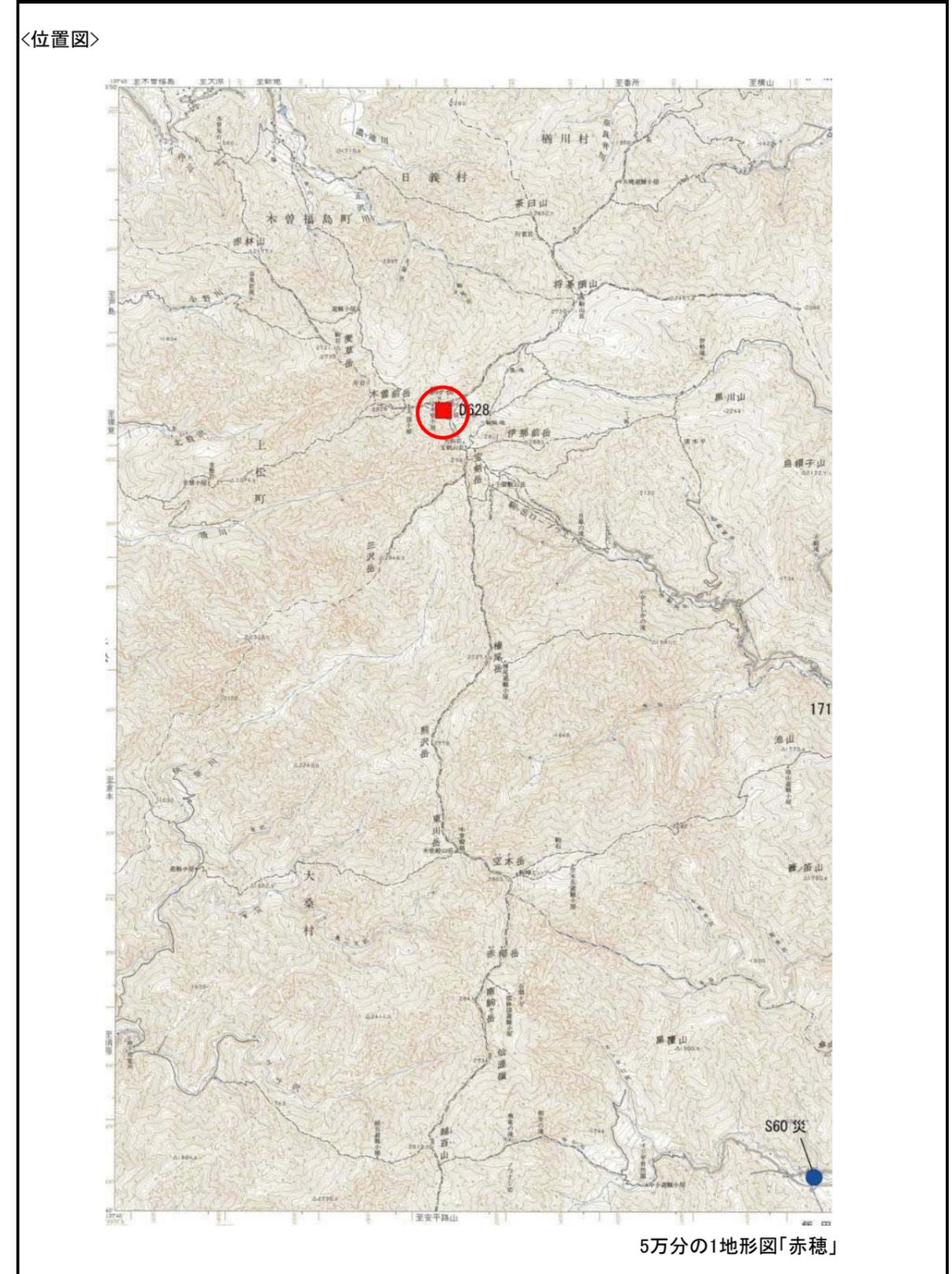
伝承名	無縁仏	1/5万図幅名	赤穂
市町村・大字名	宮田村	地点番号	D603
発祥年代	—	関連する災害名称	洪水
キーワード	○犠牲者への弔い		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話	
	伝承の詳細	○無縁仏 「大田切川の岸辺に、俗に無縁仏と呼ばれる石仏群がある。昔からこの川の洪水によって死んでしまった旅人の霊を供養した石仏と伝えられている。」	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	○無縁仏	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川の災害伝説」pp.14.		



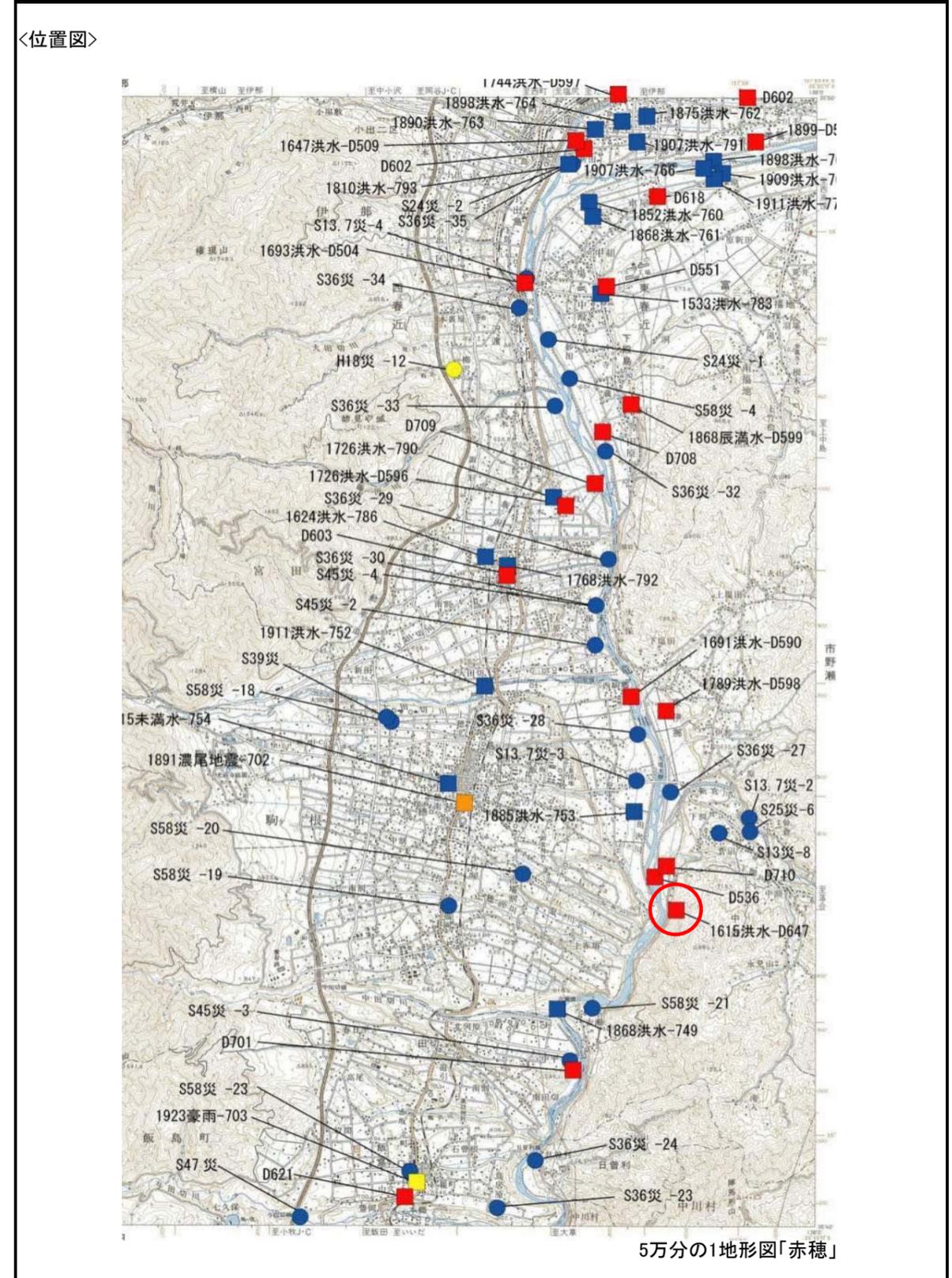
伝承名	高鳥谷山(たかづややま)の伝説	1/5万図幅名	市野瀬
市町村・大字名	駒ヶ根市東伊那	地点番号	D537
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○猿田彦命のご加護		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○高鳥谷山(たかづややま)の伝説 「往昔、貝沼村北林にいた井上掃部という地侍が、一日山野に入り猟をしていた。すると、黒雲が立ちこめ雷が天地を震い、大雨が激しく降り出したので侍は帰路を見失ってしまった。二昼夜野宿し、精神が朦朧とするにいたり、無事に帰れた時は高鳥谷山の絶頂に一社創建すると猿田彦命に信願したところ、雨がやみ目の前に山鳥が現れた。これを捕まえようと跡を追っていくといつしか我が家にとどり着くことができた。侍は神願の靈感を感じ、山頂に高鳥谷天狗(猿田彦命)を祀り神殿を営むようになったという。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	○高鳥谷山山頂の石造 (http://www.orienteering.com/~clubcup/2007/report/2007_0728/index.html より)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	○高鳥谷神社	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「上伊那文化大辞典」pp.639.		



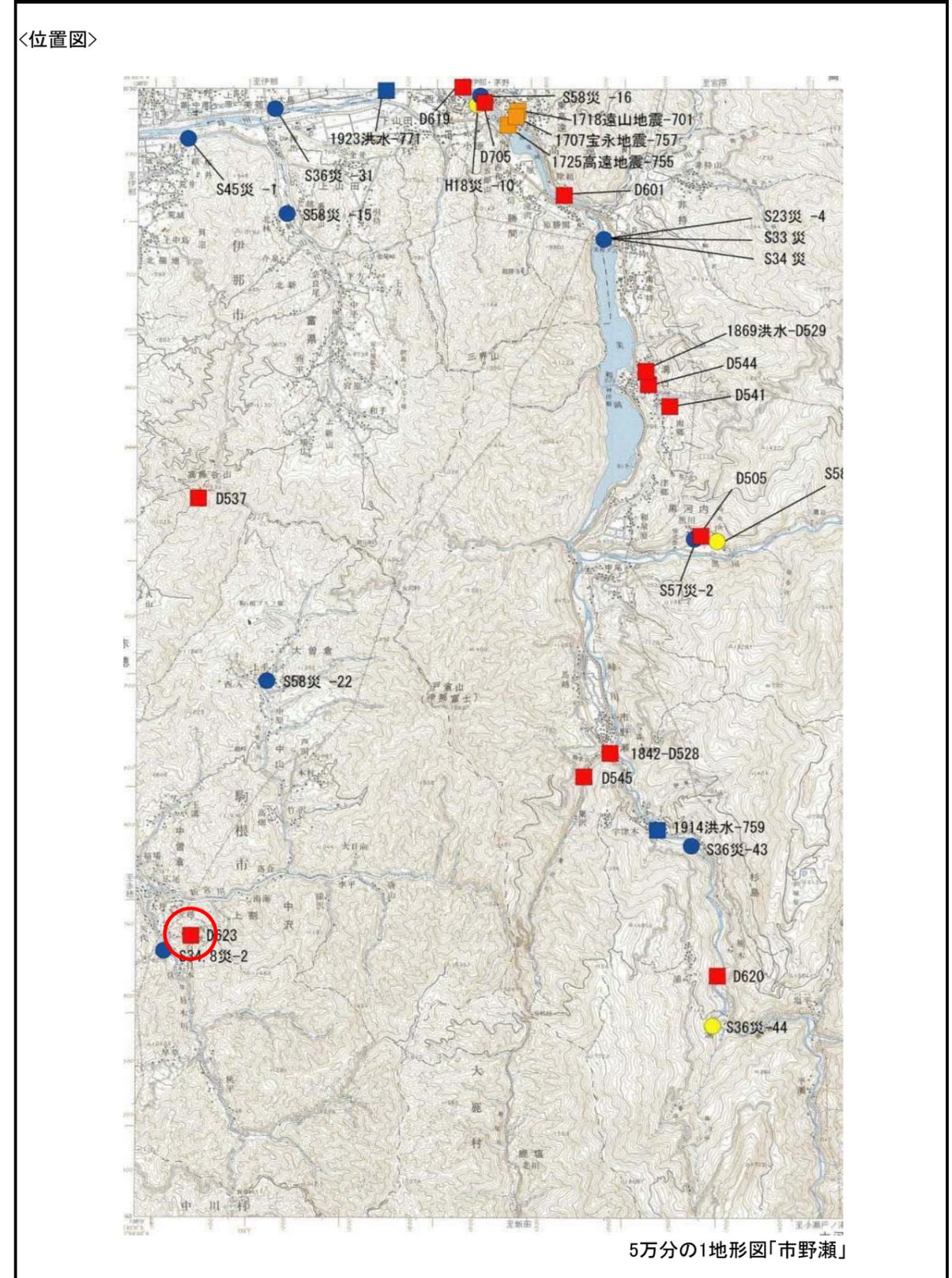
伝承名	濃ヶ池	1/5万図幅名	赤穂
市町村・大字名	駒ヶ根市駒ヶ岳	地点番号	D628
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○駒ヶ岳の主=(竜・鬼、生存) ○雨乞い(池)		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○濃ヶ池 「駒ヶ岳の主が棲んでいて、荒らせばたちまち雨が降るといふ。昔、駒ヶ岳の麓の内の萱という部落に母親と二人きりで暮らしていた娘が、大蛇の化身であった若者の後を追ってこの池に身を投じ、若者は竜に、娘は鬼と化して池に棲むようになったといふ。濃ヶ池とも称し、干天にこの池に登り雨乞いをすれば効験が有るといふ。」	
	伝承内容		
伝承媒体	伝承の詳細		
	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○濃ヶ池	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
儀式	—		
慣習・風習	—		
参考文献	「上伊那郡誌5民俗篇上」pp.1440-1441.		



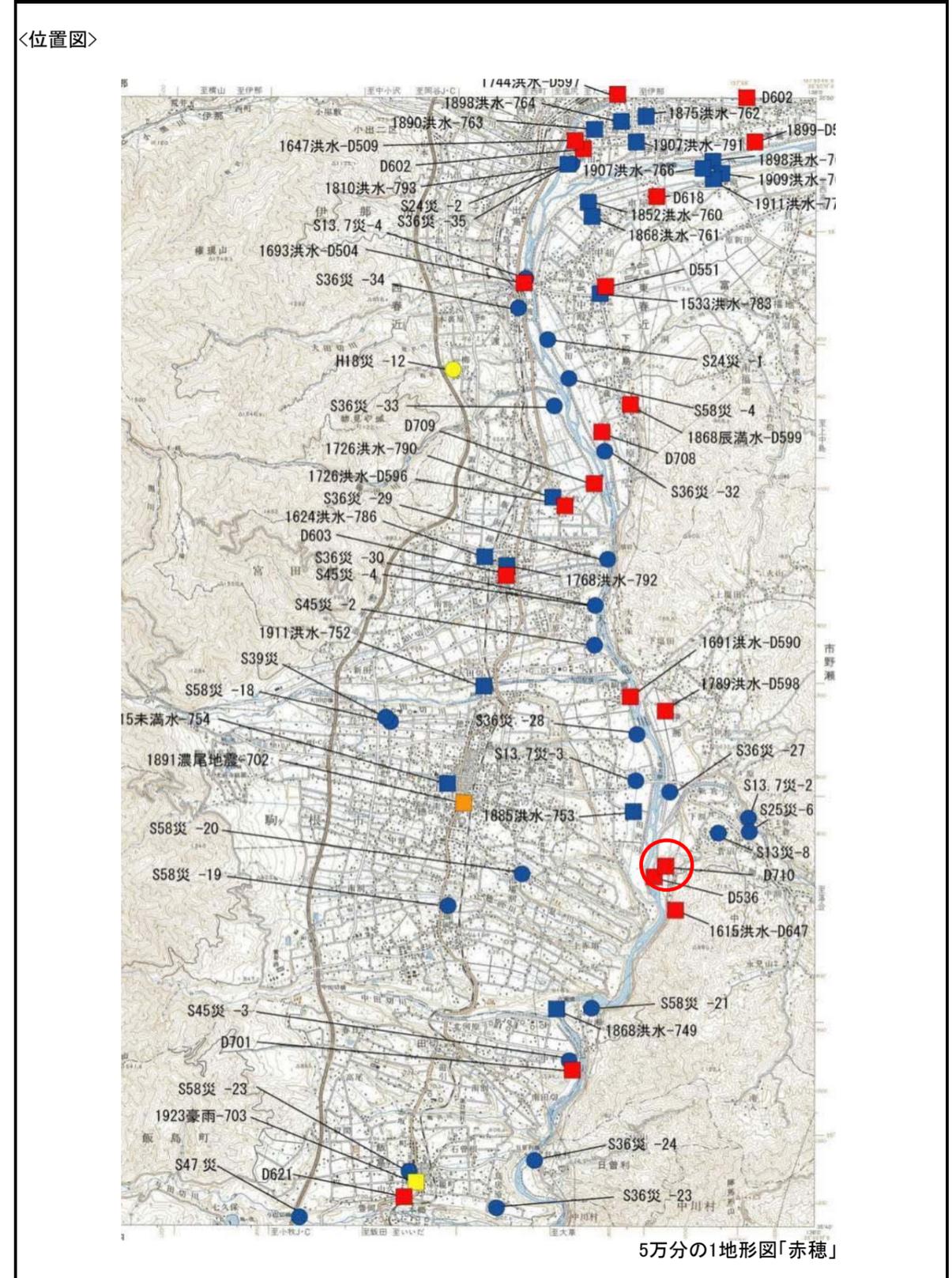
伝承名	小鍛冶の矢文		1/5万図幅名	赤穂
市町村・大字名	駒ヶ根市小鍛冶		地点番号	1615洪水-D647
発祥年代	1615年(元和元年)	関連する災害名称	—	
キーワード	○洪水時の情報伝達手段			
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)		
	伝承の詳細	○小鍛冶の矢文 「元和元年(1615)酒井新左衛門二男左太夫と、家来の庄右衛門が大坂夏の陣に出陣し、左太夫は戦死した。庄右衛門が帰郷の際に天竜川が増水しており、やむなく対岸の小鍛冶より矢文にて次男左太夫の戦死を主家に報じた。明治17年、18年頃までは洪水のおりに、実際に矢文で通信を行っていたという。」		
	伝承内容	—		
伝承媒体	伝承の詳細	—		
	写真・映像	—		
	石碑・記念碑	—		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	—		
	土木遺構等	—		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
	祭り	—		
儀式	—			
慣習・風習	—			
参考文献	「駒ヶ根市誌現代編下巻」pp.596-597.			



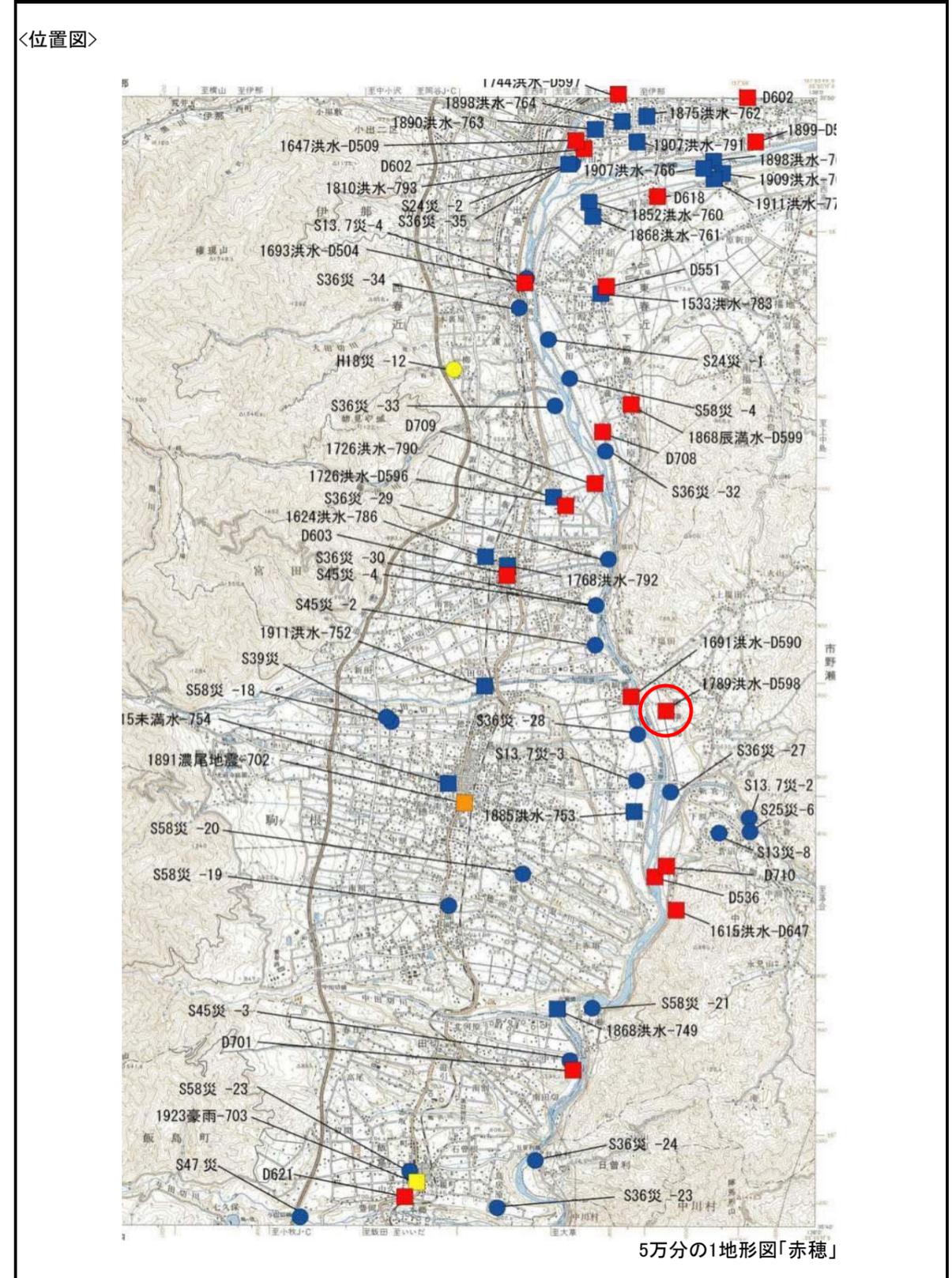
伝承名	落石	1/5万図幅名	市野瀬
市町村・大字名	駒ヶ根市中沢上割	地点番号	D623
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○地変による地物の由来		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂)	
	伝承の詳細	○落石 「昔、天から落ちた石が林の中にあってそこに落石神社を祀った。母乳が出ないとき、この石にお参りし、石に生えている苔を煎じて飲めば、乳の代わりになるという。(中沢伝説集)」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○落石	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「長野県上伊那郡誌第五巻民俗篇上」pp.1419-1420.		



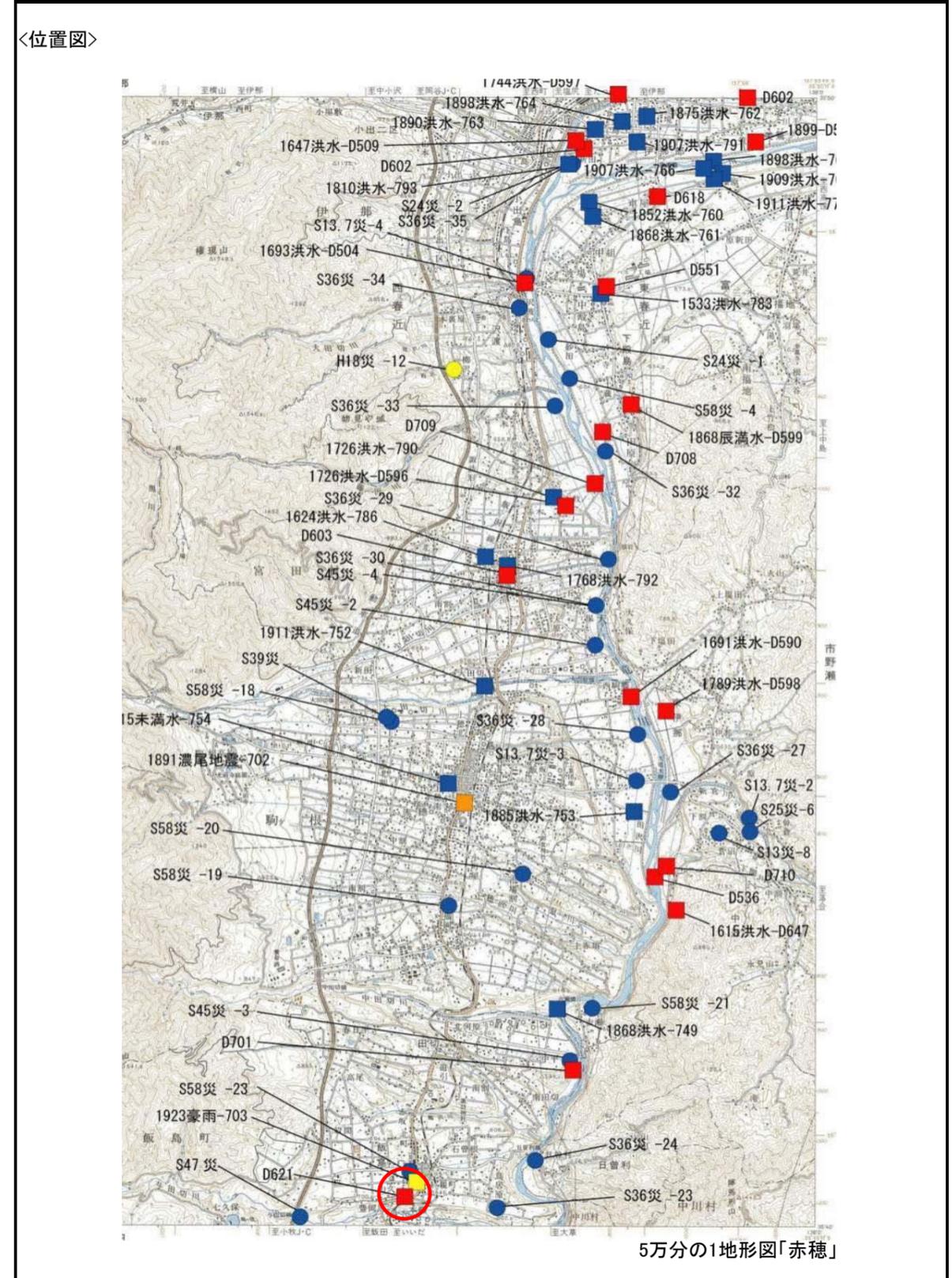
伝承名	復興記念碑	1/5万図幅名	赤穂
市町村・大字名	駒ヶ根市中沢	地点番号	D710
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	災害の事実・災害体験・得られた教訓	
	伝承の詳細	○復興記念碑	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	○復興記念碑(天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.614)	
	石碑・記念碑	○災害記念碑	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.614		



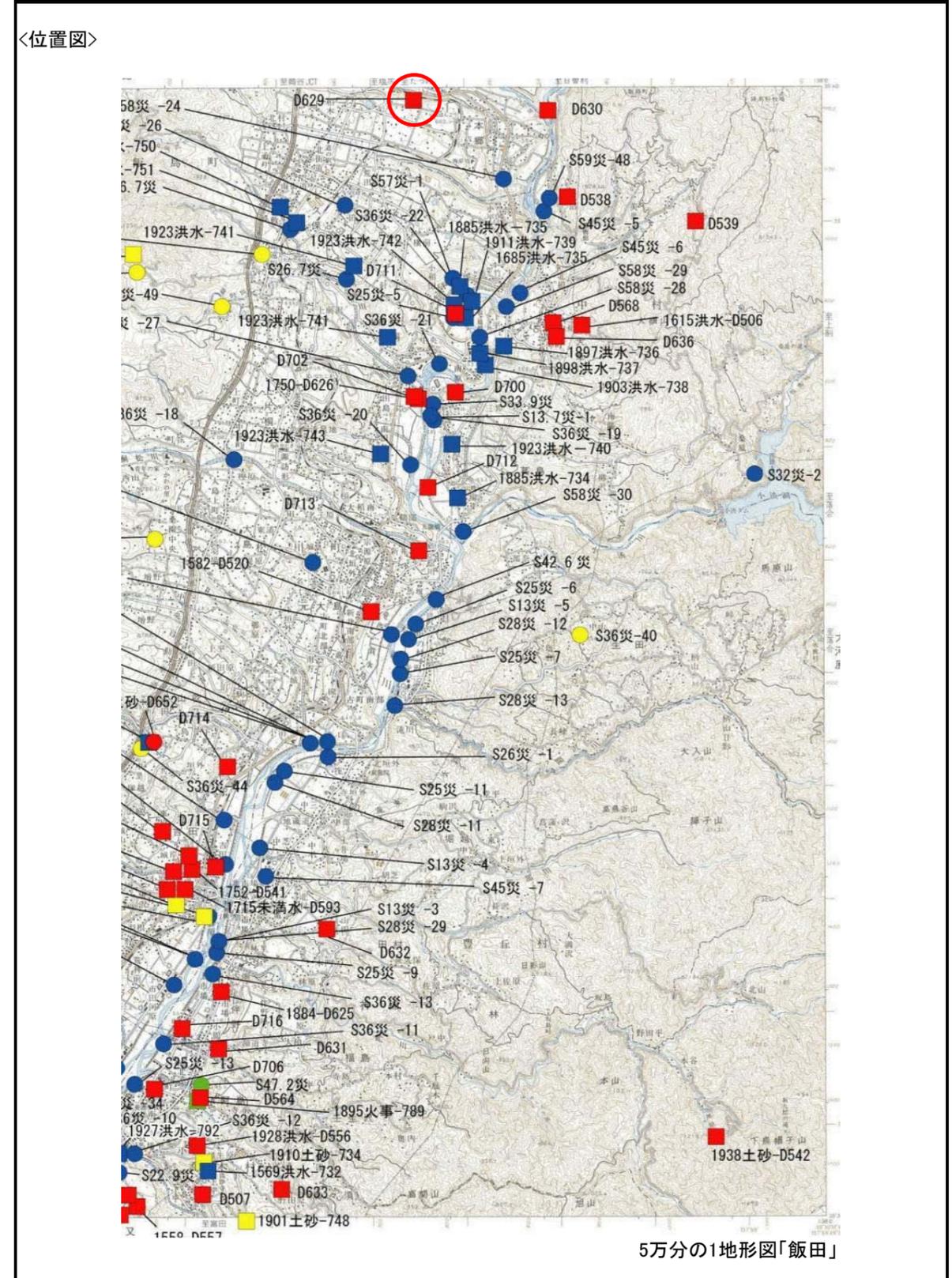
伝承名	阪本天山の墾田の碑	1/5万図幅名	赤穂
市町村・大字名	駒ヶ根市大久保	地点番号	1789洪水-D598
発祥年代	1789年(寛政元年)	関連する災害名称	洪水
キーワード	○災害に挑む人々の姿 ○治水事業の功績を讃える碑		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○阪本天山の墾田の碑 「寛政元年(1789)天竜川の大氾濫により、大久保の辺り一帯は荒地と化した。中村新六は阪本天山につき実学を修め、天明の飢饉に発奮し、隋道を穿ち堤防を築き、数町歩の美田を開くという大業を成し遂げた。その功績をたたえ建立された碑には、大窪邨中邨氏墾田碣記天山真逸源俊豈撰、と碑文が彫られている。碑は花崗岩で現在風化が進み文字の判読はできない。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	○阪本天山の墾田の碑(東伊那大久保さがり松、塩田川の河口にある。)	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	○「天竜川の災害伝説」pp.11.		



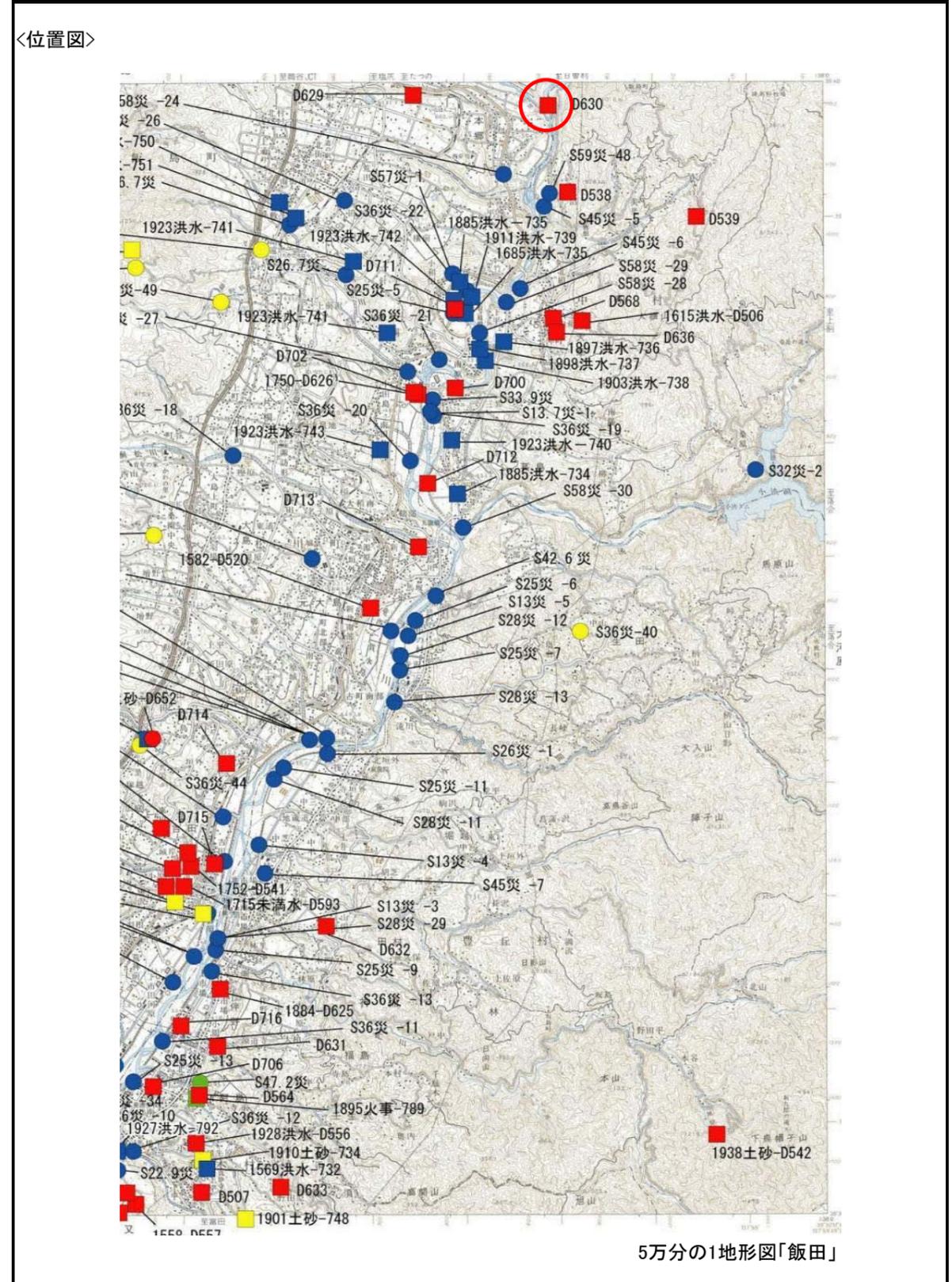
伝承名	仏石	1/5万図幅名	赤穂
市町村・大字名	飯島町飯島豊岡	地点番号	D621
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○災害によってもたらされた地物		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○仏石 「昔、山から流れてきた位牌が乗っていた岩だという。大きな岩で、現在稲荷神社が祀ってある。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○仏石	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「長野県上伊那郡誌第五巻民俗篇上」pp.1420,		



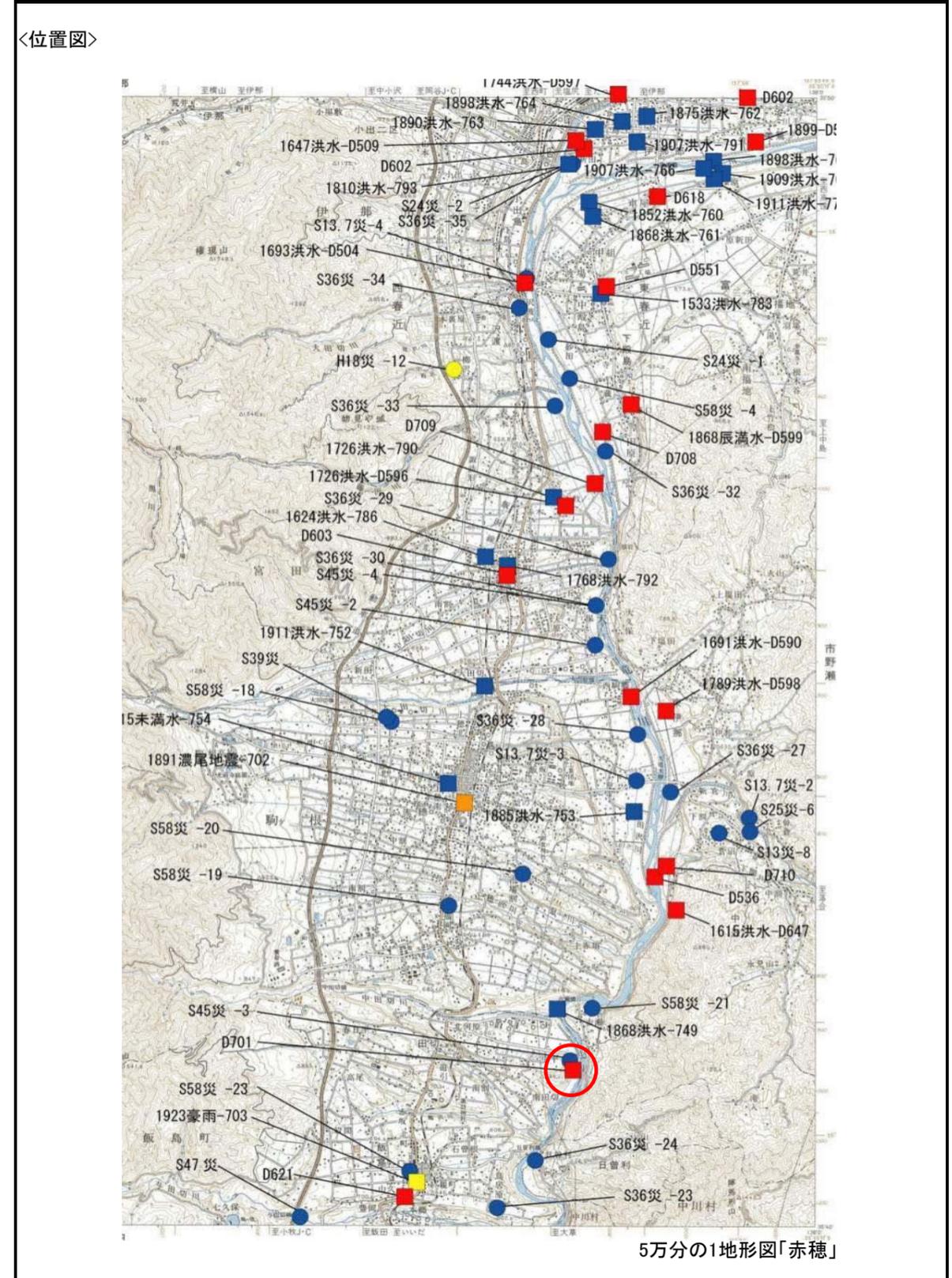
伝承名	隅の木	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	飯島町本郷	地点番号	D629
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	〇ご加護のあった災害(洪水)		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	〇隅の木 「隅の木と称す栗の木があった。正徳五年未満水の時、与田切川が氾濫し、沿岸の田家が概ね流出してしまった。人々はわずかに身を以て免れ、隅の木の陰に集いて危難を脱することができたという。この隅の木の老朽化が進み伐採することになった時、その恩を記すために隅の木碑が建立された。」	
	伝承内容		
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	〇隅の木碑(飯島町誌下巻現代・民俗編pp.1104.)	
	石碑・記念碑	〇隅の木碑(本郷第6、米山金夫氏宅の東側)	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「飯島町誌下巻現代・民俗編」pp.1104.		



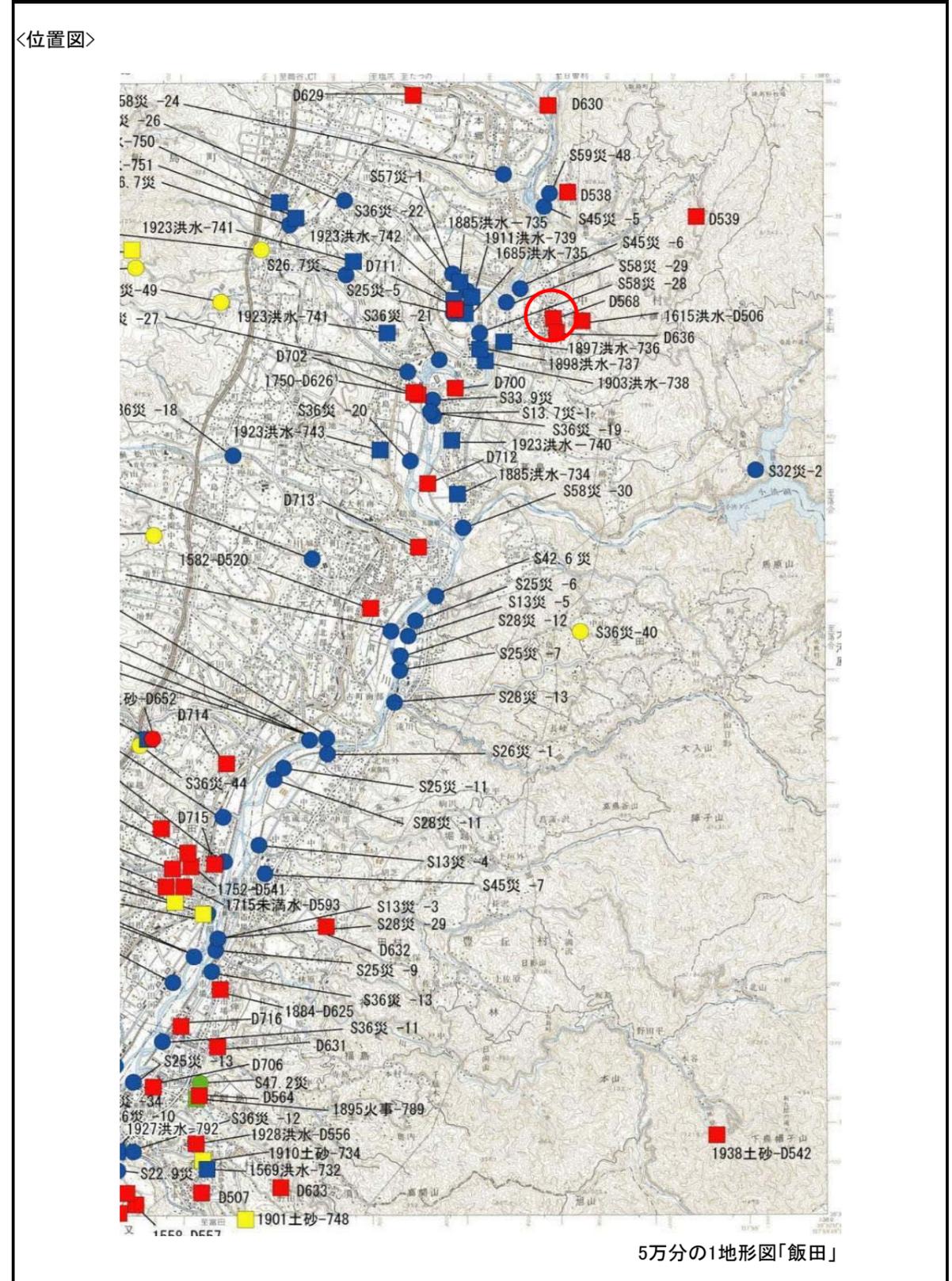
伝承名	鬼の島・鬼の的山	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	飯島町本郷	地点番号	D630
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○鬼がもたらした地変		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○鬼の島・鬼の的山 「与田切川の吐き出しに、鬼がもっこで土を担ぎ空け出したら出来た島と、もっこをどんと払ったら横に小さな島ができたという。また、駒ヶ岳に住んでいる鬼神が、ここに標的を置いて山頂より弓を引いて習ったと言い伝えられている。」	
	伝承内容		
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	○鬼の島・鬼の的山(飯島町誌下巻現代・民俗編pp.1108.)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「飯島町誌下巻現代・民俗編」pp.1107-1108.		



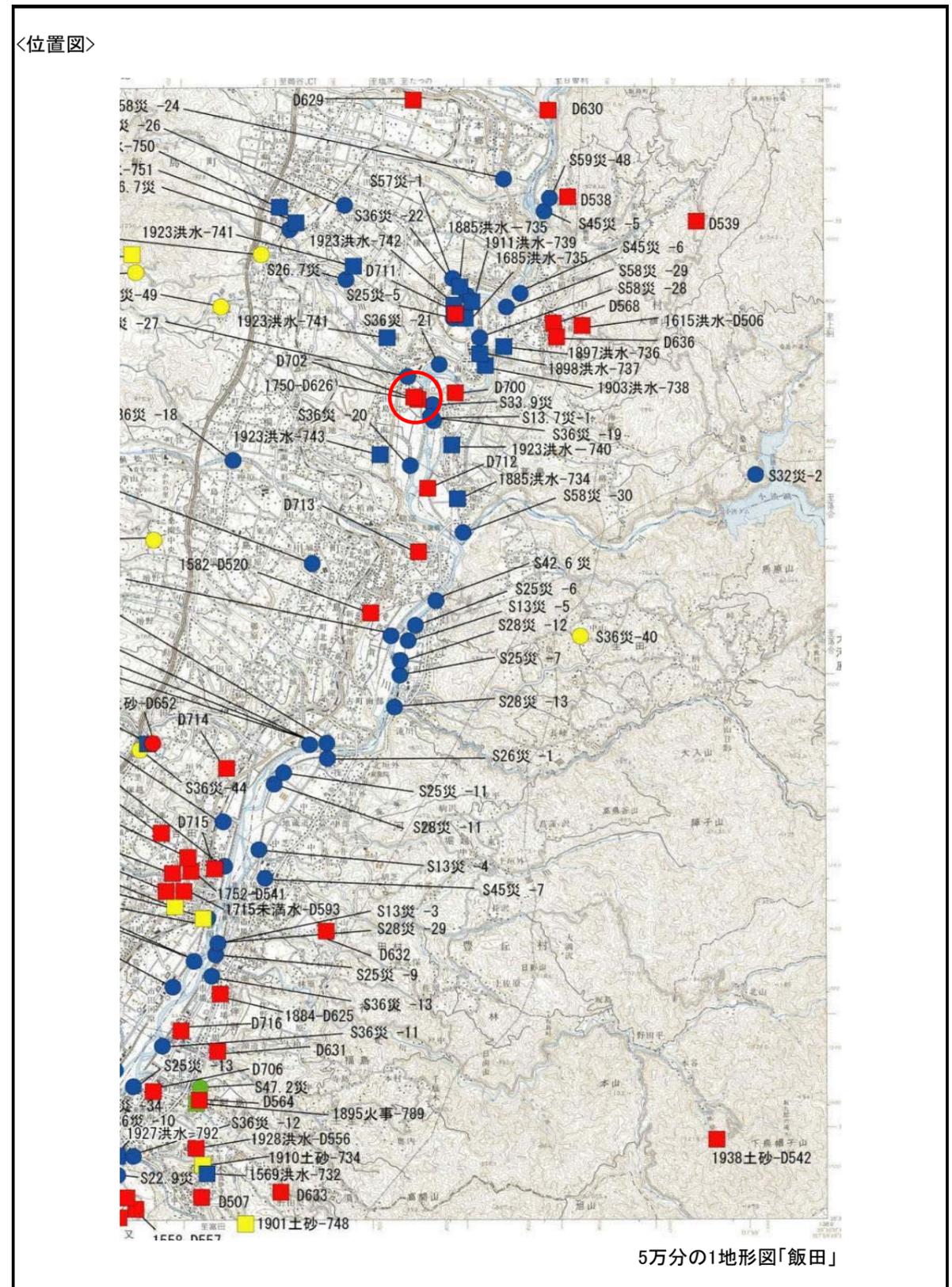
伝承名	中平の水神碑	1/5万図幅名	赤穂
市町村・大字名	飯島町中平	地点番号	D701
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○中平の水神碑 「今でも年々ささやかな祭礼が行われ大事にされている水神様。」	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	○中平の水神碑(天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.611)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	○水神碑 175k	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.611		



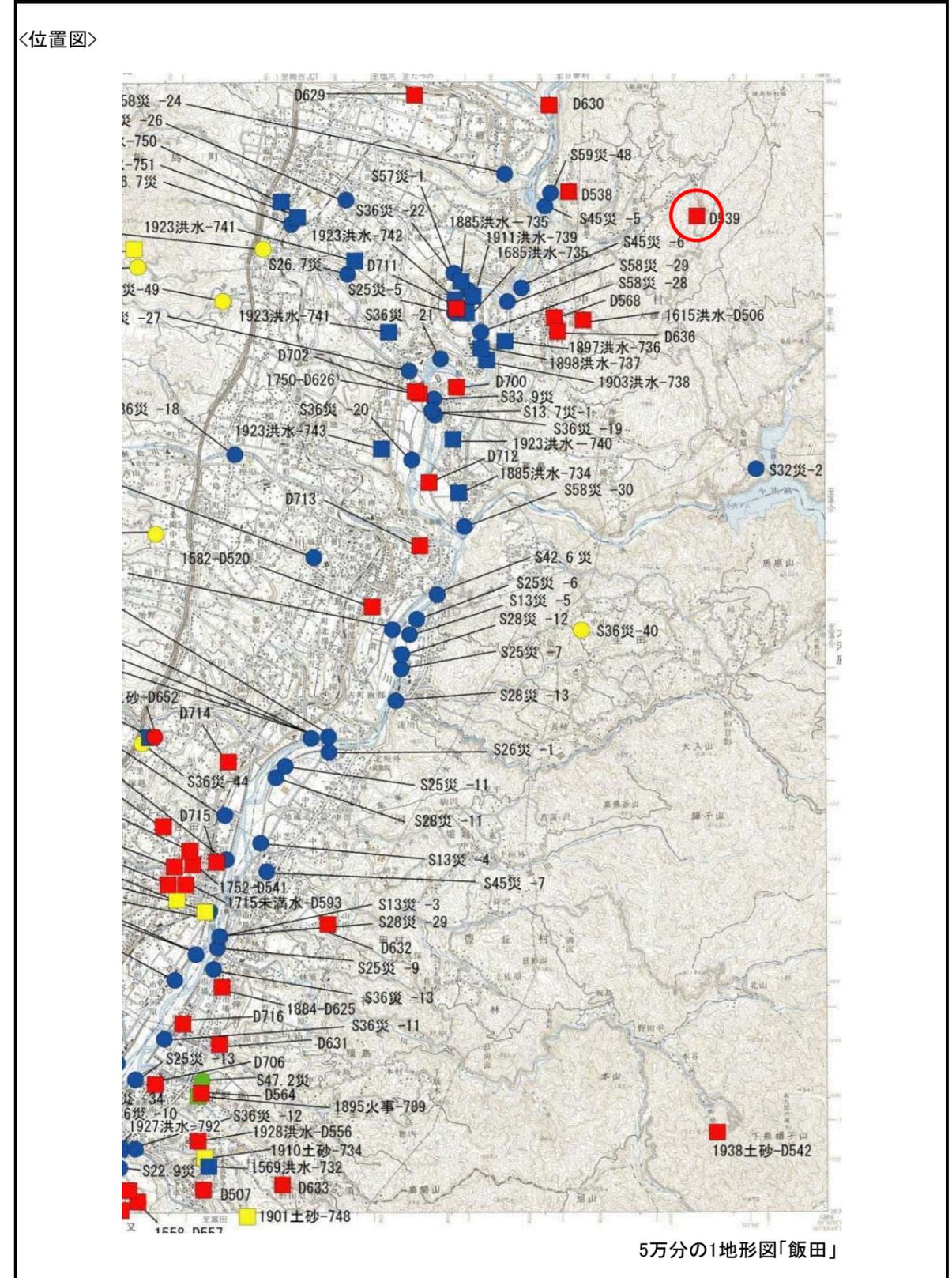
伝承名	中川村に伝わることわざ	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	中川村	地点番号	D568
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	ことわざ	
	伝承の詳細	(中川村に伝わることわざ) ○東夕立(東山からの雷雨)は来そうでこないが来ればでっかい ○霧山に霧が立っている内は雨が止まない	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
	慣習・風習	—	
参考文献	「中川村誌下巻近代・現代編 民俗編」pp.702.		



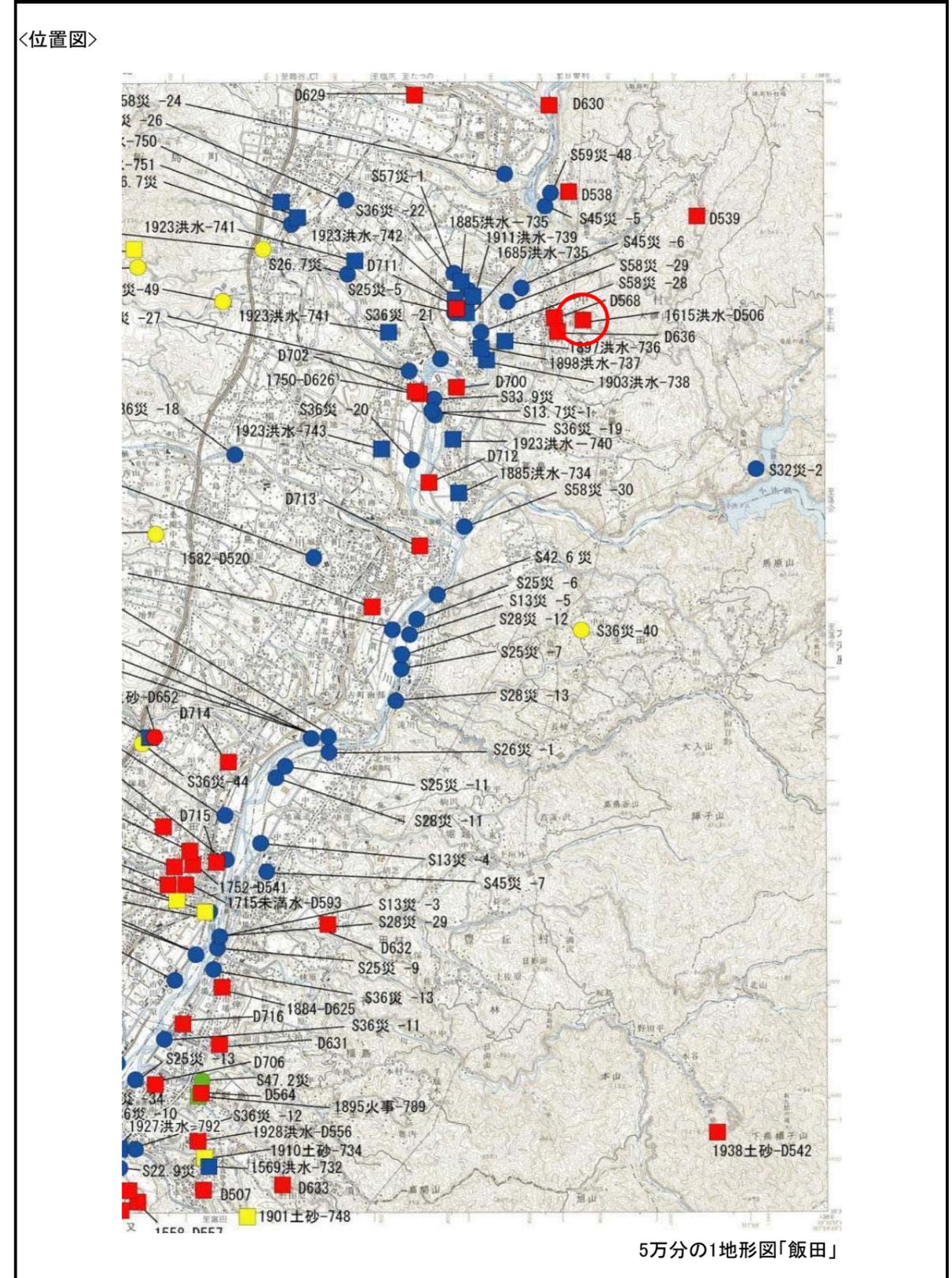
伝承名	理兵衛堤防(ほか1編)	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	中川村片桐田島	地点番号	1750-D626
発祥年代	1750年(寛延三年)	関連する災害名称	—
キーワード	○水害に挑んだ人の姿と功績		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○理兵衛堤防 「田島村の名主松村理兵衛忠欣が、度重なる天竜川の水害から田島を護るために私財をなげうち、尾張から石工を呼んで堤防工事を始めた。工事中に何度も水害に見舞われ、至難を極めたが、理兵衛の孫の三代に渡り58年間と3万両もの莫大な費用をかけて堤防が完成した。平成18年7月豪雨の際、洪水の跡に理兵衛堤防の石積が発見されている。」	
	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○天流功業義公明神碑 「理兵衛の功績を讃え、文化十二年に建立され水神様として祀られている。」	
伝承媒体	写真・映像	○理兵衛堤防、安政五年三峰川国役普請絵図、天流功業義公明神碑(図説・上伊那の歴史上巻pp.129.)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	○天流功業義公明神碑(水神様)	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「上伊那たずねある記」pp.132-133. 「図説・上伊那の歴史上巻」pp.129.		



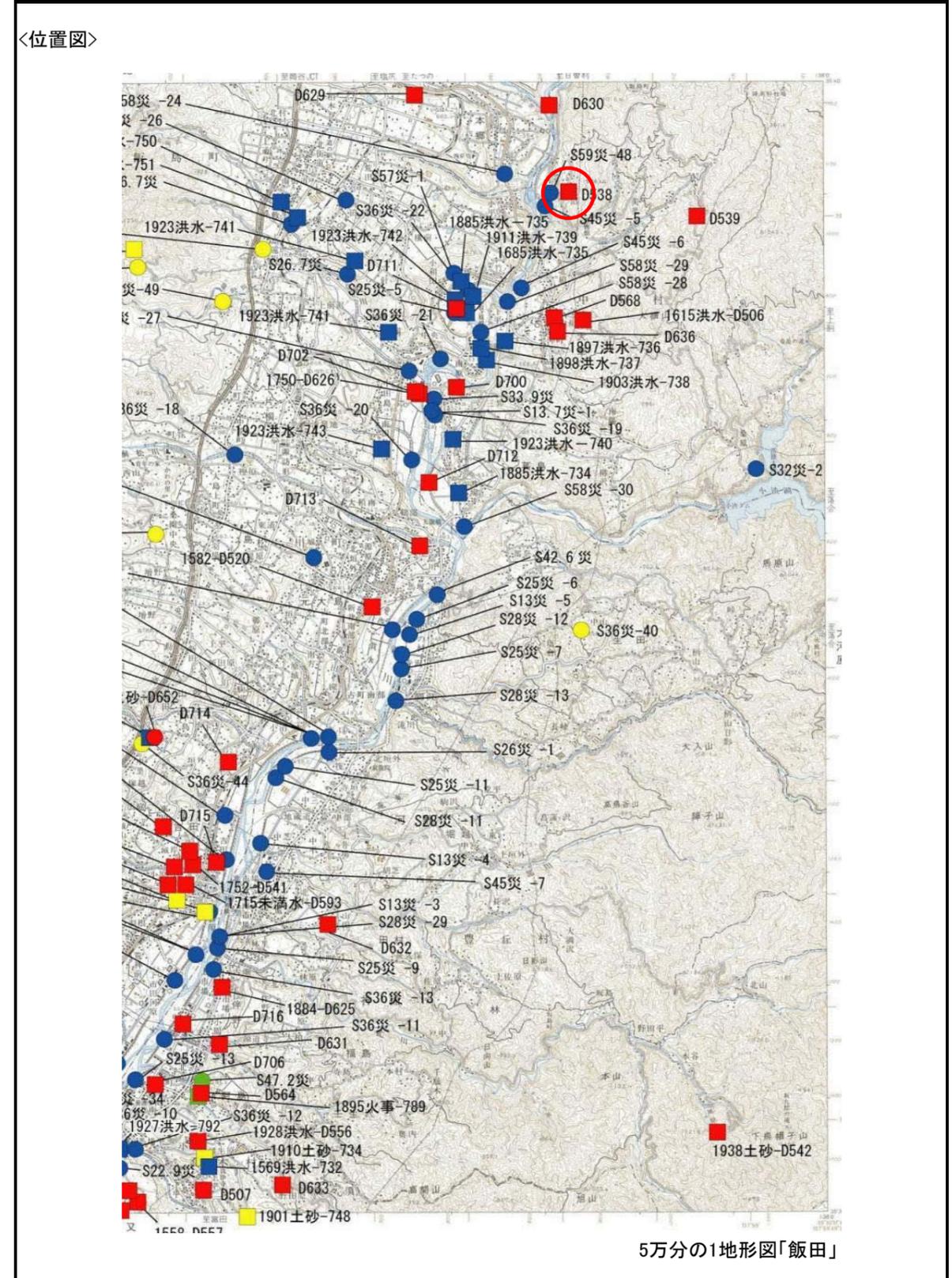
伝承名	黒牛の風穴	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	中川村大草美里	地点番号	D539
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○風の神様		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○黒牛の風穴 「中川村大草美里(黒牛)地籍の風穴という所に、風三郎と呼ぶ風の神が祀られている。風の神が嫌っている神楽の獅子や越後獅子が宮の入坂より奥へ登ったならば、たちまちに暴風を巻き起こすと伝えられている。駒ヶ根市大御食神社の神代文字によって書かれた社伝記には、五昼夜にわたり吹き荒れた暴風雨を黒牛の風の神の祟りであるとして祭り鎮めたことが記されている。」	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○黒牛の風穴	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「上伊那文化大辞典」pp.640.		



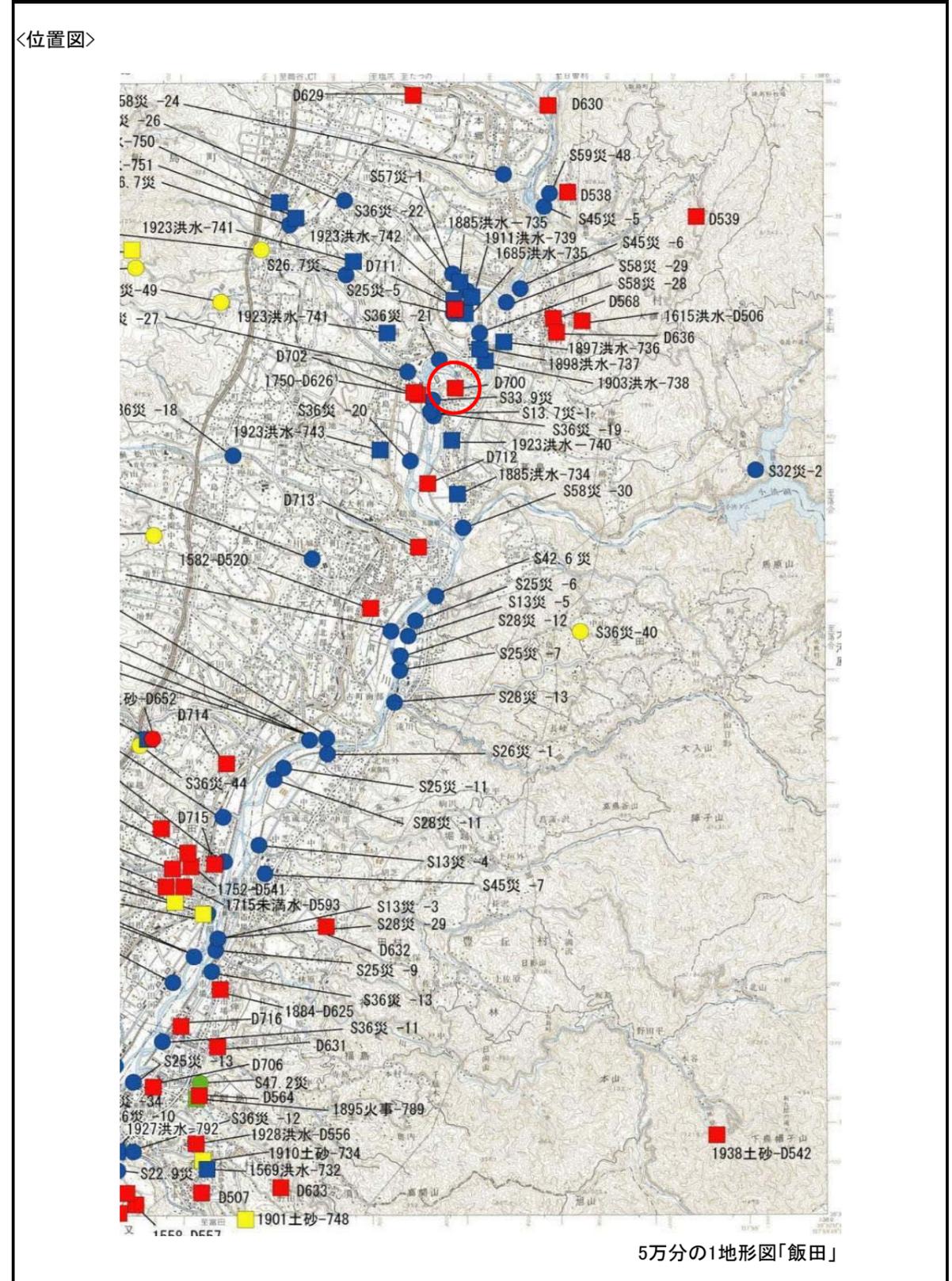
伝承名	石神の松	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	中川村大草	地点番号	1615洪水-D506
発祥年代	1615年(元和元年)	関連する災害名称	—
キーワード	○淵の主=大蛇・九頭竜(死亡、鯉に化身) ○犠牲者への弔い ○曹洞宗 常泉寺 (〒399-3801 上伊那郡中川村大字大草5151/TEL: 0265-88-2024)		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○石神の松 「昔、釜ヶ淵に天竜の主である九頭竜(大蛇)の化身といわれる大きな鯉が住んでいた。ある年の洪水で、淵の外に跳りでて溺れて死んでしまった。里人が屍骸を今の石神の地に厚く葬り、塚を築いて水神として祀った。」 「この石神を息をしないで七回りすると青坊主が現れてくるのが見えるという。」 「元和(1615~)の頃、天竜川の氾濫に相次いで悩んでいた農民が、常泉寺に寄寓し法力を持っていた山伏に頼って水難除の祈禱をもらった。山伏は21日間祈願を続け、満願の日に精魂尽きて倒れた。そして死に先立ちこの水神に手植の松を手向けたという。山伏の遺骸は、約5・60m離れた北東の段丘上に葬り、祠を立てて行者さまとあがめた。(山伏塚)」 「昔、石神坂を上下するものは皆石上の松に小石を手向けて足の疲れを癒したという。」	
伝承媒体	写真・映像	○石神の松(写真集 上伊那の文化財pp.245)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	○石神の松の水神様	
	神社仏閣・塚	○山伏塚	
	地名	—	
	土木遺構等	○石神の松(赤松の雌株、高約6m周囲5.5m、現在では道路工事等により、切り崩された。)	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	○山伏塚にまつわるお祭り(仲林部落の人々が年々4月に行う。)	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「写真集 上伊那の文化財」pp.244-245. 「上伊那文化大辞典」pp.639-640. 「天竜川の災害伝説」pp.14-15.		



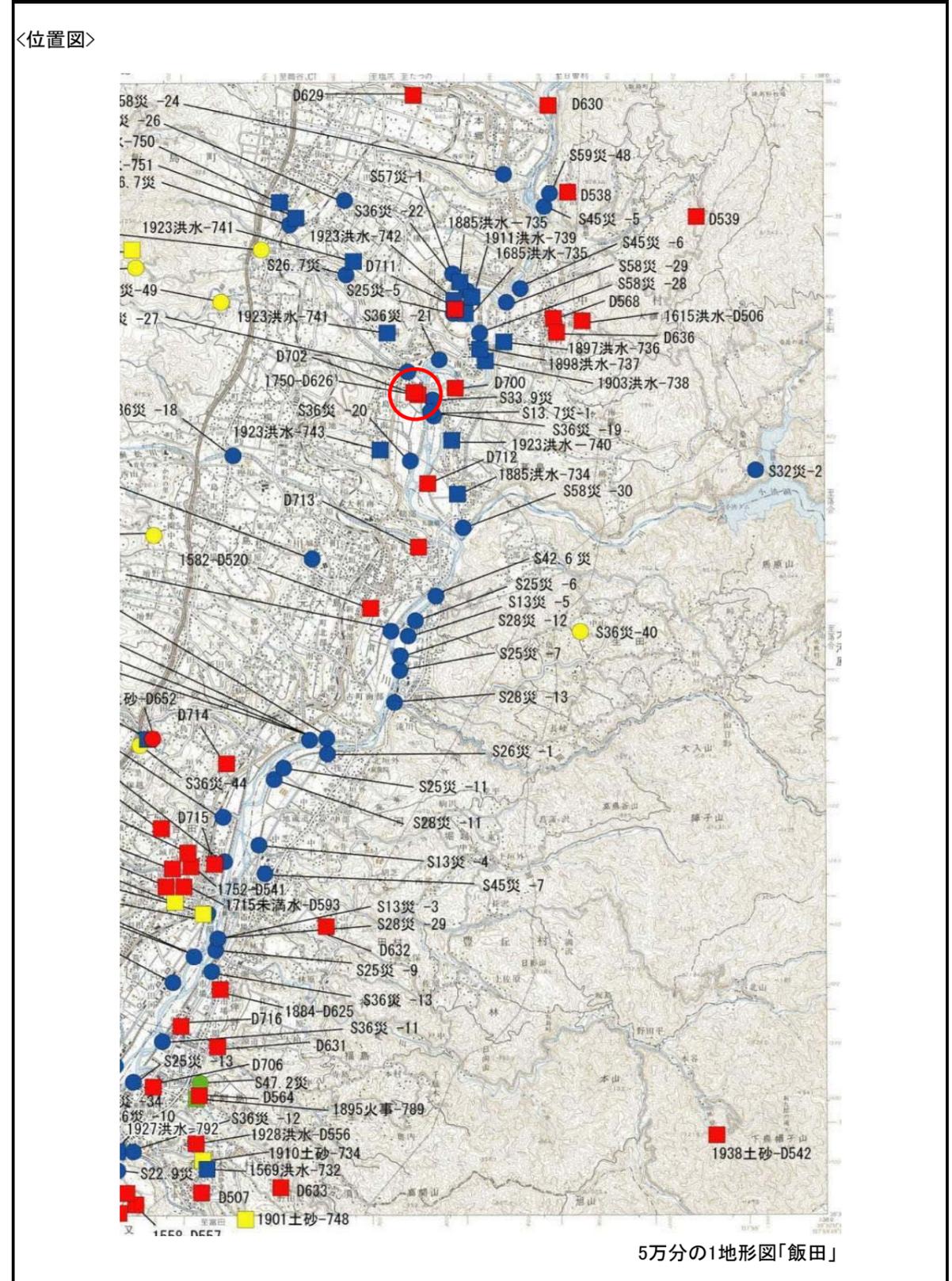
伝承名	天女鱒霊神(あめますれいじん)	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	中川村飯沼	地点番号	D538
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○淵の主=あめのうお(死亡、美しい夫婦に化身) ○雨乞い ○災害によって消滅		
教訓・伝承事例	伝承内容	信仰	
	伝承の詳細	○天女鱒霊神(あめますれいじん) 「むかし、飯沼の家の田植えに毎年素性の知れない美しい夫婦が手伝いに来た。田植えじまいの時、赤飯をご馳走になると、いずこともなく立ち去った。ある日この家の男衆がわみ沢の淵で魚釣りをしたところ、大きなあめのうおが釣れた。腹を割いてみたところ中からたくさん赤飯が出てきた。翌年の田植えに美しい姿の夫婦が現れなかったことから、夫婦がわみ沢に住むあめのうおの化身であったことを知った。そこでわみ沢の淵を見下ろす林の中に祠を造り、天女鱒霊神として祀ったところ、夜になると淵から「あめますらば」と呼ぶ声が聞こえてきた。それから来る年ごとに飯沼の家の田植えには、よく雨が降ったという。36災害の時、その淵の面影はすっかりなくなりました。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○天女鱒霊神(飯島町本郷にある与田切川の吐き出し口に、あめます岩と呼ばれる岩があり、同様の伝承が伝えられている。岩の上には天鮭鱒大明神を祀った祝殿が一基ある。)	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「上伊那文化大辞典」pp.640.		



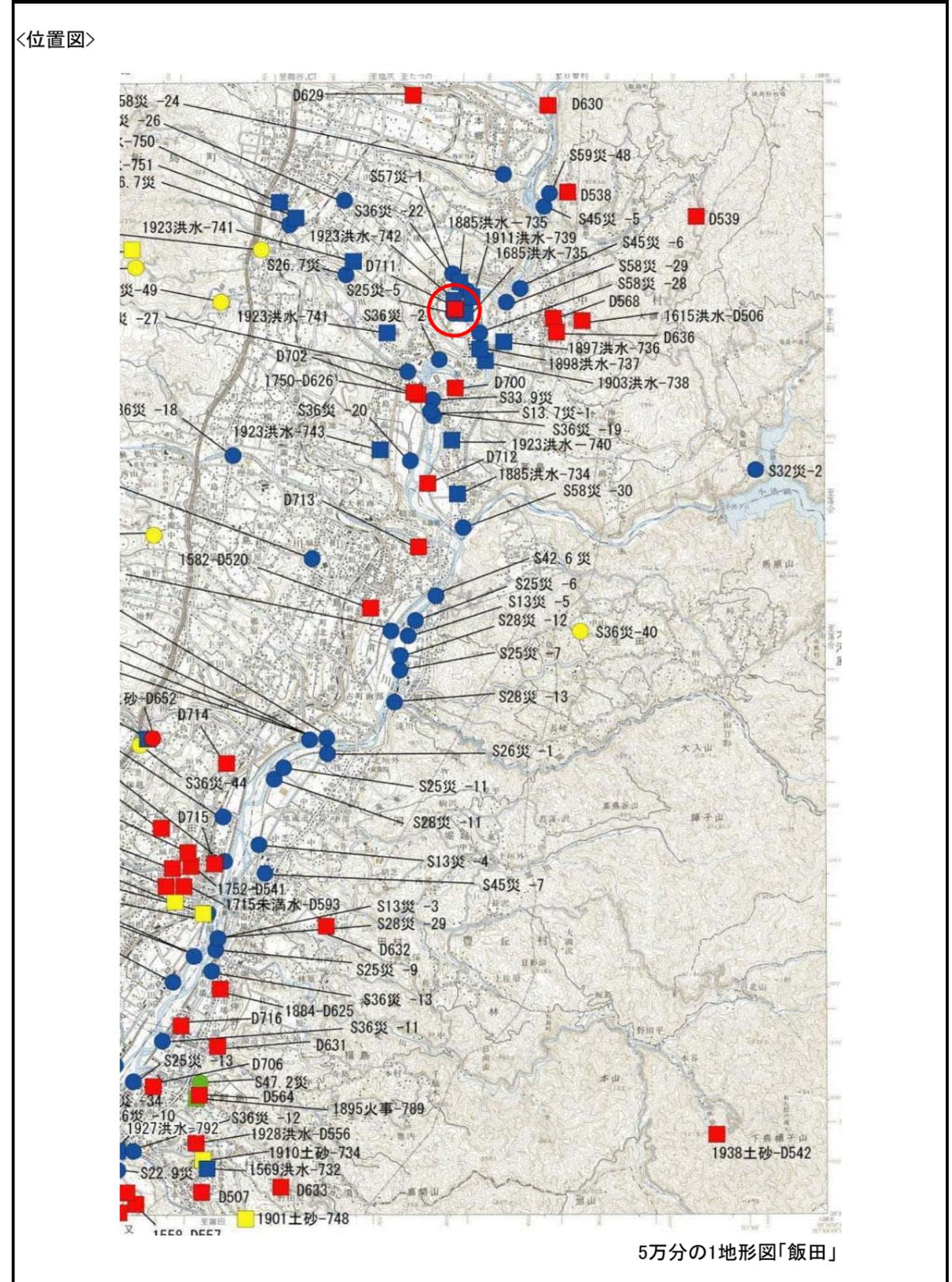
伝承名	葛島の水神碑	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	中川村葛島	地点番号	D700
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○葛島の水神碑 「旧堤の天端に建立された自然石を用いた立派な水神碑。築堤記念か郷名が刻まれている。」	
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	○葛島の水神碑(天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.610)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	○水神碑 165K+100旧堤	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.610.		



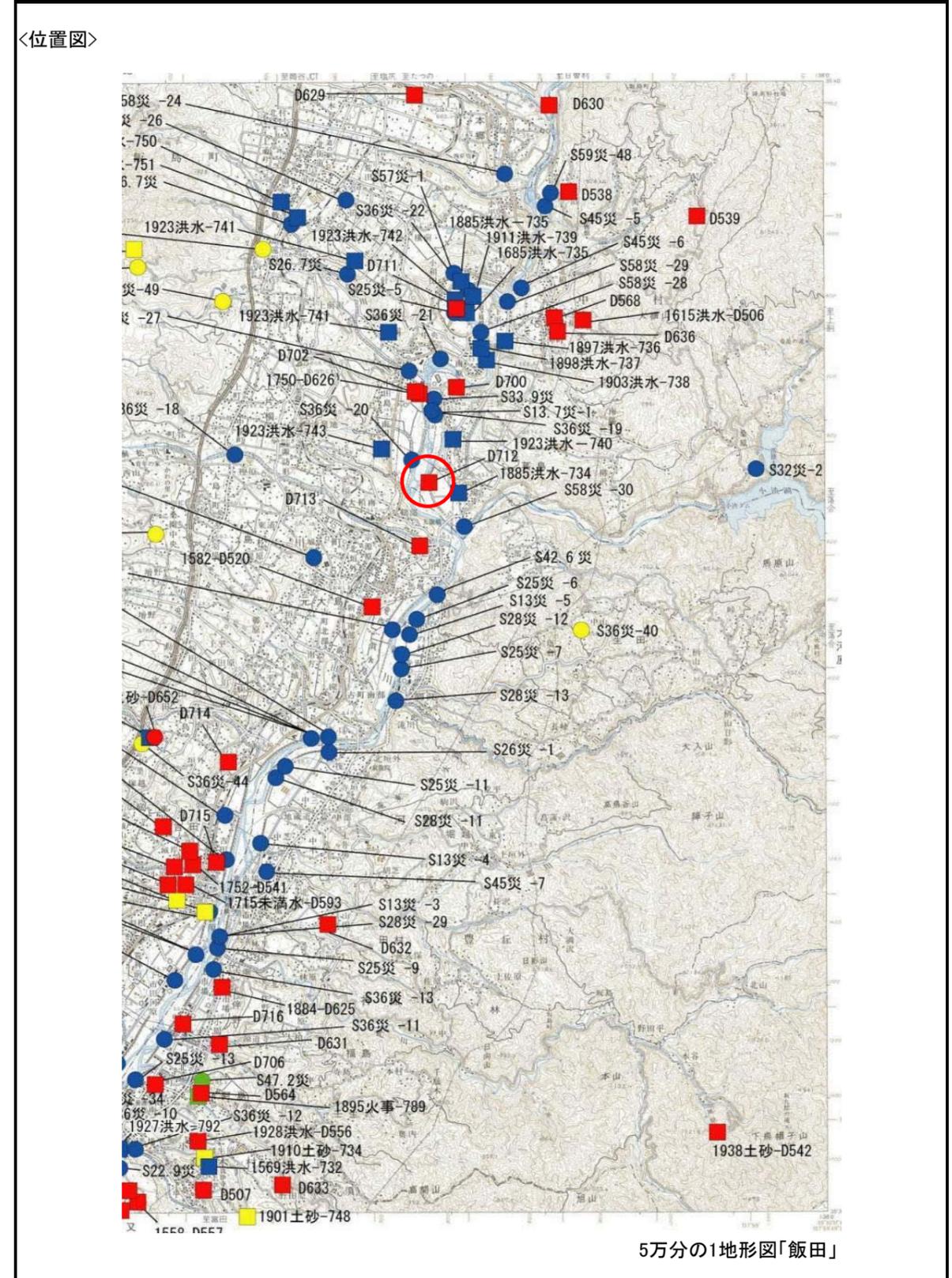
伝承名	戸隠山	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	中川村田島	地点番号	D702
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○戸隠山 「竜が刻まれ、戸隠山と刻られている。中川村田島天の中川橋下流右岸、理兵衛の功德碑「天流功業義公明」となっている。」	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	○戸隠山(天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.611)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	○九頭竜碑	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.611		



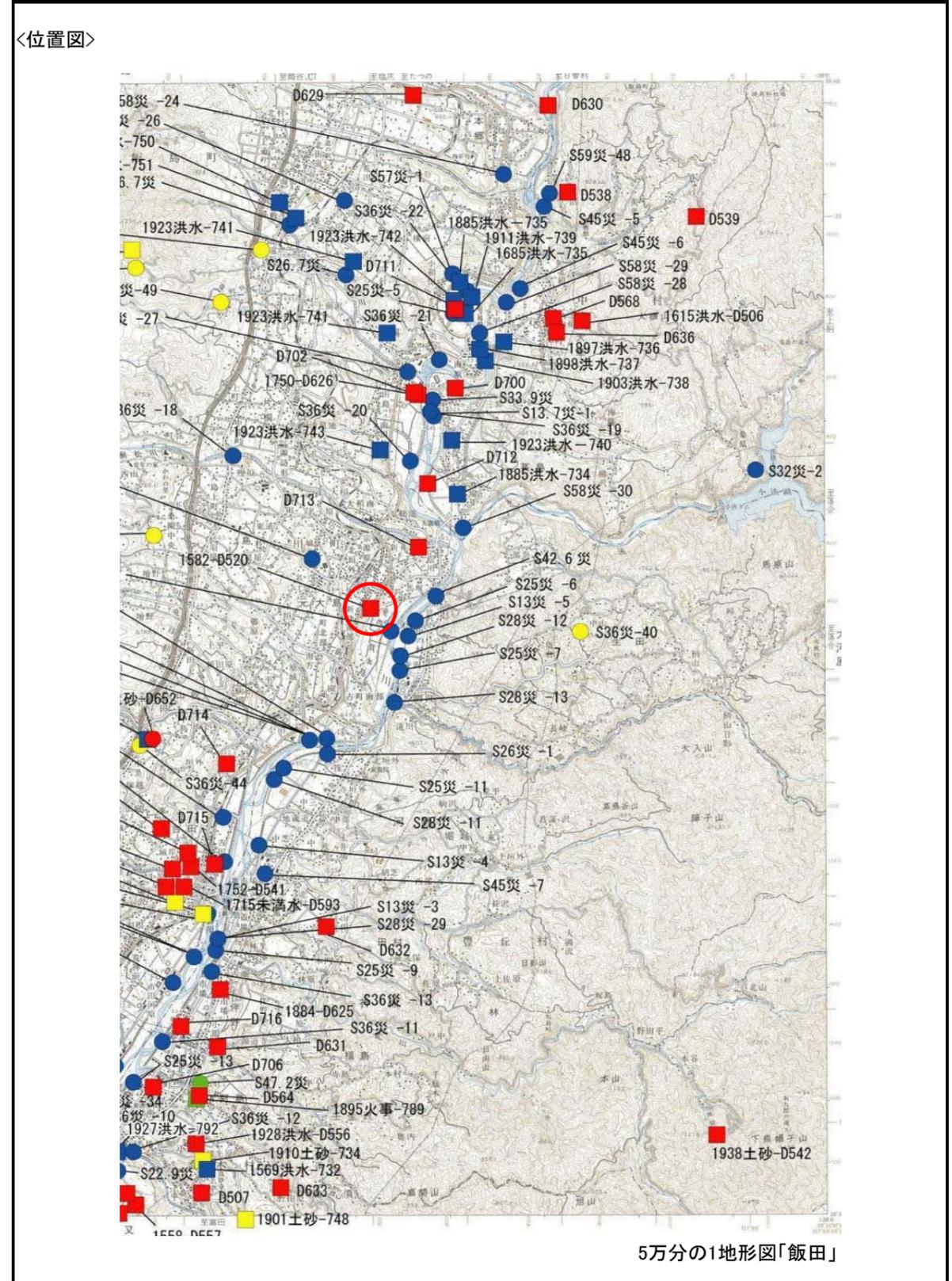
伝承名	36. 6洪水復興記念碑	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	中川村小和田	地点番号	D711
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	災害の事実・災害体験・得られた教訓	
	伝承の詳細	○36. 6洪水復興記念碑 「新宮川の氾濫により新宮川及び中沢の堤防は破堤し、この修復記念である。」	
	伝承内容	—	
伝承媒体	写真・映像	○36. 6洪水復興記念碑(天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.615)	
	石碑・記念碑	○災害記念碑 167K	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.615		



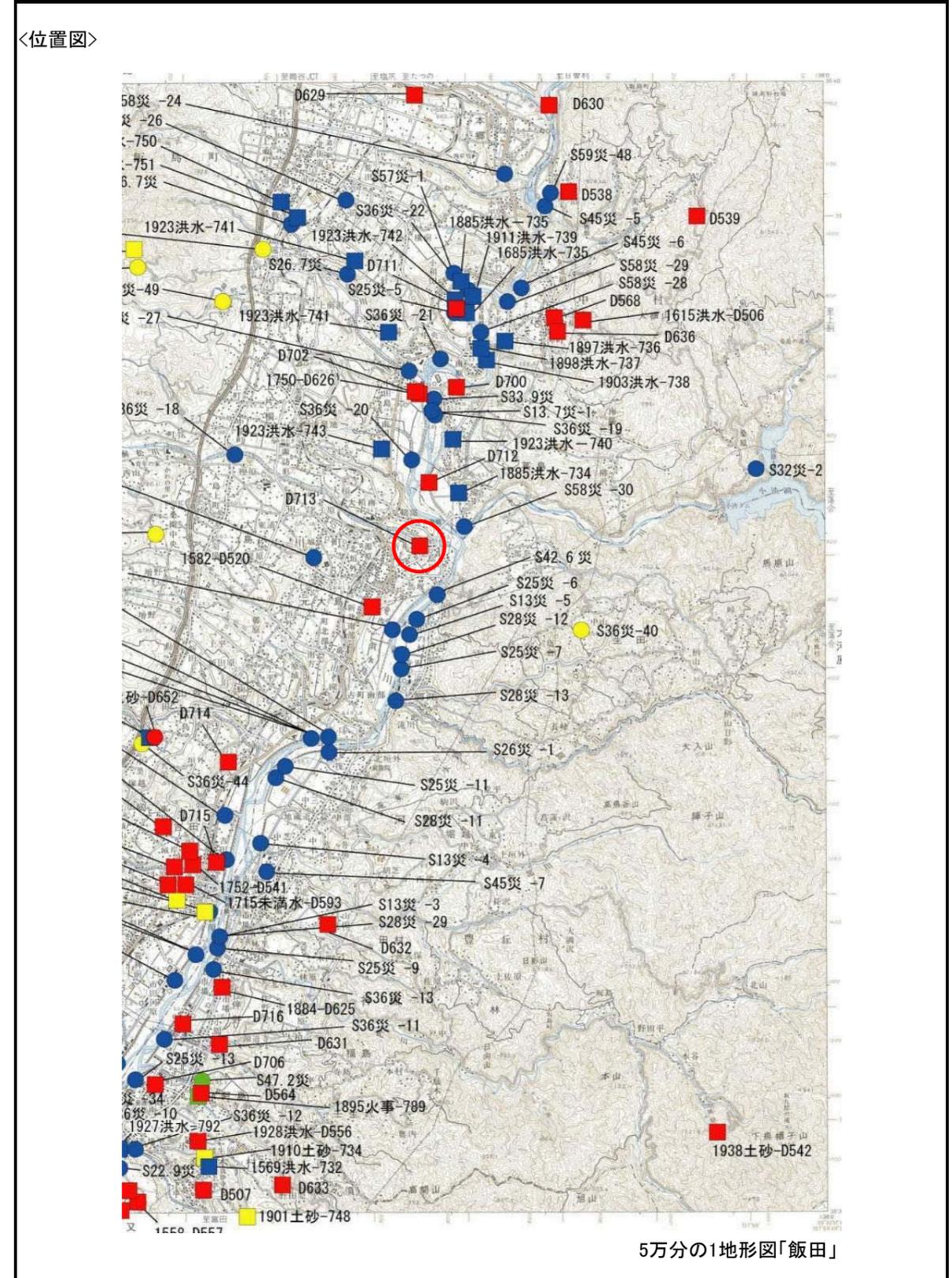
伝承名	下河原復興之碑	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	中川村渡場	地点番号	D712
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	災害の事実・災害体験・得られた教訓	
	伝承の詳細	○下河原復興之碑	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	○下河原復興之碑(天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.615)	
	石碑・記念碑	○災害記念碑 162.8K	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.615		



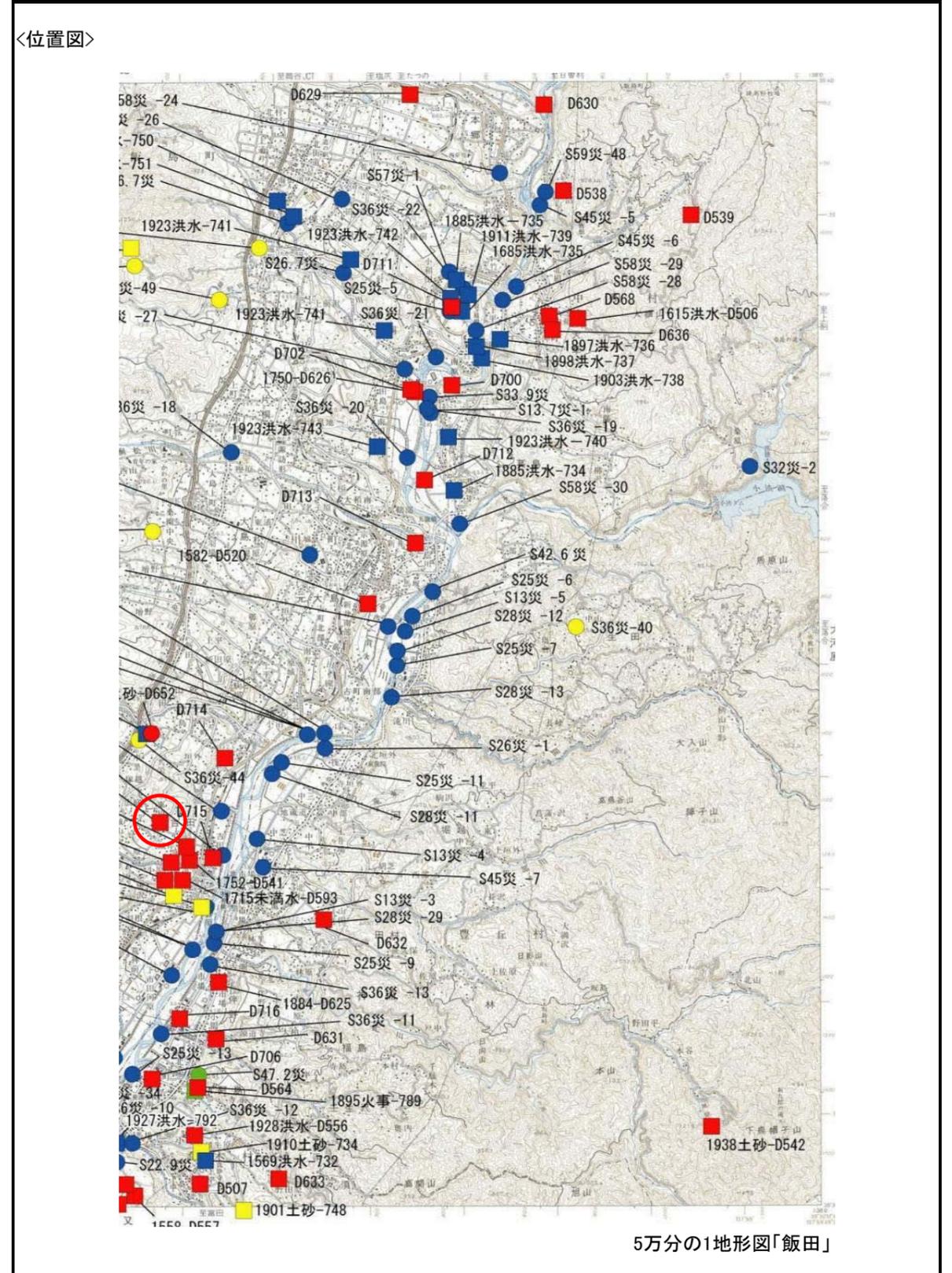
伝承名	大蛇が城	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	松川町元大島	地点番号	1582-D520
発祥年代	1582年3月～4月(天正十年二月)	関連する災害名称	ー
キーワード	○淵の主=大蛇(死亡) ○自然現象=大蛇の怒り・苦しみ		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○大蛇が城 「大蛇が城(大島城)の崖下にある天竜川の深い淵には大蛇が棲むという。雲ひとつない晴れた日の朝、淵の上より立ち昇る水気が霧の雨となって城に降りそそぐのを見る人たちは、大蛇の仕業だといって不吉の前兆でもあるように恐れていた。天正十年二月、織田信忠の大軍が火矢で城を攻めた時、火の手があがると不思議にも淵の水が雨となって消されてしまった。これは大蛇の仕業だと淵に無数の矢を射込むと、淵の面に大波が狂い起き、天地晦冥の大雷雨が起り、天竜川の水を真っ赤に染めて大蛇が淵の底深くに沈んでいった。そして城は焼かれ、落城した。今でも城跡の畑を掘りおこすと真っ黒い焼米が出てくるといふ。また一説に城兵が、城に向かって大蛇が吐く水煙を不吉に思い、射殺した。守護を失った城は間もなく敵に攻め落とされたともいふ。」	
伝承媒体	写真・映像	○大蛇が城下の淵 (http://www.matsukawatown.jp/kankou/meisyo/10.htm より)	
	石碑・記念碑	ー	
	水神碑・石仏	ー	
	神社仏閣・塚	ー	
	地名	○台が城(台が城には大蛇がすんでいたことがあり、大蛇が城とも言われている。大島村古町の南端にある。)	
	土木遺構等	ー	
	語り伝え等	ー	
	伝統芸能等	ー	
	祭り	ー	
	儀式	ー	
慣習・風習	ー		
参考文献	「伊那谷の伝説」pp.1-2. 「伊那の傳説」pp110-111.		



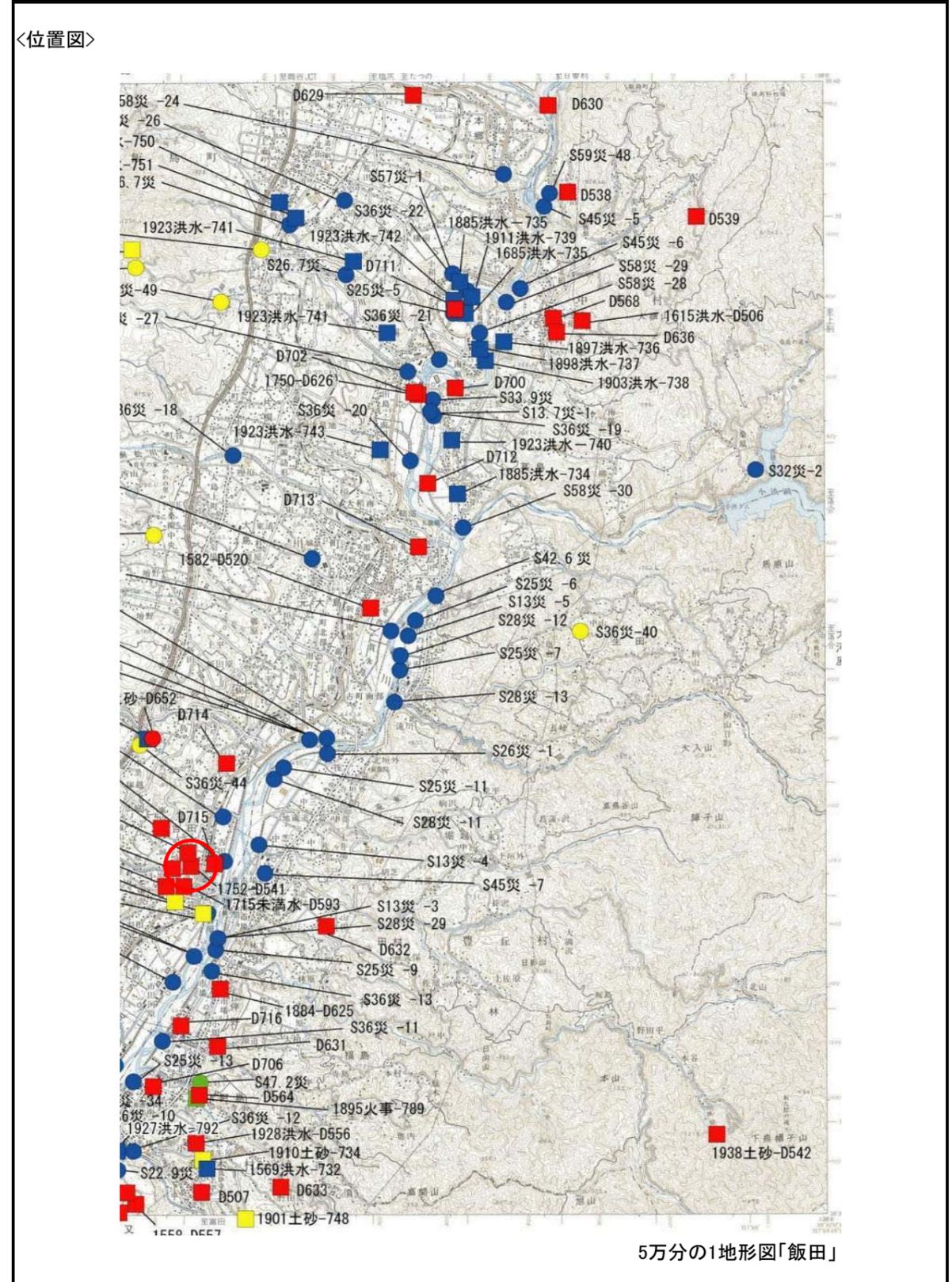
伝承名	元大島の記念碑	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	松川村元大島	地点番号	D713
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○元大島の記念碑	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	○元大島の記念碑(天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.615)	
	石碑・記念碑	○築堤記念碑 旧堤	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.615		



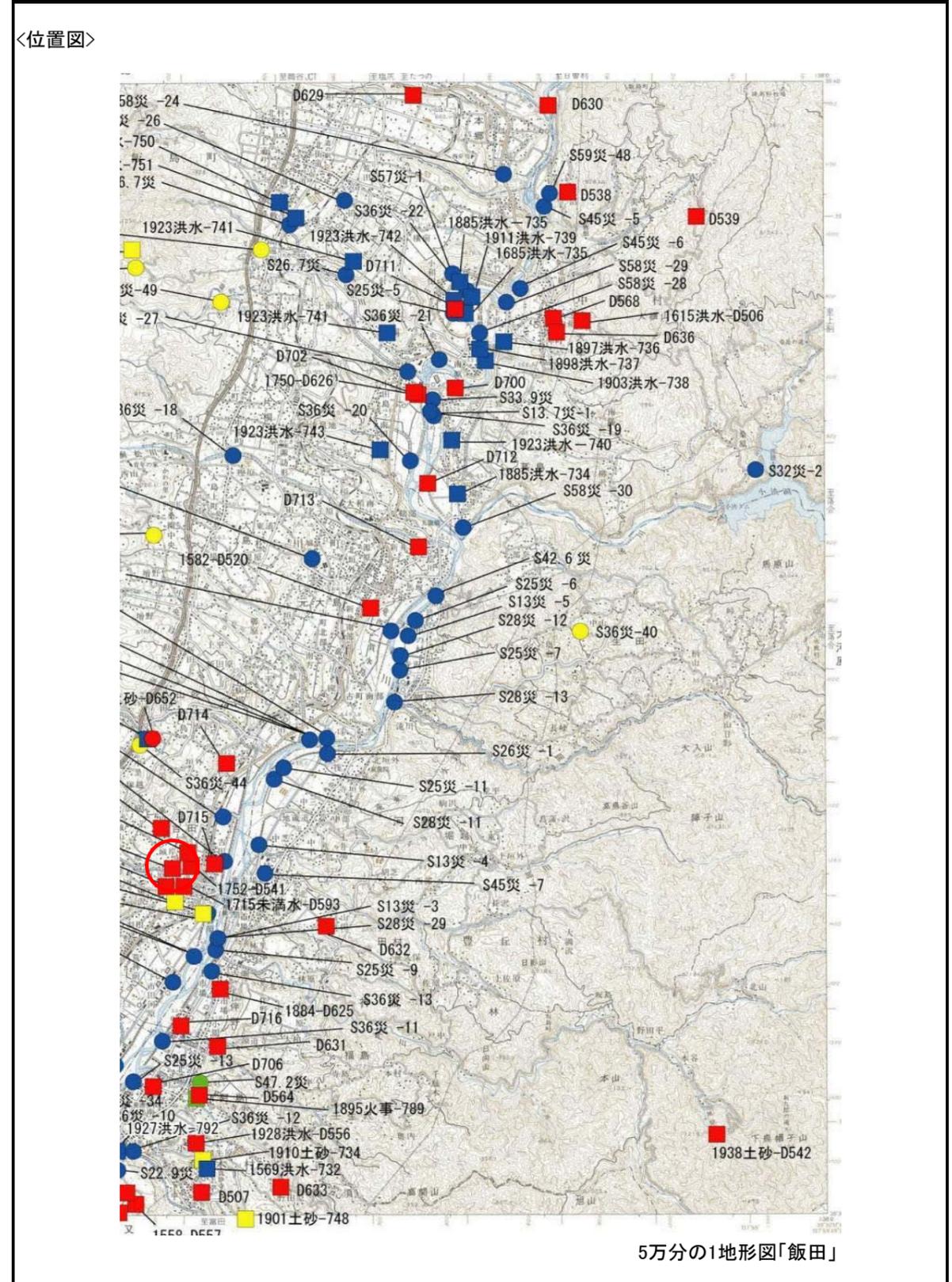
伝承名	竜の腹の皮を拾った話	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	高森町吉田	地点番号	1808風雨-D521
発祥年代	1808年9月15日(文化五年七月二十五日)	関連する災害名称	—
キーワード	○自然現象=鬮竜		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○竜の腹の皮を拾った話 「雷が激しく鳴り出し、山や林がゆれ動き、天は傾き地がさげんばかりの風雨の翌日、木という木はみんな折れて目も当てられないほどであった。吉田村(高森町吉田)の与市は竜の皮を拾い、隣の山吹村のものが山で同じようなものが落ちていたといった。大きさは五尺六寸四方ばかり、青白く光沢がありあわびみたいのもので、天にいた竜がたたかったときの腹の皮だという。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
	慣習・風習	—	
参考文献	「伊那谷の伝説」pp6-7. 「天竜川の災害伝説」pp.11-12.		



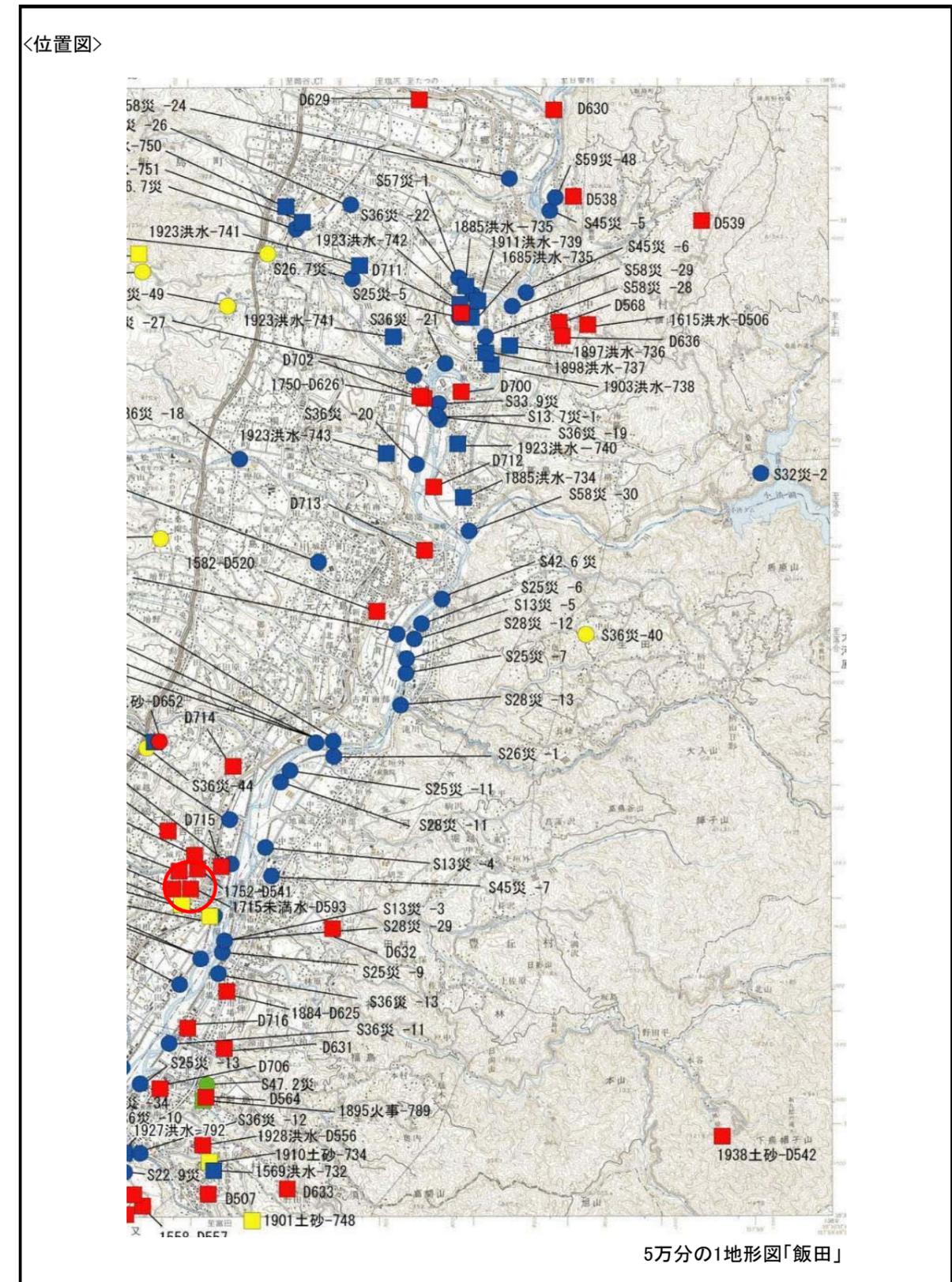
伝承名	惣兵衛堤防(大川除堤防)	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	高森町下市田出砂原	地点番号	1752-D541
発祥年代	1752年12月(宝暦二年十一月)	関連する災害名称	ー
キーワード	○水害に挑んだ人の姿と功績 ○人柱		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○惣兵衛堤防(大川除堤防) 「安政六年(1859)、旧堤に続いて下流へ延長六〇間の大川除接続堤防竣工。文久三年(1863)、大川除接続堤防修復工事を実施。元治元年五月(1864)、大川除堤・同接続堤防における天竜川洪水による欠潰修復工事(捨石のあらし込み)の開始。昭和9年3月(1934)、延長100mの惣兵衛堤防木工沈床入れ替え工事を竣工。昭和36年6月29日(1961)、午後五時半に惣兵衛堤防700mが決壊し、市田水田のおよそ8割が没した。」	
	伝承の内容		
伝承媒体	写真・映像	○市田村大河除絵図(1805年) ○下市田村水除堤絵図(180年、文化二年、下市田堤防区所蔵) ○惣兵衛堤防付近詳細旧図(長野県史蹟名勝天然記念物調査報告書より) ○下市田・産光寺・上郷用水路系統図(長野県史蹟名勝天然記念物調査報告書より)	
	石碑・記念碑	○惣兵衛の石碑(嘉永七年、堤上北端) ○惣兵衛の碑銘(嘉永七年、市田村 安養寺の香道和尚 による)	
	水神碑・石仏	ー	
	神社仏閣・塚	ー	
	地名	ー	
	土木遺構等	○下の亀甲石 ○上の亀甲石 ○禹余石、禹余堤 ○天伯森 ○分杭の跡 ○御小屋地 ○天竜井、間夫井	
	語り伝え等	ー	
	伝統芸能等	ー	
	祭り	○水天宮の碑祭り(4月10日)(堤防中部と用水路の間)	
	儀式	ー	
慣習・風習	ー		
参考文献	「語りつぐ天竜川(惣兵衛川除)」 「下伊那川たんけんブック」pp.66. 「下市田邑堤防之御銘」(寛政五年、堀親長 著、飯田市川島甫氏所蔵本) 「水に挑む農魂」pp.21. 「伊那 昭和三六年十月号」		



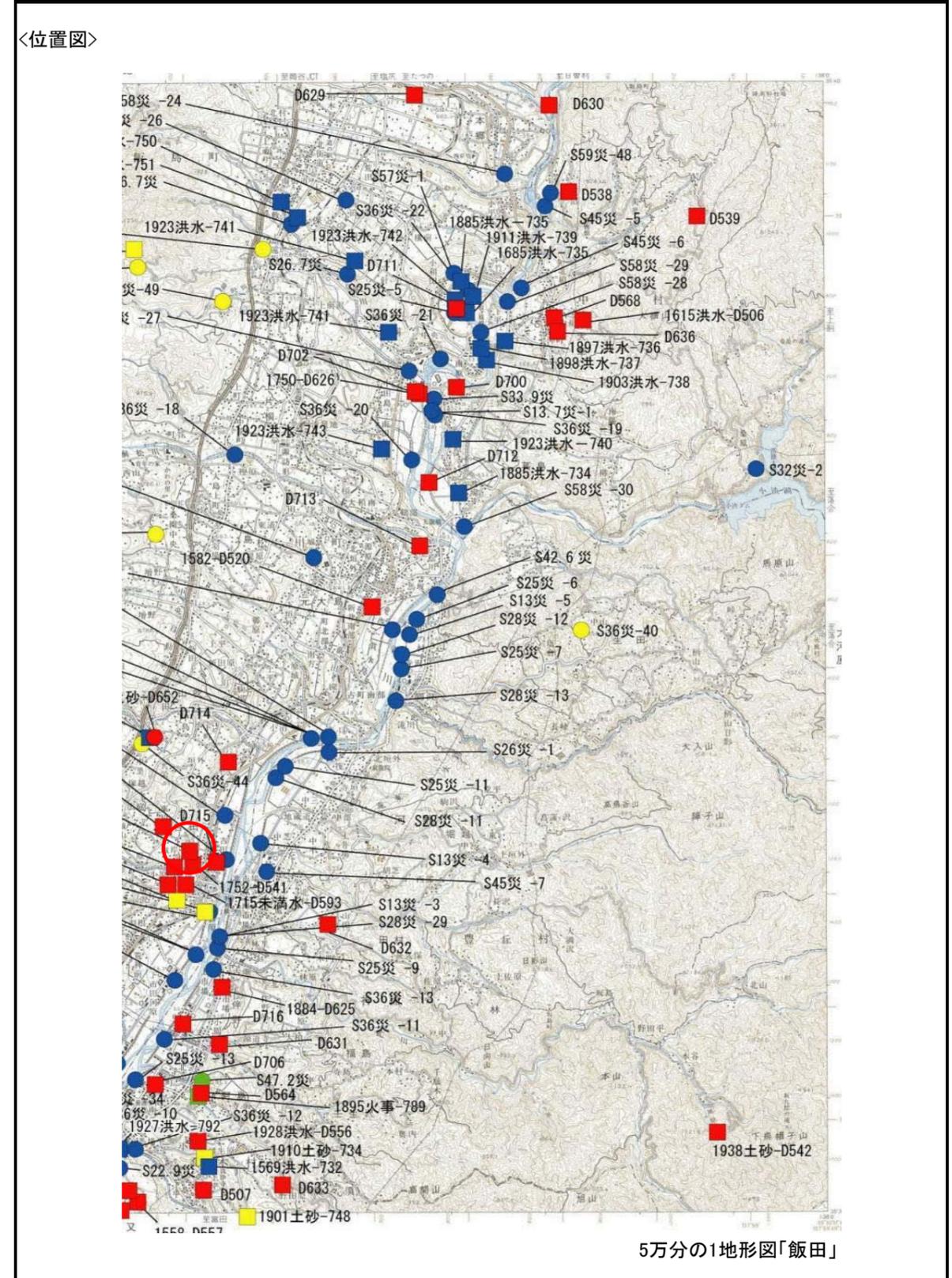
伝承名	前亡後死三界万霊の碑	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	高森町下市田出砂原	地点番号	1715未満水-D592
発祥年代	1715年7月18日(正徳五年六月十八日)	関連する災害名称	未満水
キーワード	○犠牲者への弔い		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○前亡後死三界万霊の碑 「正徳五年(1715)の未満水の時に流死した人の供養のため、市田村の古刹安養寺二世了溪(市田村羽生勝朗氏)が主唱となって建立した。安養寺の過去帳には、正徳五年六月十八日洪水、田島前沢より下は松川の間畑大損害人馬流死するもの多し、と記されている。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	○前亡後死三界万霊の碑	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川の災害伝説」pp.8.		



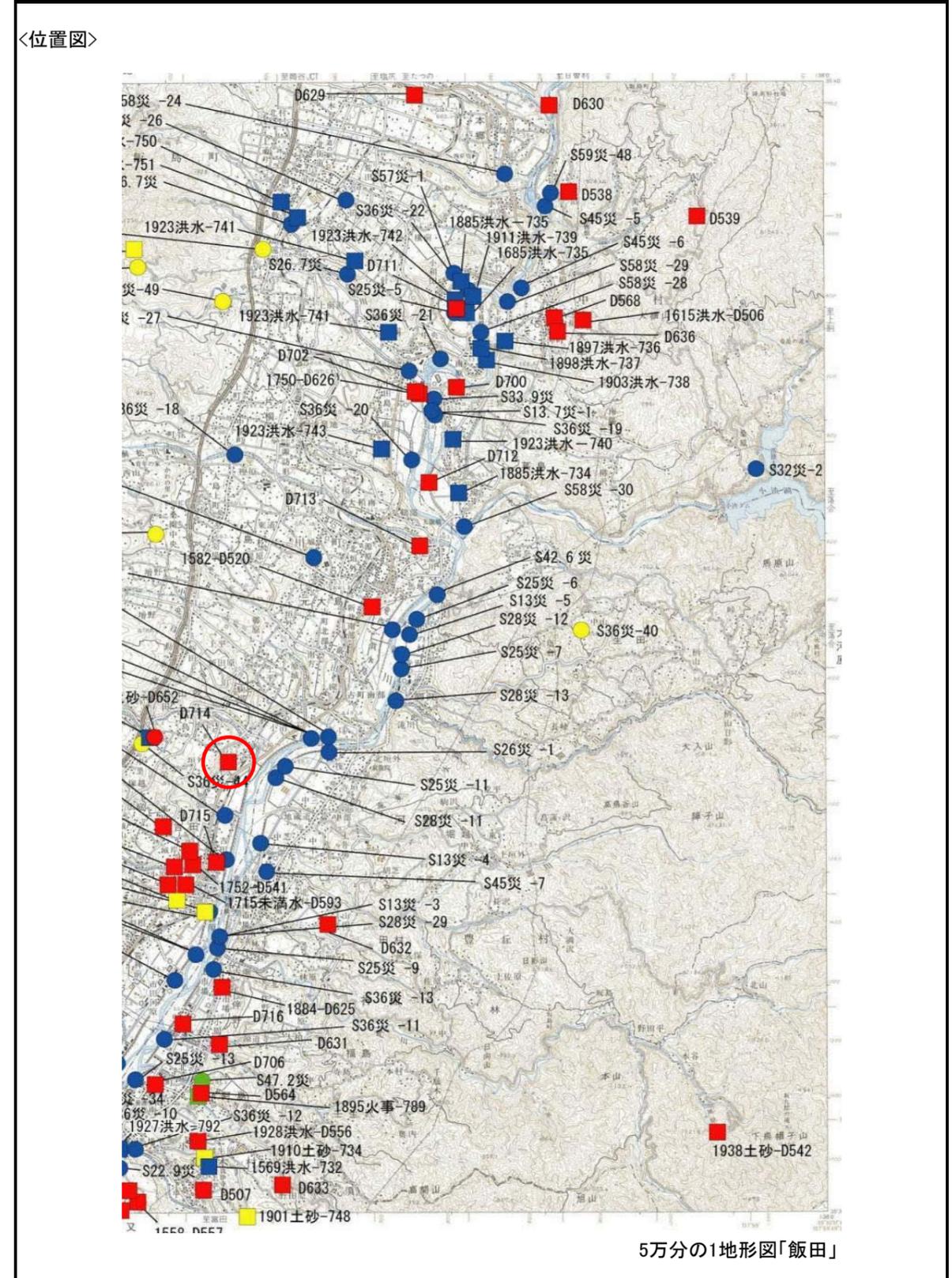
伝承名	出砂原(高森町)	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	高森町下市田出砂原	地点番号	1715未満水-D593
発祥年代	1715年7月18日(正徳五年六月十八日)	関連する災害名称	未満水
キーワード	○地名に託された災害伝承		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂)	
	伝承の詳細	○出砂原(高森町) 「正徳五年(1715)の未満水の時、大島山から天竜川に注いでいる大島川が満水となって土石流が発生し、大量の土砂が押し出されてきた。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○出砂原(正徳五年(1715)の未満水の際にできた土石流扇状地。)	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川の災害伝説」pp.8.		



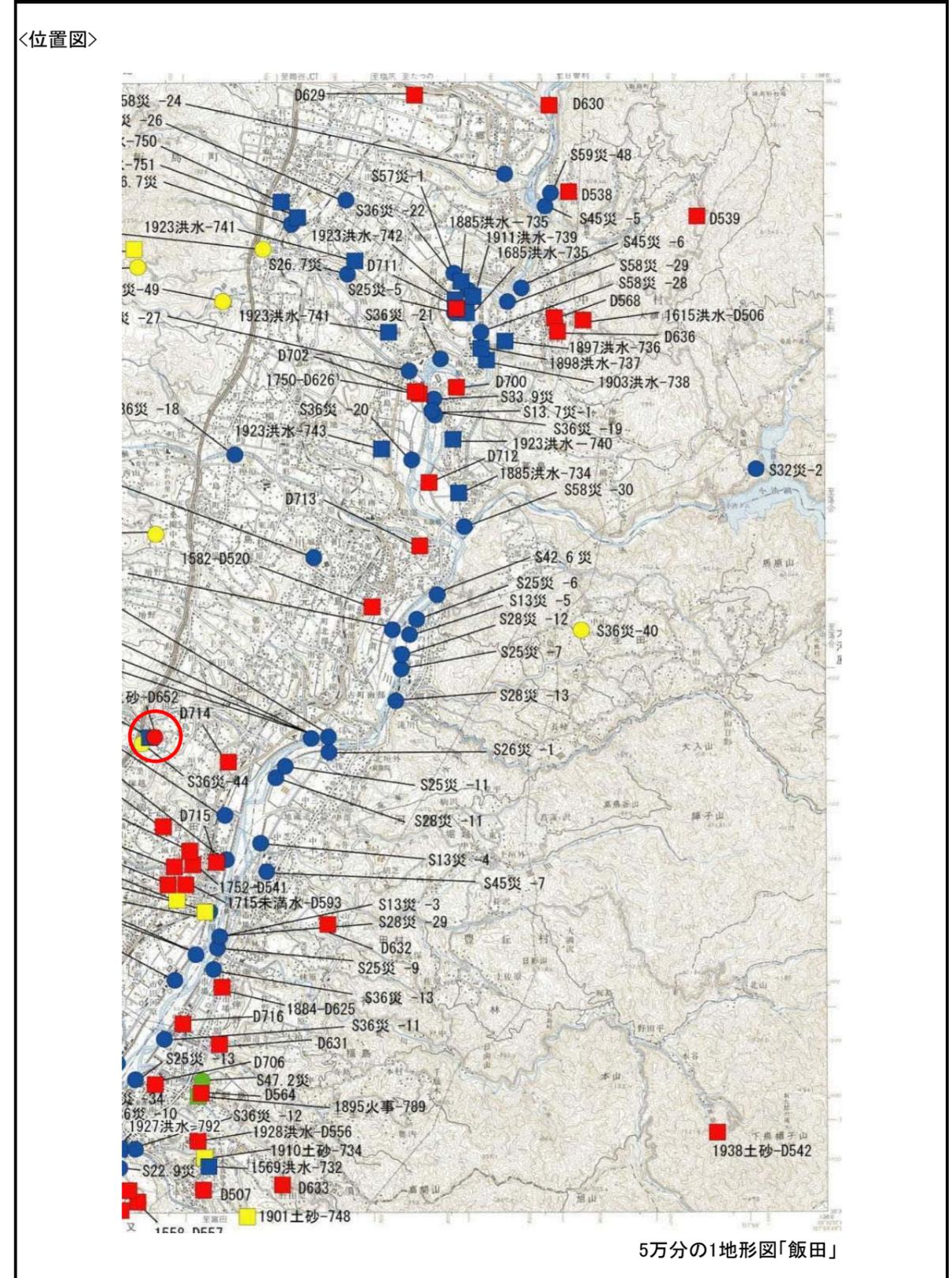
伝承名	夜泣き石	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	高森町下市田出砂原	地点番号	1715未満水-D552
発祥年代	1715年7月18日(正徳五年六月十八日)	関連する災害名称	未満水
キーワード	○災害がもたらした地物		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂)	
	伝承の詳細	○夜泣き石 「正徳五年未満水の時(1715)、大島川から運ばれたと伝えられている。」	
	伝承内容		
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○夜泣き石	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「下伊那川たんけんブック」pp.61.		



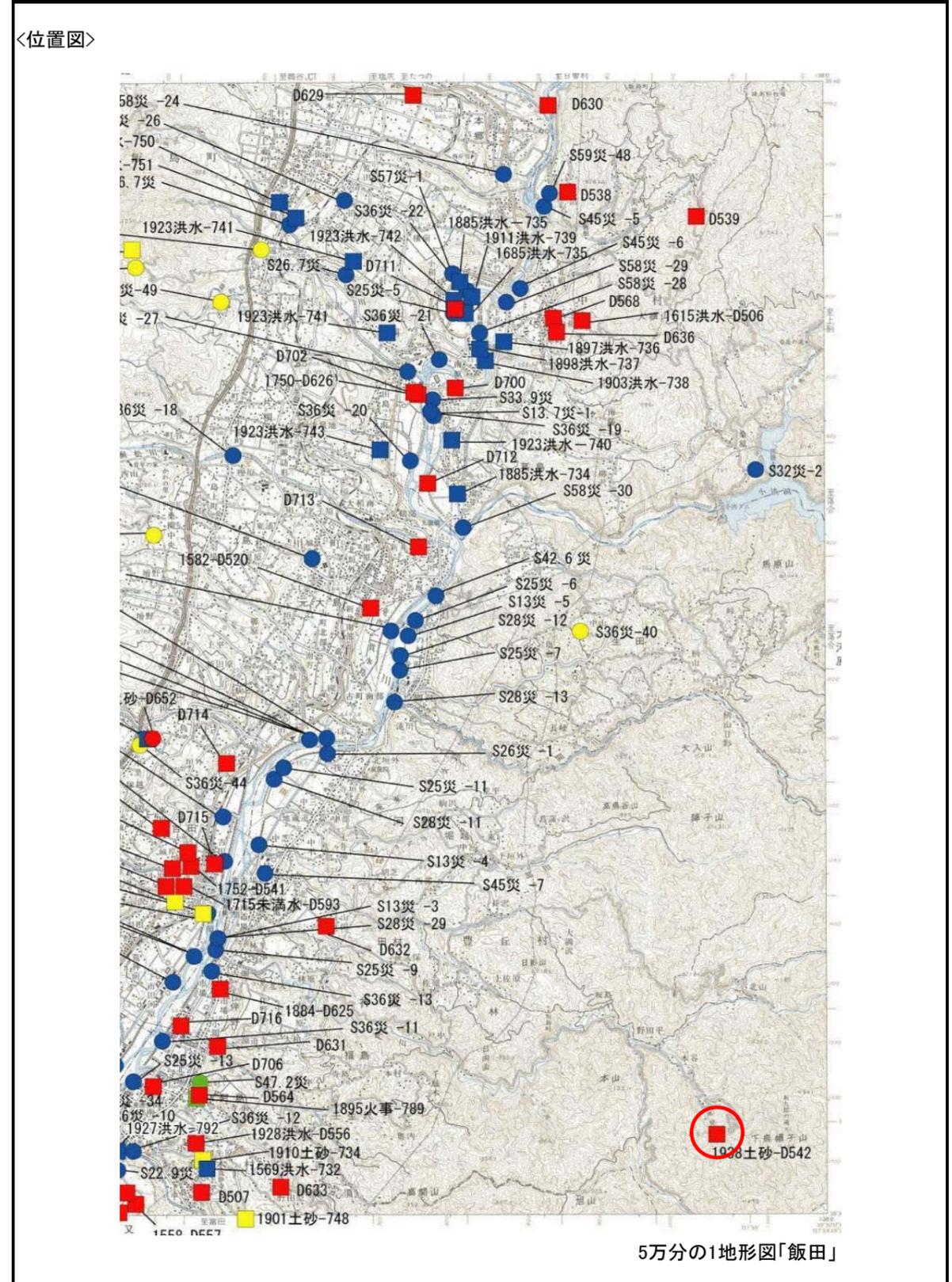
伝承名	山吹下平の記念碑	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	高森町山吹下平	地点番号	D714
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○山吹下平の記念碑	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	○山吹下平の記念碑(天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.616)	
	石碑・記念碑	○築堤記念碑	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.616		



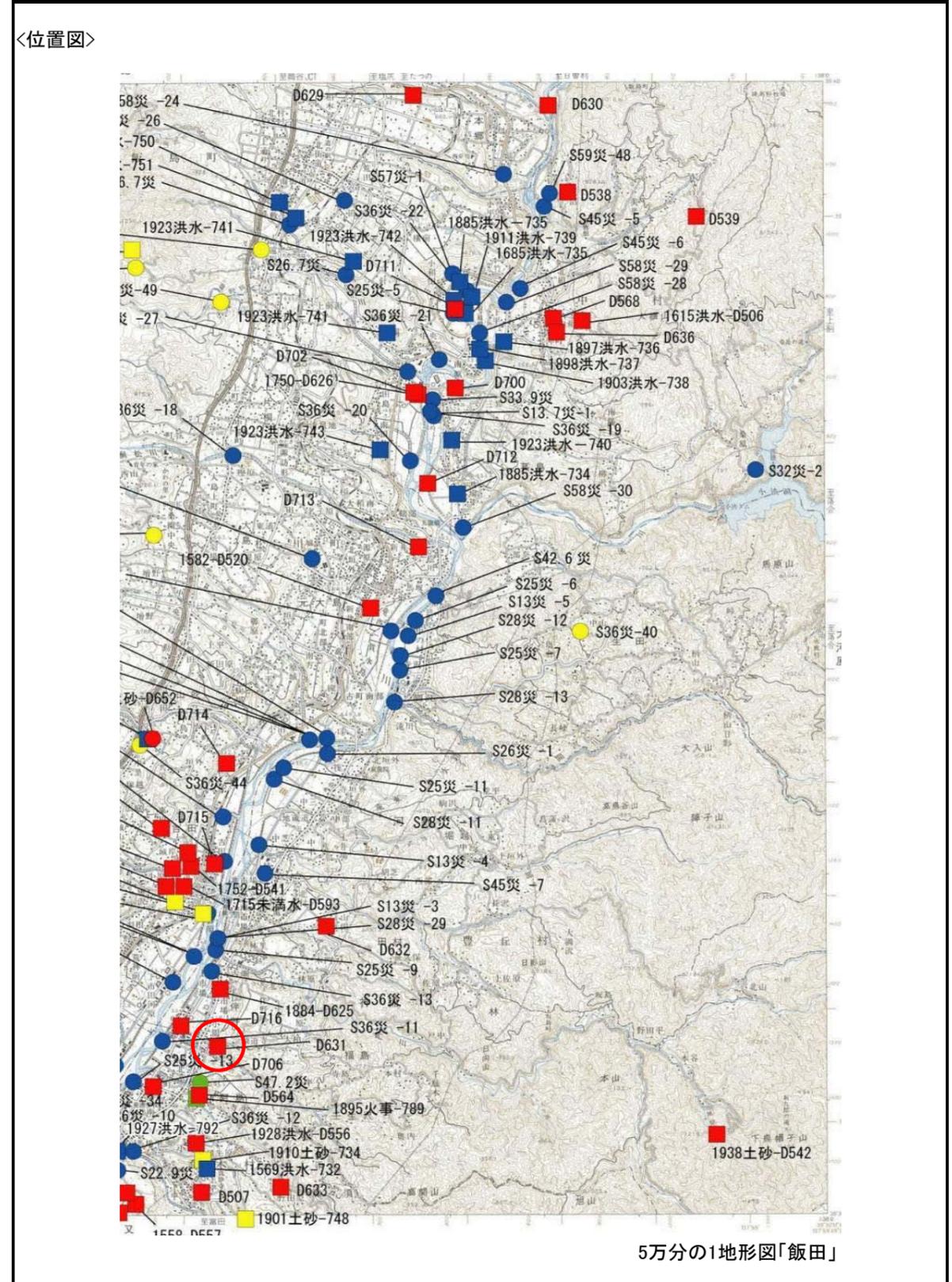
伝承名	恐怖の思い出、死とたたかった一夜(竹内貴代子)	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	高森町追分	地点番号	S36土砂-D652
発祥年代	1961年6月27日(昭和36年6月27日)	関連する災害名称	—
キーワード	○土砂災害の恐怖		
教訓・伝承事例	伝承内容	災害の事実・災害体験・得られた教訓	
	伝承の詳細	○恐怖の思い出、死とたたかった一夜(竹内貴代子) 「高森町未曾有の災害となった田沢川追分の土石流で濁流にのまれながらも九死に一生を得た時の様子が語られている。」	
	伝承内容		
伝承媒体	伝承の詳細		
	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
儀式	—		
慣習・風習	—		
参考文献	「高盛町史下巻」PP.1006-1007.		



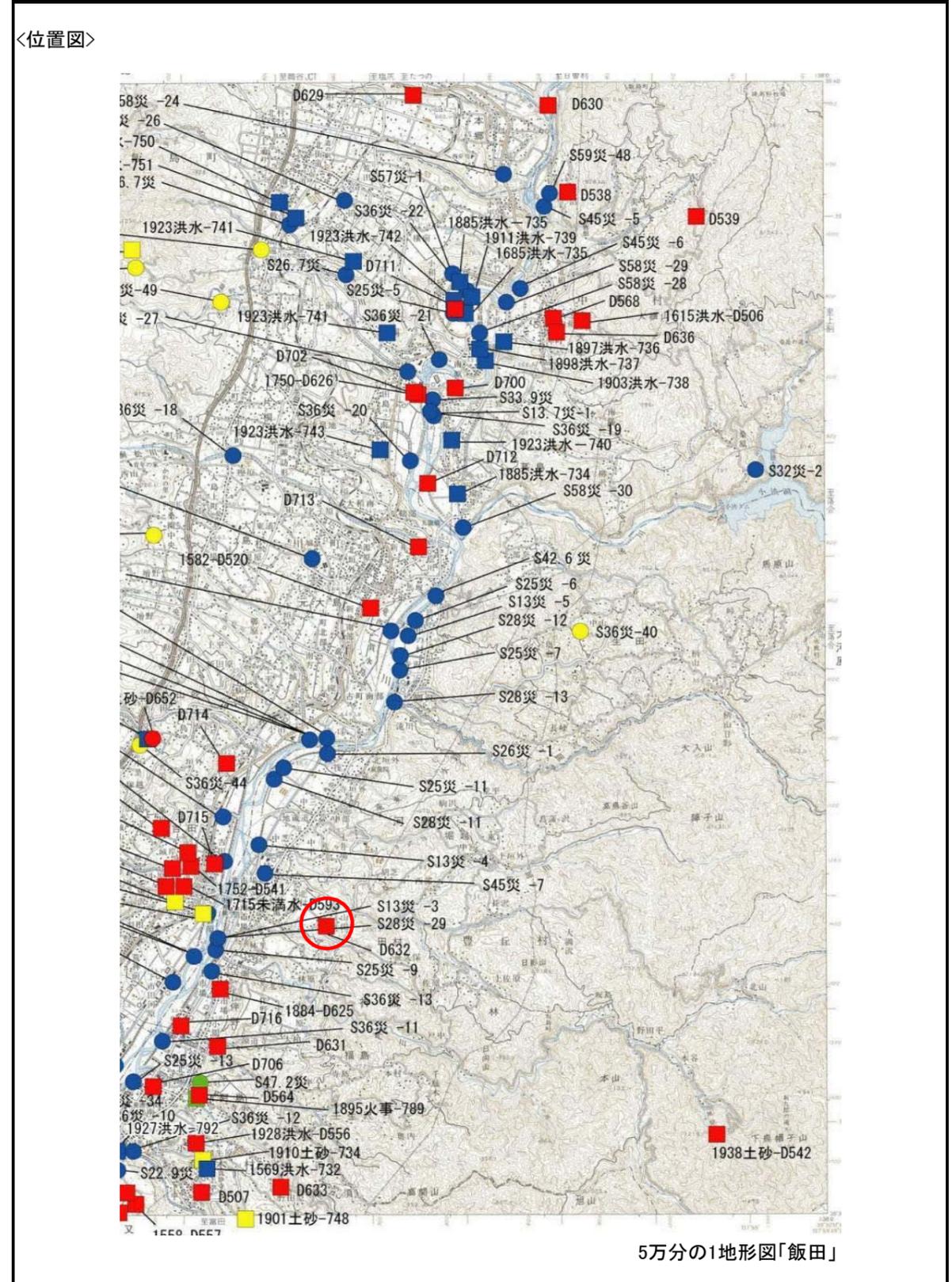
伝承名	山抜けで埋まった湯場	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	豊丘村神稲	地点番号	1938 土砂-D542
発祥年代	1938年4月27日(昭和13年4月27日)	関連する災害名称	
キーワード	○災害によって消滅した地物		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂)	
	伝承の詳細	○山抜けで埋まった湯場 「昭和13年の雲ひとつない晴れた4月27日午前11時頃のこと、ものすごい大音響で烏帽子の北側の山裾が山抜けをした。そして午後1時頃、今度は南側の山麓が山抜けをした。この山抜けで地獄谷の、あなだつ(岩にあいた穴)を少し下ったところにある湯場が埋まってしまった。この湯場は、岩の間から硫黄の湯の花が噴き出ている腫物によく効くといわれており、ずっと昔は獣たちの治療場でもあった。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「豊丘村民話集 第二集」pp.28.		



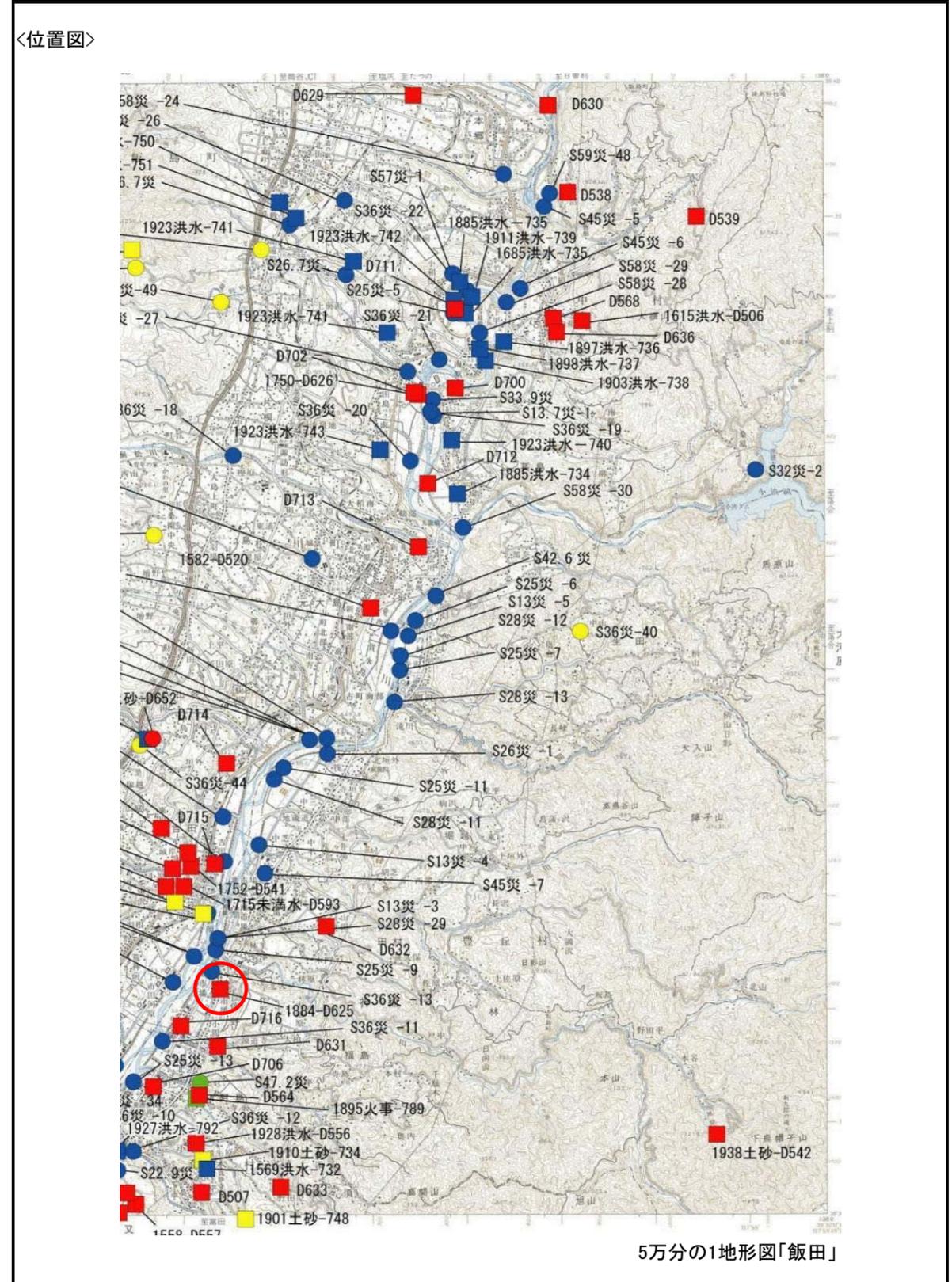
伝承名	地蔵沢	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	豊丘村小園	地点番号	D631
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○災害がもたらした地物		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○地蔵沢 「ある年、小園を流れる小川が氾濫し一面を荒らしまわった。水がひいたある朝、水番の爺さんが半身を泥の中に埋めたお地蔵様を河原で見つけた。もったいないことと大勢で担ぎ上げ、小さいお堂を建てて祀った。(地蔵堂)これ以来その地を地蔵沢というようになったという。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	○地蔵堂	
	地名	○地蔵沢	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
	慣習・風習	—	
参考文献	「豊丘村誌上巻」pp.703.		



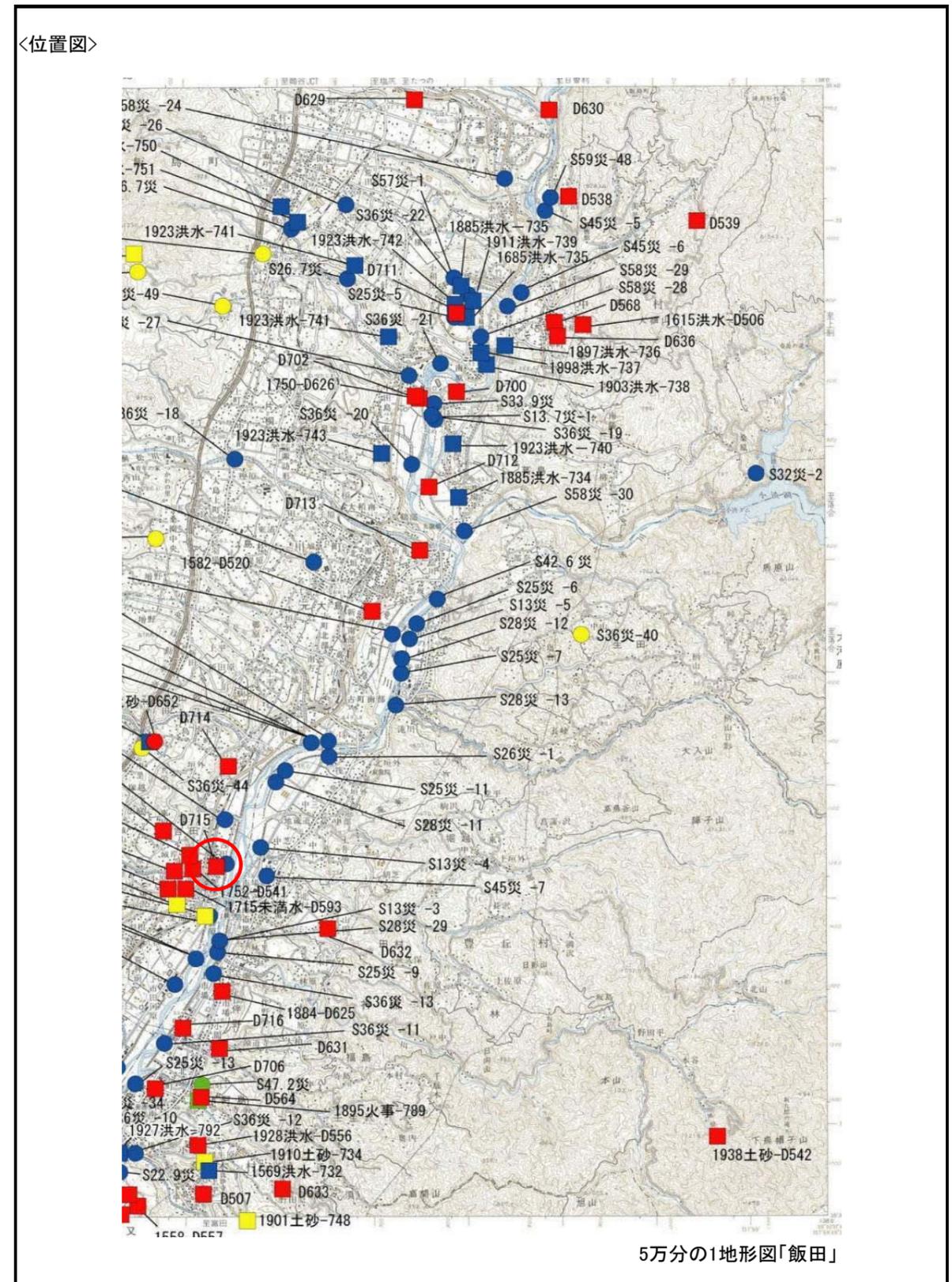
伝承名	明神様の瀬分け鎌	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	豊丘村田村	地点番号	D632
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○自然をコントロールしようとする人々の意思が語られている伝説 (類似伝説) ・諏訪宮のなぎがま(飯田市上村)		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○明神様の瀬分け鎌 「大昔、天竜川に大水が出て瀬が代わると田村の新田は押し流されてしまうということで、大水がでると村中の人々が明神様をお祭りして、神様から瀬分け鎌をいただき、大勢の若連中がこの鎌を持って裸になり、天竜川へ入って瀬分け鎌を引くとたちまちに瀬が代わって村が助かったという。この明神様と池野氏の八幡様と合わせ祀ることになって現在の諏訪神社に移った。」	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	○諏訪神社の瀬分け鎌(明神様)	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「豊丘村誌上巻」pp.711-712.		



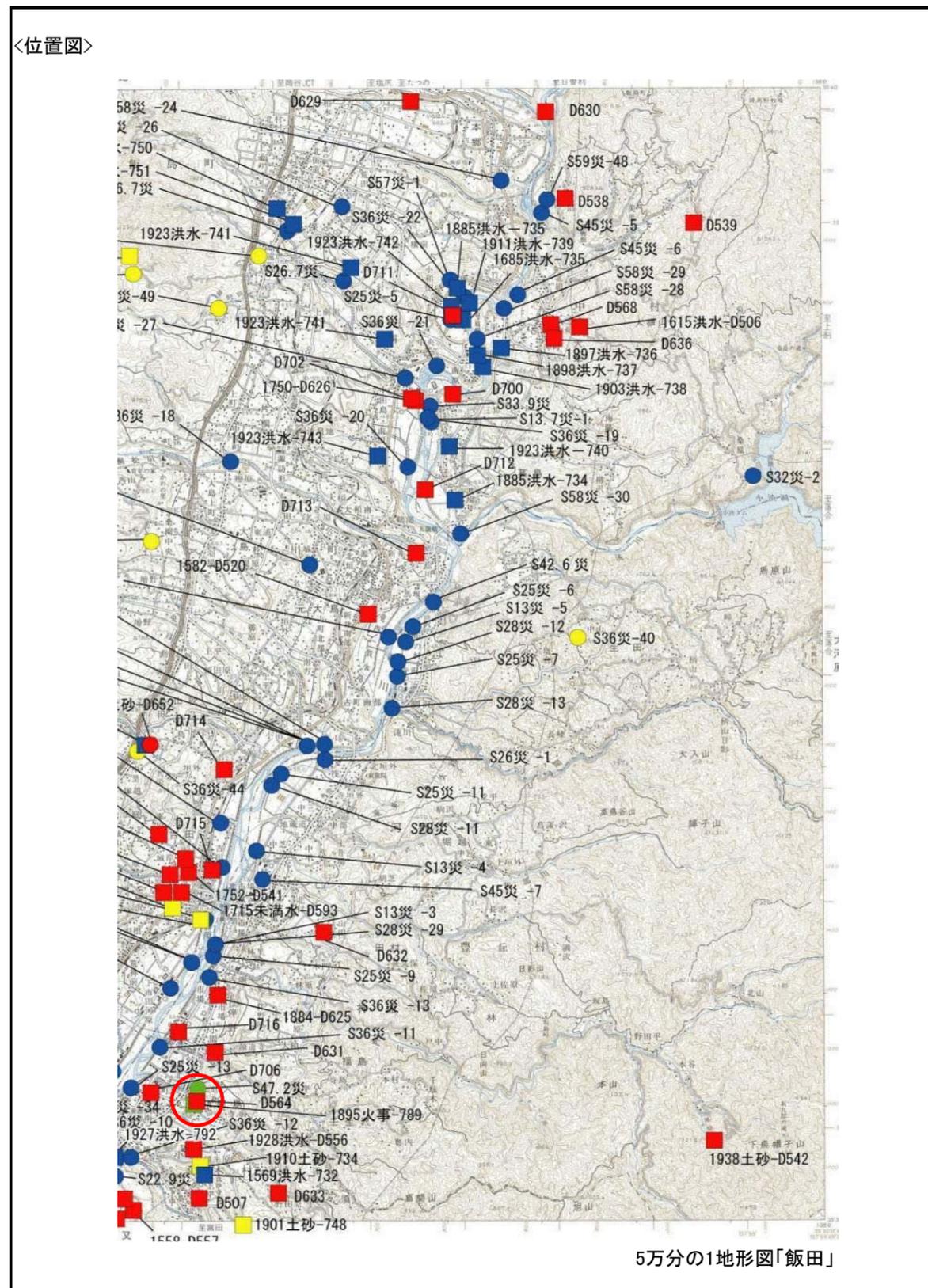
伝承名	開墾堤防(他1編)		1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	豊丘村伴野		地点番号	1884-D625
発祥年代	1884年(明治17年2月21日)	関連する災害名称	—	
キーワード	○水害に挑んだ人の姿と功績			
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木		
	伝承の詳細	<p>○開墾堤防 「松尾千振が伴野を洪水から護り良田に開墾するため、開墾組を結成し、明治17年2月21日に堤防工事を開始した。工事は天竜川の洪水に阻まれて至難を極めたが、明治19年5月に一の芻起点から三百余間の築堤が完成した。しかしその年は長雨の影響で天竜川が氾濫し、すぐさま堤防が決壊してしまった。その後諦めることなく、小西虎之助の考案した木工沈床という工法を取入れて工事を再開した。明治33年、一の芻起点から阿島境に至る石提九百間が完成し、美田三十七町歩を開いた。」</p>		
	伝承内容	治水・土木		
	伝承の詳細	<p>○開墾堤防の碑 「明治35年5月、16年に及ぶ堤防工事の苦難と松尾千振の功績を讃え、一の芻起点の堤防上に建立された。」</p>		
伝承媒体	写真・映像	○開墾堤防(語りつぐ天竜川(紙芝居開墾堤防))		
	石碑・記念碑	○開墾彰功碑		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	—		
	土木遺構等	—		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
	祭り	—		
	儀式	—		
慣習・風習	—			
参考文献	「語りつぐ天竜川(紙芝居開墾堤防)」			



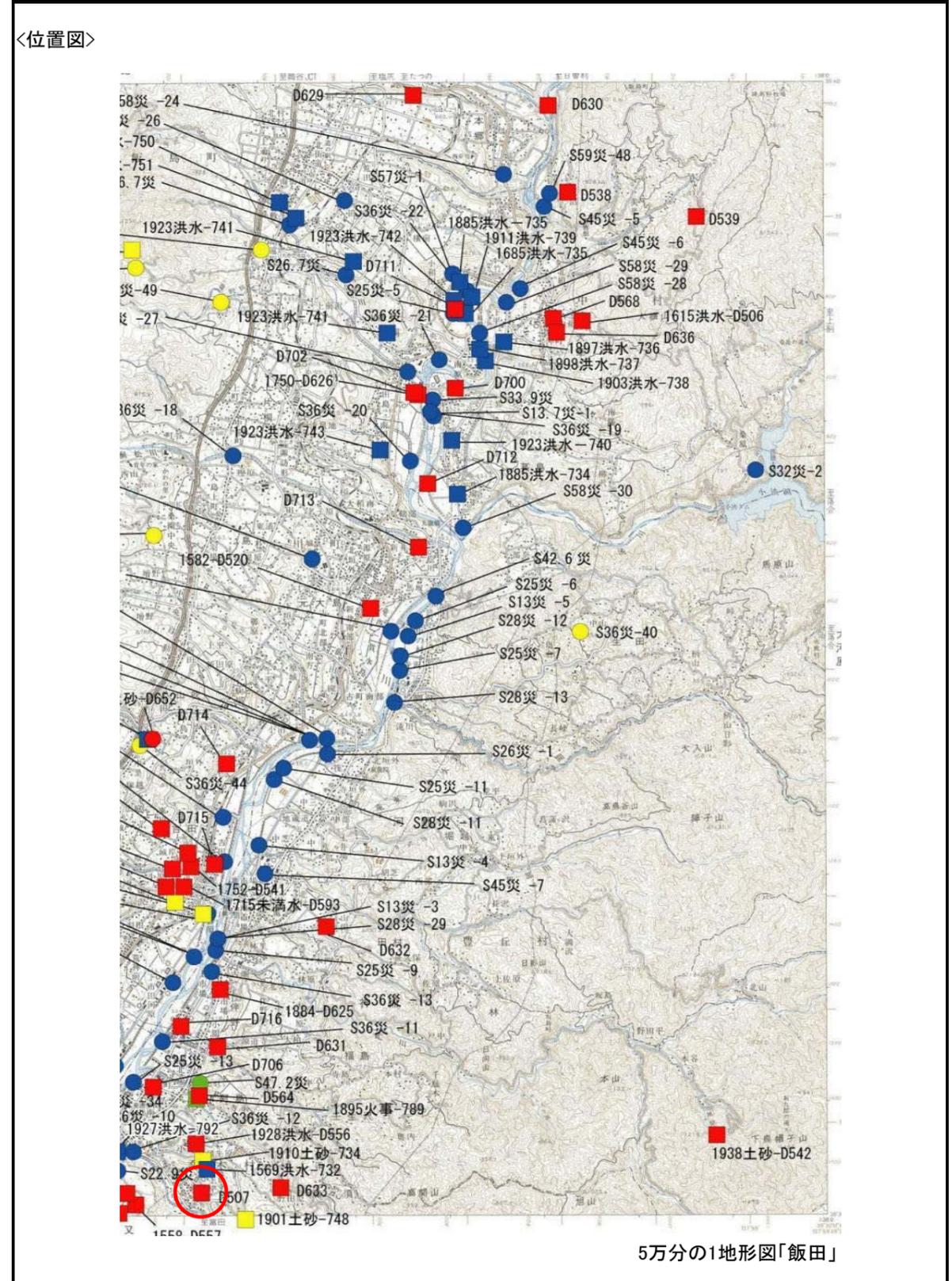
伝承名	柿開土の記念碑		1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	豊丘村柿開土		地点番号	D715
発祥年代	—		関連する災害名称	—
キーワード	—			
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木		
	伝承の詳細	○柿開土の記念碑		
	伝承内容	—		
	伝承の詳細	—		
伝承媒体	写真・映像	○柿開土の記念碑(天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.616)		
	石碑・記念碑	○築堤記念碑 154K		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	—		
	土木遺構等	—		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
	祭り	—		
	儀式	—		
慣習・風習	—			
参考文献	「天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.616			



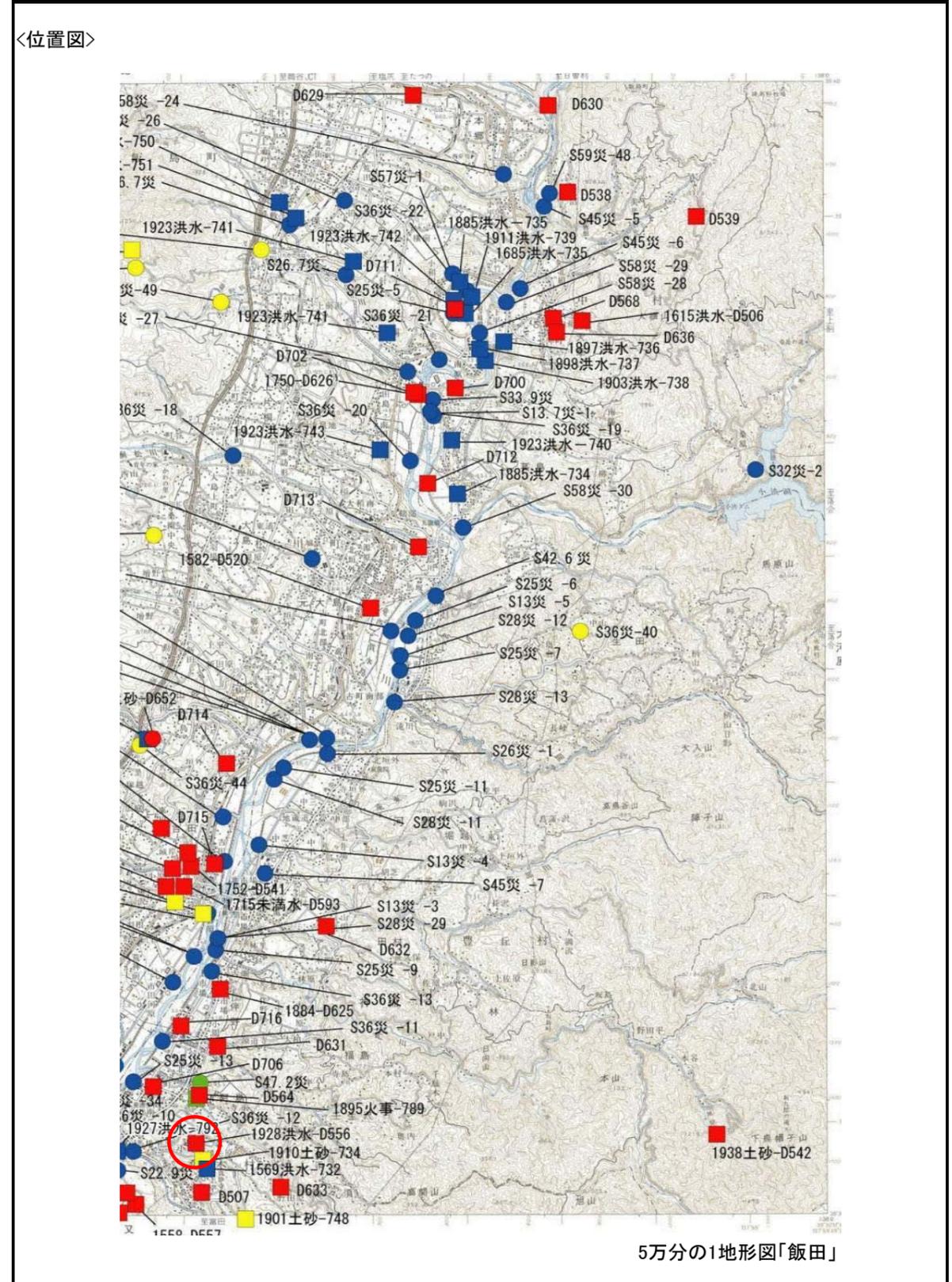
伝承名	喬木村のことわざ		1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	喬木村		地点番号	D564
発祥年代	—		関連する災害名称	—
キーワード	—			
教訓・伝承事例	伝承内容	ことわざ		
	伝承の詳細	(喬木村のことわざ) ○描が頭越しに耳をかくと雨 ○池の鯉がはねると近いうちに雨 ○権現山の頭が見えるうちは雨は降って来ない ○蛇が木に登ると雨 ○夕方子供がさわぐと雨 ○赤とんぼがたくさん飛ぶのは雨が近い ○山が近く見える時は雨 ○黄色い朝焼けは天気、赤い朝焼けは雨		
	伝承内容	—		
	伝承の詳細	—		
伝承媒体	写真・映像	—		
	石碑・記念碑	—		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	—		
	土木遺構等	—		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
	祭り	—		
	儀式	—		
	慣習・風習	○喬木村のことわざ		
参考文献	「喬木村誌下巻」pp.807-808.			



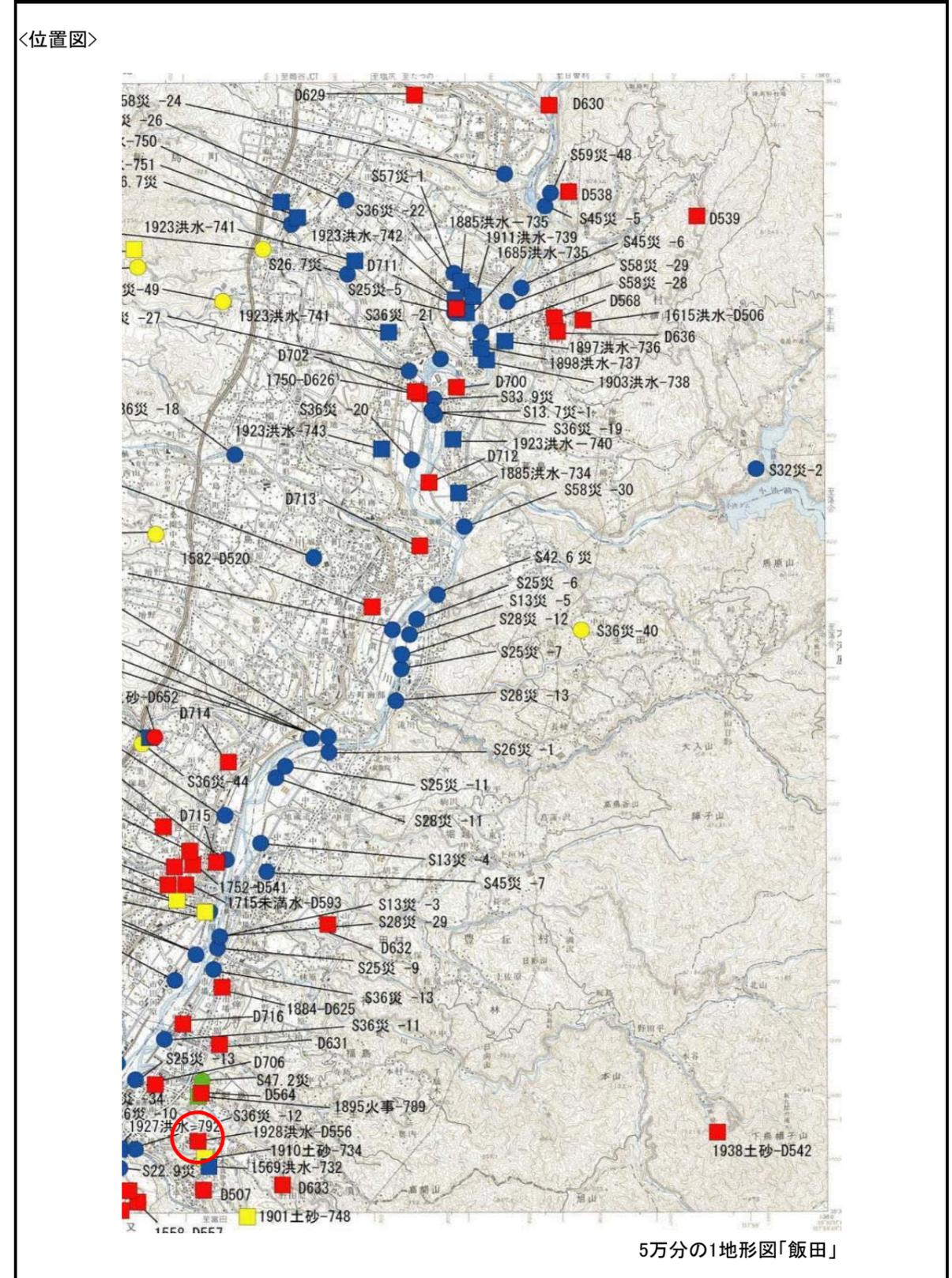
伝承名	九十九谷の伝説(他1編)	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	喬木村小川	地点番号	D507
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○谷の主=鬼(移動) ○山崩れ=鬼の出現		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂)	
	伝承の詳細	○九十九谷の伝説 「九十九谷がまだ百谷あった頃、その谷底に鬼が住んでいた。ある年の大荒れで一谷が埋まり九十九谷となった時、鬼は逃げ出して三里西山の市田村の大島へとびこした。その拍子に石の上に手をついた。その時の手の跡が深く石に残り、その窪みの中にたえず溜まっている雨水をいぼにつけると奇妙にも治るといふ。九十九谷を百と数えたら最後、鬼が出るか蛇が出るか、村中はふみ荒されてしまうと云うので、二本の指を一本折っていつでも九十九と数えねばならない。(喬木村史談会 喬木村の伝説)」	
	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂)	
	伝承の詳細	○小川川の濁り水 「少しでも雨が降ると濁った水が流れていた。雨が降ると九十九谷が崩壊して、谷川の水を堰ぎとめそこに水がたまと堰が崩れて出水となったり、濁った水が流れるようになり、下流で鯉を飼っている農家でその水を使うと鯉が死に、生産が激減して困ったと云う。(古老の語り)」	
伝承媒体	写真・映像	○九十九谷崩壊の一部「九十九谷」口絵写真(昭和2年撮影)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「九十九谷」pp.6-7.28.37.45.123.127.170-182.		



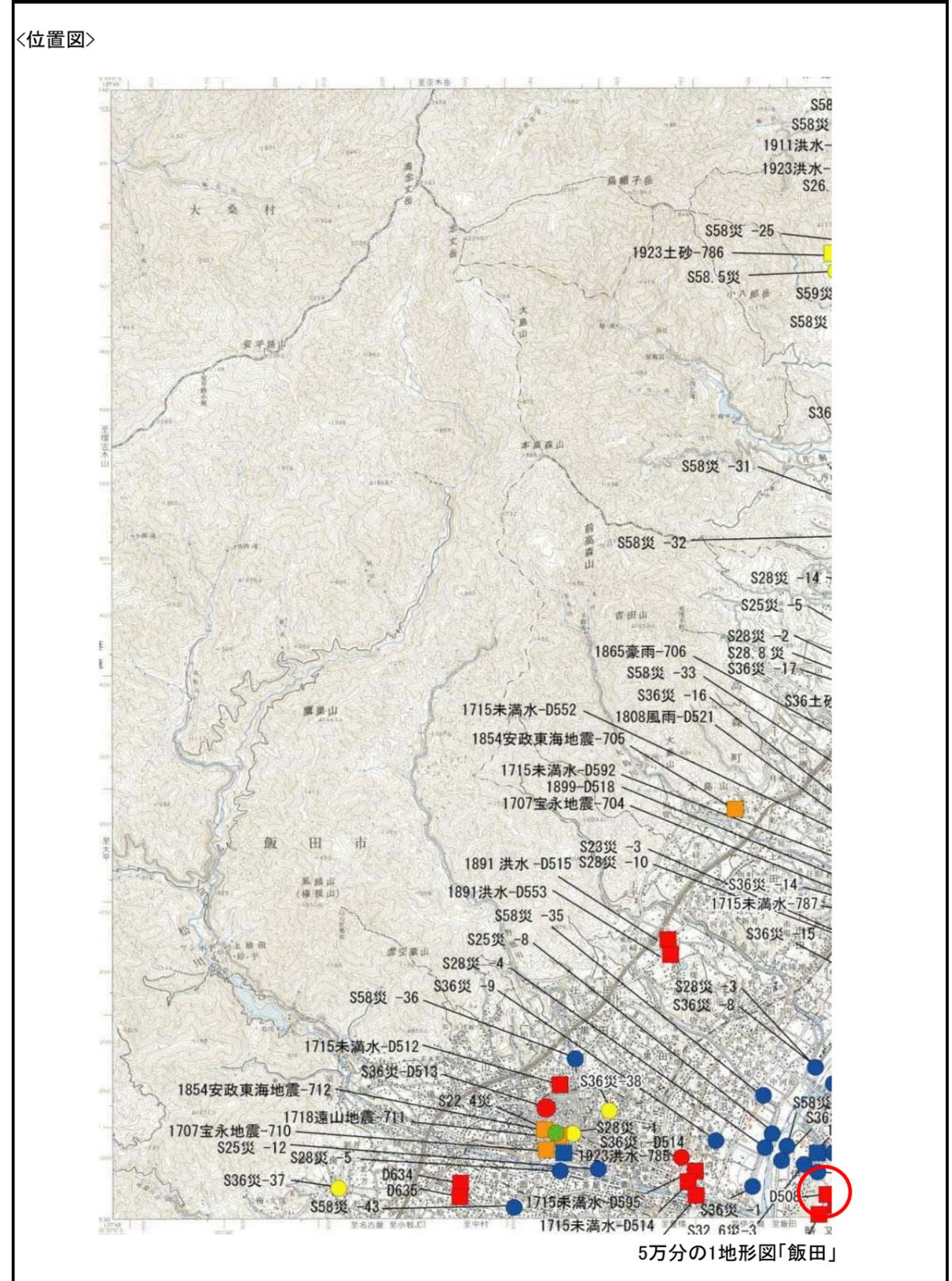
伝承名	九十九谷治山事業・塩沢砂防組合(他1編)	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	喬木村小川	地点番号	1928洪水-D556
発祥年代	1928年9月(昭和3年9月)	関連する災害名称	—
キーワード	○災害に挑む人々の姿 ○官民一体の治山事業 ○砂防事業の効果事例		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○九十九谷治山事業・塩沢砂防組合 「昭和3年9月(1928)、九十九谷の復旧を帰して塩沢砂防組合が発足された。山腹工事が広い面積にわたって完工されていくのに伴い付随しておこる雨水等への被害対処に苦心した。」	
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○九十九谷生育の木材による大聖牛 「九十九谷の砂防事業により緑化した資源が、昭和25年の洪水時に九十九谷から流下する土砂のせき止めや道路保護のために作った大聖牛の材料となり効を奏した。」	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○九十九谷生育の木材による大聖牛	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「九十九谷」pp.6-7.28.37.45.123.127.170-182.		



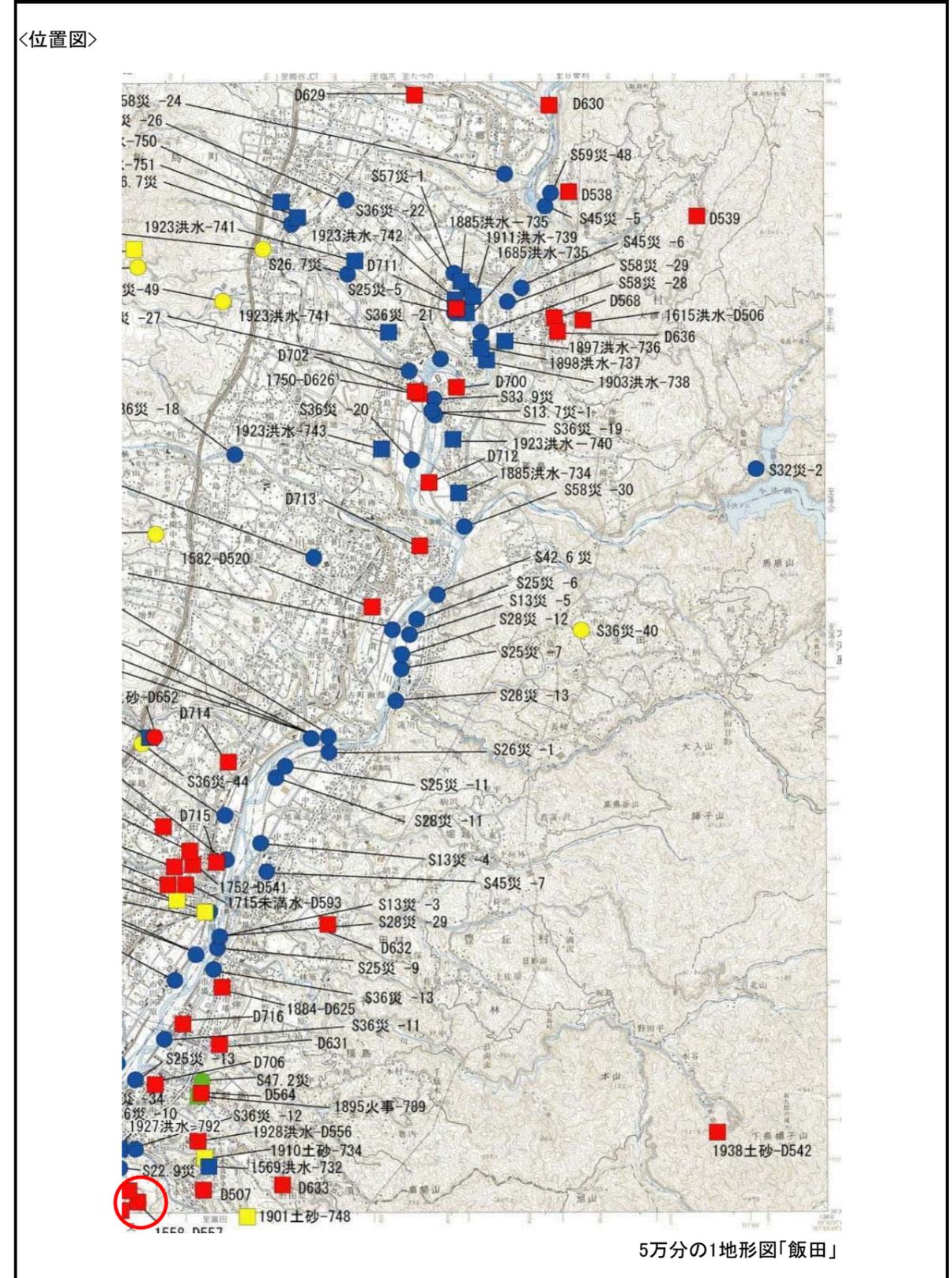
伝承名	九十九谷	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	喬木村小川	地点番号	1928洪水-D556
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○災害に挑む人々の姿 ○官民一体の治山事業 ○砂防事業の効果事例		
教訓・伝承事例	伝承内容	文芸・民謡・詩	
	伝承の詳細	○九十九谷 「村人が命をかけし谷々に萌えづる春の光さしたり 断層を削る作業に取り組みし人らの偉業永久に亡びざらむ 冬の月は暮るるに早し谷々は雪に埋みて 夕昏らみたり(村沢武夫)」	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「九十九谷」pp.6-7.28.37.45.123.127.170-182.		



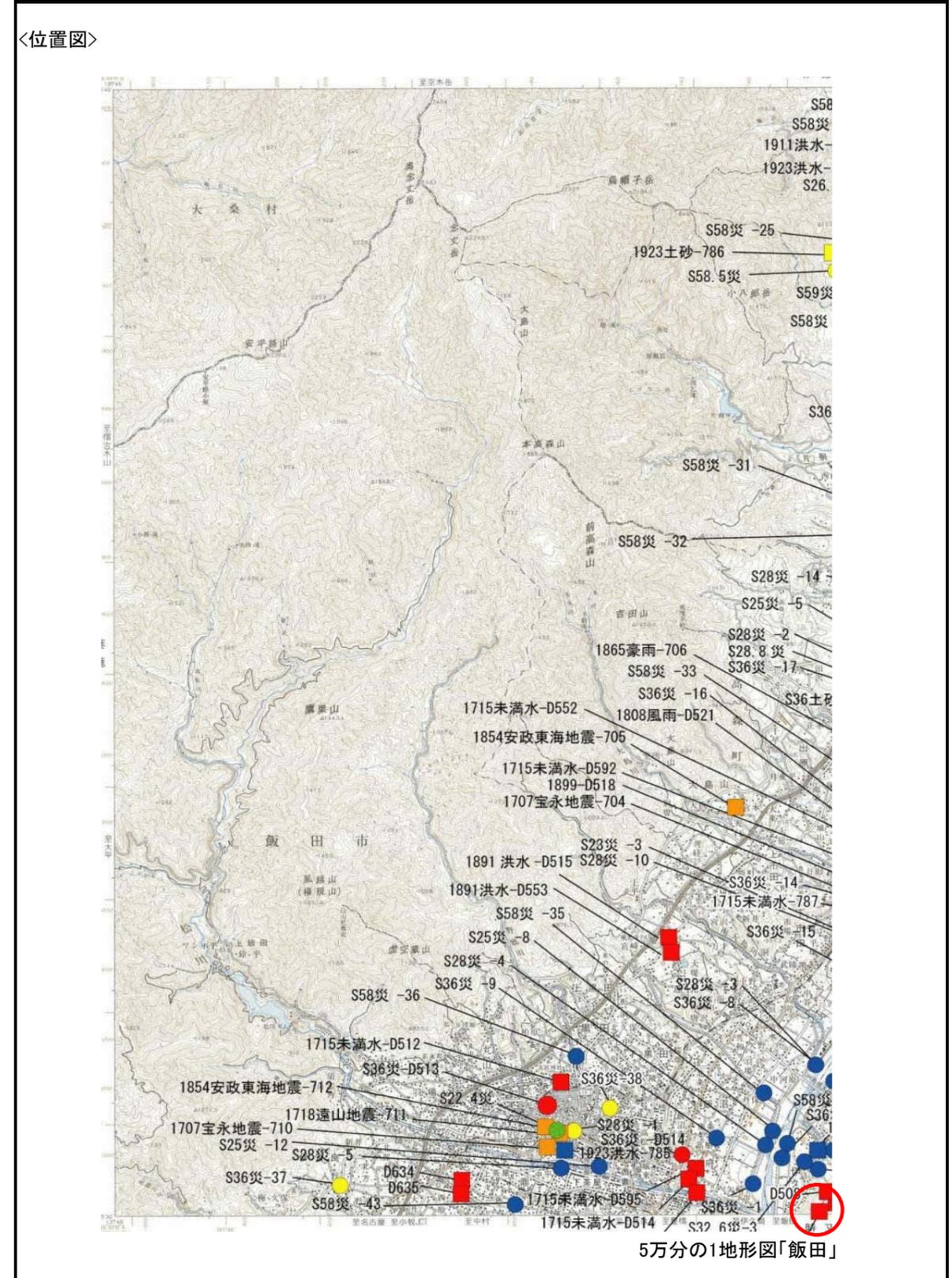
伝承名	伊久間水除土手(掘割)	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	喬木村伊久間	地点番号	D508
発祥年代	中世末期	関連する災害名称	—
キーワード	○災害に対する人の知恵の継承		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○伊久間水除土手(掘割) 「長さ1,700m、高さ1m余りの掘割で、伊久間の人たちが集団で中世末期頃からつくりはじめたという。人家の多いあたりには水除土手は二重に造られている。しかし災害が遠のくとその効得を忘れがちになり、掘割を埋めたり物を置いたり、いざらいを怠った。その結果、大きな雹が降った昭和2年6月には、麦がらなどが掘割の中に入っていたのでたちまちに水が溢れ出し、伊久間は災害に見舞われた。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	○伊久間水除土手(郷土のたからpp.78)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○伊久間水除土手	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「郷土のたから」pp.77-78.		



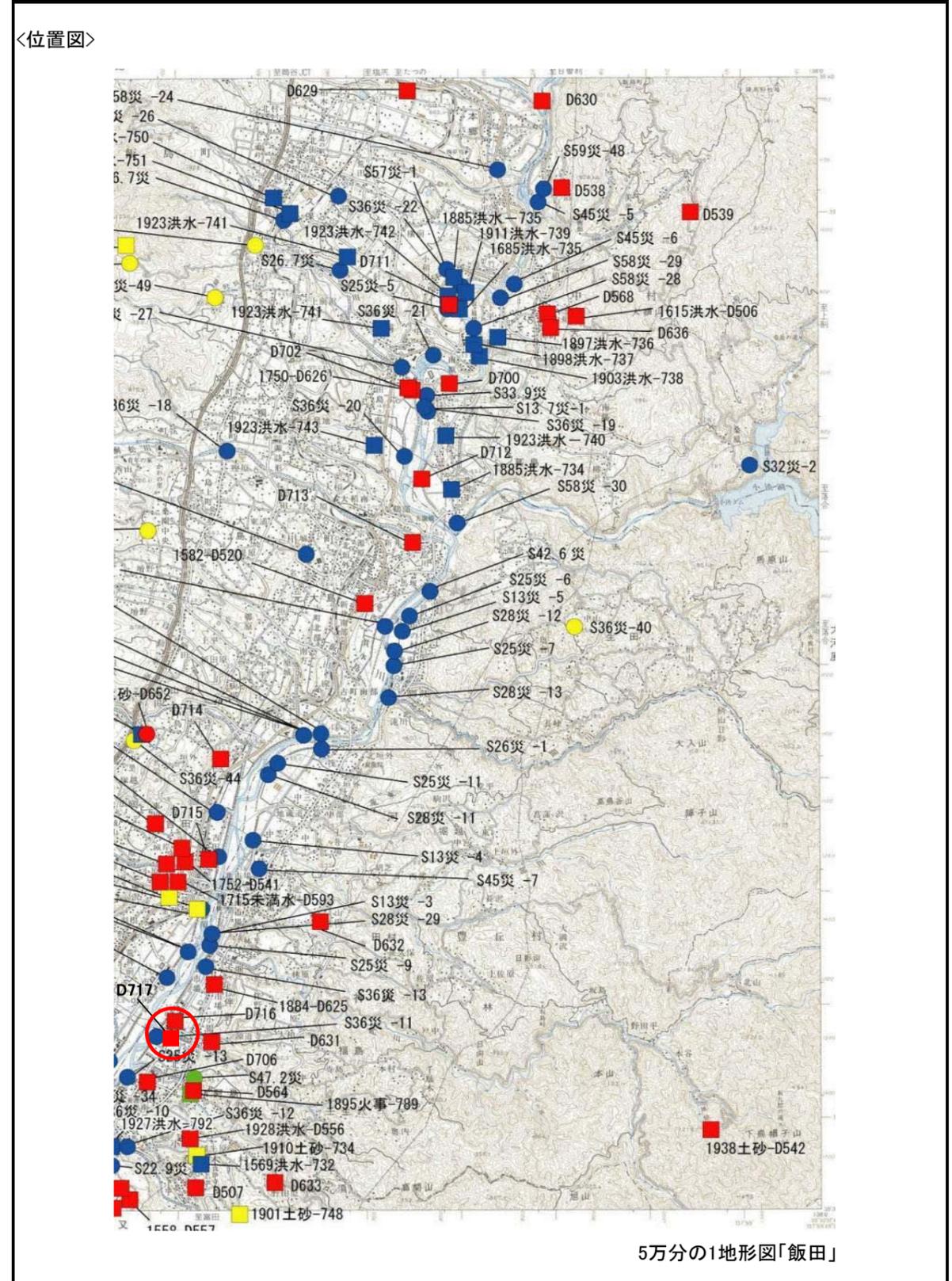
伝承名	永禄年間における川除普請、宇田屋付近の竹木の伐採禁止	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	喬木村伊久間	地点番号	1558-D557
発祥年代	1558～1570年(永禄年間)	関連する災害名称	—
キーワード	○防災対策		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○永禄年間における川除普請、宇田屋付近の竹木の伐採禁止	
	伝承内容		
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「九十九谷」pp.28-37.123-127.170-182.		



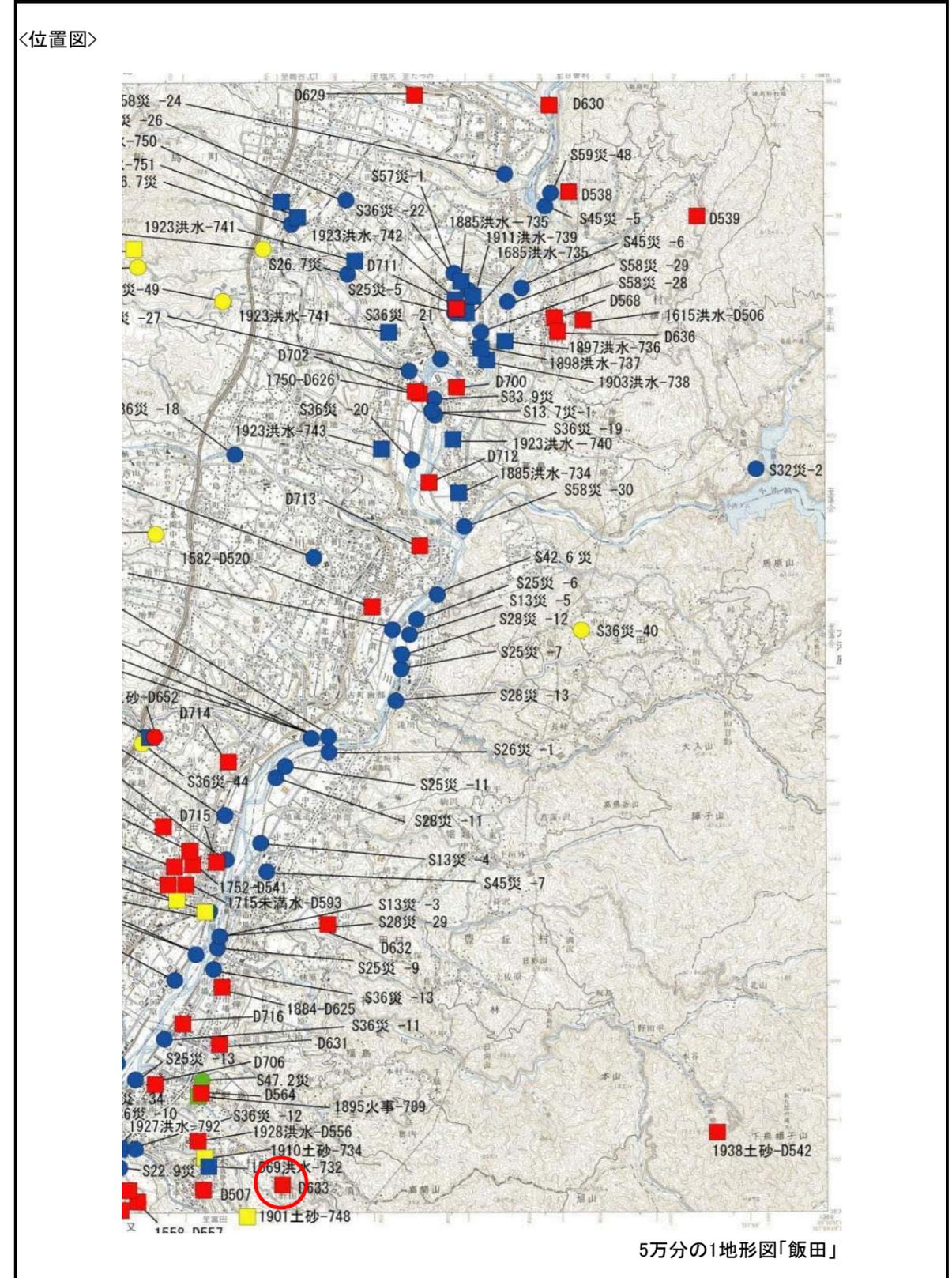
伝承名	小川川をめぐる水利権争い	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	喬木村伊久間	地点番号	1639-D558
発祥年代	1639年(寛永十六年三月)	関連する災害名称	—
キーワード	○災害がもたらした紛争		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○小川川をめぐる水利権争い 「寛永十六年三月(1639年)、伊久間村内伊久間原の余り水を小川川へ落としたことから小川村との争いが起こった。」	
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
	慣習・風習	—	
参考文献	「九十九谷」pp.28-37.123-127.170-182.		



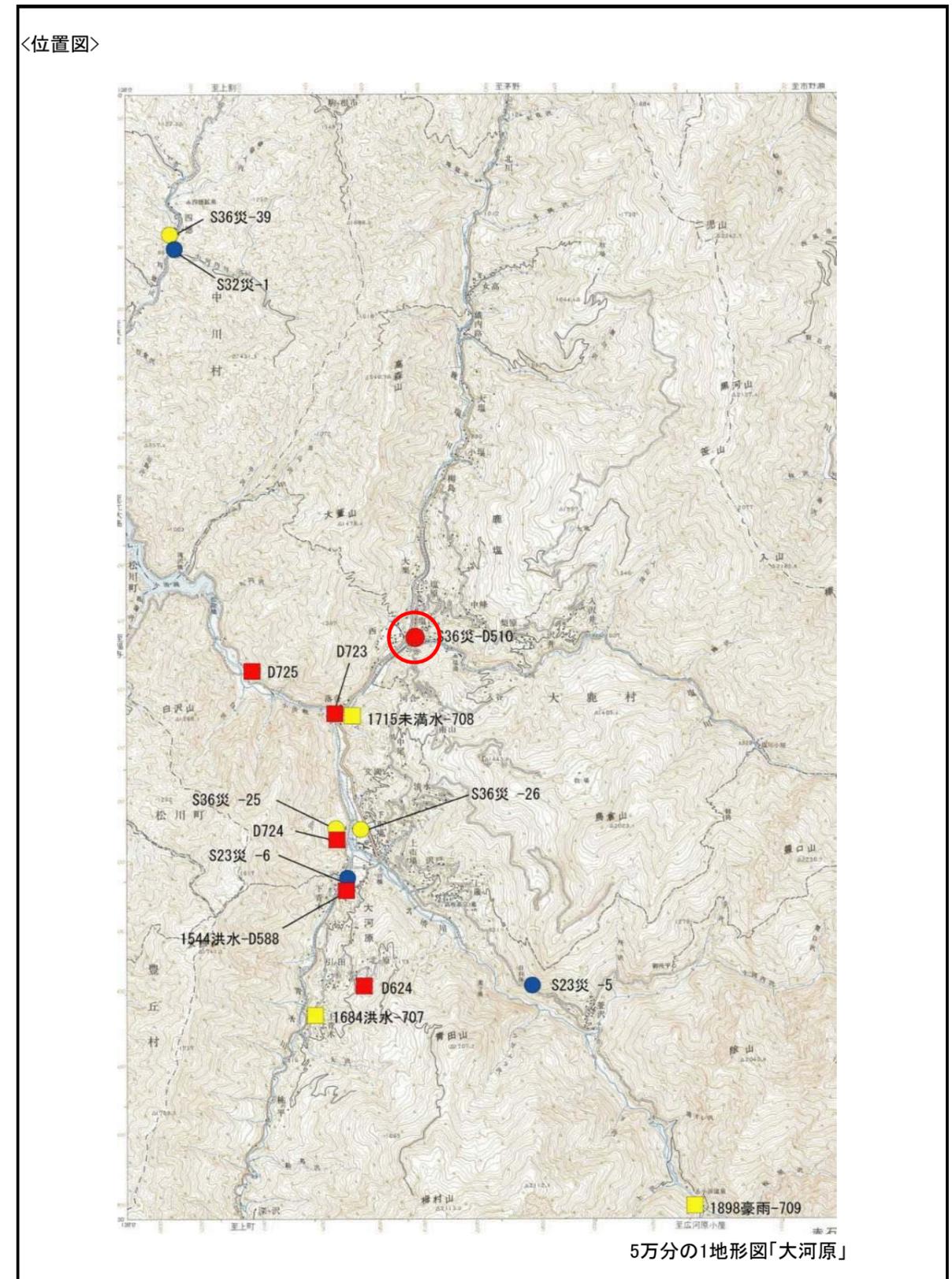
伝承名	阿島の復旧記念碑	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	喬木村阿島	地点番号	D717
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	災害の事実・災害体験・得られた教訓	
	伝承の詳細	○阿島の復旧記念碑	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	○阿島の復旧記念碑(天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.617)	
	石碑・記念碑	○災害記念碑 151K	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.617		



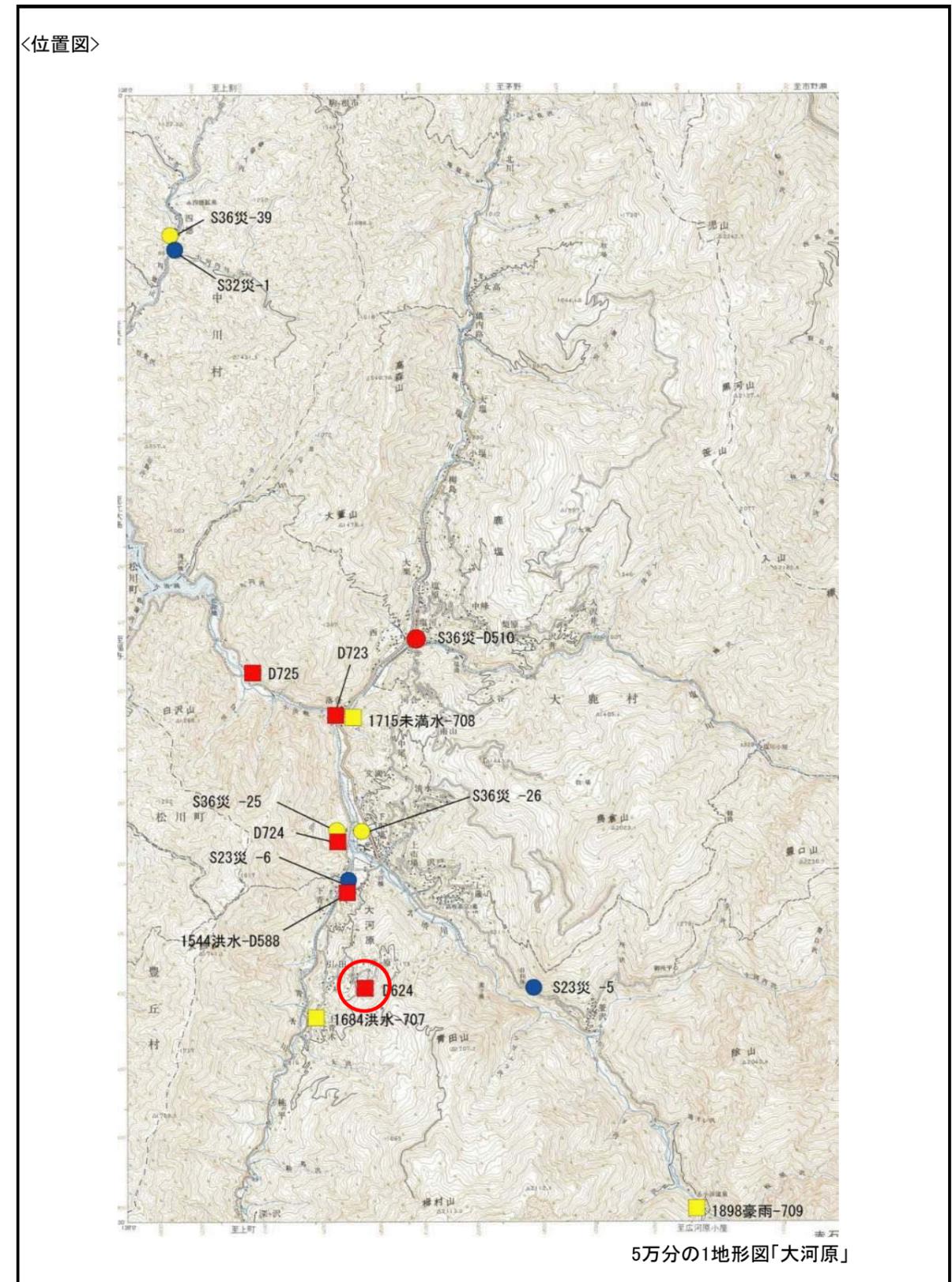
伝承名	悪い滝の主を退治した勇士	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	喬木村(瀬戸滝)	地点番号	D633
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○滝の主である洪水をもたらす大蛇退治		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○悪い滝の主を退治した勇士 「瀬戸の滝には大蛇が棲んでいた。大蛇は毎年八月になると大水をだし、阿島の水田を流してしまった。村人は大蛇を退治したいと考えて、勇士がでかけていくのだが一人も帰ってこなかった。ある年、通りかかった旅の武士に大蛇退治をお願いしたところ、武士は引き受けて大蛇を倒して帰ってきた。それから水もでなくなり、阿島の水田は秋になると稲穂が波打つようになった。後に大蛇を退治した武士は、上郷の野底山の姫宮でヒヒ退治で有名な岩見重太郎であることがわかったという。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○瀬戸滝	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「喬木村誌下巻」pp.790-791.		



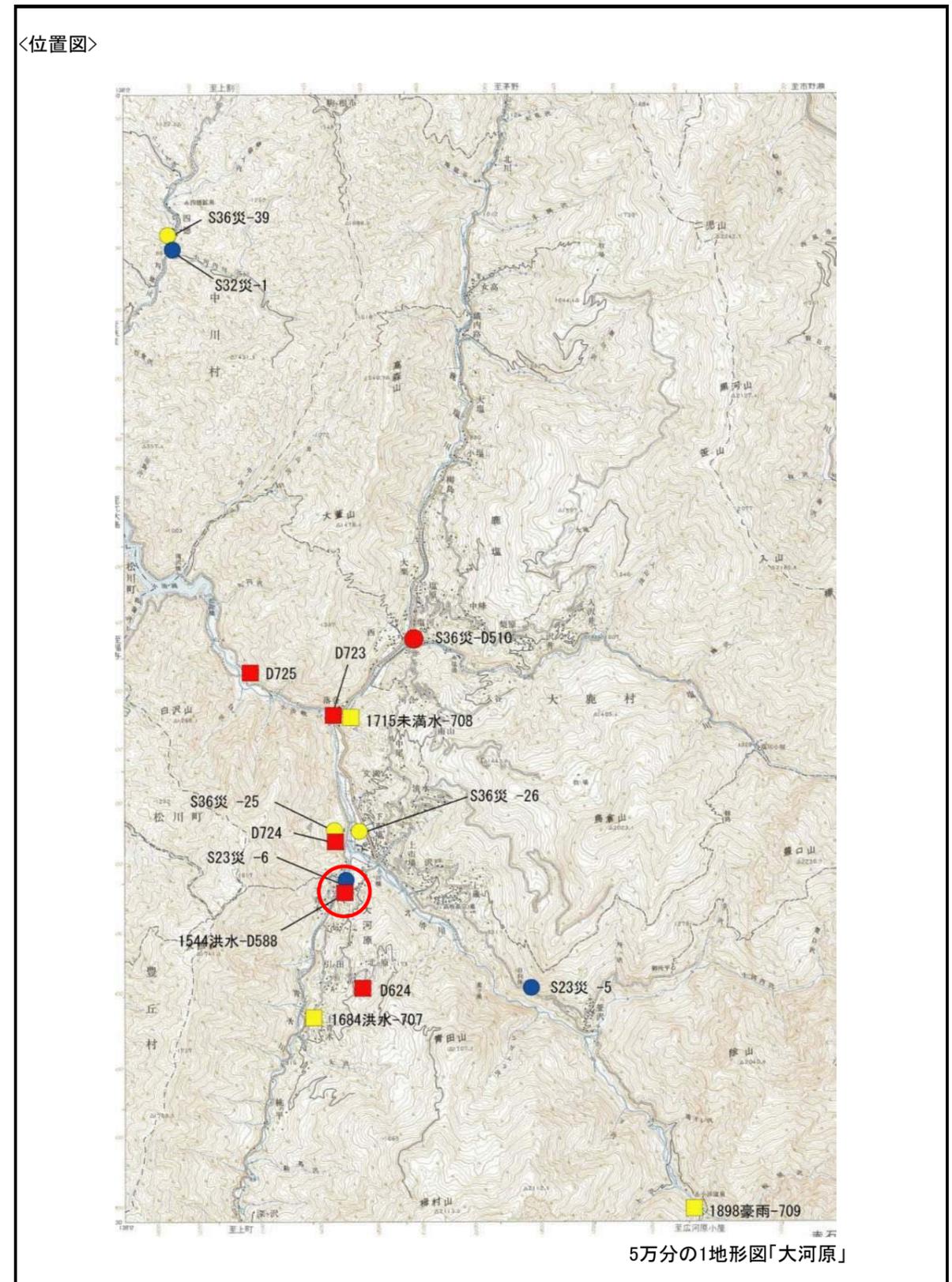
伝承名	松尾幸久氏の36災害体験談	1/5万図幅名	大河原
市町村・大字名	大鹿村鹿塩	地点番号	S36災-D510
発祥年代	1961年(昭和36年6月27~29日)	関連する災害名称	36年災
キーワード	○自然を無視した開発への教訓		
教訓・伝承事例	伝承内容	災害の事実・災害体験・得られた教訓	
	伝承の詳細	<p>○松尾幸久氏の36災害体験談 「27日、鹿塩地区で4軒流出。小さい村道の橋に木の根や土石流が詰まり、水が方々に流れ出てしまうのに対処するために外にいた3名が死亡。鹿塩川の水が橋を越す。午後に電話・電気が使えなくなる。語り部は山手の実家に避難し何もできなかった。」 「28日、朝から手当たり次第に生活必需品を買い集める。午後から降り出した雨により川が決壊、地響きとともに流木や1~2mもの大石が川の上を舞うように流れていた。村の決死隊が救助を求めて山越えを開始、5~6日後に自衛隊のヘリコプターが来た。」 「29日、雨が止み曇り空の中、大西山がドーンと落ち田圃が全部つぶれ人も家畜も息たえだえに流された」(教訓) ○災害時の広域的な協力体制 ○災害を起こさない、災害から逃れる工夫と努力を怠らない ○自然の法則と生活の知恵を大切に自然を無視した開発をしない</p>	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	○川の濁流、荒廃の様子(被災者が語る土砂災害体験集まさかわが家が・・・pp.60)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「被災者が語る土砂災害体験集 まさかわが家が・・・」pp.60-62.		



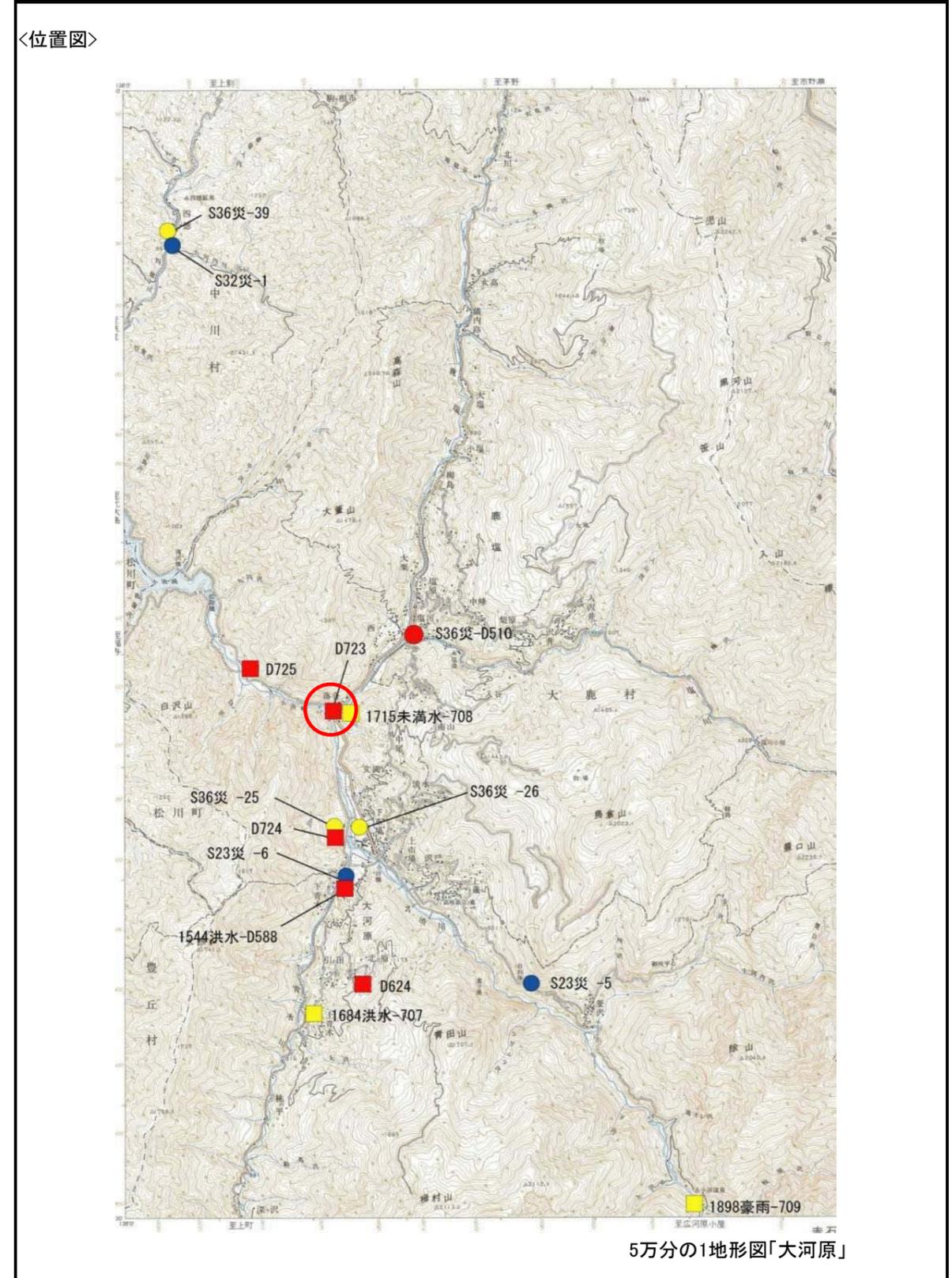
伝承名	観音なぎと駒石	1/5万図幅名	大河原
市町村・大字名	大鹿村鹿塩(引田)	地点番号	D624
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○ナギの主＝観音様(移動) ○土石流＝観音様の移動 ○地物に託された災害伝承		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂)	
	伝承の詳細	○観音なぎと駒石 「遠いむかし、青木川のさきの高いところにあるあかなぎに住んでいた観音様が、引の田に住みたくなくて馬に乗って引越しをした。そのときの馬の蹴り上げで山が崩れ、でっかいなぎになってしまったので観音なぎというようになった。引の田のでっかい石にひとつとびに飛んだ拍子で石がひっくりかえってしまい、馬の足跡がついた方が下っかわになった。村の衆はその下で雨宿りができた。そこは石の上で雪が降っても下側は雨になるということで、その駒石を村中で大事にしている。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	○観音なぎと駒石(大鹿村の民話第一集 さかさいっちょうpp.30.)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○観音なぎ	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「大鹿村の民話第一集 さかさいっちょう」pp.29-30.		



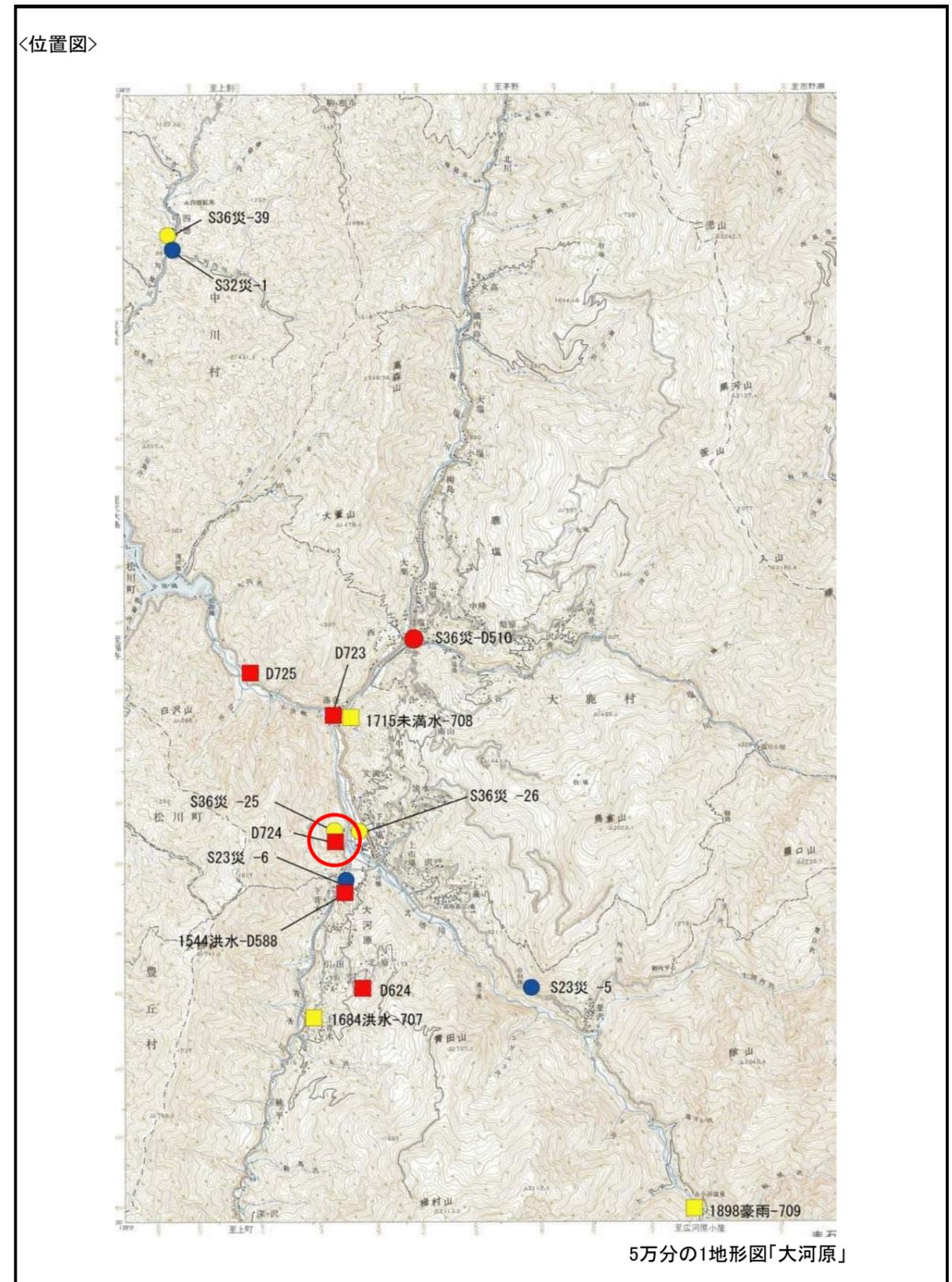
伝承名	横山七か寺・御堂島薬師の流失	1/5万図幅名	大河原
市町村・大字名	大鹿村青木	地点番号	1544洪水-D588
発祥年代	1544年7月28日(天文十三年七月九日)	関連する災害名称	—
キーワード	○災害によって消滅した地物		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○横山七か寺・御堂島薬師の流失 「天文十三年七月九日(1544年7月28日)の大洪水で横山七か寺(青木川を地蔵峠に向かう途中)、御堂島薬師(下青木地区)が流出した。(大鹿村誌)この大洪水は、全国的におこったようで、京都でも大洪水で四條五條橋などが流失している。」	
	伝承内容		
伝承媒体	伝承の詳細		
	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
	慣習・風習	—	
参考文献	「天竜川の災害伝説」pp.5.		



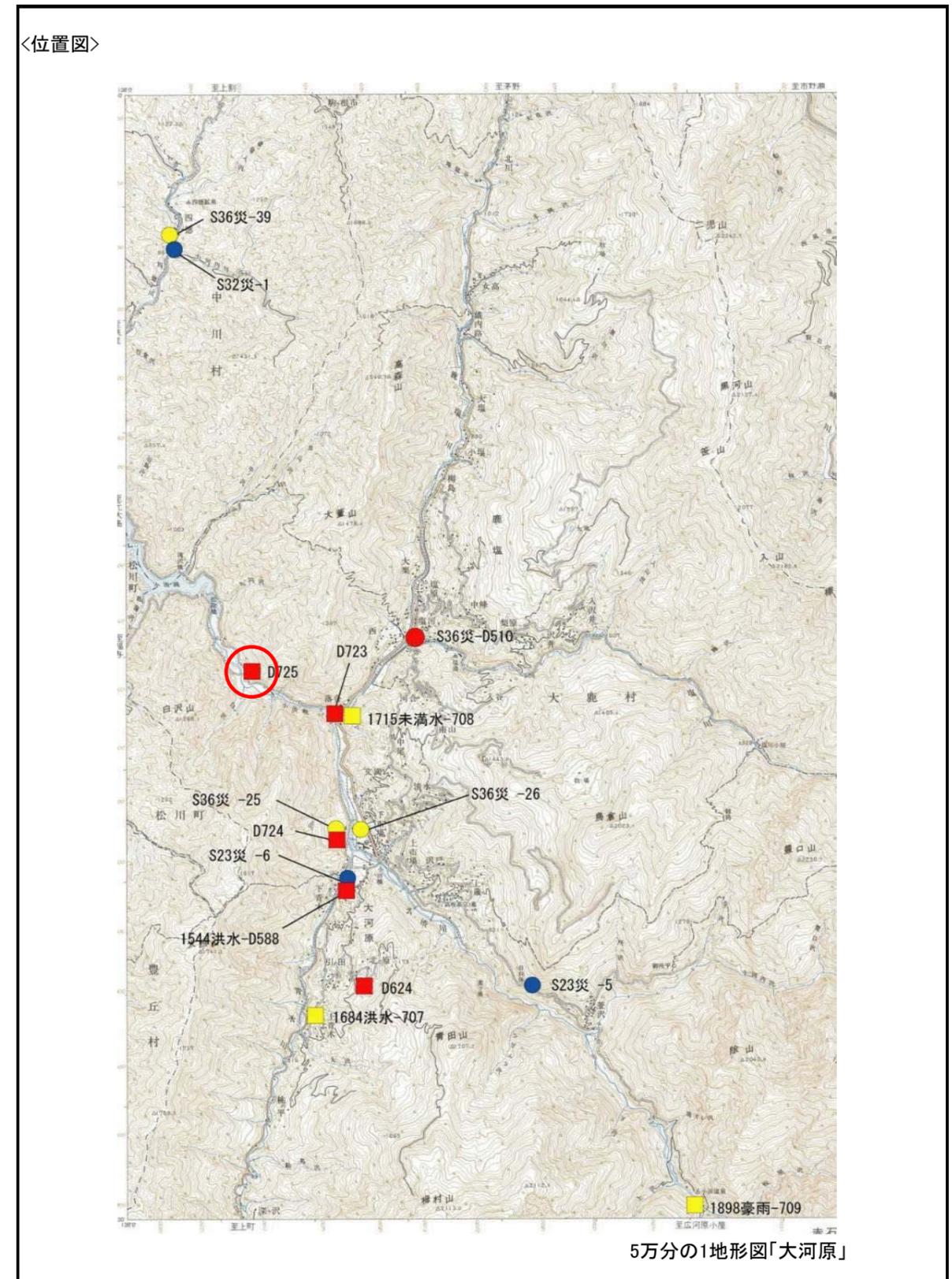
伝承名	復興記念碑	1/5万図幅名	大河原
市町村・大字名	大鹿村	地点番号	D723
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	災害の事実・災害体験・得られた教訓	
	伝承の詳細	<p>○復興記念碑 「36災害から4年後に大鹿村では災害復興記念事業として、役場の庭に「復興記念碑」を、大西山崩落地籍に「殉難の碑」を建立し、復興記念式典を行った。」 「昭和36年梅雨前線集中豪雨により前古未曾有の大災害を受け55名の尊き人命と40数億円の被害を蒙り之が復旧について国県の援助と村民の一致協力により復興したので時の建設大臣中村梅吉氏の揮毫により之を建つ、昭和40年10月建之、大鹿村。」</p>	
	伝承内容	—	
伝承媒体	伝承の詳細	—	
	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	○復興記念碑	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「大鹿村誌中巻」pp.826		



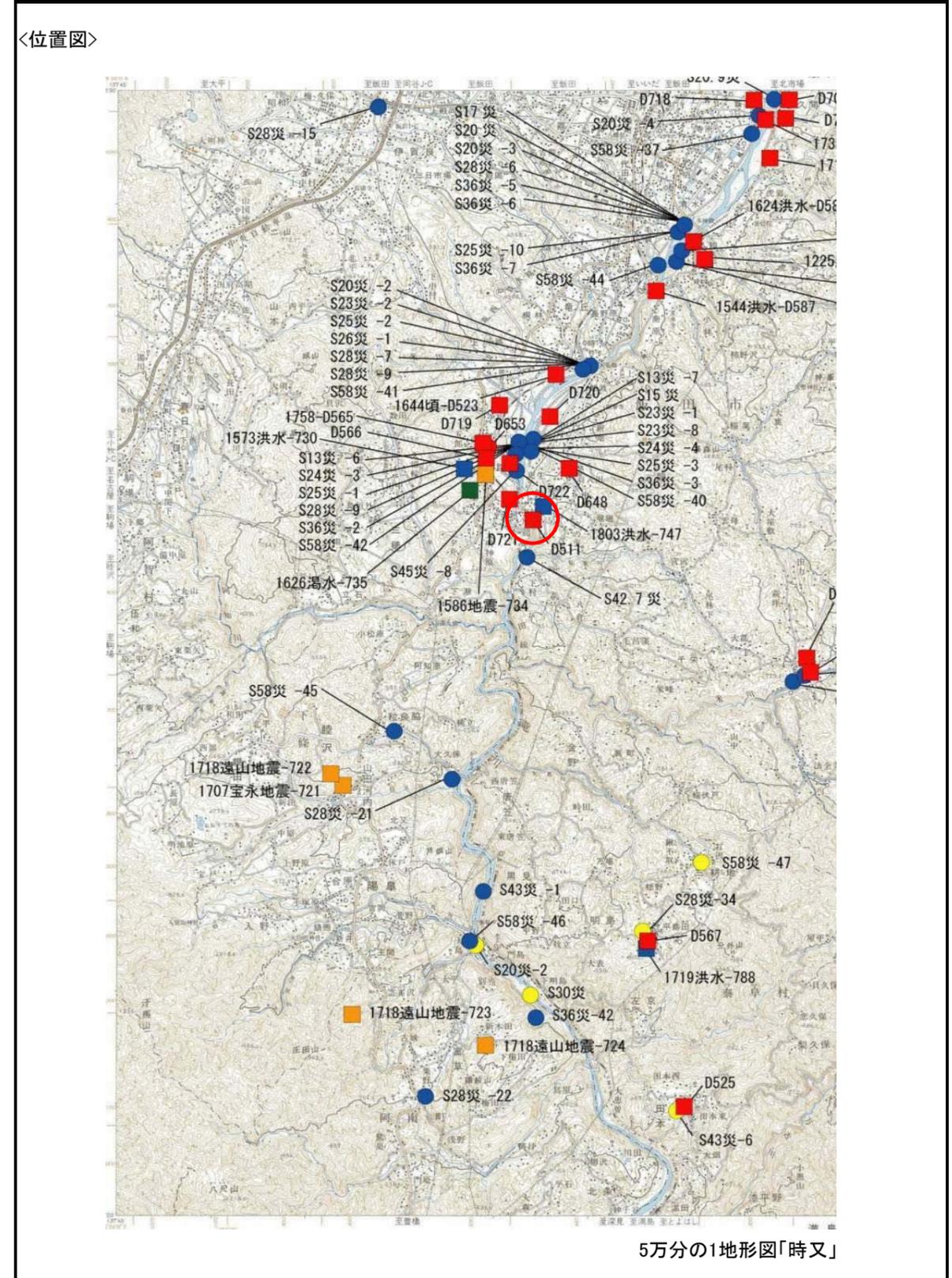
伝承名	殉難の碑(他1編)	1/5万図幅名	大河原
市町村・大字名	大鹿村大西山	地点番号	D724
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	災害の事実・災害体験・得られた教訓	
	伝承の詳細	○殉難の碑 「昭和36年梅雨前線集中豪雨災害により尊き犠牲となられた霊を祀る。昭和40年10月建之 大鹿村。」	
	伝承内容	災害の事実・災害体験・得られた教訓	
	伝承の詳細	○大西公園の大西観音 「大西山崩壊地の麓にある大西公園には、災害で犠牲になった人を弔うための大西観音がある。」	
伝承媒体	写真・映像	○殉難の碑(大鹿村誌中巻pp.832) ○大西観音(下伊那川たんけんブックpp.63)	
	石碑・記念碑	○殉難の碑	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	○大西観音	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「大鹿村誌中巻」pp.826 「下伊那川たんけんブック」pp.63		



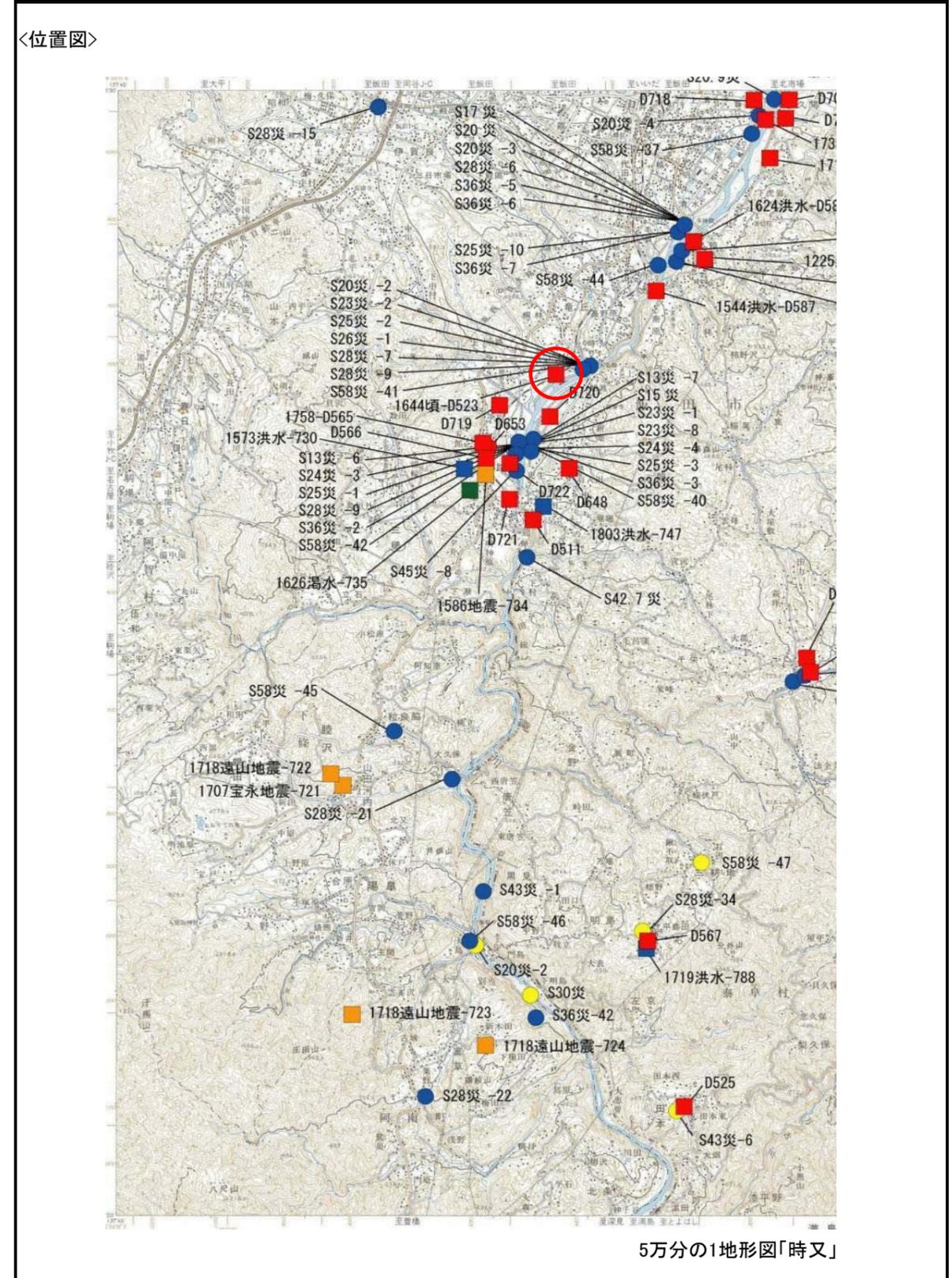
伝承名	斜面を転がってきた巨石	1/5万図幅名	大河原
市町村・大字名	大鹿村大河原	地点番号	D725
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	災害の事実・災害体験・得られた教訓	
	伝承の詳細	○斜面を転がってきた巨石 「36災害の時にマサが洗われて花崗岩の巨石が斜面を転がってきた。」	
	伝承内容	—	
伝承媒体	伝承の詳細	—	
	写真・映像	○斜面を転がってきた巨石(伊那谷の土石流と満水pp.42)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○斜面を転がってきた巨石	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「伊那谷の土石流と満水」pp.42		



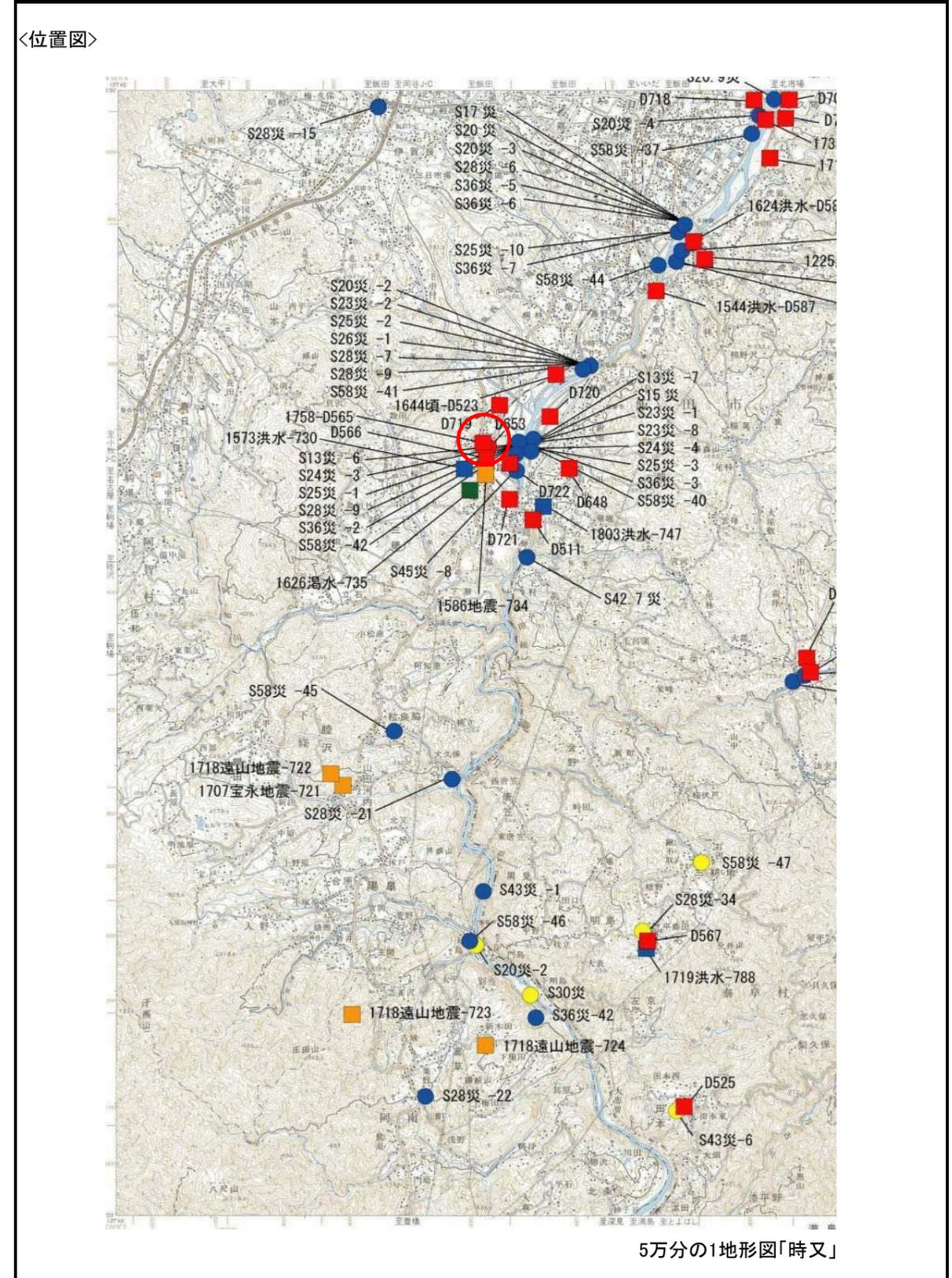
伝承名	烏帽石(えぼし岩)	1/5万図幅名	時又
市町村・大字名	飯田市川路(姑射橋付近)	地点番号	D511
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○災害の指標		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○烏帽石(えぼし岩) 「仙人が烏帽子を忘れて去ったあとにできた岩とされている。相次ぐ洪水の際の出水の指標とされてきた。」	
教訓・伝承事例	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	○水害のため家屋移転した人々の碑(天竜峡 歴史と叙情pp.256.)	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○烏帽石(天竜川右岸、姑射橋付近。)	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜峡 歴史と叙情」pp.233-234.256.		



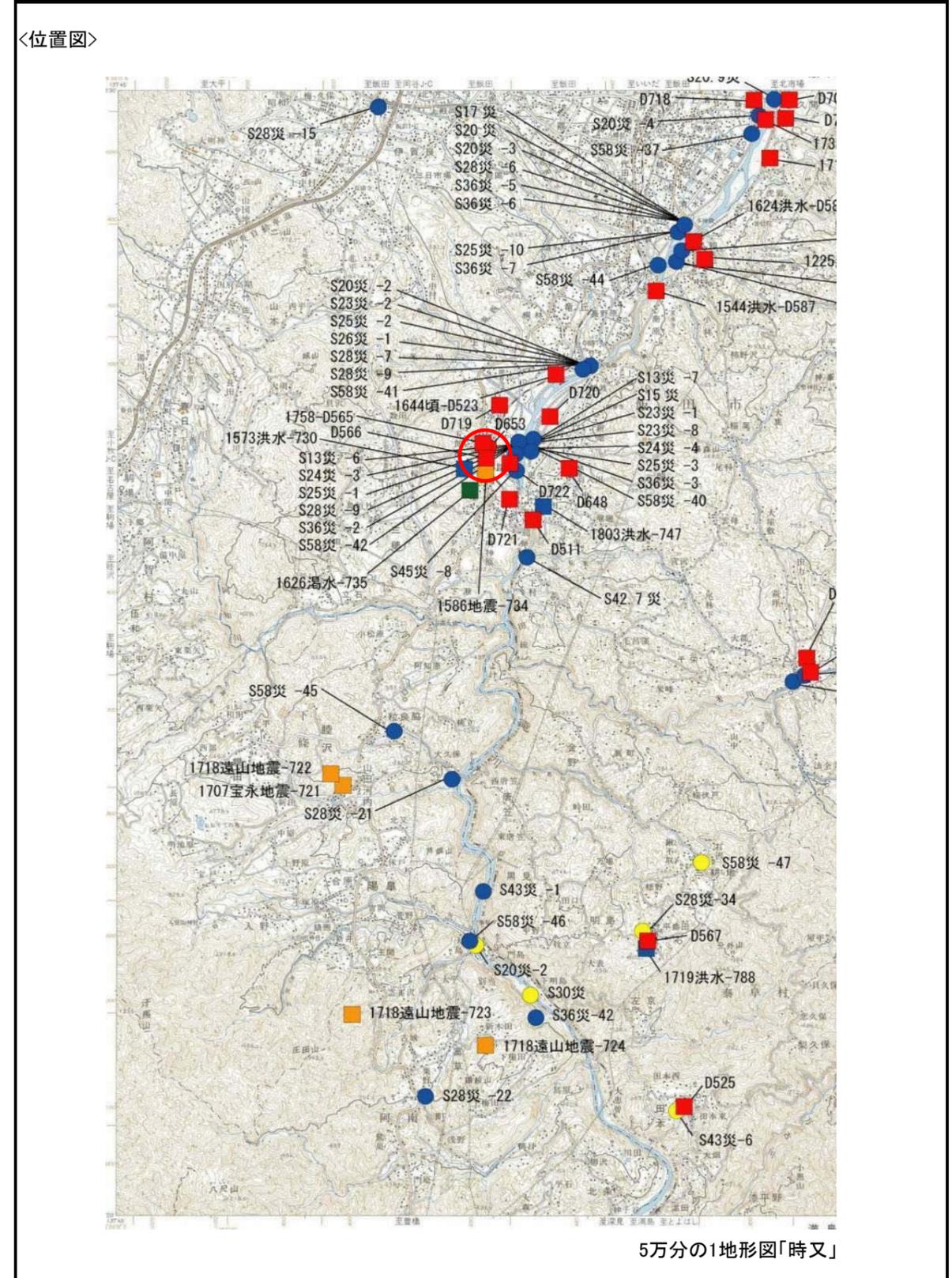
伝承名	貝鞍が池の主と人柱かわりの墓石	1/5万図幅名	時又
市町村・大字名	飯田市川路(貝鞍が池)	地点番号	1644頃-D523
発祥年代	1644年～1648年頃(正保の頃)	関連する災害名称	ー
キーワード	○池の主=天蛇(移動→深見の池) ○池の出現=天蛇の移動 ○人柱 ○水神の祟り、尾張津島社の受入れと祇園祭 ○来迎寺(長野県飯田市伝馬町1丁目54 TEL:0265-24-3794) (類似伝説) ・天龍村平岡宇連の大蛇 ・天龍村神原のとうちやげの池の大蛇・飯田市川路の貝鞍が池の大蛇 ・阿智村浪合蛇峠の蛇が池の主・飯田市鼎町切石の池が洞の主		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○貝鞍が池の主と人柱かわりの墓石 「昔川路村の天竜川ばたに貝鞍が池があった。飯田の殿様で開拓事業好きの脇坂淡路守安元が、この池を埋め立てて水田にしようといいつけたが、池には主の大蛇が住んでいるというので村役人たちは恐れていた。ある物知り爺さんが、天竜に住む竜神の心を静めるために人柱をするがよいと言いつけたが、名乗り出る者がいなかったため、人柱のかわりに村内の墓石や飯田の来迎寺の石碑を埋めたという。また、この頃見ない美しい娘がひとり、天竜川の川沿いの道を川路村から大下条村へ向かっていた。娘はとある農家を訪れ、手伝いを申し出た。ところが3日目の朝、娘は井戸に水を汲みに行ったまま屋になっても帰ってこなかった。井戸端には娘の下駄が脱ぎ捨ててあり、村人が井戸をさらってさがしてみたが何も見つからなかった。それからしばらくしたある日、晴れていた空がにわかにかき曇り、黒雲が広がると稲妻が走り、大雷雨となって深見の里一帯を真っ暗闇に包みこんだ。雷鳴が止んだ後、村人たちがほっとして辺りを眺めると、今まで青々としていた麦畑が見渡す限りの大池となって、波が逆立っていた。村人たちは神威を感じ恐れ、池の湖畔に諏訪明神を祀り盛大なお祭りを行った。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	ー	
	石碑・記念碑	ー	
	水神碑・石仏	ー	
	神社仏閣・塚	ー	
	地名	ー	
	土木遺構等	ー	
	語り伝え等	ー	
	伝統芸能等	ー	
	祭り	ー	
	儀式	ー	
慣習・風習	ー		
参考文献	「天竜峡 歴史と叙情」pp.256-257. 「伊那谷の伝説」pp38-39. 「伊那の傳説」pp112-115.		



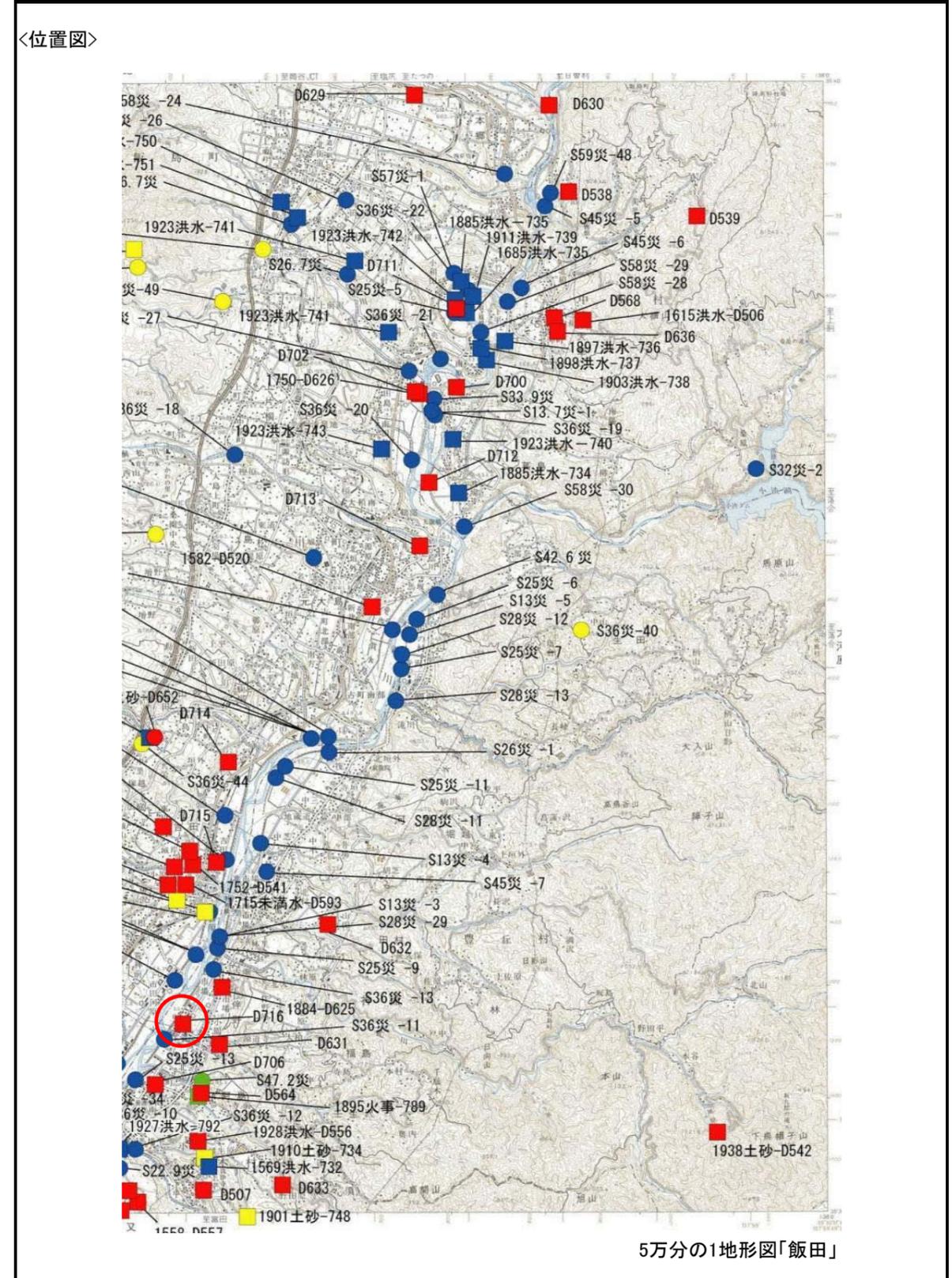
伝承名	尾張津島神社の祇園祭(7月14日)	1/5万図幅名	時又
市町村・大字名	飯田市川路	地点番号	1758-D565
発祥年代	1758年(宝暦八年)	関連する災害名称	—
キーワード	○水神の祟りを鎮める行い		
教訓・伝承事例	伝承内容	信仰	
	伝承の詳細	○尾張津島神社の祇園祭(7月14日) 「洪水と悪疫の流行を水神の祟りと恐れた村人が、領主松平摂津守に願い出て尾張津島社をこの地に迎え入れた。」	
教訓・伝承事例	伝承内容		
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	○尾張津島社	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	○尾張津島神社の祇園祭	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜峡 歴史と叙情」pp.256-257.		



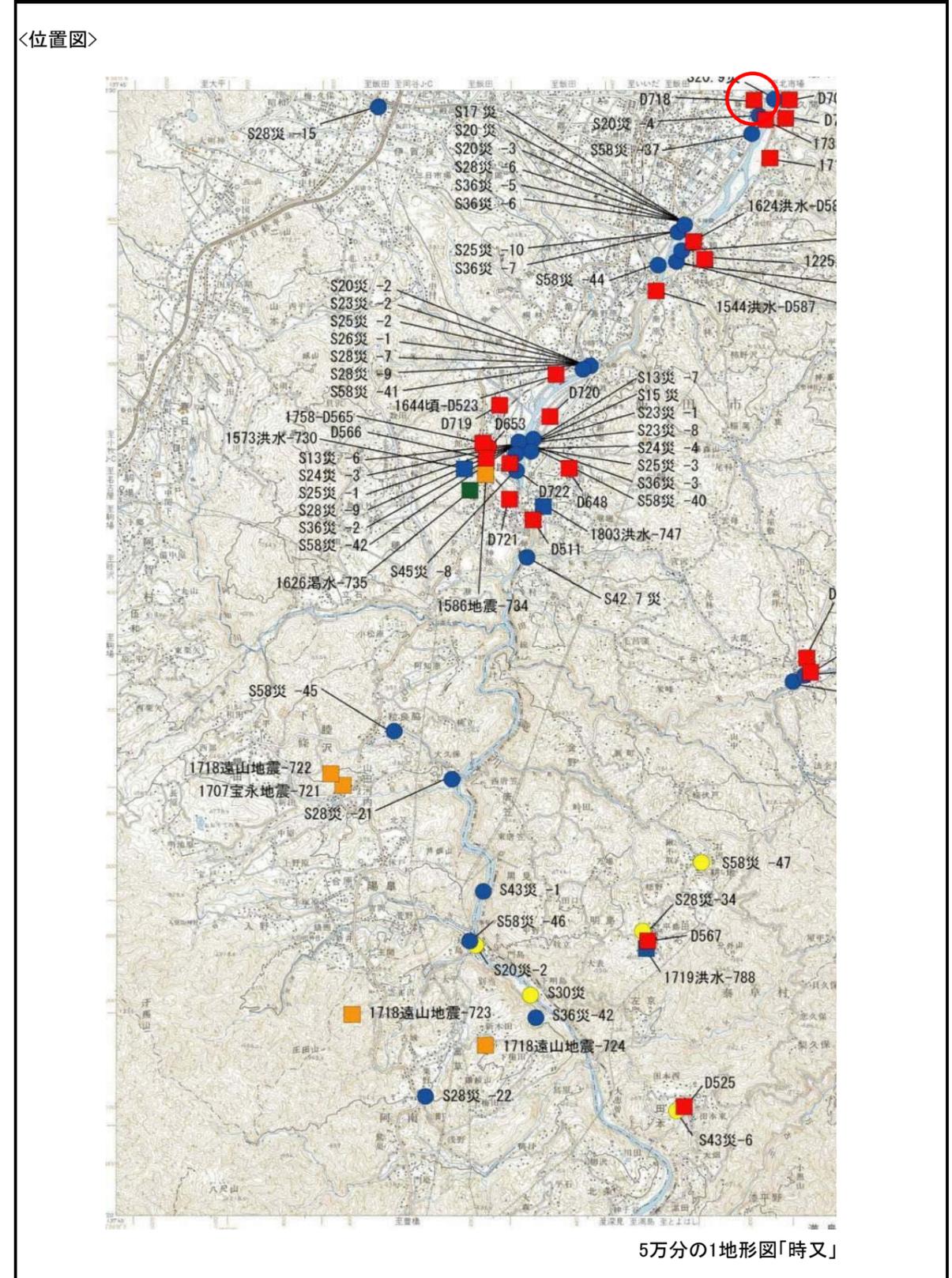
伝承名	川路と龍江の境界争い	1/5万図幅名	時又
市町村・大字名	飯田市川路	地点番号	D566
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○災害がもたらす紛争		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○川路と龍江の境界争い 「両村で、水害による争いがあった。」	
	伝承内容		
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜峡 歴史と叙情」pp.256-257.		



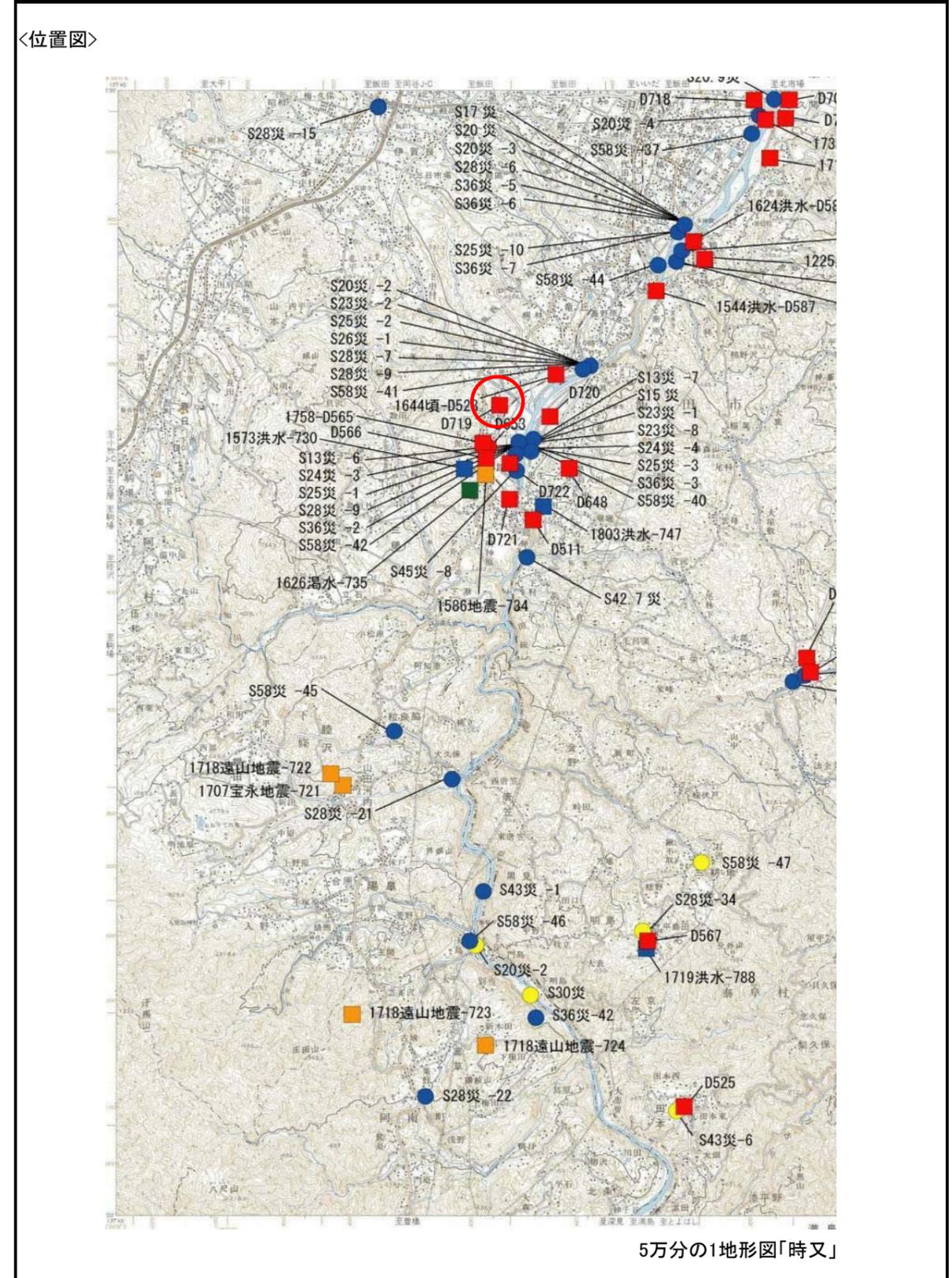
伝承名	伴野堤防記念碑	1/5万図幅名	飯田
市町村・大字名	豊丘村伴野	地点番号	D716
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木	
	伝承の詳細	○伴野堤防記念碑 「伴野地区は古くより治水事業の盛んな所で、151K地点に数々の記念碑が建立されている。」	
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	○伴野堤防記念碑(天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.616)	
	石碑・記念碑	○築堤記念碑	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
	慣習・風習	—	
参考文献	「天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.616		



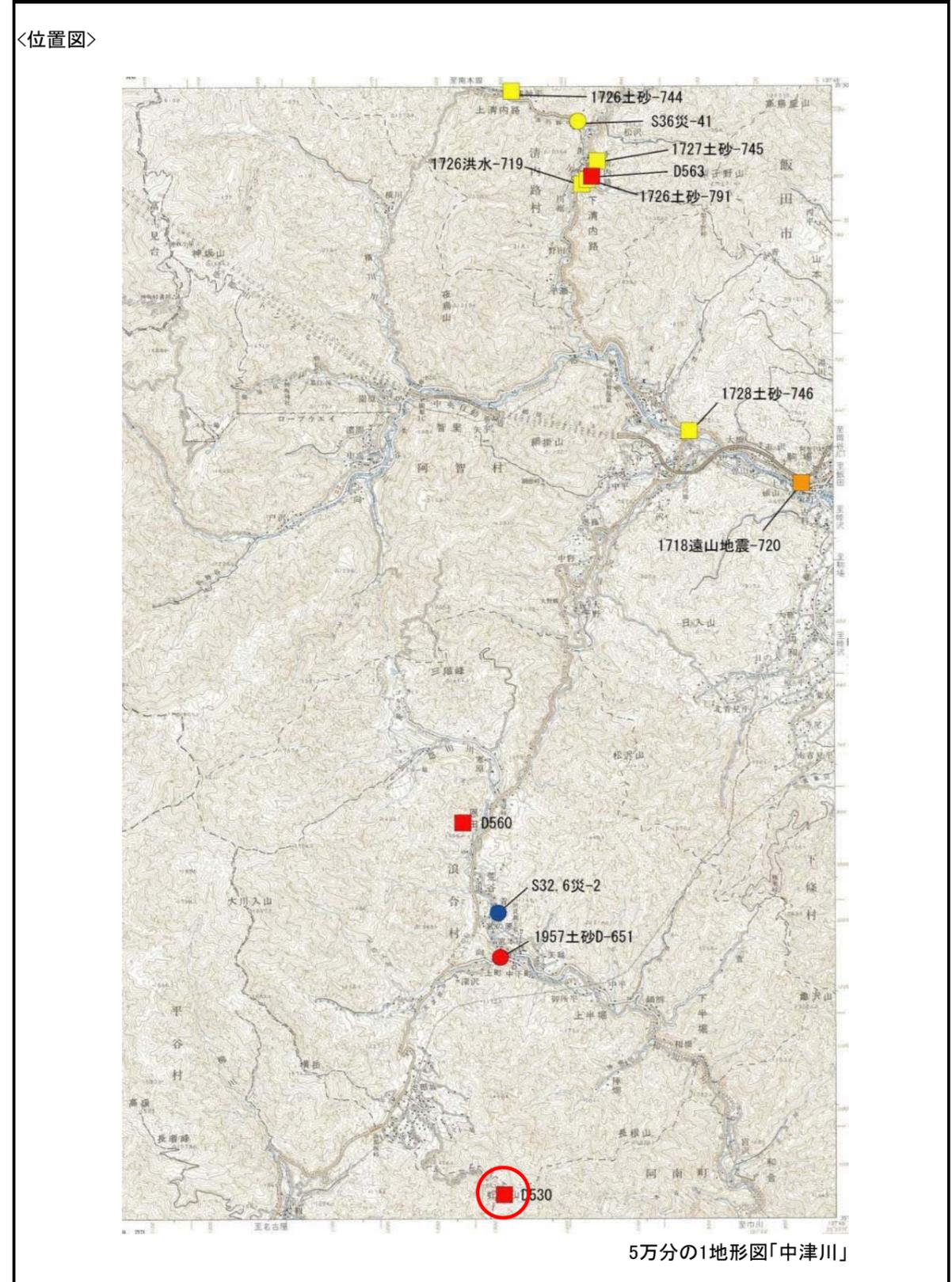
伝承名	弁天引堤記念碑		1/5万図幅名	時又
市町村・大字名	飯田市松尾		地点番号	D718
発祥年代	—		関連する災害名称	—
キーワード	—			
教訓・伝承事例	伝承内容	治水・土木		
	伝承の詳細	○弁天引堤記念碑 「飯田松川の右岸から弁天橋を経て清水にかける松尾堤防を記念して建立された碑である。」		
	伝承内容	—		
伝承媒体	写真・映像	○弁天引堤記念碑(天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.617)		
	石碑・記念碑	○築堤記念碑		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	—		
	土木遺構等	—		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
	祭り	—		
	儀式	—		
慣習・風習	—			
参考文献	「天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.617			



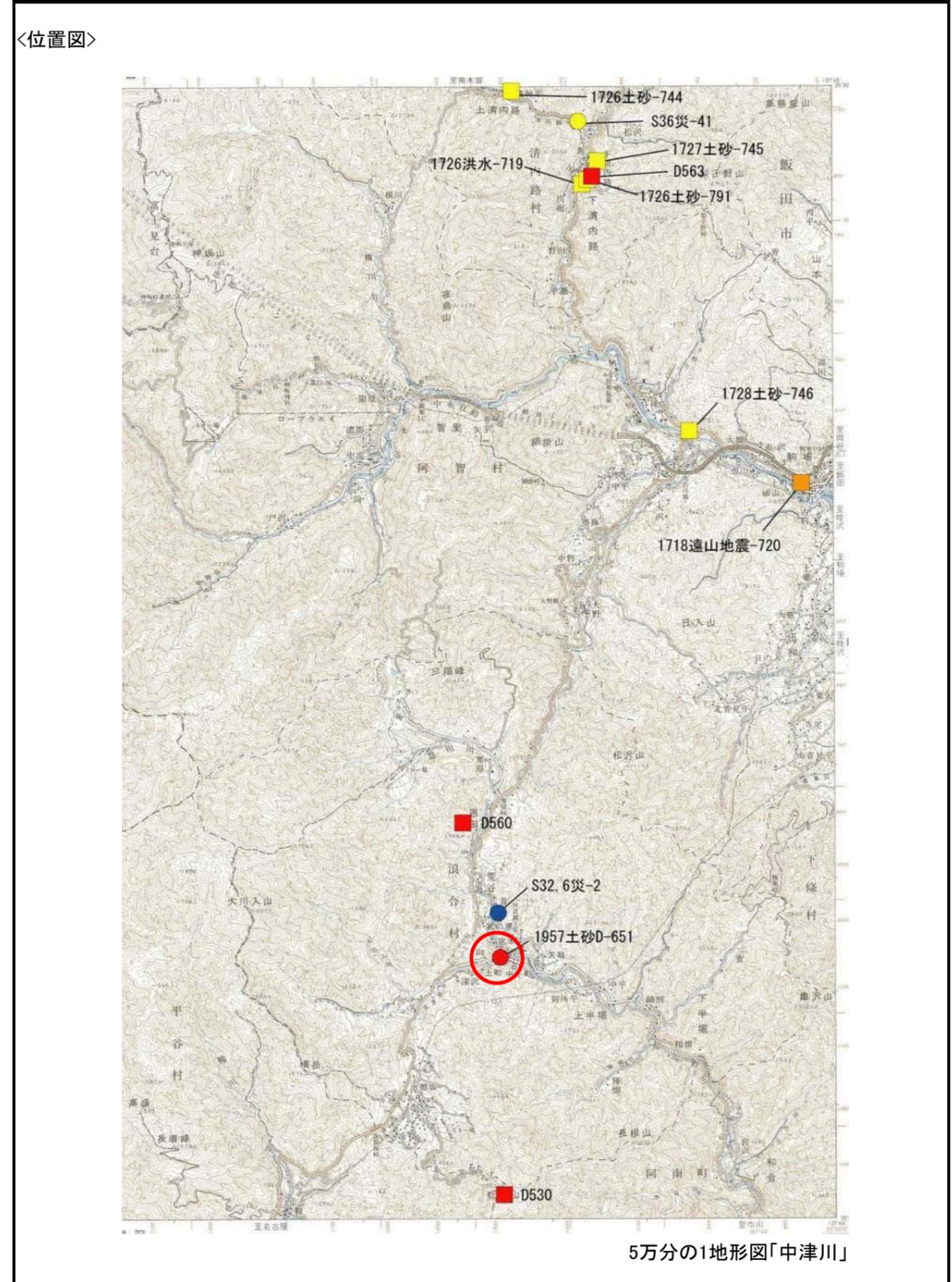
伝承名	川路村からの移籍記念碑	1/5万図幅名	時又
市町村・大字名	飯田市時又	地点番号	D719
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	—		
教訓・伝承事例	伝承内容	災害の事実・災害体験・得られた教訓	
	伝承の詳細	○川路村からの移籍記念碑 「「時又」の川路村からの移籍記念碑で、裏面に川路から時又に移籍した人々の氏名が記されている。」	
教訓・伝承事例	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	○川路村からの移籍記念碑(天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみpp.617)	
	石碑・記念碑	○災害記念碑	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天竜川上流河川事務所 三十年のあゆみ」pp.617		



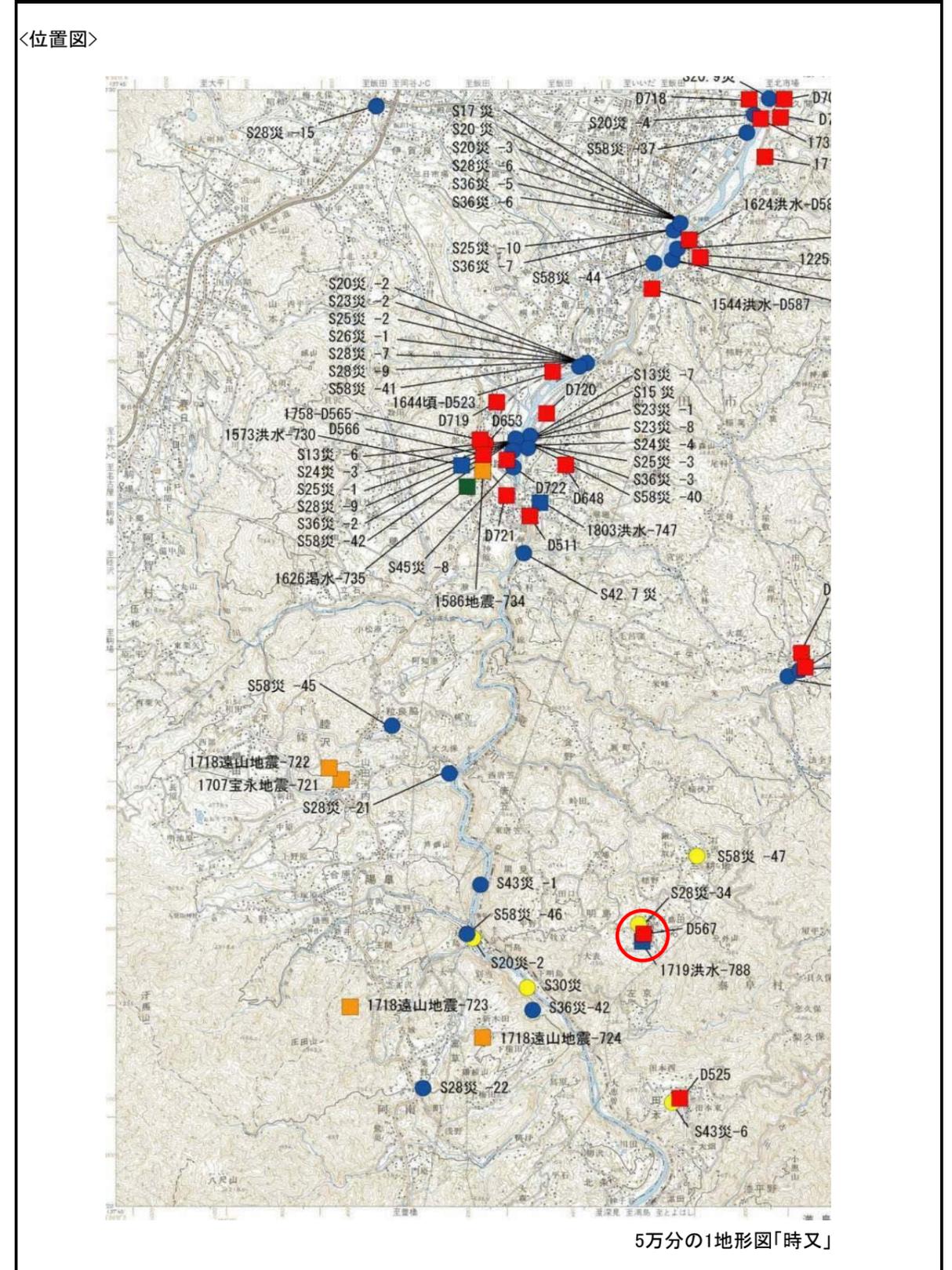
伝承名	蛇峠の池(蛇が池)	1/5万図幅名	中津川
市町村・大字名	阿智村(蛇峠)	地点番号	D530
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○雨乞いの恩恵(蛇が池)		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○蛇峠の池(蛇が池) 「むかし蛇峠に大きな池があり、主の大蛇が棲むといわれ蛇が池と呼ばれていた。ある日、峠の方から見馴れぬ小娘が下りてきて、村の庄屋に今日から深見へまいると馴れ馴れしく暇乞いをした。不思議に思った庄屋が後をつけていくと、波合川の橋の途中で姿が消え、大水が流れ落ちていくように見えた。それで初めて小娘は蛇が池の主であったと知った。その日、大下条村深見の里に大きな池ができた。今では、この池を雨乞ひ淵と呼び、旱の時にこの池の水を汲んできて神に供えて雨乞いすると、必ず雨が降るといふ。村の人たちは、水出を恐れて平常は一切この池の水を汲まないようにしているという。」	
	伝承の内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○蛇峠の池(蛇が池)	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「伊那谷の伝説」pp58. 「伊那の傳説」pp98-102.		



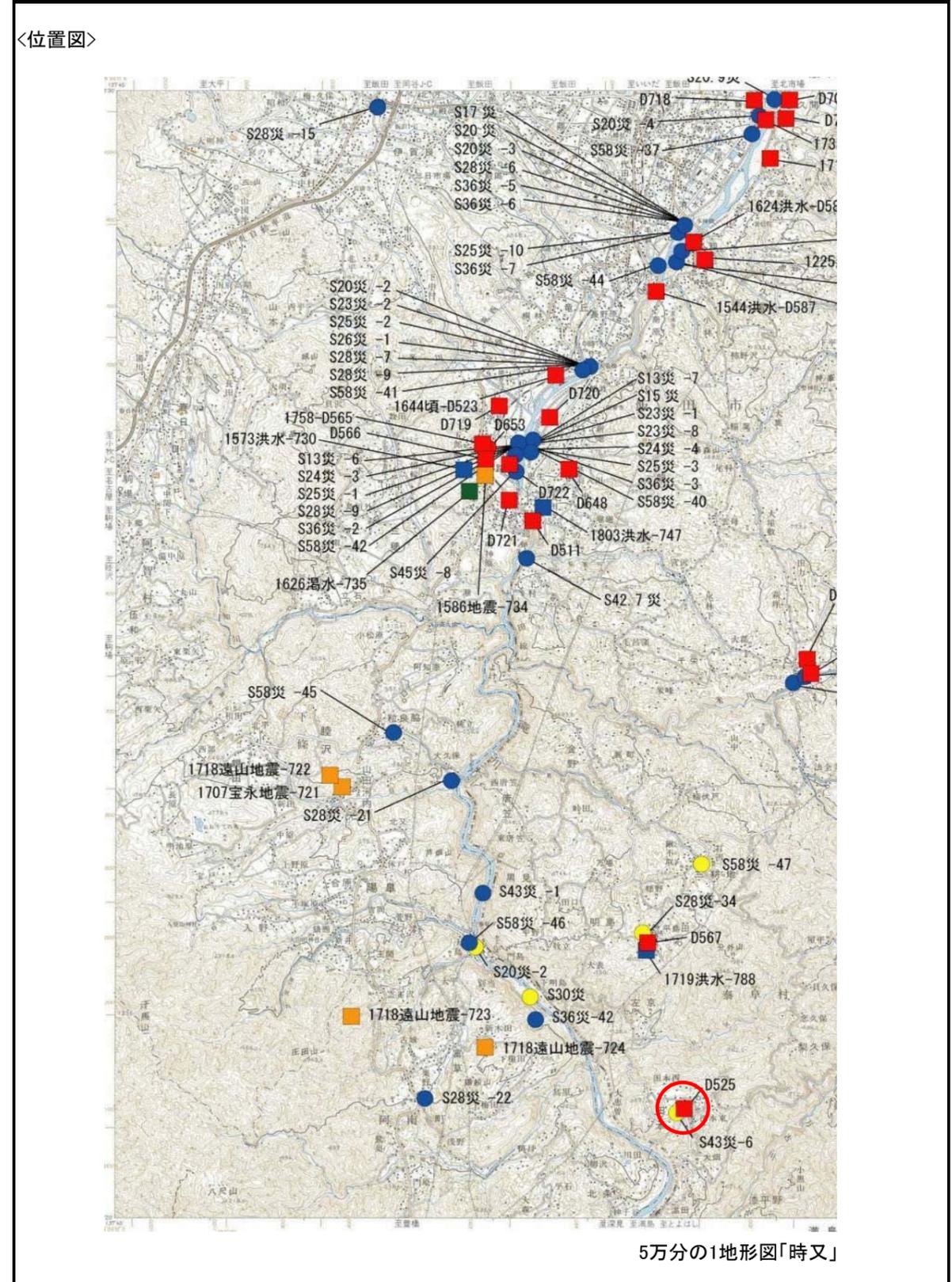
伝承名	馬島先生頌徳碑	1/5万図幅名	中津川
市町村・大字名	阿智村浪合	地点番号	1957土砂D-651
発祥年代	1957年6月27日(昭和32年6月27日)	関連する災害名称	—
キーワード	○災害救助中の殉職者		
教訓・伝承事例	伝承内容	災害の事実・災害体験・得られた教訓	
	伝承の詳細	○馬島先生頌徳碑 「昭和32年6月27日、豪雨災害の救援奔走中に山腹の墜落に遭遇し殉死。村葬を挙げて頌徳碑を建て偉霊を祀る。」	
	伝承内容		
伝承媒体	伝承の詳細		
	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	○馬島先生頌徳碑	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
儀式	—		
慣習・風習	—		
参考文献	「浪合村誌下巻」pp.994-997.		



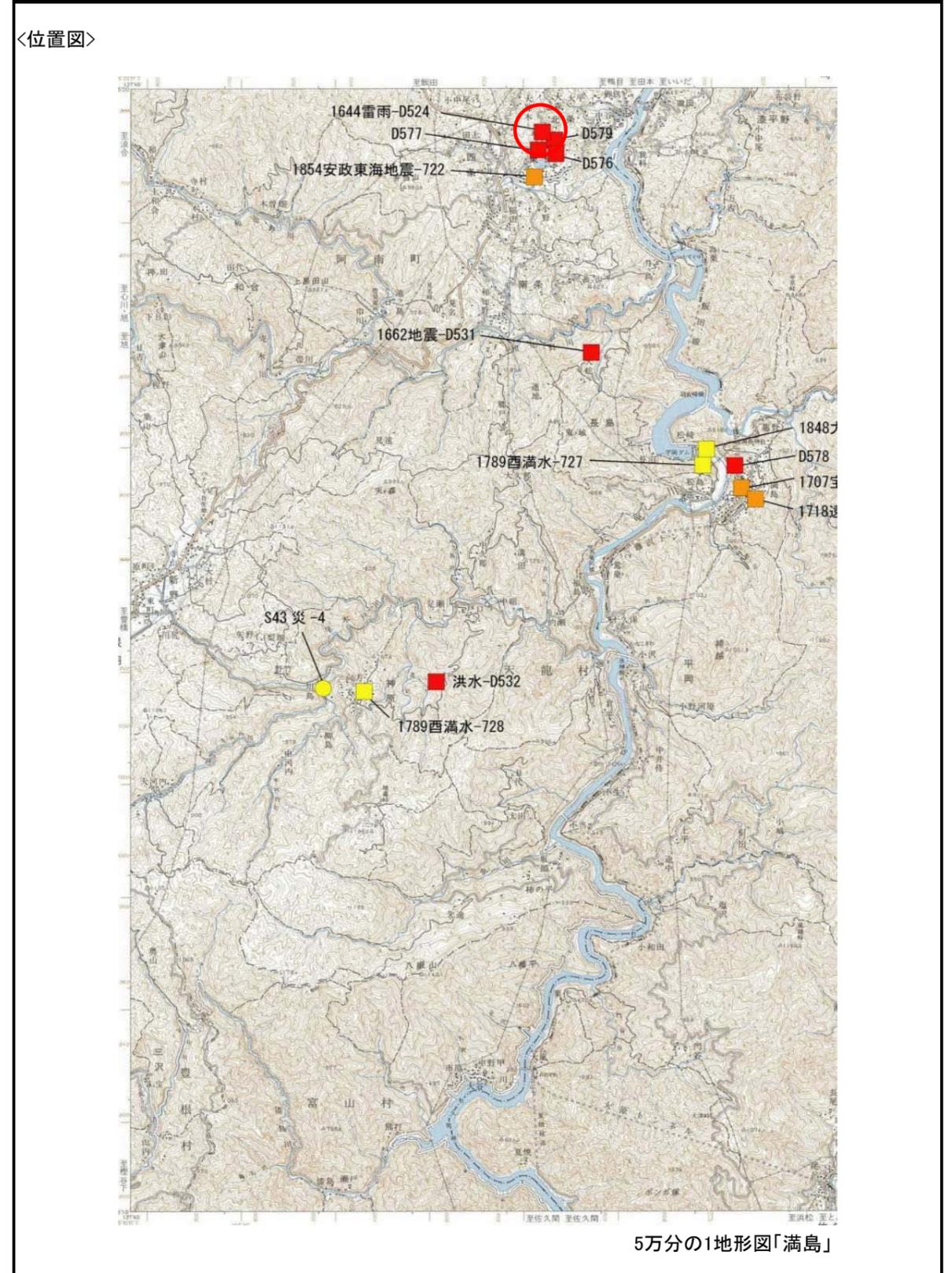
伝承名	泰阜村に伝わることわざ		1/5万図幅名	時又
市町村・大字名	泰阜村		地点番号	D567
発祥年代	—		関連する災害名称	—
キーワード	—			
教訓・伝承事例	伝承内容	ことわざ (泰阜村に伝わることわざ) ○梅雨時に鳴神山に山崩れがあると梅雨が明ける ○天竜川に沿って雲がのぼると雨が降る ○遠山祭りが始まると山が荒れる ○打沢霧はあと晴れる ○早魃に鳴神山でお祭りすると三日以内に雨が降る ○八森峠の霧が天竜霧を押しと雨になる ○蜂の巣が低いと大風が吹く ○帆掛け船の帆が利くと翌日は雨となる ○三カ月の上弦の時は雨が多く下弦の時は雨が少ない ○向かいの山(大下条)を霧が北に這うちは雨は上がらない ○川の瀬音が高いと雨が近い ○タルノ沢の霧が怒田に下ると雨になる		
	伝承の詳細			
伝承媒体	写真・映像	—		
	石碑・記念碑	—		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	—		
	土木遺構等	—		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
	祭り	—		
	儀式	—		
慣習・風習	○泰阜村に伝わることわざ			
参考文献	「泰阜村誌下巻」pp.854-855.			



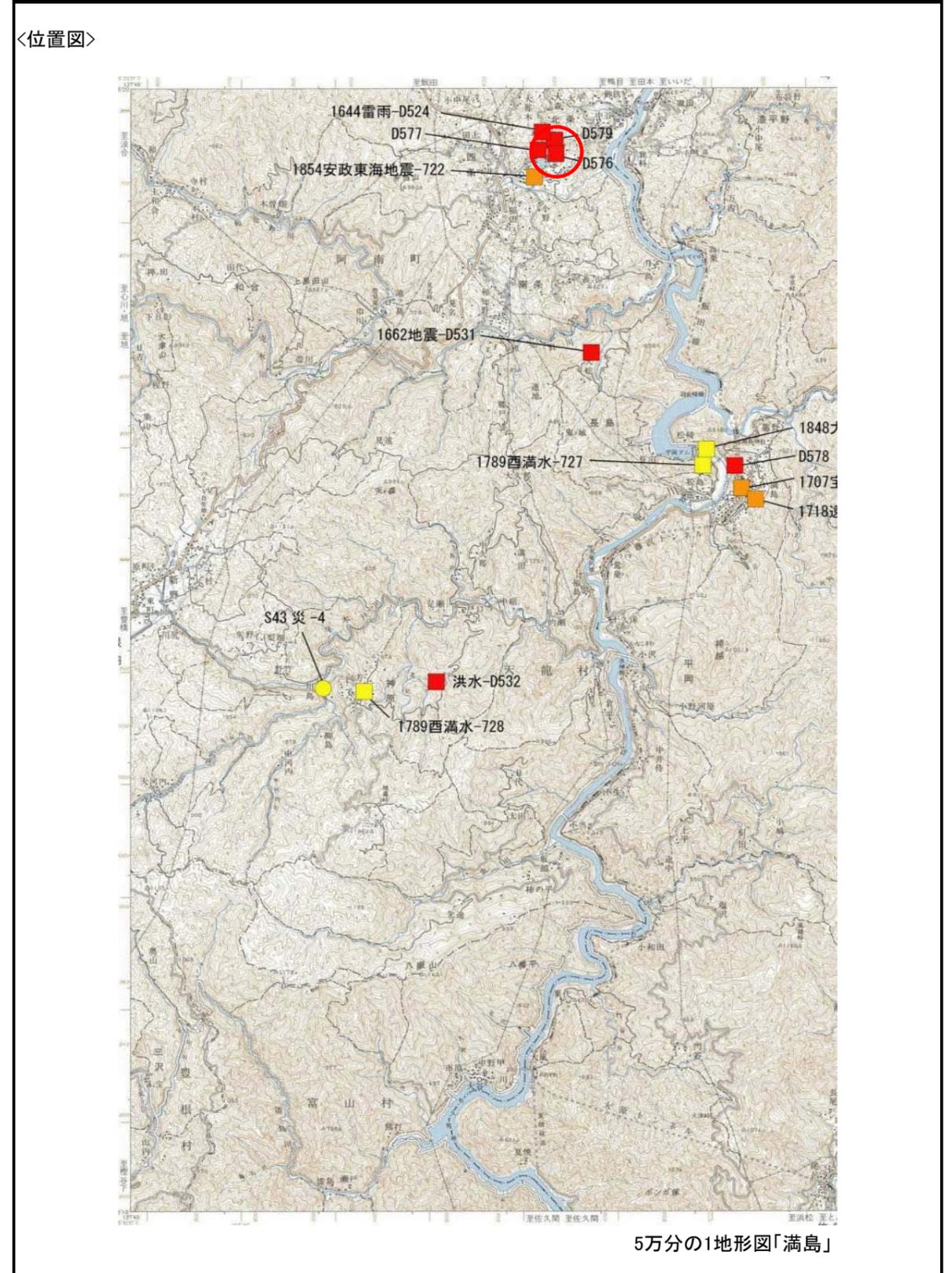
伝承名	成瀬が淵の女		1/5万図幅名	時又
市町村・大字名	泰阜村田本		地点番号	D525
発祥年代	—		関連する災害名称	—
キーワード	○成瀬が淵(遠江)の大蛇のたたり			
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)		
	伝承の詳細	<p>○成瀬が淵の女 「むかし田本のある家に気立てがよく美しい女中がいて主人から愛されるようになり、胤を宿した。いつも女は井戸をのぞいては、自分の姿を見ていたというが、ある日西空に入道雲が出、たちまちに雷雨となり女の姿が消えた。ある夜、主人の夢枕に女が立ち、不憫に思うなら遠江国の成瀬が淵にきて、女の名を記した紙を淵に沈め、大きな声で名を呼んでほしい、と言った。主人は何日もかかってその淵を見つけ再会を喜んだ。やがて別れの時、女は寂しげな表情で水の中に帰っていく姿を見ないでほしいと頼んだが、主人がもう一目姿をみたいと振り向くと大蛇が金色のうろこをひらめかし、十二本の角で波を掻き分けながら淵の底へと沈んでいった。それから田本の里には凶事が続いたので、里人たちは成瀬が淵のたたりであろうと言い、蛇の姿を石に刻んで神に祭り、毎年盛んなお祭りをして大蛇のたたりを鎮めるようになったという。」</p>		
伝承媒体	伝承内容			
	伝承の詳細			
	写真・映像	—		
	石碑・記念碑	—		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	—		
	土木遺構等	—		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
参考文献	祭り	—		
	儀式	—		
	慣習・風習	—		
参考文献	「伊那谷の伝説」pp85-86.			



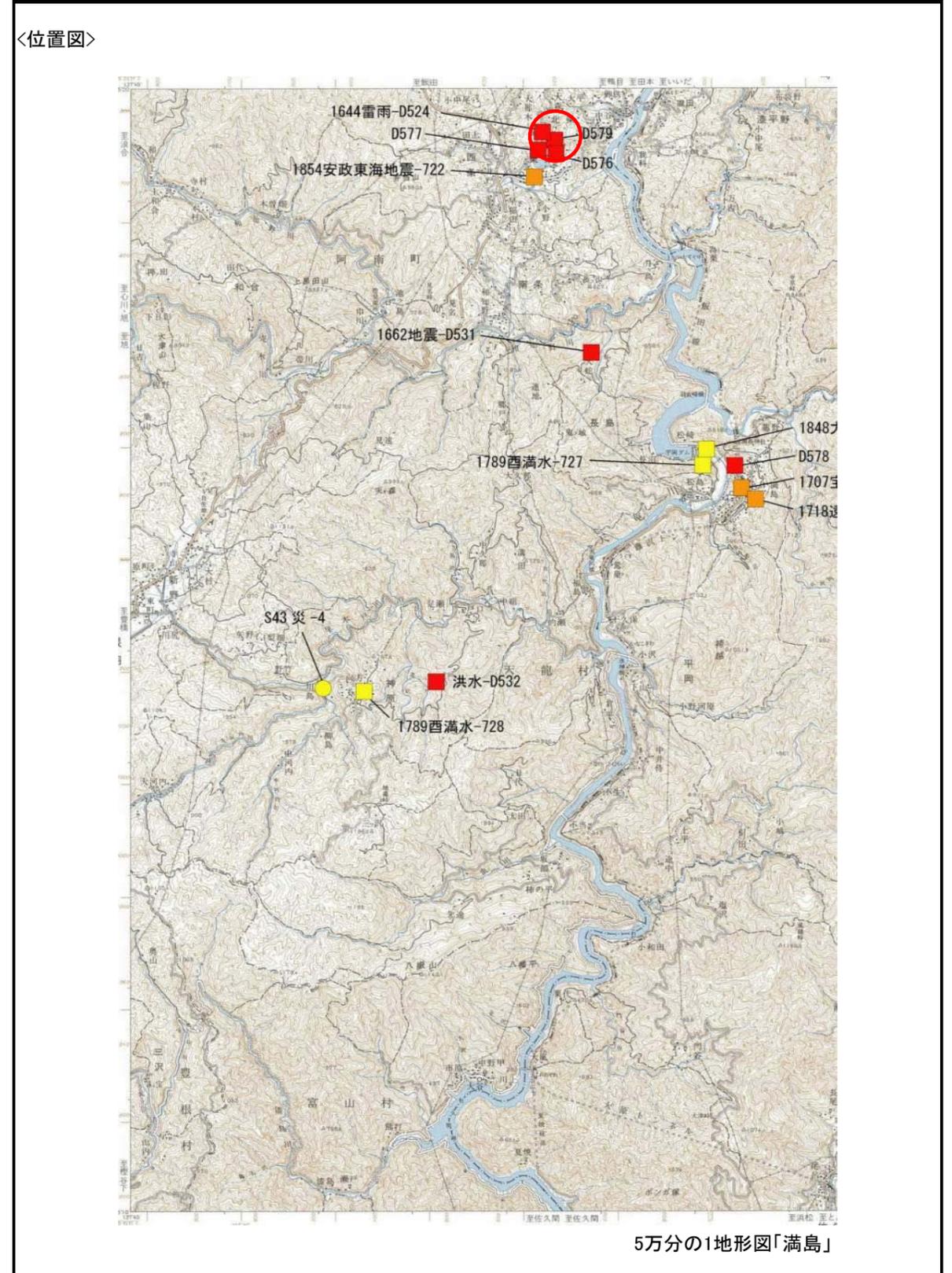
伝承名	深見の池伝説	1/5万図幅名	満島
市町村・大字名	阿南町東条	地点番号	1644雷雨-D524
発祥年代	1644年頃(正保の頃)	関連する災害名称	大雷雨
キーワード	○複数ある深見の池の主伝説 (天龍村平岡宇連の大蛇)(天龍村神原のとうちやげの池の大蛇) (飯田市川路の貝鞍が池の大蛇)(阿智村浪合蛇峠の蛇が池の主)		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○深見の池伝説 「かつて、川路の貝鞍の池を埋め立てて新しい田を作ることになった頃、このあたりでは見られない美しい娘がひとり、天竜川の川沿いの道を深見の里へとやってきた。娘はとある農家を訪れ、手伝いを申し出た。ところが3日目の朝、娘は井戸に水を汲みに行ったまま屋になっても帰ってこなかった。井戸端には娘の下駄が脱ぎ捨ててあり、村人が井戸をさらってさがしてみても何も見つからなかった。それからしばらくしたある日、晴れていた空がにわかにかき曇り、黒雲が広がる。稲妻が走り、大雷雨となって深見の里一帯を真っ暗闇に包みこんだ。雷鳴が止んだ後、村人たちがほっとして辺りを眺めると、今まで青々としていた麦畑が見渡す限りの大池となって、波が逆立っていた。村人たちは口々に「竜神さまのお怒りだ」「お祭りをして、水の霊を慰めなくては」と言いあい、ただちに池の端に諏訪神社を祀り、毎年7月になるとイカダを組んで池に浮かべ、神楽を奉納して池の主を慰めることにしたという。また、池の底は深く龍宮に通じているともいう。」	
	伝承内容		
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	○深見の池 (http://www.town.anan.nagano.jp/kankouguide/hukaminogionmaturi.html)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	○諏訪神社	
	地名	○深見の池	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「伊那谷の伝説」pp64-65. 阿南町ホームページ(http://www.town.anan.nagano.jp/) 「伊那の傳説」pp102.112-121.		



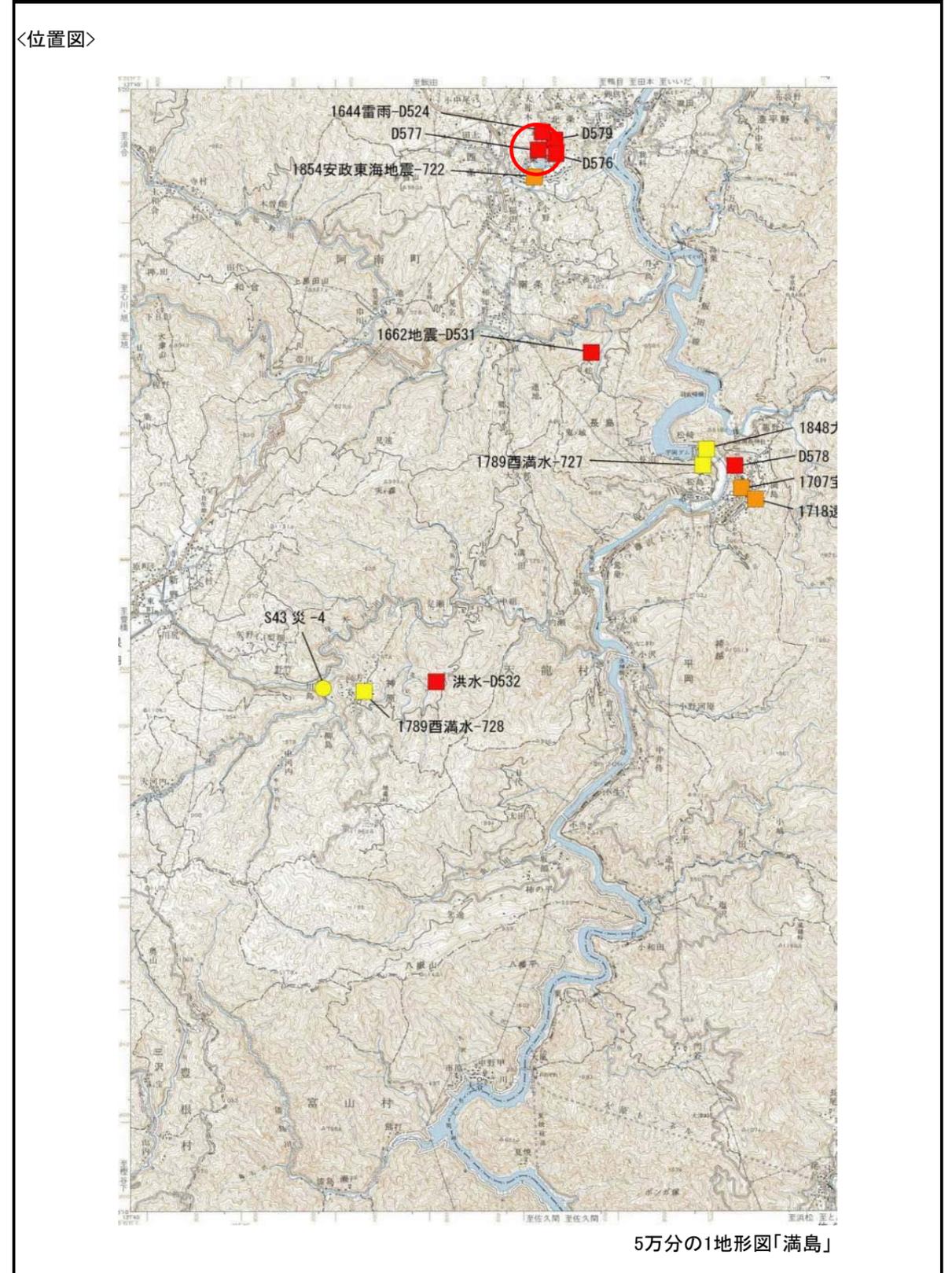
伝承名	とうぢやげの池の主	1/5万図幅名	満島
市町村・大字名	阿南町東条	地点番号	D576
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○大蛇の引越し		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○とうぢやげの池の主 「むかし神原村唐沢にあったとうぢやげの池の主が、ある年の大雨で池の水が欠潰しなくなってしまったので、深見の池に逃げてきた。それから近くの寺では、鐘をつくと大蛇が暴れ出すからと言って、鐘をつく事を止めたという。」	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○とうぢやげの池 ○唐沢	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「伊那谷の伝説」pp64-65. 阿南町ホームページ (http://www.town.anan.nagano.jp/) 「伊那の傳説」pp102.112-121.		



伝承名	大蛇になった母	1/5万図幅名	満島
市町村・大字名	阿南町東条	地点番号	D579
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○人への恨みが大蛇と化身した		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○大蛇になった母 「天正十五年(1587)吉田城の下条氏が没落した。その知らせを聞いた下条康氏の母は城を抜け出し、深見の百姓家に隠れていた。間もなく訴人があって身が危なくなったので、母は井戸へ身を投げた。すると井戸が一夜に崩れて大きな池になった。大蛇の姿になった池の主は世を呪って村中の田畑を荒しまわったので、百姓たちは祠を建てて死者の霊を慰めた。この池ができてから近くの寺では、鐘をつくると大蛇が暴れ出すからと言って、鐘を潰く事を止めたという。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「伊那谷の伝説」pp64-65. 阿南町ホームページ (http://www.town.anan.nagano.jp/) 「伊那の傳説」pp102.112-121.		



伝承名	深見の祇園祭(他1編)	1/5万図幅名	満島
市町村・大字名	阿南町東条	地点番号	D577
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○主(大蛇)の怒りを鎮めるお祭り		
教訓・伝承事例	伝承内容	信仰	
	伝承の詳細	○深見の祇園祭 「竜神様のお怒りを静めるために行われるようになった。祭りの準備は、7月第4土曜日に行われ、地元では“にわくさ”と呼んでる。氏子総代と4人の氏子がみんなでひとり1束ずつのワラを持って神社に集まり、神殿から池の水の出入口までワラでしめ縄を張る。池に浮かべるイカダや高さ66mにのびる三国の櫓、御旗、提灯、花火などの準備をし、夕方になって津島様を神輿に移し、神前の庭に運び出して行列が進められる。神輿を担ぐ人の衣装は、白衣に青袴と決まっている。行列は三国の櫓の周囲を3周し、獅子頭を先頭に池に向かって降りていく。イカダに乗り移ると12の提灯に灯が点り、イカダが岸を離れると花火が打ち上げられ、湖上で祭典が始まる。フィナーレは、神輿が神社に戻ってからで、三国の櫓に仕込んである花火に火が点けられ、人々は火の粉を浴びながら踊り回る。また、イカダに汚れた者が乗った時には、龍神の怒りでイカダが沈むという。」	
	伝承内容	信仰	
	伝承の詳細	○津島社 「諏訪神社(深見地区の鎮守様)境内にある。竜神さまのお怒りを静めるために祀られた。」	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	○津島社	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	○深見の祇園祭	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「伊那谷の伝説」pp64-65. 阿南町ホームページ(http://www.town.anan.nagano.jp/) 「伊那の傳説」pp102.112-121.		



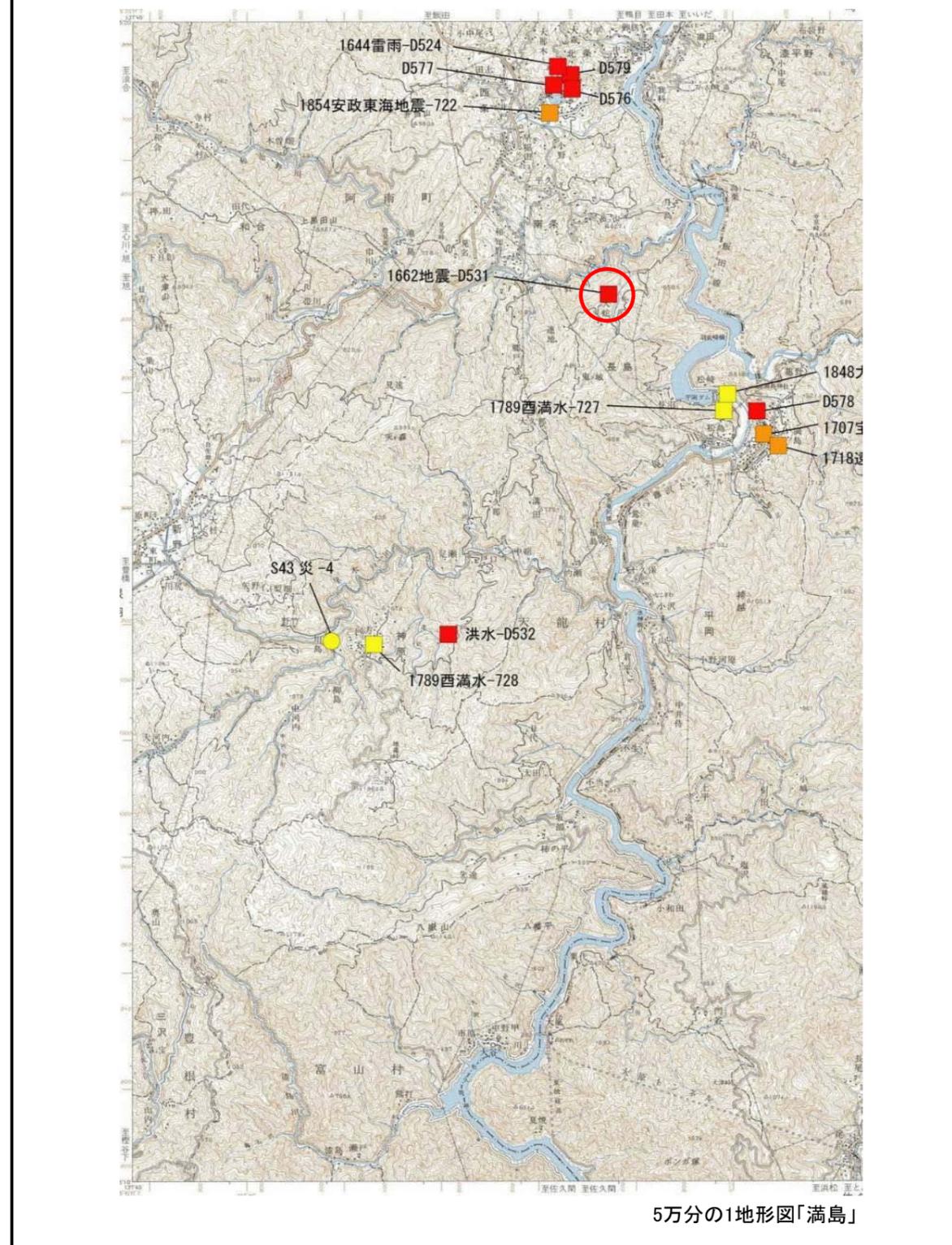
伝承名	雷岩と呼ばり岩	1/5万図幅名	根羽
市町村・大字名	売木村	地点番号	D649
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○雨乞い		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)	
	伝承の詳細	○雷岩と呼ばり岩 「夏の日照りが続いたので、働き者のていごろうが家に息子のやすべいを置いて、毎日水汲みをしている時、雨よどうか降ってくれ、とぶつぶつぶやきながらゆっくり歩いていたが、その足が止まりへたへたとしゃがみこんだ。背中の水がていごろうにかかり、その時一番星から光り始めた天から雨が降り出した。 雨はしだいに激しくなりたちまち乾いた地面を染めていく。洪水になって田畑が流されてしまうのではないかと心配になってきた四日目の夜に季節外れの稲妻が光り、雨はそれなりにあがった。しかし、ていごろうは帰ってこなかった。翌朝、村人が栗谷沢の傍らで、今まで誰もみたこともない岩が雷に打たれたためか、湯気を立ち上らせているのを見た。やすべいは、その年の大晦日のように母と妹でいろりを囲んでいると、横前の原っぱの見たこともない岩が呼びかけてくる気がした。その岩は栗谷沢の岩に呼びかけていて、この岩に父の姿がはっきりと見えてきた。」	
	伝承内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	—	
	土木遺構等	○雷岩と呼ばり岩	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「下伊那の民話」pp.124-128.		

<位置図>

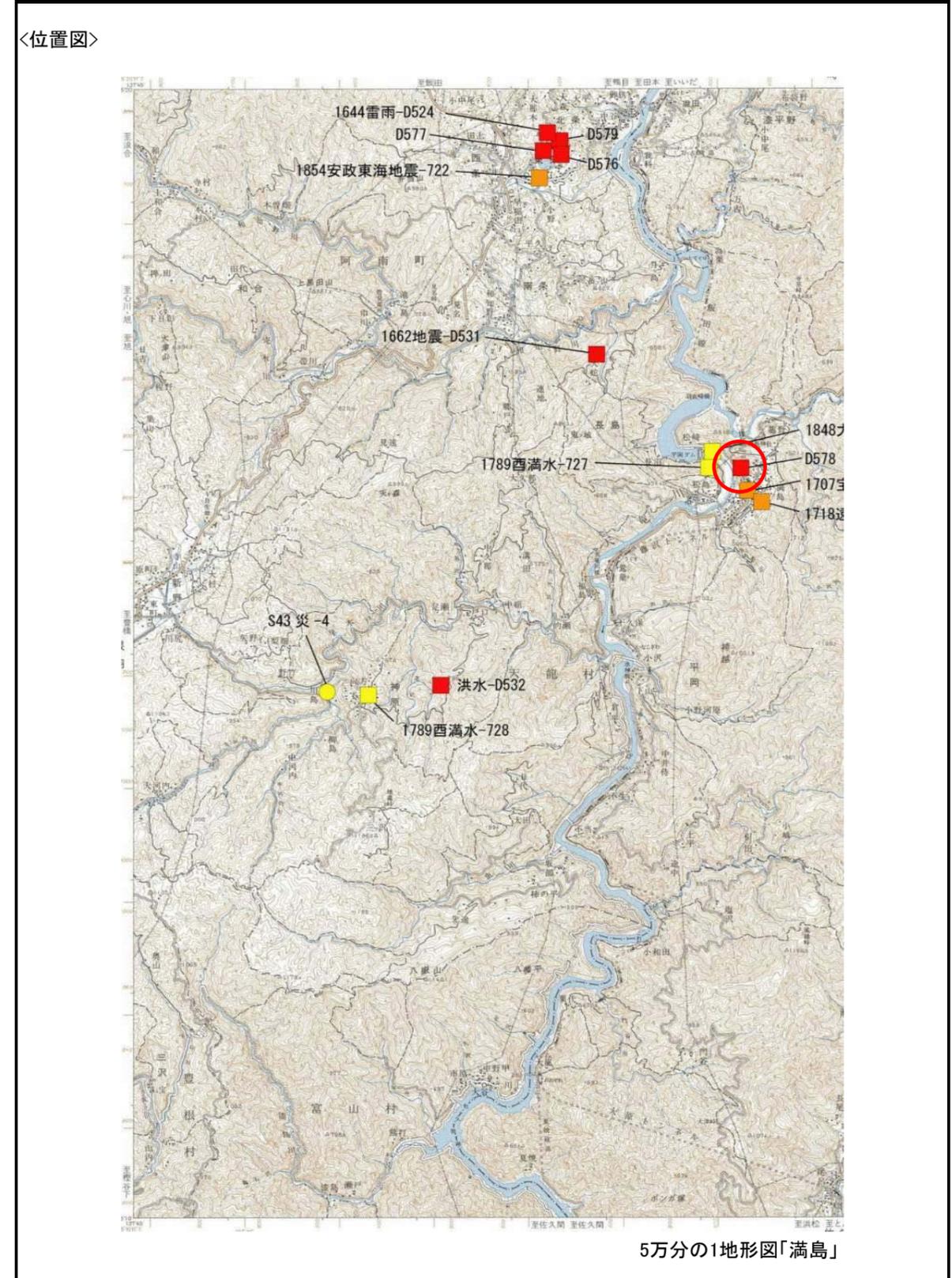
5万分の1地形図「根羽」

伝承名	大蛇が池	1/5万図幅名	満島
市町村・大字名	天龍村長島(大蛇)	地点番号	1662地震-D531
発祥年代	1662年(寛文二年)	関連する災害名称	寛文地震
キーワード	○寛文地震による深見ノ池の崩壊史実 ○平坦な谷底、水田地だった (栃の沢450m付近)		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(地震)	
	伝承の詳細	○大蛇が池 「大蛇が棲む池があったが地震で崩れた。大蛇は和知野川を下って天竜川に出、千木沢川をさかのぼって深見ノ池をつくり移り棲んだという。」	
	伝承の内容		
伝承媒体	写真・映像	○大蛇の栃沢、450m付近(天龍村誌pp.84)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○大蛇、鬼ヶ城(崩れに関係した地名。)	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「天龍村誌」pp.84.		

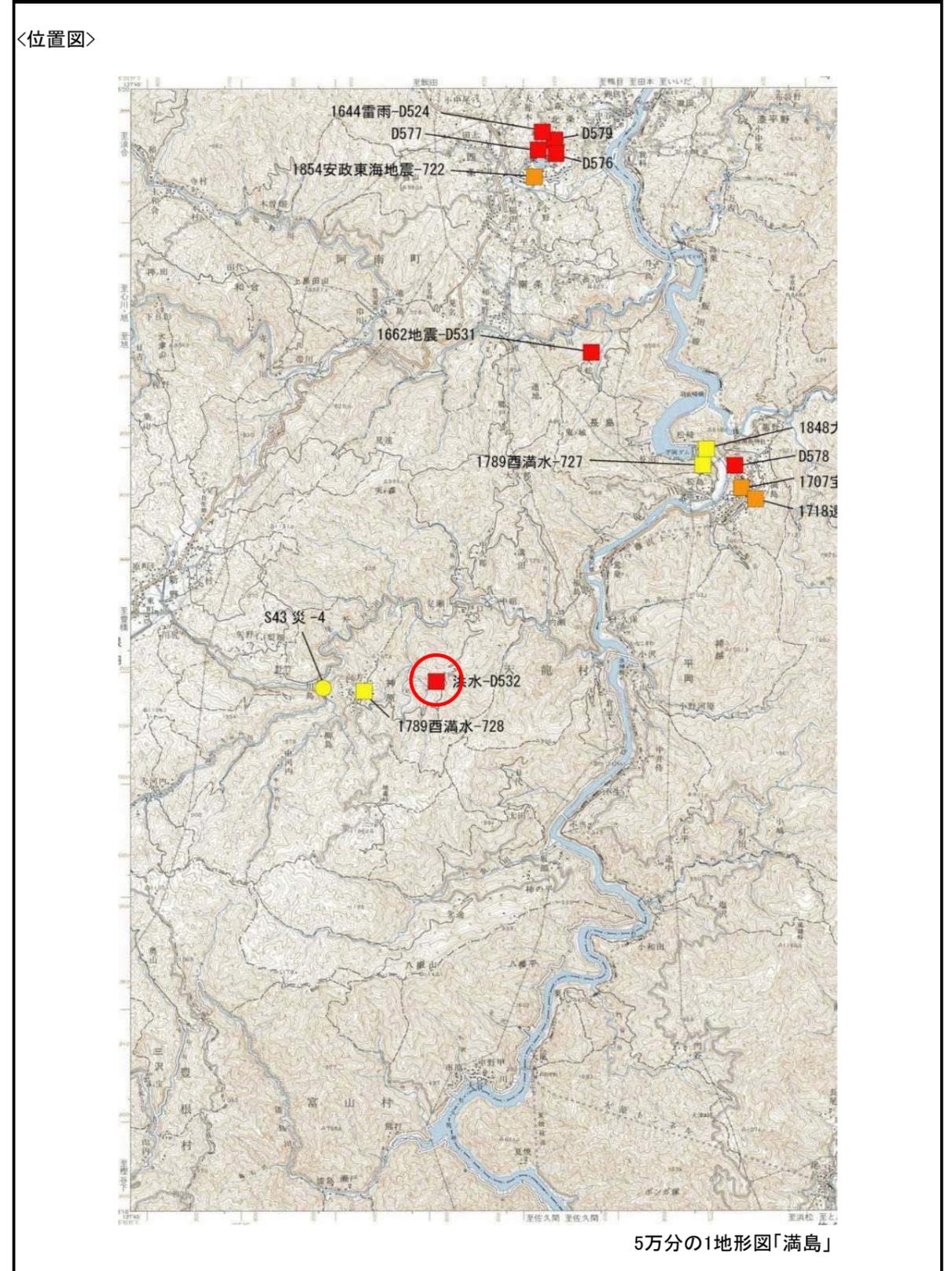
<位置図>



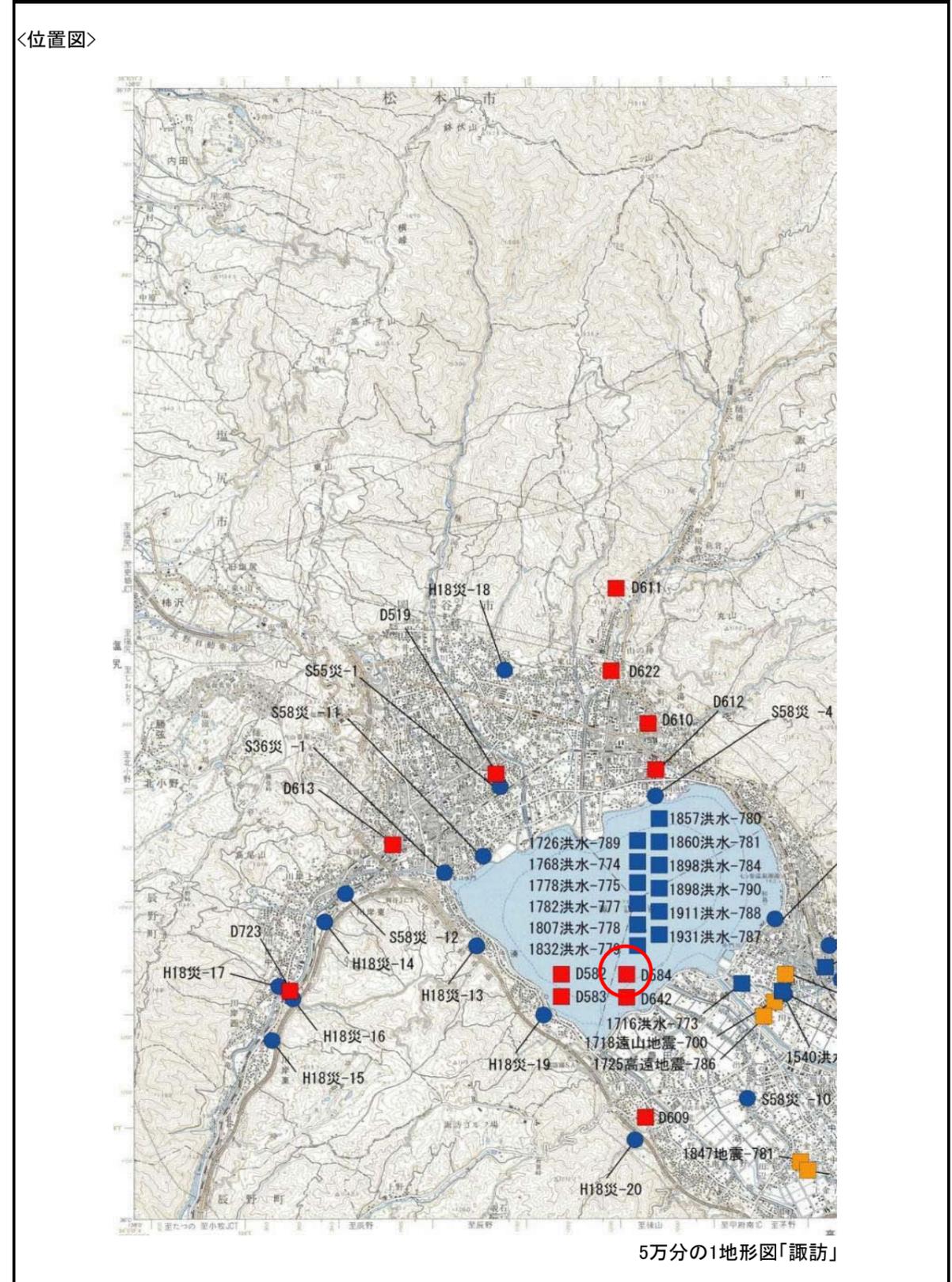
伝承名	水上様	1/5万図幅名	満島
市町村・大字名	天龍村平岡	地点番号	D578
発祥年代	1821年(文政四年)	関連する災害名称	—
キーワード	○ダム建設により消えた水上様		
教訓・伝承事例	伝承内容	信仰	
	伝承の詳細	○水上様 「文政四年(1821)に榎淵に祀られた。榎淵は天竜川にある満島の船着場であったが、現在は平岡ダムの完成により水の枯れた河原となっている。」	
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	○満島船着場跡(下伊那川たんけんブックpp.56.)	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	○水上様	
	地名	—	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「郷土のたから」pp.74-77.		



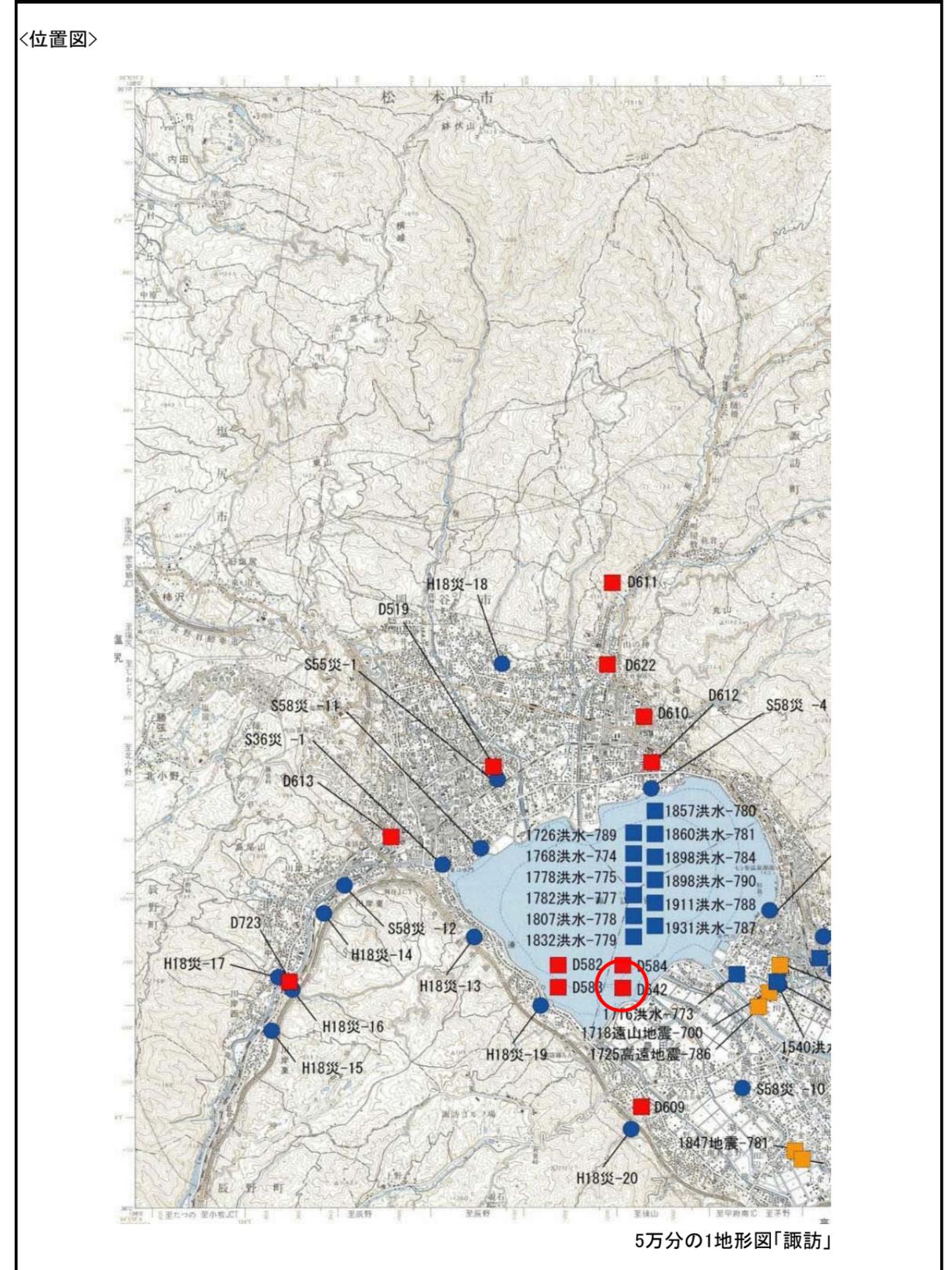
伝承名	とうちやげの池	1/5万図幅名	満島
市町村・大字名	天龍村神原	地点番号	洪水-D532
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○大蛇の引越し		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(洪水)	
	伝承の詳細	○とうちやげの池 「むかし神原村唐澤(天龍村神原)の奥の入りの谷というトウチャゲと呼ぶところに大池があった。ある年大雨の時、池の堤が崩れて河水が氾濫し、池の水がなくなったため大蛇は居所を失い、深見の池へ逃げていったという。また、とうちやげ池の主である大蛇は、時々出でて水の出口を塞いだため、河の水の干上がることが度々あったので、その河のあるところをから澤と呼ぶようになった。」	
	伝承内容	—	
	伝承の詳細	—	
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○唐澤	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
慣習・風習	—		
参考文献	「伊那の傳説」pp102.		



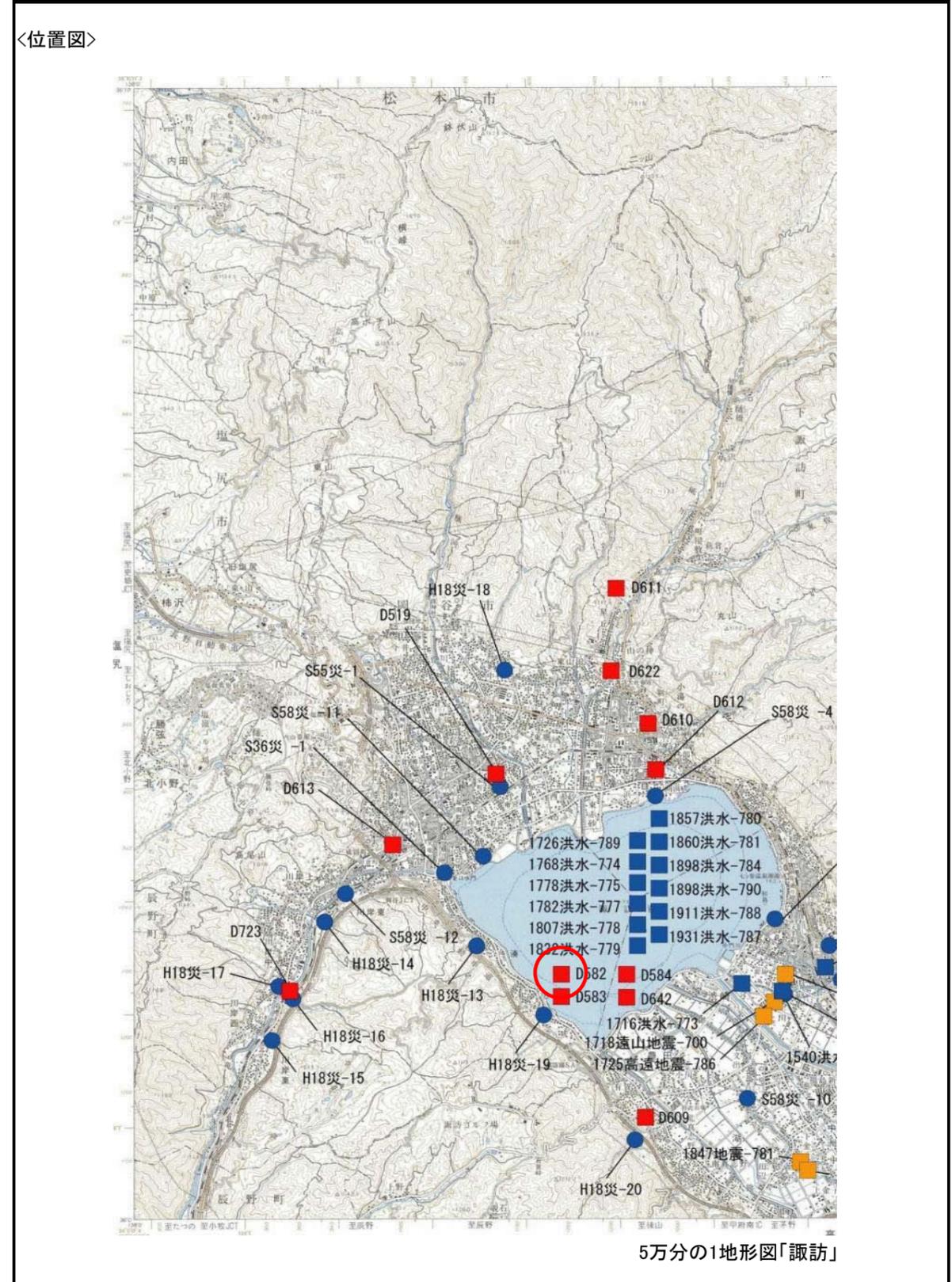
伝承名	天竜川の由来	1/5万図幅名	諏訪
市町村・大字名	天竜川	地点番号	D584
発祥年代	—	関連する災害名称	—
キーワード	○天竜川の由来 ○天変地異による諏訪湖の決壊		
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂)	
	伝承の詳細	○天竜川の由来 「むかしの諏訪湖は上伊那、下伊那の三郡にわたり周囲六十里もの細長い水海で、竜の海と呼ばれていた。また、この地方出身の竜宮船頭安曇磯丸という強くてかっこい神さまが、天皇と同じ資格をそなえていたので天竜大神と呼ばれていた。当時の人たちは天竜大神の天をとって、諏訪湖のことを天の竜海と呼ぶようになった。その後、天変地異により下伊那の南の山々が崩壊を起こし、堰き止められていた天の竜海の水は一度に太平洋へと流れ込んだ。この異変により、天の竜海は奥に洲羽湖(すわこ)を残し、あとは細長く深い谷間に変わったという。」	
	伝承の内容		
伝承媒体	写真・映像	—	
	石碑・記念碑	—	
	水神碑・石仏	—	
	神社仏閣・塚	—	
	地名	○天の竜海(天竜川)	
	土木遺構等	—	
	語り伝え等	—	
	伝統芸能等	—	
	祭り	—	
	儀式	—	
	慣習・風習	—	
	参考文献	「水利開発にみる中世諏訪の信仰と治水」pp.3-14. 「災害をこえて」pp.17-19.	



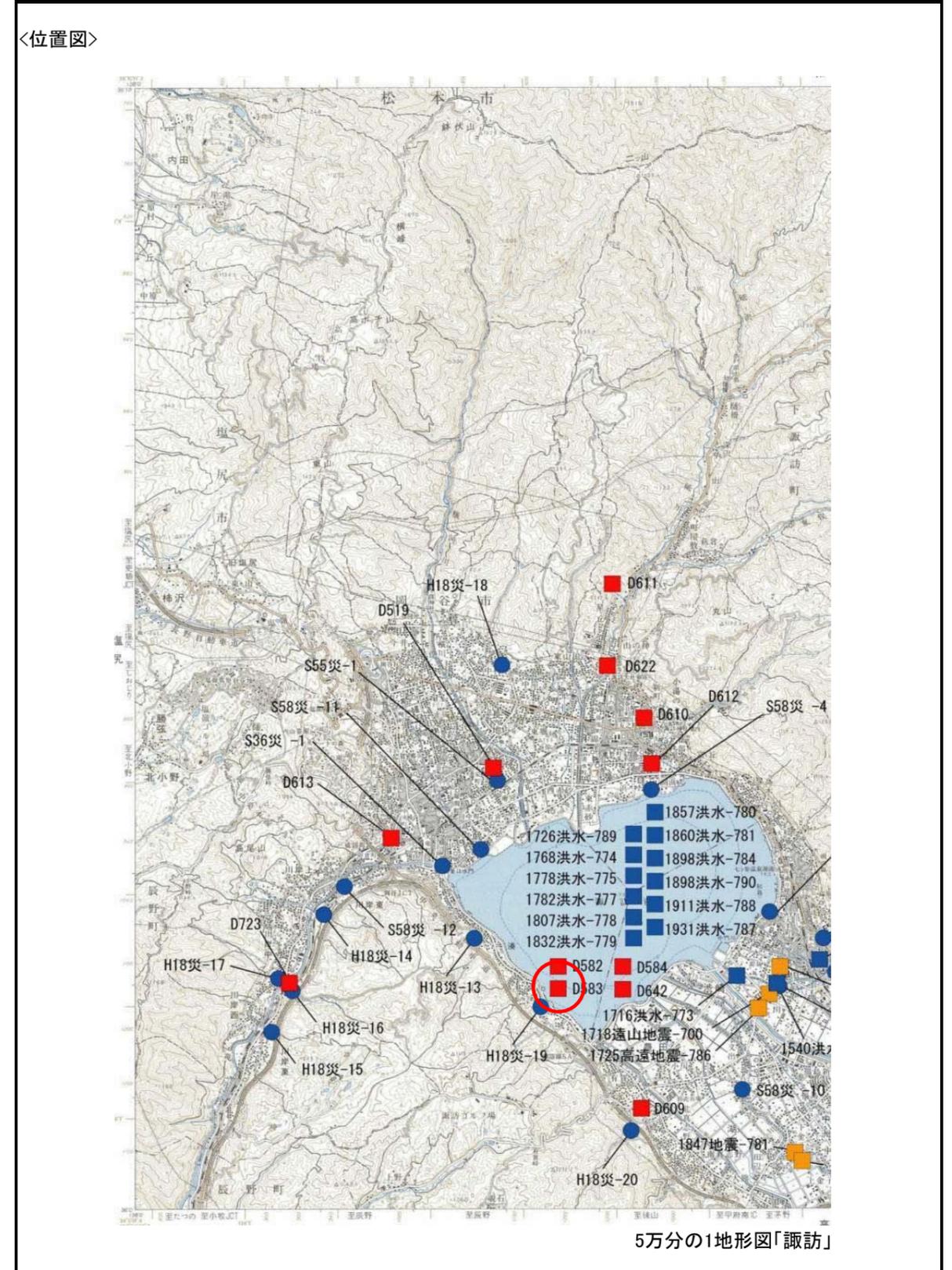
伝承名	あばれ天竜	1/5万図幅名	諏訪	
市町村・大字名	天竜川	地点番号	D642	
発祥年代	—	関連する災害名称	—	
キーワード	○ハヶ岳の噴火と天竜川の由来			
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(その他)		
	伝承の詳細	<p>○あばれ天竜 「大昔、蛇の胴をし、鹿の角を付け、鬼の目と牛の耳、鷲の足をもったそれはそれは大きな竜が南の海に住んでいた。この竜ははじめはおとなしく仏様にお返ししていたが、大きくなるに連れ気性が荒くなり、力も強くなりそばにいるものに喧嘩ばかり仕掛けていた。仏様は我慢できなくなり、この竜を天の果へ追い払ってしまった。ところが竜は天へ追われてからも暴れ放題で、自分が一番えらいと思うようになった。誰も恐がって竜によりつく者はいなかったが、信濃の国の山々は毅然として竜に怯えることなくそびえ立ち、中でも諏訪湖の向こう側にそびえ立つハヶ岳はいつも強そうに立っていた。これに腹をたてた竜は喧嘩をしかけハヶ岳に体当たりし、山肌を長い胴で幾重にも巻きかっぱい締めつけた。ハヶ岳もおおなかに力を入れてじっと我慢したが、さすがにこらえきれなくなり、地面が割れて嶺の方からどつとばかり火を吹き、一気に爆発してしまった。竜は、そのものすごい爆風のために天高く打ち上げられてから伊那の山々の間へどさっと落ちた。その後この天の竜はどこへ行ったかは誰も知らないが、落ちたところに大きな跡がつき、その跡が川になってながれたので、この川を天竜川と呼ぶようになったという。」</p>		
	伝承内容			
伝承媒体	写真・映像	—		
	石碑・記念碑	—		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	○天竜川		
	土木遺構等	—		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
	祭り	—		
	儀式	—		
	慣習・風習	—		
	参考文献	「辰野町の誕生と伝説」pp.289-290.		



伝承名	甲賀三郎伝説	1/5万図幅名	諏訪	
市町村・大字名	諏訪湖	地点番号	D582	
発祥年代	—	関連する災害名称	—	
キーワード	○諏訪明神の由来			
教訓・伝承事例	伝承内容	民話・伝説・昔話(土砂)		
	伝承の詳細	<p>○甲賀三郎伝説 「三人兄弟の末子である三郎が、兄たちの計略によって信濃の蓼科山の洞穴に閉じ込められ、地底をさまい故郷の近江に戻ったが、いつしか身は蛇体になり、人々から恐れ嫌われた。身の危険を感じた時、釈迦堂の老僧の教えによって菖蒲ヶ池に身を沈め呪文を唱えると元の体に戻った。妻と再会した三郎は後に信濃の諏訪神社上社の神となり、妻の春日姫は下社の神になったという(ヨリタカ系縁起)」</p> <p>「三郎は山中で兄にだまされて谷底へ突き落とされた。九死に一生を得るが、身は大蛇になり、地底の穴を廻って信濃のナギの松原に抜けたという。故里が恋しく三十三年にして甲賀に帰るが、蛇体の三郎を皆が恐れた。観音堂に入り一心不乱に祈念していると大蛇の形が抜けて元に戻った。やがて三郎は甲賀の長となり家も栄えたが、後に信濃の国へ行ってしまった。人々の夢の中にでてきた三郎は、諏訪明神の化身であったと告げたという。(カネイエ系縁起)」</p>		
	伝承内容			
伝承媒体	写真・映像	—		
	石碑・記念碑	—		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	—		
	土木遺構等	—		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
	祭り	—		
	儀式	—		
	慣習・風習	—		
	参考文献	「水利開発にみる中世諏訪の信仰と治水」pp.3-14.		



伝承名	諏訪湖の歌		1/5万図幅名	諏訪
市町村・大字名	諏訪湖		地点番号	D583
発祥年代	—		関連する災害名称	—
キーワード	—			
教訓・伝承事例	伝承内容	文芸・民謡・詩		
	伝承の詳細	<p>○於自理皮礼 守矢蔽雲乎卷上而 百舌鳥義智奈可婆 鎌遠登具倍斯(諏訪旧跡志・修補諏訪氏系図) 「諏訪地方の人々の間に古くから唱え継がれてきた里謡。諏訪湖から天竜川が流れ落ちていく湖尻の方向が晴れ上がり、しかも天竜川の源流地のひとつに数えられる神体山の守矢の上へ、竜蛇のように雲が巻き昇って里の方でモズの鳥がギチギチ鳴いたならば、利器である鎌を研いで草刈にいても雨は降らない、もう大丈夫、という意味。」</p>		
	伝承内容	—		
伝承媒体	伝承の詳細	—		
	写真・映像	—		
	石碑・記念碑	—		
	水神碑・石仏	—		
	神社仏閣・塚	—		
	地名	—		
	土木遺構等	—		
	語り伝え等	—		
	伝統芸能等	—		
	祭り	—		
	儀式	—		
	慣習・風習	—		
	参考文献	「水利開発にみる中世諏訪の信仰と治水」pp.3-14.		



伝承名	人柱	1/5万図幅名	ー
市町村・大字名	南信濃天竜川	地点番号	ー
発祥年代	ー	関連する災害名称	ー
キーワード	ー		
教訓・伝承事例	伝承内容	信仰	
	伝承の詳細	<p>○人柱 「昔、南信濃の天竜川に長い橋が架かっていた。毎年毎年大水で流されてしまうので、村中の人が集まって対策を話し合っていた。ひとりの男が人柱の話をしたところ、その男は最初に言い出したという理由で人柱にされてしまった。男の息子は悲しがり、父は矢作の人柱 キジも鳴かすば撃たれまい、と詠んだ紙を父が埋められている柱に貼り付けた。村の人たちのためにはなったが、父が余計なことを喋ったためにこんなめに遭わねばならなかったと悔やんでいる息子の姿をみて村人は、橋を渡る際に息子の歌を思い出し、死んだ男のおかげで安心して渡れることをありがたがったという。」</p>	
	伝承の詳細		
伝承媒体	写真・映像	ー	
	石碑・記念碑	ー	
	水神碑・石仏	ー	
	神社仏閣・塚	ー	
	地名	ー	
	土木遺構等	ー	
	語り伝え等	ー	
	伝統芸能等	ー	
	祭り	ー	
	儀式	ー	
慣習・風習	ー		
参考文献	「伊那谷の民話集」pp.130-131.		